市民ホール基本計画【資料編】

平成24年4月

小田原市

■市民ホール基本計画【資料編】 目次

1.市民ホール整備事業の経過一覧

2.市民ホール基本計画策定専門委員会及び市民検討委員会名簿

3.市民ホール基本計画策定専門委員会

（1）専門委員会経過一覧

（2）専門委員会委員意見(第7回会議から） ～パブリックコメントをうけて～

○専門委員会会議資料

○市民ホール基本計画市民検討委員会意見とりまとめ

○市議会での意見等

1.市民ホール整備事業の経過一覧

年月	内容
昭和 61 年 9 月	小田原市総合計画「おだわら 21 世紀プラン」を策定し、市民会館の建て替えの検討を位置付ける。
平成 2 年 3 月	県と市共同で調査した「小田原市本町周辺地区活力あるまちづくり促進調査報告書」が提出され、文化施設の整備とともに、城址と一体となった景観づくりの重要性が提案された。
平成 2 年 3 月	小田原市民会館整備検討委員会を設置する。(～平成 4 年 3 月)
平成 4 年 3 月	「小田原市民会館整備に関する調査報告書」が提出され、敷地についてのアンケート調査から、現市民会館に近く、小田原城を間近に臨み黒松、梅、桜を持ったお堀の石垣と水辺に面した場所が最適とされた。
平成 5 年 8 月	小田原市総合計画「おだわら２１世紀プラン 後期基本計画」を策定し、三の丸地区への市民会館建替えの推進を重点施策として位置付ける。
平成 10 年 7 月	小田原市新総合計画「ビジョン 21 おだわら」を策定し、(仮称) 城下町ホールの整備が「レインボープロジェクト」に位置付ける。
平成 11 年 2 月	(仮称) 城下町ホール建設検討委員会 (庁内組織) を設置する。
平成 11 年 3 月	(仮称)小田原市文化振興ビジョン策定検討委員会により、市民参加によるホール運営等について提言される。
平成 12 年 3 月	(仮称) 城下町ホール建設市民委員会を設置する。
平成 15 年 3 月	「(仮称) 城下町ホール建設市民委員会報告書」が提出される。
平成 17 年 6 月	「(仮称)城下町ホール基本構想」を策定する。
平成 17 年 7 月	小田原市総合計画「ビジョン 21 おだわら」後期基本計画を策定し、(仮称) 城下町ホールの整備が「おだわらルネッサンス 10」に位置付ける。
平成 17 年 9 月	(仮称) 城下町ホール設計者選定委員会を設置し設計者の募集を開始する。
平成 17 年 12 月	(仮称) 城下町ホールの設計者を決定する。
平成 18 年 1 月	(仮称) 城下町ホール基本設計に着手する。(～平成 18 年 5 月)
平成 18 年 9 月	(仮称) 城下町ホール実施設計業務に着手する。(～平成 19 年 3 月)
平成 19 年 2 月	(仮称) 城下町ホール管理運営検討委員会を設置する。(～平成 20 年 3 月)
平成 20 年 3 月	(仮称) 城下町ホール管理運営検討委員会報告書が策定される。
平成 20 年 5 月	加藤新市長就任
平成 20 年 6 月	加藤市長が市議会 6 月定例会において所信表明を行い、ホール建設地として駅前再開発事業用地を提案する。
平成 20 年 7 月	重点政策・重要案件に係る取り組み等についての議員説明会を開催する。
平成 20 年 7 月	小田原駅・小田原城周辺まちづくり検討プロジェクト (庁内組織) が設置される。
平成 20 年 8 月	小田原駅・小田原城周辺の懸案事業についての議員説明会が開催され、小田原駅・小田原城周辺まちづくりに関する基本方針が発表される。

年月	内容
平成 20 年 10 月	小田原駅・小田原城周辺のまちづくりについての市民説明会を開催する。
平成 20 年 11 月	小田原駅・小田原城周辺まちづくり検討委員会が開催される。(～平成 21 年 3 月)
平成 20 年 3 月	「(仮称) 城下町ホール管理運営検討委員会報告書」が提出される。
平成 21 年 4 月	小田原駅・小田原城周辺の懸案事業についての議員説明会を開催する。
平成 21 年 12 月	市民ホール建設準備会を設置する。(～平成 22 年 11 月 8 日まで 12 回開催)
平成 22 年 9 月	市民との意見交換会を開催する。
平成 22 年 11 月	市民ホール基本構想 (案) が、建設準備会委員長から加藤市長に提出される。
平成 22 年 11 月	市民ホール整備スケジュールについての議員説明会が開催され、市民ホールの完成を平成 28 年度中へと見直す方針を発表する。
平成 22 年 12 月	市民ホール基本構想 (案) についてのパブリックコメントを実施する。
平成 23 年 1 月	市民ホール基本構想 (案) についての市民説明会を、小田原市民会館および川東タウンセンターマロニエで開催する。
平成 23 年 3 月	市民ホール基本構想が策定される。
平成 23 年 5 月	市民ホール基本計画策定専門委員会及び市民検討委員会を設置する。(～平成 24 年 3 月 27 日まで専門委員会を 7 回開催、市民検討委員会を 6 回開催)
平成 24 年 1 月	市民との意見交換会を開催する。
平成 24 年 2 月	市民ホール基本計画 (案) についてのパブリックコメントを実施する。
平成 24 年 3 月	市民ホール基本計画 (案) についての市民説明会 (シンポジウム) を小田原市民会館で開催。
平成 24 年 3 月	市民ホール基本計画 (案) が、専門委員会委員長から加藤市長に提出される。
平成 24 年 4 月	市民ホール基本計画が策定される。

2.市民ホール基本計画策定専門委員会及び市民検討委員会名簿

(1)市民ホール基本計画策定専門委員会

役　職	氏　名	選出区分	所属等
委員長	桧森　隆一	学識経験者	嘉悦大学副学長
副委員長	勝又　英明	学識経験者	東京都市大学教授
委員	市来　邦比古	舞台技術	世田谷パブリックシアター技術部長
委員	伊藤　由貴子	音楽系	神奈川県立音楽堂館長
委員	桑谷　哲男	ホール管理運営	座・高円寺館長
委員	三ツ山　一志	展示系	横浜市民ギャラリーあざみ野館長

(2)市民ホール基本計画市民検討委員会

氏	名	
青木　康至	佐藤　由子	ひでひこ
磯部　波男	杉﨑　宗雲	平賀　容子
稲子　紀夫	杉山　泰教	藤川　理一
岩城　葉子	鈴木　敦子	二見　彰彦
宇佐美　卓雄	鈴木　美紀	松藤　佐和子
大木　典久	鈴木　誠一	三沢　真理
大森　文恵	鈴木　伸幸	三隅　ひろ美
大森　充	関口　秀夫	三辻　芳雄
柏木　華奈	芹川　明義	緑　慎一郎
柏木　隆一	武井　香代	村山　寛明
金子　あそみ	蔦木　美津子	森谷　昭一
金子　理佳子	堤　千恵子	横川　忠
木島　照雄	中村　伸二	若林　寧人
木下　泰徳	中村　満	若林　幸江
木下　和子	林　美禰子	上記の方以外に５名の方が参加しました。
齊藤　四郎	樋口　信雄	

＜全５１名：五十音順・敬称略＞

3.市民ホール基本計画策定専門委員会

(1)専門委員会経過一覧

開催日	会議名	主な検討内容等
平成23年5月25日	第1回	・委員自己紹介、委員長・副委員長選出 ・基本計画策定の流れについて ・市民検討委員会について
平成23年8月26日	第2回	・市民ホール基本計画（事業）について ①第1回、第2回市民検討委員会について ②市民ホールに期待される事業と活動について
平成23年10月21日	第3回	・市民ホール基本計画（施設）について （ホール系機能、小ホール系機能、展示室機能）
平成23年11月7日	第4回	・市民ホール基本計画（施設）について （交流系機能、創造系機能、支援系機能、防災、景観、ユニバーサルデザイン）
平成23年12月12日	第5回	・市民ホール基本計画（施設・運営について） （防災、景観、運営、組織、基本計画骨子）
平成24年1月31日	第6回	・市民ホール基本計画（素案）について
平成24年3月27日	第7回	・市民ホール基本計画（案）について ・市長への報告

(2)専門委員会委員意見(第7回会議から) ～パブリックコメントをうけて～

【施設の目指す方向性　～芸術文化創造センターとして～】

・名称については、ホールの名前が芸術文化創造センターになるわけではなく、センターとしての機能を持たせることだと考えている。

・「センター」とは、既存施設を含め、小田原の中心としての象徴的な場になるという意味であり、仮称として芸術文化創造センターとしたが、そのことで市民が固い印象を受けたり、自分とはかけ離れた場所で話が進んでいると思ってしまったりということもあるかと思う。

【事業方針】

・現在想定している大規模な事業は、年間スケジュールに位置付けることを前提とするため、管理運営計画の中でそのことを想定して検討を行うとともに、そのプロセスを市民に伝えていくことが大切。

・今までは貸館だったので美術系の催しが入る余地がなかったが、主催事業のひとつとして、一定の期間を確保して美術系の催しを行うこともできる。

・ワークショップは、経験を問わず皆が同一レベルで遊ぶということが大事であり、あらゆる芸術活動がそこから始まるという意味では、芸術文化創造センターの芽と言う

こともできる。
・コンサートを企画する場合、5 年はあっという間なので、オープニング事業を行うのであれば 3 年前から動かなければ難しい。

【施設整備の基本的な考え方】
・バリアフリーについて貴重な意見をいただいたが、バリアフリーは最大限の努力目標であり、今後も議論を重ね、実際に設計に反映させて実現させていくことが重要な課題である。
・基本的には、ユニバーサルデザインになっていれば、障がい者にも健常者にも優しい施設となる。
・実際に建設するとなると、市民の皆さんは景観に大きな関心を持つと思うので、設計者だけではなく皆で知恵を出していく必要があると思う。
・建設費や運営費などのコストの問題も、今後整理していく必要がある。

【ホール共通】
・舞台技術系の部分については、基本的なものが十分に整備された、シンプルな設備とした。
・劇場規模に公式というものはない。
・客席規模については、席数が多すぎるという意見と少なすぎるという意見の両方があったが、使い勝手が良く、適当な席数になったのではないか。

【大ホール系機能】
・大ホールは 1,200 席だが、客席を複数階層とし、1 階席のみを開放することで 600 席～700 席でも空席感を感じにくいホールとしている。
・人気アーティストは 3,000 席か 4,000 席無いと興行を行わないが、そのようなホールは限られており、演歌、ジャズ、クラシックなどは、1,200 席あればある程度採算が取れる席数である。

【展示系機能】
・展示の部分については、展示系の委員に加わっていただき、天井高を 4mとし照明をきちんと取れるようにするなどの指摘をいただきながら策定に当たった。
・ギャラリーの面積は、委員会において協議の上 350 ㎡としたが、大規模展示の場合はギャラリーだけでなく、施設全体を活用することも十分に考えられる。
・展示スペースに関しては、フラットなスペースや壁面をフルに活用し、外光を抑え展示用の照明を仕込むことで、大規模な展示を行うことが可能になる。

【施設構成イメージ】
・様々な事業に対応できるようにするためには、ホールの各施設を連携させ、有機的に

使いこなす必要があるが、高層化すると行き来することができないため、使いにくくなってしまう。
・ギャラリーが350㎡では足りない場合に、大スタジオを展示スペースとして利用することで大規模な催しにも対応できるが、そのためにはギャラリーと大スタジオが同じフロアの中で行き来できるようになっていなければならない。
・使い勝手の良いホールとして、具体的には搬出入のしやすさが挙げられるが、駅前に建設する場合、高層化しなくてはならないためエレベータ搬入になる可能性があり、裏動線を楽器や大道具などが通ることを考えると、使い勝手が悪くなる。

【施設計画におけるその他の留意点（駐車場・周辺環境・備品）】
・鑑賞後に余韻に浸る場所も必要であり、車に乗ることですぐに非日常から日常へと帰ってしまうのでは、鑑賞の仕方としては味気ない。
・市民の皆さんには、小田原は歩けば色々なものがあり、ロケーションにとても恵まれたまちということも認識していただきたい。

【市民参加】
・ボランティアについては、責任を持って仕事をするためには必要な経費があり、ユニークな運営をしていくためにはそれだけ人件費がかかるということを認識すべき。
・自分達が観たいもの、観せたいものを自分達で企画してやっていこうという動きがなければホールはなかなか活性化しないが、市民検討委員会を通じて市民の皆さんが企画する文化活動が生まれたことで、その芽が見えてきたのではないかと感じている。
・市民の皆さんの活動と芸術分野の専門家の提案とがうまく繋がっていくことが重要である。

【敷地計画】
・専門委員会では三の丸地区での整備を前提としており、建設地については検討しなかったが、市民検討委員会での議論も含めてホールの内容が固まってきてみると、駅前に建てられないことは確実である。
・基本計画に示された設備・事業の施設とすると、駅前では十分な広さを確保できないが、高層化すると建築費が跳ね上がってしまう。
・駅前では防振も懸念される。
・できるだけ建設費を抑える必要があるが、駅前で整備するとなると、防振構造にしなければならない。
・駅前への劇場の建設は、観客が小田原に来ても駅周辺しか行かずに帰ってしまうことになり、まちにとってあまり良いことではない。

【三の丸地区の整備】
・小田原城との連携など、観光拠点としての活用も、今後検討したほうが良いかもしれ

ない。
・まちづくりや都市計画の視点からの小田原駅や小田原城との関係、全市的な施設の配置、沿線の施設との関係などについて、もう少し整理しても良かったかもしれない。

【整備スケジュール】
・全市的な施設の配置を含めたスケジュールについては、短期的な解決は難しいが将来的に実現可能なものもあるかもしれないので、長いスパンで考えていただきたい。
・市民ホールに盛り込めなかった施設については、将来実現させたり既存施設を活用したりするなど、中長期的な考え方も示していく必要がある。
・ホールの運営には、市民の皆さんが何らかの形で参加していくことになるので、その参加の方法を今から考えるとともに、設計についても、専門家だけでなく市民の皆さんの意見を聞く必要がある。
・運営、設計での市民参加をどう設定するかが次の課題である。
・あまり平均的なものを造ってしまうと、建築物としてつまらなくなる可能性もあるが、今後検討される運営組織では、建物に関係なく検討できる部分がたくさんある。

【市民検討委員会・策定検討委員会について】
・専門委員会では、市民の皆さんの想いを実現させるにはどうしたらいいかに心を砕き、策定に当たってきた。
・基本計画には市民の皆さんの想いが込もっている。
・他都市にていくつかの基本計画に携わってきたが、市民の声をほとんど聞かずに策定され、開館後が心配になったこともあったので、小田原市が多くの市民から意見を聞いて策定に当たったことは非常に良かったと思う。
・市民検討委員会と専門委員会で何度も議論を行うのは非常に大変だったが、良い進め方だったと思う。
・パブリックコメントの8割から8割5分程度は、市民検討委員会で検討されて盛り込まれたものと言えるが、検討が足りなかったものは、今後さらに検討する必要がある。
・市民の皆さんの意見を100%叶えるのは不可能なので、全てにおいて平均的に80%の能力を有するホールの実現を目指したい。
・市民検討委員会に参加した方やパブリックコメントで意見をおっしゃった方は、これから新しいホールのお客様にも利用者にも表現者にもなりうる方である。
・ホールについての意見として、実際の大きな核となるのは観に来る人達であり、観客が何を観たいのかは非常に重要である。
・市民の皆さんの意見を盛り込むことで、自分達のホールという愛着が生まれてくる。
・今後50年100年と施設が続いていくうえで、ホールづくりの基本計画に市民の意見が入っているということが大事だと思う。

【市民に対する説明・情報提供について】

・基本計画中の文言には、読み手に伝わらない部分もあったことを認識しなくてはならない。
・私達が自明だと思っていたことが、実はそうでは無く、その部分の記載が基本計画に足りなかった。
・専門委員会としては、美術系の活動をされる方々がギャラリーと支援系機能の部屋を一体として利用したり、音楽と美術のコラボレーションを行ったり、サロンコンサートを行ったりと、工夫次第で様々な使い方が出来るホールとして提案したつもりだったが、それをご理解いただく必要があると思った。
・パブリックコメントを読むと、基本計画に書いてあるけれども伝わっていないと思える部分があったので、もう少し分かりやすくするとともに、基本計画の内容を理解していただく活動を行っていく必要がある。
・基本計画を理解していただくための働きかけが必要である。
・今後、基本計画の周知を図っていくのはソフトの問題である。
・ホール建設に反対の方々や興味のない人にご理解いただくのは難しく、時間もかかるが、どこにも建てないというのでは文化振興をスタートさせることもできないので、「ホールの開館が待ちきれない」という意見が力になると期待している。

【その他（市民ホール・基本計画全般について）】

・文化振興については、この施設で全てが解決できるわけではない。
・基本計画は土台であり、これから多くの過程があると思うが、小田原らしさというのはこの中から生まれてくるものなので、文化の面で小田原らしさを創るために計画を推進していくことができると良い。
・市民全員がホールに来たり利用したりするわけではないが、そのような人でも「自分は行かないが、ホールがあることは良いことだ」と誇れるホールが出来ると良い。

市民ホール基本計画策定専門委員会　第１回会議　次第

日　時　平成23年5月25日(水)
17時30分～19時30分
場　所　小田原市役所　大会議室

１　開会

２　委員自己紹介

３　委員長・副委員長の選出

４　市長あいさつ

５　議　題

(1) 市民ホール基本計画策定専門委員会について

① 基本計画策定の流れについて

② 市民検討委員会について

(2) その他

６　閉会

資料1

■ 市民ホール基本構想の概要

Ⅰ．基本構想策定の背景／Ⅱ．策定趣旨　（本文P1～7）　なぜ市民ホールが必要なのか。

◆小田原市民会館は開館から約50年が経過したため、老朽化だけでなく、機能面でも現在の芸術環境（ニーズ）に対応できておらず、現在の一般的な公立文化施設の要求水準に対して抜本的な改善が期待できない。
また、小田原市には、継続的に文化事業を行う運営組織が設置されなかったため、芸術鑑賞等の機会が著しく少ない状況がある。

◆市民ホール整備の必要性

（1）過去20年にわたり、建て替えに対して市民の強い要望がある。
（2）芸術文化は地域社会に対して人と人をつないで心豊かな社会を形成し、都市の魅力をつくり、創造性を育むことにより地域経済を活性化するなどの効用がある。
（3）小田原には豊かな文化的な土壌がある。芸術文化の創造性をもととする人々の熱意や英知を集め、小田原の持つポテンシャルや資源に新たな切り口を見つけ、その可能性を拓いていくことが魅力ある都市づくりには必要である。
（4）市民ホールは単なる箱ではなく、社会文化機関として芸術文化の効用を地域社会に広める役割を果たすことができる。

投　資

Ⅲ．基本理念（本文P8～12）どんなホールを目指すのか（基本理念＝社会文化機関としての中身）

多様で豊かな芸術文化創造活動からわきあがる　クリエイティブな力と熱意が　市民ホールから　まちへとあふれ　未来に開かれた文化都市を創造する。

文化や歴史に誇りを持つ小田原に新たな息吹を吹き込み、にぎわいを呼び戻すには、芸術文化の創造力や、芸術文化に寄せる人々の熱意や英知を推進力として、ひとづくりやまちづくりに、つなげていくことが必要である。

○市民ホールの使命（ミッション）・・・基本理念を実現するために

◆（市民が）そだてる（ホール）・・・・・・・・・・・・未来を担う子どもたち、青少年、潜在的に芸術文化に関心のある（心豊かな生活を願う）すべての市民に文化の裾野を拡げる事業を行う。
◆（市民が）感動する（ホール）・・・・・・・・・・・・より多くの市民が魅力を感じ、足を運ぶ事業。質の高い本物の鑑賞を提供することで創造性を刺激し、自ら参加し創造するきっかけをつくる事業を行う。
◆（市民が）つくりあげる（ホール）・・・・・・・・小田原の文化を創造し発展させていく主体は市民一人ひとり。多くの市民が文化創造活動を通じて出会い、個性や創造性を発揮できるよう創造参加型の事業を展開する。
◆（市民が）つどい交流する（ホール）・・・・・発表の場、創造の場を提供し、多様な活動を促進するよう、施設貸出を戦略的マネージメント事業として積極的な施設運営を行う。

ソフト整備

Ⅳ．事業の基本方針（本文P13～19）　基本理念を確実に実現するための文化事業の基本方針（ソフト）

◆7つの基本方針

（1）そだてる（事業）・・・・・育成普及　～地域文化の足腰を強くする～
（2）たのしむ（事業）・・・・・質の高い催し　～創造性を刺激する～
（3）つくる（事業）・・・・・・・・市民参加　～創造の輪を拡げる～
（4）つたえる（事業）・・・・・地域特性の発信　～小田原の魅力をつたえる～
（5）出会う（事業）・・・・・・・交流促進　～共感のよろこび～
（6）にぎわう（事業）・・・・・にぎわい創出　～催し物がなくても立寄れる～
（7）ひろげる（事業）・・・・・利用促進　～可動率の高い施設～

ソフトを支える組織整備

Ⅶ．管理運営（本文P32～37）　社会文化機関として時代に合った効率的な組織体制

◆運営体制について（専門家の導入と市民参加は両輪）

（1）専門性の確保・・・芸術文化振興のための事業を企画立案し、市民の創造活動を支援、施設経営のためには、文化政策や専門的に知識・技術を持った専門職員の配置、プロデューサーや芸術監督等の導入の検討が必要となる。
（2）市民が参加できる運営体制・・・市民の手で創造された文化を市民が楽しむ地産地消は大切。市民が運営に参画できる仕組みをつくり、市民ホールは市民が育てることが必要である。
（3）地域との連携・・・市内の生涯学習施設、文化団体、NPO、商店街や自治会など「まち全体」と連携し、ネットワークを構築することで、地域社会や経済の活性化につなげることが必要である。
（4）他の文化施設との連携・・・地域の文化活動を支える生涯学習施設、公民館、タウンセンターなどとの機能分担や連携、他都市の文化施設との連携が必要である。

※運営組織を早い時期から設置することで、運営方法の検討やプレ事業等の実施、設計への助言が可能

◆運営方式について

最も意欲と熱意を持って市民ホールの使命を遂行し、効率的に管理運営を担える組織の検討が必要。

ハード整備

Ⅴ．必要とする機能の考え方（本文P20～22）　基本理念を実現するための機能の考え方（ハード）

◆多目的ホール（音楽・演劇を中心に考え、高度に機能を満たす。多くの市民が多様に使えること）
◆展示系機能、創造系機能、支援系機能についても、必要機能として新たに整備する。
◆他の文化関連施設との役割分担することにより、市民の満足度の高いサービスが提供できる。
◆使用年数を50年程度に想定し、コストミニマム（ランニングコスト含め）で整備する。
◆必要な機能は、大ホール系、小ホール系、展示系、創造系・支援系、交流系、管理系

ハード整備

Ⅵ．施設内容（本文P23～31）　基本構想段階での施設内容（ハード）

◆大ホール系機能・・・市民の多様な文化活動に十分対応し、プロフェッショナルな演出要求にも応えられる1000席～1，200席規模の多目的ホール
◆小ホール系機能・・・200席～300席規模の多様な催しに対応した多目的ホール（段床固定席または平土間可動席）
◆展示系機能・・・・・・・多様な用途にも利用可能な400㎡程度の展示スペース
◆創造系機能・・・・・・・芸術文化創造活動を日常的に支える諸室（練習室、リハーサル室、スタジオ、会議室など）
◆支援系機能・・・・・・・文化活動や運営サポートなどの場（創造スタッフ室、サポーター室、会議室、授乳室・託児室など）
◆交流系機能・・・・・・・日頃から立寄りにぎわう空間（オープンロビー、カフェ、インフォメーション、チケットボックスなど）
◆管理系機能・・・・・・・施設運営に必要な空間（事務室、救護室、技術員控室、防災センター、駐車場など）
※それぞれのホール・諸室機能を支える諸室も同時に求められる。

Ⅷ．景観（本文P38～39）

◆歴史的・文化的資源に恵まれた三の丸地区の周辺環境を活かし、城址公園と調和した景観形成や緑化を図ることにより、小田原市のアイデンティティを高める施設とする。
◆外観デザイン、高さ・ボリューム、沿道空間に配慮する。
※計画段階での十分なシミュレーションを行いながら検討していく必要がある。

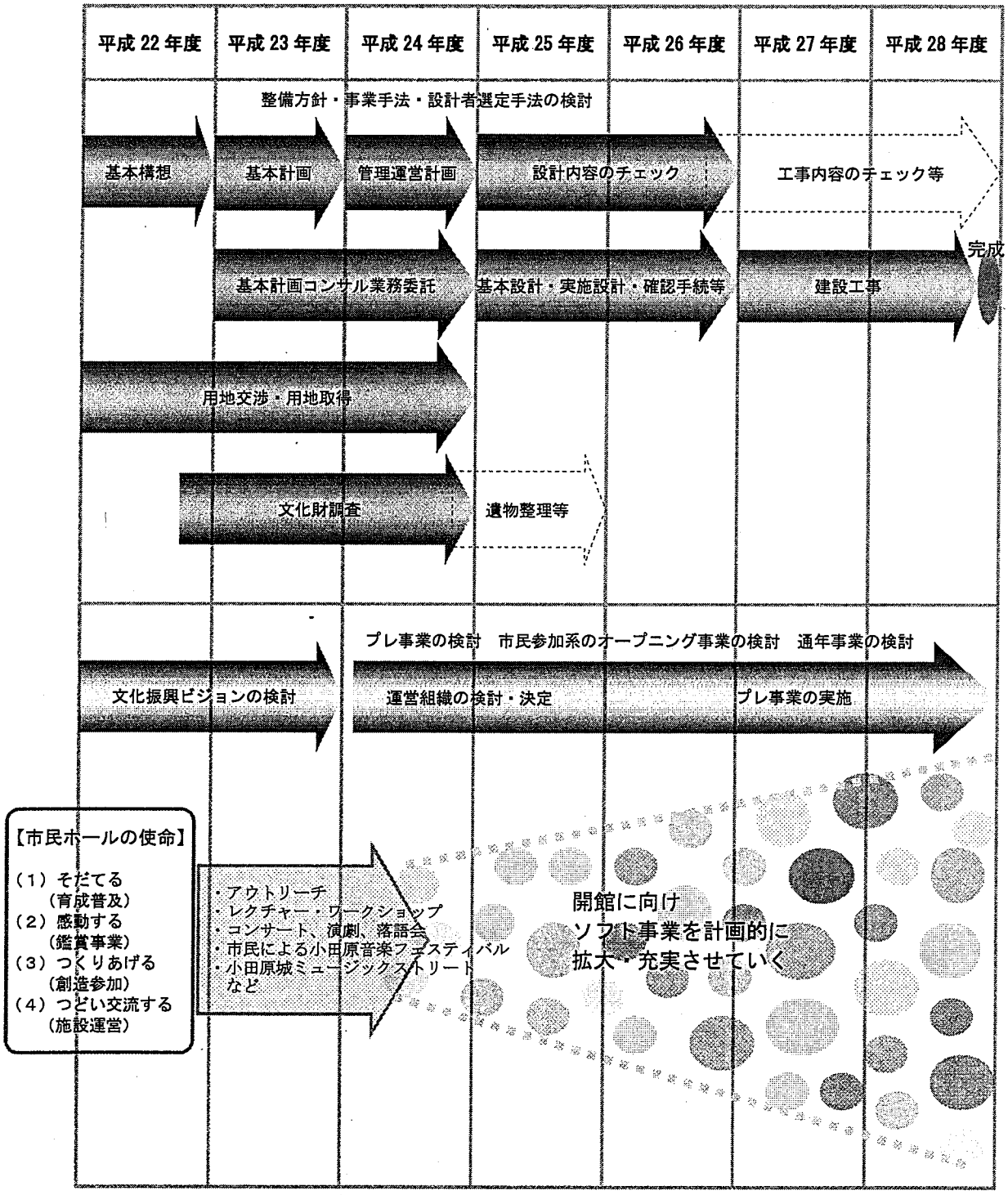
Ⅸ．事業推進方針（本文P40～43）　平成28年度完成（平成22年度基本構想、平成23年度基本計画、平成24年度管理運営計画、平成25～26年度基本設計・実施設計、平成27～28年度建設工事）

平成28年度の施設完成を目標として、市民ホール整備事業が、単なる市民会館の建て替えではなく、小田原の新しい活力を生み出す「芸術文化創造の拠点」づくりとなるよう、文化の担い手の育成、ソフトづくり、確かな運営体制づくり、専門人材の確保、市全体での文化振興への取り組み強化など、開館前から文化事業を行う体制の整備を進めていく。

資料2

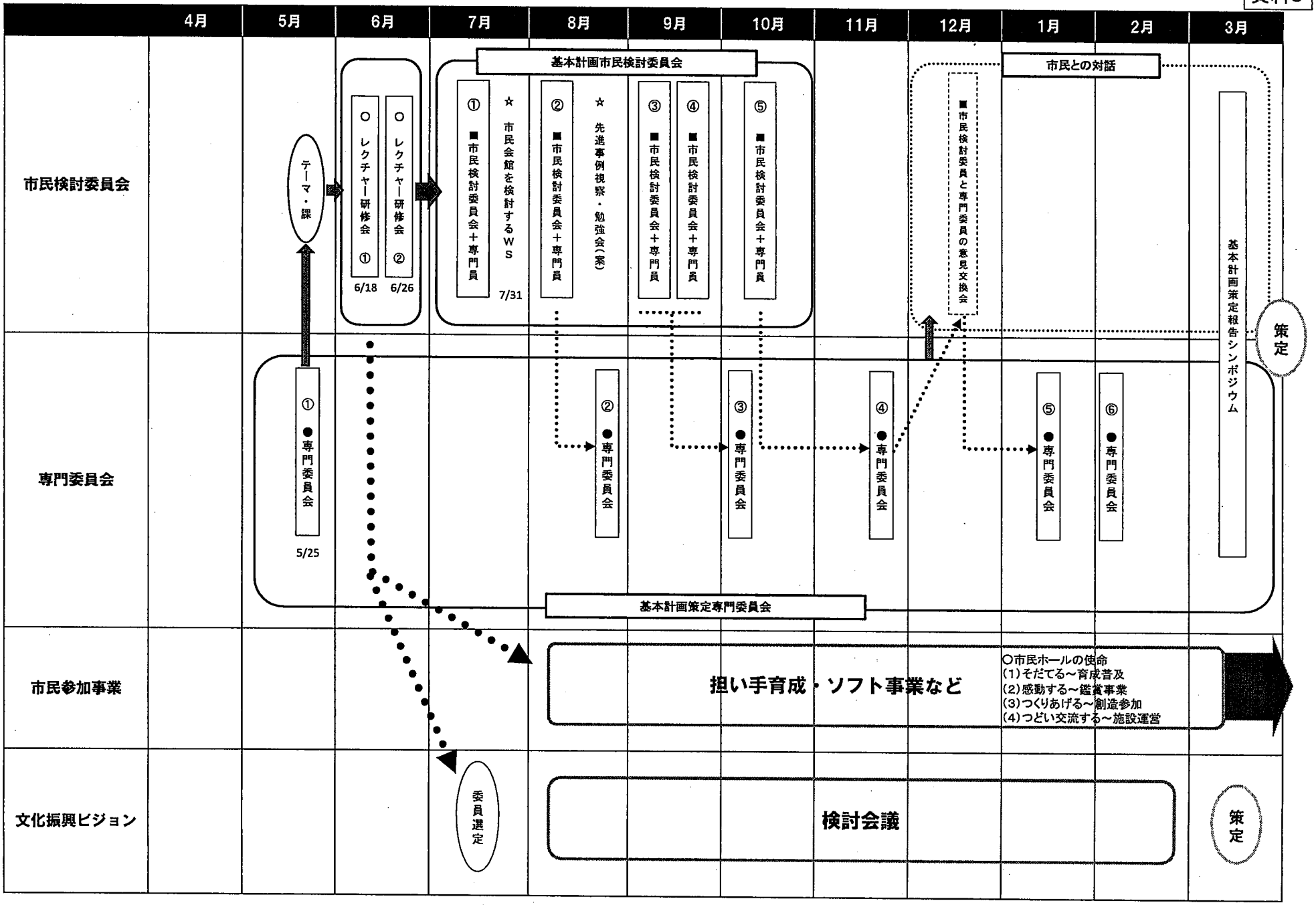
市民ホール整備スケジュール

平成２８年度の施設完成を目標として、市民ホール整備事業が、単なる市民会館の建て替えではなく、小田原の新しい活力を生み出す「芸術文化創造の拠点」づくりとなるよう、文化の担い手の育成、ソフトづくり、確かな運営体制づくり、専門人材の確保、市全体での文化振興への取り組み強化など、開館前から文化事業を行う体制の整備を進めていく。



平成23年度市民ホール整備／文化振興施策等スケジュール

資料3



小田原市内で行われる主な文化事業（２３年度予定）

資料4-1

	市主催／共催	市民主体／その他 （市が支援している事業など）
4月		*青空ライブ
5月	*オペラ大好き（けやき／コンサート＆オペラ） *市美術展覧会（前期）	*北條ジャズフェスタ *片中で遊ぼう（旧片浦中学／アート展など）
6月	*市美術展覧会（後期） *菖蒲園コンサート（小田原城花菖蒲まつり）	*Art now in清閑亭<芒種> *もあ展（商店街×工芸×アート）
7月	*金聖響&神奈川フィル　まちのコンサート（新玉小） *ブルーアイランド氏のおしゃべりコンサート（市民会館） *チャリティ・ミニコンサート（市役所ロビー）	
8月		*Art now in清閑亭<初涼> *外郎売の口上大会
9月	*市民文化祭（～11月）	*小田原映画祭
10月	*ミュージックストリート *松永記念館特別展（松永記念館）	
11月	*アーティスト・イン・レジデンス *美術館交流展示（松永記念館）	
12月	*小宮孝泰ひとり芝居（市民会館） *カルテット・スピリタス青少年コンサート（市民会館）	*オペラ「ヘンゼルとグレーテル」 （けやき／子どもの体験事業含む）
1月	*長谷川りん二郎展（松永記念館）	
2月	*飛鳥時代展（松永記念館）	
3月	*市民による音楽フェスティバル（市民会館）	

※その他「お祭り」イベントでのコンサート等多数開催

定例的な催し

	市主催／共催	市民主体／その他 （市が支援している事業など）
年間	*昼のミニ・コンサート（市役所ロビー／毎月＋α ） *ハッピーコンサート（マロニエ／毎月＋α ）	*楽友協会定期演奏会（年4回） *ダンス＆クラフト天国（月2回） *ラスカチャリティーコンサート（年2回）

ワークショップ／アウトリーチ

	市主催／共催	市民主体／その他 （市が支援している事業など）
年間	*広報・情報発信ワークショップ *企画・管理・運営ワークショップ *現代アートワークショップ *アウトリーチ （カルテット・スピリタス他）	

資料4-2

市民の知恵と力を文化のまちづくりに
市民ホール基本構想を策定

小田原の新たな芸術文化創造拠点として整備を進めている市民ホール。その基本的な整備の方針を定めた基本構想を、3月に策定しました。今年度は、より具体的な「基本計画」や、文化のまちづくりを推進するための「文化振興ビジョン」を、市民の皆さんと一緒に作っていきます。

問 文化政策課 ☎33-1709

ホールで発揮される市民の力（逗子文化プラザホールでの市民音楽劇）

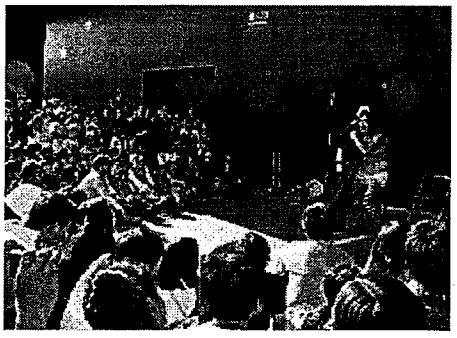
市民ホール基本構想が目指しているもの

小田原には、歴史や文化、芸術活動など多くの文化的な資産があります。子どもから大人まで、芸術文化を楽しみ、将来にわたって活動していく多くの潜在的な力もあります。しかし、市民会館の老朽化が、こうした力を十分に発揮することを制約してしまうこともありました。

市民ホール整備は、小田原の文化にとって大きな転換点です。確かな運営体制や市民参加の仕組みを作り、文化振興への取り組みを強化することで、市民の文化活動を豊かにし、創造力や人々の熱意がまちにあふれ、未来に開かれた文化都市となることを目指します。

使いやすく親しまれる施設の整備（ハード）

市民の多様な文化活動やプロフェッショナルな演出要求にもこたえられる1,000席～1,200席規模の多目的ホール。200席～300席規模の多目的小ホール。多様に使える400平方メートル程度の展示スペース。オープンロビーやレストラン、カフェなどの交流系機能。練習室やリハーサル室、創造スタッフ室、託児室などの創造・支援系機能の整備も基本構想で位置づけています。



まちにあふれる文化活動（座・高円寺）

にぎわいを生み出す文化事業の整備（ソフト）

市民ホール整備には大きな投資が必要となります。その投資を生かしきる文化活動の事業内容を明確にしていく方針も基本構想で定めました。長期的な視野に立った文化政策として、「そだてる＜育成普及＞」「感動する＜鑑賞事業＞」「つくりあげる＜創造参加＞」「つどい交流する＜施設運営＞」を使命とし、「芸術文化創造センター」の役割を持った施設として整備します。

一緒に考えてみませんか？
平成23年度の取り組み

市民ホールは、これから長年にわたり市民が使い続ける施設となることから、多様な視点・価値観での検討が必要となります。そこで、ワーキング形式で市民検討委員会を開催し、提案された意見を、専門家で構成された委員会でとりまとめ、「基本計画」を策定します。

また、小田原市の文化力の向上を目指し、市が取り組むべき文化振興の指針を定めるため、市民参加による策定検討委員会を設置し「文化振興ビジョン」を策定します。

参加募集　市民ホール整備レクチャー研修会

基本計画や文化振興ビジョン策定のため、先進都市で文化活動・まちづくりなどに実際に携わっている専門家や施設の館長などのお話を聞きながら、将来の小田原の文化活動やまちの姿などを考えてみませんか？

第1回
日時：6月18日(土)13：00～16：00
場所：保健センター大研修室（3階）

第2回
日時：6月26日(日)13：00～16：00
場所：市役所大会議室（7階）

事前申し込みは不要。詳しくは文化政策課まで。

HOME PAGE トップページ「注目情報」の「生涯学習／文化」をクリック→「市民ホール」

資料4-3

参加募集 / 事前予約不要　文化のまちづくりを一緒に考えてみませんか?

市民ホール整備レクチャー研修会

今年度、取りかかる市民ホール基本計画や文化振興ビジョン策定のため、先進都市の文化活動・まちづくりの現場で活躍している劇場ホールの館長や専門家などの経験や事例にもとづいたお話を聞きながら、将来の小田原の文化活動やホールのあり方などを考えてみましょう。

第1回

日時：6月18日（土）13：00 ~16：00
場所：小田原市保健センター 3 階 大研修室
（小田原市酒匂 2-32-16）
司会：桧森 隆一　（嘉悦大学副学長 / 経営経済学部 教授）
パネリスト：
市来 邦比古（世田谷パブリックシアター 技術部長）
勝又 英明　（東京都市大学 工学部建築学科 教授）
間瀬 勝一　（逗子文化プラザ 館長）
三ツ山 一志（横浜市民ギャラリーあざみ野 館長）

第2回

日時：6月26日（日）13：00 ~16：00
場所：小田原市役所 7 階 大会議室
（小田原市荻窪 300）
司会：桧森 隆一　（嘉悦大学副学長 / 経営経済学部 教授）
パネリスト：
桑谷 哲男　（座・高円寺 支配人）
勝又 英明　（東京都市大学 工学部建築学科 教授）
蔭山 陽太　（神奈川芸術劇場 KAAT 支配人）

☆　**市民ホール整備レクチャー研修会の位置づけ**

昨年度、市民ホール基本構想を策定しましたが、今年度は、基本構想にもとづき、より詳細な内容の「基本計画」を策定します。この基本計画づくりには、多くの市民が参加できるように、ワーキング形式で「市民検討委員会」を開催し、いただいたご意見を、専門家で構成された委員会でとりまとめ、基本計画として形にしていきます。

市民検討委員会での検討に先立って、市民ホール整備レクチャー研修会を開催します。この研修会は、今後、市民ホール整備について考えていくための**<事前研修>**として位置づけていますので、市民検討委員会に参加を希望される方は、必ず、研修会にご参加下さるようお願いします。

また、今後の市民検討委員会に参加するつもりはないが、先進都市の劇場ホールやギャラリーの館長のお話しを聞きたいという方や文化振興ビジョンに関心のある方も、是非、ご参加ください。

幅広い世代、特に将来の利用者となる**若い世代のご参加**をお待ちしています！

問 文化政策課 ☎ 33 -1709

資料5

基本計画市民検討委員会及び専門委員会について

1．市民検討委員会について

(1) 市民参加は想定人数を40名とする。

(2) グループについて
- A・B・C・Dの4グループとし、各グループは市民委員10名、ファシリテーター1名の構成とします。
- 属性等を考慮したグループ分けを行う。多くの参加者と意見交流をして頂くために、毎回グループ分けを変えます。
- ミニレクチャーを担当頂く専門委員には、オブザーバーとして各グループをまわって頂きます。

市民委員	10名
ファシリテーター	1名
合　計	11名

(3) スケジュールと各回の検討課題（案）

以下の各テーマに関して専門委員1～2名にミニレクチャーを行って頂き、その後、テーマに基づき、グループディスカッションと各グループの発表を行います。（(4) 参照）

	時期	テーマ	内容(案)	ミニレクチャー講師
(レクチャー研修会 ①6／18, ②6／26)				
第1回	7月上旬ごろ	オリエンテーション＋基本構想のふりかえり	今後の進め方等について説明、参加者自己紹介、質疑応答など。初回の検討テーマとして「市民ホール基本構想」のふりかえりを行います。	専門委員
(市民会館を検討するWS 7／31)				
第2回	8月上旬ごろ	事業・活動の検討	専門委員のミニ・レクチャーに続き、グループ毎に「市民ホールに期待される事業・活動」を検討、発表します。	専門委員
(先進事例視察・勉強会(予定))				
第3回	9月上旬ごろ	ホール施設の検討	専門委員のミニ・レクチャーに続き、グループ毎に「市民ホールとしてどんなホール施設が必要か」を検討、発表します。 ※第2回専門委員会からのフィードバックがあれば、それも議題とします。	専門委員
第4回	9月下旬ごろ	展示機能、ホール関連諸室（練習室、リハーサル室など）の検討	専門委員のミニ・レクチャーに続き、グループ毎に「展示機能及び市民ホールに必要なホール関連諸室」を検討、発表します。	専門委員

第5回	10 月上旬ごろ	市民参加の検討	専門委員のミニ・レクチャーに続き、グループ毎に「市民ホールに期待される運営と組織、市民ができること」を検討・発表します。 ※第３回専門委員会からのフィードバックがあれば、それも議題とします。	専門委員
（市民検討委員と専門委員の意見交換会）				
（基本計画策定報告シンポジウム）				

(4) ワーキングの進め方（案）

		時間(目安)	内 容
1	受付・資料配付	—	受付時に、前回分の「市民検討委員会通信(仮題)」、レクチャー資料等を配布
2	前回の内容確認	5 分	「市民検討委員会通信(仮題)」を利用して、前回内容のふりかえり
3	ミニ・レクチャー	10～15 分	検討課題に沿った情報提供、検討課題の明確化のため、各回テーマを前提としたミニ・レクチャーを実施(資料作成・配布) ＊ミニ・レクチャーの講師：専門委員/各回 1～2 名
4	検討	45～60 分	各回テーマに沿って 10 人程度でグループディスカッション ＊各グループにファシリテーター1 名がつく ＊専門委員には、オブザーバーとしてグループをまわっていただく
5	発表	各班 3 分	各グループの発表、コメント・意見、質疑応答など最終的にグループごとに検討結果を取りまとめ(B全程度の模造紙に整理)、発表
6	まとめ	3 分	ゲスト(専門委員)からのコメント ファシリテーター(空間創造研究所)から、総括と次回課題の説明
7	閉会	—	「ひとことアンケート」の記入(参加者)・回収

(全体で約 2～2.5 時間程度を想定　＊テーマによって時間配分は多少異なります)

2．専門委員会の運営

(1) 専門委員会は6回開催予定です。

(2) 専門委員には、市民検討委員会（全5回開催予定）へ、ミニレクチャーの講師として各回1～2名ずつ参加頂く。また、市民検討委員会との意見交換会、基本計画策定報告シンポジウム等を実施する場合専門委員として参加を頂きます。

(3) 各回専門委員会開催の間、専門的に検討する内容、個人情報を伴う内容及び予算事業費等を伴う内容について、集中的に議論する場合があるもの等、別途、専門委員との打ち合わせ作業を行う場合があります。

(4) スケジュールと各回の検討課題（案）

	時期	テーマ	内容(案)	
第1回	5月25日	進め方の確認等	建設用地見学会 委嘱式 委員会の進め方	
第2回	8月	事業について	市民検討委員会での検討事項を参照して方向性をまとめる	← 第1･2回市民検討委員会の報告
第3回	10月	施設機能	市民検討委員会での検討事項を参照して方向性をまとめる	← 第3･4回市民検討委員会の報告
第4回	11月	運営について	事業・施設についての検討も（取り残し課題続き）	← 第5回市民検討委員会の報告
（市民検討委員と専門委員の意見交換会）（12月）				
第5回	1月	とりまとめ	事業・施設・運営についての検討まとめ	
第6回	2月	全体とりまとめ	基本計画のとりまとめ	
（基本計画策定報告シンポジウム）(3月)				

資料6

○市民ホール基本計画検討委員会設置要綱

（平成２３年５月２５日）

市民ホール基本計画検討委員会設置要綱

（設置）

第１条　市民ホールの建設に係る基本計画の策定に関して専門的及び幅広い見地からの検討を行うため、市民ホール基本計画策定専門委員会（以下「専門委員会」という。）及び市民ホール基本計画市民検討委員会（以下「市民検討委員会」という。）（以下「市民ホール基本計画検討委員会」と総称する。）を設置する。

（専門委員会委員）

第２条　専門委員会の委員は、次に掲げる者のうちから市長が決定する。

(1) ホールの施設設計等に関して専門的な知識を有する者

(2) ホールの舞台設備等に関して専門的な知識を有する者

(3) ホールの管理運営等に関して専門的な知識を有する者

(4) 文化政策、アートマネージメント等に関して専門的な知識を有する者

２　委員の任期は、選任された日からその日の属する年度の末日までとする。ただし、再任を妨げない。

３　委員が欠けた場合における補欠委員の任期は、前任者の残任期間とする。

４　委員は、職務上知り得た秘密を漏らしてはならない。その職を退いた後も、同様とする。

（専門委員会委員長及び副委員長）

第３条　専門委員会に委員長及び副委員長を置き、委員の互選によりこれを定める。

２　委員長は、専門委員会を代表し、会務を総理する。

３　副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故があるとき又は委員長が欠けたときは、その職務を代理する。

（会議）

第４条　専門委員会の会議は、委員長が招集し、委員長がその議長となる。

（市民検討委員会委員）

第５条　市民検討委員会の委員は、次のいずれにも該当する者のうちから市長が決定する。

(1) 市内に在住、在勤若しくは在学していること又は市内の文化施設を利用したことがあること。

(2) 芸術若しくは文化又はホール整備に関して高い意識を持っていること。

２　委員の任期は、選任された日からその日の属する年度の末日までとする。

（委員以外の者の出席等）

第６条　市民ホール基本計画検討委員会は、会議の運営上必要があると認めるときは、その会議に委員以外の者の出席を求め、その意見を聴き、又は委員以外の者から資料の提出を求めることができる。

（庶務）

第７条　市民ホール基本計画検討委員会の庶務は、文化部文化政策課において処理する。

附　則

この要綱は、平成２３年５月２５日から施行する。

市民ホール基本計画策定専門委員会　第２回会議　次第

日　時　平成 23 年 8 月 26 日(金)
18 時～20 時
場　所　小田原市役所　大会議室

1　開　会

2　議　題

(1) 市民ホール基本計画（事業）について

① 市民検討委員会について

② 市民ホールに期待される事業と活動について

(2) その他

3　閉　会

資料１

市民ホール基本計画市民検討委員会について

１市民ホール整備レクチャー研修会の開催経過

・第１回市民ホール整備レクチャー研修会

開催日時　：平成23年6月18日（土）午後1時から4時まで

開催場所　：小田原市保健センター3階　大研修室

参加者　：一般73名

［パネリスト（敬称略）］

氏　名	専門分野	所属等
桧森　隆一	学識経験者	嘉悦大学副学長／文化政策・アートマネージメント 市民ホール基本計画策定専門委員会委員長
勝又　英明	学識経験者	東京都市大学教授／建築学 市民ホール基本計画策定専門委員会副委員長
市来邦比古	舞台技術	世田谷パブリックシアター技術部長／せたがや文化財団市民ホール基本計画策定専門委員会委員
三ツ山一志	展示系	横浜市民ギャラリーあざみ野館長／横浜市芸術文化振興財団市民ホール基本計画策定専門委員会委員
間瀬　勝一	文化施設運営 舞台制作	逗子文化プラザホール館長 全国公立文化施設協会アドバイザー

・第２回市民ホール整備レクチャー研修会

開催日時　：平成23年6月26日（日）午後1時から4時まで

開催場所　：小田原市役所7階　大会議室

参加者　：一般59名

［パネリスト（敬称略）］

氏　名	専門分野	所属等
桧森　隆一	学識経験者	嘉悦大学副学長／文化政策・アートマネジメント 市民ホール基本計画策定専門委員会委員長
勝又　英明	学識経験者	東京都市大学教授／建築学 市民ホール基本計画策定専門委員会副委員長
桑谷　哲男	ホール管理運営	座・高円寺支配人／NPO法人劇場創造ネットワーク事務局長 市民ホール基本計画策定専門委員会委員
蔭山　陽太	劇場管理運営	神奈川芸術劇場KAAT支配人
伊藤由貴子	音楽ホール管理運営	神奈川県立音楽堂館長 市民ホール基本計画策定専門委員会委員

２市民ホール基本計画市民検討委員会について

登録者数　：50名

男女比　：男29名（58%）

女21名（42%）

年齢別　：20代　5名（10%）　30代　7名（14%）

40代　12名（24%）　50代　9名（18%）

60代　10名（20%）　70代以上　7名（14%）

３市民ホール基本計画市民検討委員会の開催経過

・第１回市民検討委員会

開催日時　：平成 23 年 7 月 17 日（日）午前 10 時から 12 時 30 分まで
開催場所　：小田原市役所　大会議室（７階）
参加者　：市民検討委員４１名（男 25 名、女 16 名）
テーマ　：「オリエンテーション＋基本構想のふりかえり」

(1) ミニレクチャー「市民ホール基本構想について」
元市民ホール建設準備委員会
桧森委員長、大森副委員長、市来委員、関口委員

(2) グループワーク（5 グループ）
(3) とりまとめ（各グループ発表）
(4) 講評（各委員より）

・第２回市民検討委員会

開催日時　：平成 23 年 8 月 21 日（日）午前 10 時から 12 時 30 分まで
開催場所　：小田原市役所　大会議室（７階）
参加者　：市民検討委員３９名（男 25 名、女 14 名）
テーマ　：「市民ホールに期待される事業・活動を考える！」

(1) ミニレクチャー「公立文化施設の担う役割・期待される役割」
市民ホール基本計画策定専門委員会
桑谷委員、三ツ山委員、伊藤委員

(2) グループワーク（4 グループ）
(3) とりまとめ（各グループ発表）
(4) 講評（各委員より）

・市民会館を検証するワークショップ

開催日時　：平成 23 年 7 月 31 日（日）午後 1 時から 5 時まで
開催場所　：小田原市役所　大会議室（７階）
参加者　：一般 26 名
内容　：「市民会館バックステージツアー」、「市民会館を検証するワークショップ」

[ナビゲーター（敬称略）]

氏　名	専門分野	所属等
市来　邦比古	舞台技術	世田谷パブリックシアター技術部長／せたがや文化財団市民ホール基本計画策定専門委員会委員
草加　叔也	劇場コンサルタント	空間創造研究所代表

・先進事例視察

開催日時　：平成 23 年 8 月 8 日（月）午後 1 時から 3 時 30 分まで
視察箇所　：富士見市民文化会館キラリ☆ふじみ
参加者　：一般 15 名
内容　：「施設内視察」、「質疑応答」

資料 2-1

市民ホール基本計画市民検討委員会
WS 1 ワークショップかわら版

《作成・発行》
小田原市
文化部文化政策課
＆ 空間創造研究所
平成 23 年 8 月 21 日

夏らしい晴れ渡った天気の 7 月 17 日、市役所の 7 階大会議室にて、「第 1 回市民ホール基本計画市民検討委員会」が開催されました。

今回は市民委員 41 名、（女性 16 名、男性 25 名）、市の事務局スタッフ 12 名、その他の事務局スタッフ 5 名、市民ホール基本計画策定専門委員会から桧森委員、市来委員の 2 名、合計 60 名もの参加者がありました。会社員や主婦の方からご高齢の方まで、活動ジャンルもさまざまな皆さんが、市民検討委員として集まってくださいました。この日は第 1 回ということで、5つのグループに分かれ、自己紹介の後に「基本構想のふりかえり」をテーマに基本構想や小田原市の文化についてなどについてグループワークを行いました。どのグループからも疑問、質問など、日頃の実感にもとづく積極的な質問・意見が数多く出されました。

「ワークショップって何でしょう？」

会議の一種ですが、

① 初めての人でも意見を出しやすい工夫をしてあること
② ちょっとした作業やゲームを通して楽しく語り合えること
③ 相手を言い負かすのではなく、いっしょにつくっていく「合意形成」に重点がおかれていること

などが、ふつうの会議とは違います。

つまり、みなさん一人ひとりの思いを今後の検討に活かしていくための取り組みです。積極的に、お気軽にご参加ください。

第 1 回　「オリエンテーション+基本構想のふりかえり」

5 つのグループにわかれ、基本構想のいいと思うところ、足りないと思うところ、疑問点や今後の市民ホール基本計画などについて具体的に話をしました。ふせんに整理をした後、班ごとにワークシートをつくって意見を発表しました。

《ワークシートのふせんから一部をご紹介します》

1 班

児童館のように子供たちが自由に遊べる空間／オープンロビーで低料金で販売に利用できるスペース／ランニングコストがおさえられるもの／神奈川県で一番良いホールを創ってほしい／公演によって好きにデザインできるように

【ソフト系】《何をする？》ホールで“何をするのか”少し漠然としている／全国規模の公演に対応／展示スペース自主企画展覧会の開催（小田原ゆかりの作家）

《子ども　にぎわい》イベントがない時も気軽に子どもが集まれるよう／子供むけの企画を定期的に行う。

《国際交流》2 市 8 町の国際交流団体をまとめるきっかけ

【理念】「プロモーション」というコトは大切。市の文化事業の戦略が最重要／文化創造センター／駅からホールまでのアクセスを整備してほしい／

【ハード整備】《駐車場》駐車場は？／市民会館では駐車場足りない。《食》／オープンカフェ欲しい。／地産カフェレストラン、小田原の食を伝えられる機能。／《外観》“建築物としての市民ホール”デザインは重要。／管理、修繕しやすさ。こったつくりの設備は不要。管理者の手間を減らし、ソフト等に力を入れるべき。

★☆★Point★☆★
基本理念からまちの賑わいや小田原市ならではの文化についてなど、幅広い視点からの意見がでました。

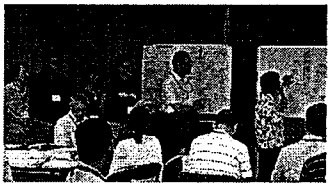
2 班

【ソフト】平日でも寄ってみたい場所にする。／専門性のある学芸員、コーディネーターが必要／街のギャラリーとの連携が必要／市民が主体的となり参加活動していくのは良い／ホール・展示場・商店街とのタイアップ、活性化！

【基本理念】／理想的だが現状の小田原市民にはハードルがやや高い／（7 つの基本方針）②「たのしむ」はもう一歩高い「感動する」にしたい／・育てる ・つどい交流 に賛同する／ネーミングを文化創造センターにすることに賛成／

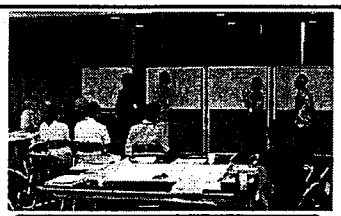
【ハード】／目的の変化に対応出来る施設を／情報発信としての機能ほしい（ハード・ソフト）／バックヤードを大事にしてホール規模は小さくてもよいと思う／託児室は平日親子のつどえる場になったらよい／展示の保管庫／小さい用地に大ホールは必要か／展示スペースも重要だが「高さ」を重視

【その他】観光客の立ち寄り所に！歴史・物産の紹介の場も／終演後のお客様の居場所空間を街にほしい／市内の文化活動を市広報で PR する／相模人形芝居の普及（市民に知ってもらう）／友の会システムは良い、出資できる／地下街を観光客のおみやげや情報発信の場に／展示場、常設会場にするアイディア



★☆★Point★☆★
基本理念・ソフト・ハード・その他とふせんを色わけし、それぞれについて具体的な案が多数でました。

3 班



【にぎわい】オープンカフェがほしい！／大ホール、にぎわい創出の為？

【事業】学校との協力／ホールを黒字にするのは大変／「事業」ボランティア？お金を取る？／運営は直営なのか指定管理なのか。小田原は直営だった

【市民参加】市民の創造演劇とか、音楽祭などが生まれると楽しい！／市民が参加して何ができるのか／創造活動に施設を利用した市民ってどれくらいいるのだろう？／どんな創造活動に使いたいのだろう／ “プロ”って言葉って？

【文化って何？】小田原市は本当に歴史を大切にしてるの／文化って何？／小田原の何かがある／“地産地消”じゃなくても良い！／多様性がある方が良い（小ホール）

【ハード面】防災対策はどうするのだろう？／映像で公演記録“皆で何かつくりたい”／当時は良い設備が更新されない／閉じた貸出は必要？／映像関連のワークショップを／展示室と小ホールは共有できるのでは？／スクリーンの設置／リハーサルスタジオは欲しい！／小ホールを可動式にする理由・・・稽古場ほしい！！／ホールに café を作るより商店街へ流動を／練習場ないと居酒屋がもうからない／下北沢的イメージ／ホールを利用した前・後に使いたい（café）／昼間の利用に良い（カフェ）

★☆★Point★☆★
「文化って何？」「プロとは？」といった話や、市民参加、まちの賑わいについてなど掘り下げた議論が行われました。

4 班

【①金】これだけの物を作るのに予算は？ランニングコストは？／身銭（予算の確保）人件費、タダボランティアは反対／ボランティア、身銭文化であってはいけない。かといって、市民の税金をあてにしてはならない／文化への財源の確保／文化に対する費用を呼び起こす魅力ある文化活動を始める／財源確保

【②広報（伝える）】市民ホールの PR more／文化を人ごとにしない→どんなことか？／文化芸術への関心層を広げていく／市民会館で行っている演目がわからない／教育現場とのつながり広報／子ども達を大切にするイベントワークショップ

【③人】小田原市民だけでホールの運営はできるのか？専門のプロデューサーが必要だ。／小田原の一つの中心に人材活動を活性化／運営にかかわるのはボランティア？ プロを使うべき／文化に関わる団体の連携を／かくれた人材の発掘

《アクセス》商店街活性化　歩いていく

《カ・良質》八方美人は無個性である。／観る側、演じる側、展示する側、人の動きを考えた機能／アートには人を元気にする力がある

《防災》屋上を避難用に／「防災対策」抜け落ちている

★☆★Point★☆★
人材育成、アートの持つ力、団体同士の連携など、ホールを中心としたまちへの広がりについて等の議論が交わされました。

5 班

★☆★Point★☆★
ソフト面・ハード面でのポイントをわかりやすく簡潔に整理しました。また、防災機能についての意見も多数でました。

【soft 面】
小田原市内に約 200 団体がある、これらをステップ UP させる／誰が育てるの？今からスタートが必要／（感動する）日常→文化空間スイッチの切り替え　余韻を楽しんでから再び日常へ戻る／（にぎわう）・若手アーティストたちが集うコーナー ・子どもたちがいつも集うコーナー／情報発信 spot ・ミニ FM ・イベント告知スペース ・コミュニティエリア、カフェなどの設置／ランニングコスト、イニシャルコストを考えて建てること！！／首都圏に専用的ホールが造られている、小田原に専門ホールは必要か／

【ハード】ホールの天井が落ちないように！！／お金が戻るロッカー／ホールの動線、今の市民ホールは使いにくい／小ホール　小田原近隣には本格的な小ホールが存在しない！演奏、演劇を主とした小ホールを是非実現したい！／ちょくの段差でいいかもしれないと思うのですが、段差はなしで／高齢化での人口の減少に対しての対策は／楽屋とステージのスムーズな行き来／障害者トイレあればよいではなく、利用しやすい／車いすや足が悪い人などに配慮した設計を！

★☆★ひとことアンケートの一部をご紹介します★☆★
音楽や演劇をやってる方が多数いられるので、情報交換が出来れば、これからの発展になるのではないかと思いました。／有意義でした。今日の発言が多く反映されることを願います。／会議が終わる時間が守られるように。設定時間が短いです。／子どもたちが未来に希望を夢を持てるようなホールを！！／話を始めると 2 時間ではたりないのではないか。／お金の問題、継続の問題等。解決しなければならないことがまだまだたくさんあるなあと思いました。／最初の自己紹介が長いなー。今日は問題提起で今後これが具体的に話せればと思います。

☆☆☆Q&A☆☆☆

？市民ホール基本計画とは？

小田原市では新たな芸術文化創造拠点として、市民ホールの整備を進めています。その基本的な整備の方針を定めた基本構想を 23 年 3 月に策定しました。今年度からは基本構想を受け、基本計画をつくります。ここでは「運営（ソフト）」と「施設（ハード）」の両面について、整備に向けて内容を深め具体化していきます。

？市民ホール基本計画市民検討委員会とは？

基本計画の策定には、市民の皆さまからの意見が欠かせません。「市民検討委員会」は様々な立場からの市民の皆さまの意見を集約する場と捉えています。その意見を、文化施設や文化活動などに関する専門家からなる「専門委員会」が、「基本計画（案）」としてとりまとめていきます。

市民の生の声を「専門委員会」に届けることが市民検討委員会の大きな役割です！

☆☆☆次回予告☆☆☆

◎先進事例視察：8 月 8 日（月）午後 13 時から 15 時半まで
富士見市民文化会館『キラリ☆ふじみ』

◎第 2 回：8 月 21 日（日曜日）午前 10 時から 12 時まで／小田原市役所 7 階大会議室
「市民ホールに期待される事業・活動を考える！」
ミニレクチャー：桑谷委員、三ツ山委員、伊藤委員

◎第 3 回：9 月 19 日（月曜日）午前 10 時から 12 時まで／小田原市役所 7 階大会議室
「あたらしい市民ホール・どんなホール機能が必要か？」
ミニレクチャー：勝又委員、市来委員

ご紹介しきれなかったご意見は裏面へ！！

ワークシートのふせん内容をご紹介します

1班

児童館のように子供たちが自由に遊べる空間／オープンロビーで低料金で販売に利用できるスペース／マロニエ社会福祉センター児童スペースあり／小ホール、多目的、平床式、展示できるように／小ホール、平土間にこだわらずホールにもできる可動的な物がほしい（南足柄の小ホール）／国際交流スペースとして 50 人以上が入れる場所／自由に使えるスペース（多目的）展示、発表、音楽など／空間（スペース）をもっと大きく考えたい。／ランニングコスト削減／再生可能エネルギーの有効活用／清掃しやすい、つねにピカピカ／シンプルな設備でランニングコストがおさえられるもの／太陽光パネルの採用／神奈川県で一番良いホールを創ってほしい／公演によって好きにデザインできるように

【ソフト系】何をする？／ホールで"何をするのか"少し漠然としている／情報、人、コト etc が集まる。発信する。INPUT＆OUTPUT／音楽、ステージ etc.全国公演のひとつで小田原でも公演を呼ぶ。／専門家（会館学芸員）を採用し、市民ギャラリーにする。／全国規模の公演に対応／展示スペース自主企画展覧会の開催（小田原ゆかりの作家）／コンテンポラリーダンスとかも／ソフト整備専門家の採用を必ず（予算化）

【子ども にぎわい】イベントがない時も気軽に子どもがあつまれるよう／逗子文化プラザホールのように、子供が気軽に自由に出入りできる空間に（常ににぎやかで良い）／子供むけの企画を定期的に行う。クラシック、音楽、劇など／平日のにぎわいが欲しい。土日仕事の人も楽しめる企画

【国際交流】2 市 8 町の国際交流団体をまとめるきっかけ／国際交流も文化だ

【理念】市長のビジョン（文化対策）／「プロモーション」というコトは大切。どうプロモードしていくか？いけるか？／市の文化事業の戦略が最重要／子供や青少年などでこれまで芸術に関わりのなかった人などに豊かさを伝えられたらイイネ！／「発信する」市からの情報がもっと必要、もっとわかりやすく？（基本構想の概要も）／文化創造センター／駅からホールまでのアクセスを整備してほしい／駅周辺の道が不便（分かりづらい、一方通行多い）／地下街も有効利用（人の流れを）／練習場機能あれば事業がないときでも人が集まる。

【駐車場】駐車場は？／市民会館では駐車場足りない。／駐車場一つにまとめると、公演前後に混雑してしまう。／駐車場の問題。基本的に不要。駅～ホールのルートに立ち寄ることができる。／Parking はないといけないのか？

【食】基本構想 17P、オープンロビーやレストランカフェってどのようなレストランカフェ？もっと具体的に示すべき。／オープンカフェ欲しい。／地産カフェレストラン、あじ、かまぼこ、レモン、みかん、うめ等。小田原の職を伝えられる機能。／10 代 20 代が興味を持ちやすいホール機能

【外観】"建築物としての市民ホール"デザインは重要。ソフトにおいてもデザイン重要。／外観がカッコイイ／デザインの力、プロモートの力／管理、修繕しやすさ。こったつくりの設備は不要。管理者の手間を減らし、ソフト等に力を入れるべき。

2班

【ソフト】平日でも寄ってみたい場所にする。／小中学生の美術作品展／専門性のある学芸員、コーディネーターが必要／街のギャラリーとの連携が必要／市民が主体的となり参加活動していくのは良い／市民参加のいつも何かやってるホールにしたい／運営はボランティア中心とすることを重要と考えます／ホール・展示場・商店街とのタイアップ、活性化！

【基本理念】理想的だが現状の小田原市民にはハードルがやや高い／市民がつどい交流する場面について人（かかわる人材・人間関係）／一組織をよく考えてほしい／〔7 つの基本方針〕②「たのしむ」はもう一歩高い「感動する」にしたい／・育てる ・つどい交流 に賛同する／市民ホールがホールにとどまらず、街へとあふれる意識を持つことに賛成／ネーミングを文化創造センターにすることに賛成／最終的ネーミングは別にして検討段階から内容（目的）の分かるネーミング「文化創造センター」に

【ハード】シンプルで使い勝手が良いものがいい／30 年 40 年に使用の主体となる若者の声を多いに取り入れるべし／各施設とも専用性を強めず他用途を（本来の機能を保ちつつ）／目的の変化に対応出来る施設を情報発信としての機能ほしい（ハード・ソフト）／バックヤードを大事にしてホール規模は小さくてもよいと思う／照明はコンピューターで動かせるように／音楽と演劇を両方使うなら反射板とバトンが互いに殺し合わないように／託児室は平日親子のつどえる場になったらよい／展示の保管庫／現予定地にホール（大・小）展示場がどのレベルで建設可能有無の具体的な検討はどこまで進められたか？／小さい用地に大ホールは必要か／400 ㎡以上の高さを十分考えた展示スペースをキープする／展示スペースも重要だが「高さ」を重視／小ホールで音楽・展示は両立しうるか中途半端（現在市民会館が良い例）

【その他】観光客の立ち寄り所に！歴史・物産の紹介の場も／終演後のお客様の居場所空間を街にほしい／地下街を観光客のおみやげや情報発信の場に／市内の文化活動を市広報で PR する／展示場、常設会場にするアイディア／本物で感動するものが欲しい（代用品でなく）／相模人形芝居の普及（市民に知ってもらう）／友の会システムは良い、出資できる／人材育成（屋台を組める人材）

3班

【にぎわい】オープンカフェがほしい！／大ホール、にぎわい創出の為？

【事業】学校との協力／発表をバックアップ／人材がいる／ホールを黒字にするのは大変／「事業」ボランティア？お金を取る？／アクティブに動ける人を！／もうけとボランティアのバランス／運営は直営なのか指定管理なのか。小田原は直営だった

【市民参加】年齢的に気軽に子供から老人がその場所に集えるか／市民の創造演劇とか、音楽祭などが生まれると楽しい！／市民が参加して何ができるのか／創造活動に施設を利用した市民ってどれくらいいるのだろう？／どんな創造活動に使いたいのだろう／基本方針の①③、今までに子供から大人まで一緒に作りあげるものが無かった。／"プロ"って言葉って？

【文化って何？】小田原市は本当に歴史を大切にしてるの／文化って何？／小田原の何かがある／"地産地消"じゃなくても良い！／多様性がある方が良い（小ホール）／"中継点"でないインフラ

【ハード面】防災対策はどうするのだろう？／映像で公演記録"皆で何かつくりたい"／当時は良い設備が更新されない／閉じた貸出は必要？／機能は分配させたくない／映像関連のワークショップを／展示室と小ホールは共有できるのでは？／スクリーンの設置／中ホールを川東地区に？／リハーサルスタジオは欲しい！／小ホールを可動式にする理由・・・稽古場ほしい！！ホールに café を作るより商店街へ流動を／練習場ないと居酒屋がもうからない／下北沢的イメージ／ホールを利用した前・後に使いたい（café）／昼間の利用に良い（カフェ）

4班

【①金】これだけの物を作るのに予算は？ランニングコストは？／身銭（予算の確保）人件費、タダボランティアは反対 文化活動には、お金がかかります／「身銭を切る！」 松本の例の様に／ボランティア、身銭文化であってはいけない。かといって、市民の税金をあてにしてはならない／おかね／文化への財源の確保／小田原の人は文化に身銭を切らない／文化に対する費用を呼び起こす魅力ある文化活動を始める／1000 円以上は！！／財源確保

【②広報（伝える）】市民ホールの PR more／広報／文化をひとごとにしない→どんなことか？／文化芸術への関心層を広げていく／市民会館で行っている演目がわからない／他府県から人が呼べるホールであれ／open であること

教育現場とのつながり広報／面白ければホールに行く（自分は子どもが key か）／子ども達を大切にするイベントワークショップ

【③人】「まちへとあふれる」どういうことかわからないが、いいことだと思う。／小田原市民だけでホールの運営はできるのか？専門のプロデューサーが必要だ。／人を育てる為の人がいない＿のでは、英才教育は成立しない！／ボランティアに頼りすぎないで。／小田原の一つの中心に人材活動を活性化／運営にかかわるのはボランティア？ プロを使うべき／文化に関わる団体の連携を／かくれた人材の発掘／プロとアマの融合／音楽関係者を活かす／若者に魅力ある町でありたい

《アクセス》商店街活性化 歩いていく／駐車場（車のアクセス）／駅からの仕掛け

《継続》良い物を継続していく姿勢／事業の継続性／アートは人を動かす力がある／低劣な TV 文化中心の発想はやめる／職の魅力を町に／「アート・イン・レジデンス」小田原周辺の良い環境を活かして 滞在してアートを産み出せるように

《力・良質》おしゃれしてホールに／八方美人は無個性である。／ホールの大きさだけではない別のよさがある

観る側、演じる側、展示する側、人の動きを考えた機能／アートには人を元気にする力がある

《防災》屋上を避難用に／「防災対策」抜け落ちている

5班

【soft 面】小田原市内に約 200 団体がある、これらをステップ UP させる／育てる→小田原で大きなイベントを組むことより、機会が増えていく 参加者が増える／誰が育てるの？今からスタートが必要／

〈感動する〉日常→文化空間スイッチの切り替え 余韻を楽しんでから再び日常へ戻る／〈感動する〉・Hall へいくまでのアクセス ・帰りみちの充実感／〈にぎわう〉・若手アーティストたちが集うコーナー ・子どもたちがいつも集うコーナー／小田原の人は自分の分野だけの意識が強すぎる。全体的に参加できるようにするには！／育てる－子ども教育子ども会との両輪化、甲府市が行っている／市民にかかわる演目だけでなく、チケットをもぎるとか、市民が参加する方法を、仕組みを／小田原市の PR ・入りロロビーに北条五代の展示コーナー設置 ・売店も充実／情報発信 spot ・ミニ FM ・イベント告知スペース ・コミュニティエリア、カフェなどの設置／ホールは観るだけではない。 ・カフェ ・ロビー ・インフォメーション／カフェ、レストラン、売店の充実／ランニングコスト、イニシャルコストを考えて建てること！！／外壁はアーティストの作品展示場にしたら、ガラス張り／首都圏に専用ホールが造られている、小田原に専門ホールは必要か／小田原城跡をみられる茶屋、おしゃれな！

【ハード】「吹奏楽コンサート」が出来ない。音楽の活動場所がない。合唱団など／ホールの天井が落ちないように！！／お金が戻るロッカー／トイレ汚いのは嫌／ホールの動線、今の市民ホールは使いにくい／小ホール 小田原近隣には本格的な小ホールが存在しない！演奏、演劇を主とした小ホールを是非実現したい！／吹奏楽コンクールの県西予選会が小田原市民会館でできるように！／ちょくの段差でいいかもしれないと思うのですが、段差はなしで／高齢化にての人口の減少に対しての対策は／楽屋とステージのスムーズな行き来／障害者トイレあればよいではなく、利用しやすい／車いすや足が悪い人などに配慮した設計を！／舞台監督の人（プロ）の意見をききたい、音楽演劇両立のため／津波対策

2 時間を超える初回の市民検討委員会では様々な立場の皆さんから、こんなに多くの意見が出されました。
今回の検討委員会をふまえ、次回以降はより具体的なところへと話がすすんでいきます。
皆さんで検討委員会を盛り上げていきましょう！

資料 2-2

市民ホール基本計画市民検討委員会

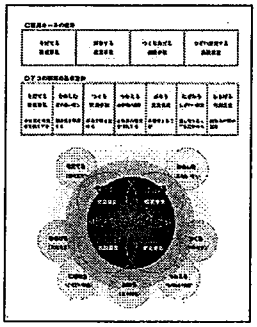
WS 2 ワークショップかわら版

《作成・発行》
小田原市
文化部文化政策課
＆ 空間創造研究所
平成 23 年 8 月 26 日

8 月 21 日、市役所の 7 階大会議室にて、「第 2 回市民ホール基本計画市民検討委員会」が開催されました。

あいにくの雨模様にもかかわらず、市民委員 39 名、(女性 14 名、男性 25 名)、市の事務局スタッフ 10 名、その他の事務局スタッフ 5 名、市民ホール基本計画策定専門委員会から伊藤委員、桑谷委員、三ツ山委員の 3 名、合計 57 名の参加がありました。

第 2 回の市民検討委員会では各専門委員のミニレクチャーの後に 4 つのグループに分かれ、「市民ホールがどのような事業を行っていくことが望まれるのか」についてグループワークを行いました。



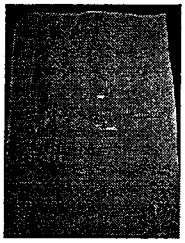
7 つの事業方針とは？

23 年 3 月に策定された「市民ホール基本構想」ではホールの基本理念～使命（ミッション）～として「そだてる」「感動する」「つくりあげる」「つどい交流する」が掲げられました。
その基本理念を確実に実現するための事業の基本方針として「そだてる（育成普及）」「たのしむ（質の高い催し）」「つくる（市民参加）」「つたえる（地域特性の発信）」「出会う（交流促進）」「にぎわう（にぎわい創出）」「ひろげる（利用促進）」の 7 つがあげられています。

第２回　「市民ホールに期待される事業・活動を考える！」

基本構想に示された 7 つの基本方針「そだてる」「たのしむ」「つくる」「つたえる」「出会う」「にぎわう」「ひろげる」に基づき、市民ホールが具体的にどのような事業を行っていくことが望まれるのかについて話し合いました。

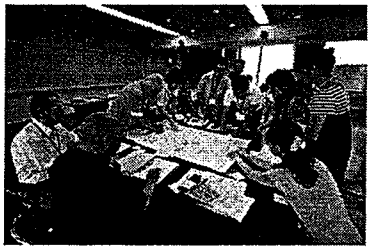
1 班

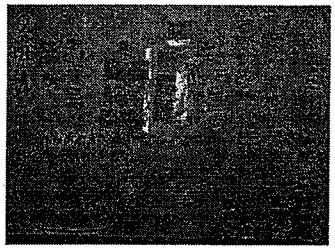


★☆★Point★☆★

7つの事業方針に時間軸を付け加え、ホール開館までの 5 年間でできる事業を中心に、開館 50 年後に渡る事業計画を考えました。ホールについては「スケールが小さくてもオペラのできる音響のよいホール」など、良い音響を求める声があがりました。また、次に繋がっていくという点から、事業を資料化して保存するライブラリー機能の充実が求められました。課題として開館後 10 年、50 年後までどういった事業を行っていけばよいのかという点が上げられました。

2 班

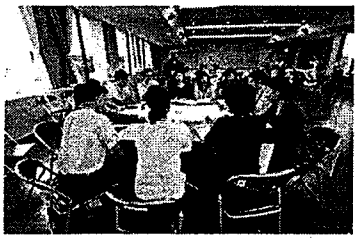


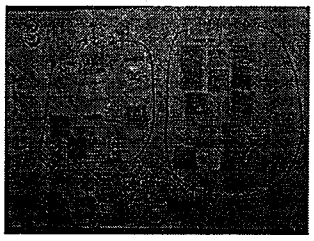


★☆★Point★☆★

「オープニング事業」「継続していく事業」「これからの事業」の 3 つに区分し、どのように事業を展開していくか話しました。「24 時間利用できる施設」など、子どもと若者が集える場所というキーワードが多くあげられました。またシルバー人材センターや商店街、他団体との連携など、「マンパワー」を活用し、ホールや地域を活性化していくといった意見が上げられました。そういった「動きのある運営」はどうしていったら可能なのか、といった課題も上げられました。

3 班

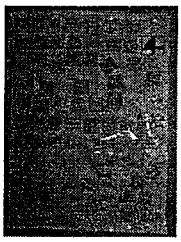




★☆★Point★☆★

「つどう」「そだてる」「つくる」についての意見が多く上げられました。「地産地消カフェ」や「えっさホイの練習ができる場所」といった小田原ならではの文化を活かす意見が多く上げられました。子どもの育成や、若者が参加できる市民活動のサポートの必要性などについても多く意見が上げられました。専門委員からは「子どもから大人まで」といった運営は中々難しく、特化したものをつくるということも一つの作戦だというお話がありました。

4 班



★☆★Point★☆★

古稀亭や清閑亭などの小田原ならではの名建築と市民ホールのコラボレーション、一般的に文化と認知されづらいジャンル（花火やメディア、えっさホイなど）を扱うなど、ホールだけに留まらないまちを巻き込んだ事業展開についても多数の意見がでました。課題として、これらの事業を行うための予算の確保や、ホールが地域に対して何が出来るか、といったことが上げられました。

★☆★ひとことアンケートの一部をご紹介します★☆★

「十人十色」でグループ 12 人いれば 12 の意見が出るのでこうしたワーキングは意義が深い。市民 Hall の基本構想については、最初モヤモヤしたつかみどころのないイメージしか持てなかったが、すこしずつ形が見えてきた。／にぎやかではあったんですが、ソフト以外の面についての話などに多くの時間がさかれてしまい、時間が足りなかったなとの印象です。／他のグループの話の中にも、参考になる話が多く、個人的に基本的な考えが、はっきりしてきて良かった。／市民ホールで、自分が何をしたいか、どんな時に行くか、どんなだったら行くか、真剣に考えていなかった。この委員会の意見が、市民の意見として、まとめられるのか、こわいと思った。／何時も時間が少なく、問題提起に終わってしまう。残念。本来は「ではどうするか」にふみ込んだ検討までこの会議はしたいが？

★☆★皆さんからの質問をご紹介します★☆★

Q 生涯学習センターと市民会館の和室の利用状況はどうなっていますか？
A 利用団体は、茶道関係では1団体のみとなっています。
【生涯学習センターけやき 2007 年：23 回／2008 年：18 回／2009 年：32 回／2010 年：26 回
【小田原市民会館】2009 年：年 3 日／2010 年：年 2 日
※2010 年は耐震補強工事のため、利用可能日数が少なくなっています。

Q ホール施設では、傘立てはどの様に対応していますか？
A スペース等の問題からお客様の人数分の傘立てを利用するのは難しい施設が多く、一部傘立て(ロビー等)と傘袋(客席持込)の併用で対応している施設が多くなっています。

Q この「市民ホール基本計画市民検討委員会」について、ブログやソーシャルメディア(Twitter や Face book など)に書き込んでもかまいませんか？
A 問題ありません。

★☆★次回予告★☆★

◎第３回：９月 19 日（月曜日・祝日）午前 10 時から 12 時まで／小田原市役所７階大会議室
「あたらしい市民ホール・どんなホール機能が必要か？」
ミニレクチャー：勝又委員、市来委員

◎第４回：10 月９日（日曜日）午前 10 時から 12 時まで／小田原市役所７階大会議室
「あたらしい市民ホール・展示機能やホールに関連する諸室機能を考える！」
ミニレクチャー：桑谷委員、三ツ山委員

皆さんのご意見は裏面へ！！

ワークシートのふせん内容をご紹介します

1班

小田原文化エネルギーハンドブック／超未来は読めないが近未来での小田原市民が何を（音楽・演劇・様々なイベント）望んでいるのか知る必要あり。／計画の骨格が見えない。音楽ホール、演劇場、アートギャラリーなど望むものがバラバラ！／小田原にこれからも必要な文化を育てるステージでありたい。それを多目的ホールというのか？／ユビキタスは層の小田原の発信点／分度と拍譲

【つくる】地元の音楽家による連続演奏会／ガンプラジオラマ風　ガンダムでの興しを／小田原出身の文化人、有名人のピックアップ　・大藤信郎、川崎、居崎、首藤、北原白秋 etc／市民オペラ実現のためのワークショップ／電気を使わないコンサート、舞台／バリアフリー観劇堂／アコースティックコンサート（すべてのジャンルで）／市民オペラ／スケールが小さくてもオペラが上演できる音響の良いホールにしたい。／星空コンサート

【そだてる】ホール予定地をアートと花でうめつくそう／ビーチコンサート（御幸の浜）+南風（ホール）コンサート／様々なシチュエーションでの映画上映（銅門、梅林、浜）／木の町小田原コンサート（木の文化大集合）／技術者のための講習会（次世代の担い手育成）／星空コンサート／子ども舞台教室

【たのしむ】テント公演／アウトリーチで育てる／映画祭での利用、トーク・シンポジウムな etc／小田原鉄道文化祭
バリアフリー映画上映／16mm映画館

【にぎわう・出会う】地域の人とかかわってこの委員会でイベントをする／お城をアートと音楽でうめよう／小田原すべての「バンド」集まれ！！企画／子ども達が体を動かして楽しめるもの　・工作　・ダンス　・コーラス　・劇／町内会対抗コンサート+一流アーティスト／住時の商工祭、ちょうちん祭の復活、それにともなう製作活動／町全体で住時のにぎわいを取り戻したい（商工等）／小田原おじさん（ロカピリーフォーク etc）大集合／地元の商店街とをつなげる事業　・食　・大道芸／中高生がいつもたまる仕掛け→ロビー／和と洋のうわさになるくらい美味しいお店／市民交流のサロンコンサートとレセプション

【ひろげる】市民ホールと子どもとの距離を近くしたい（子どもにとって特別な場所ではないホール）／地域住民の持てる力を発揮する場を子どもに向けたワークショップも民族芸能が大きくかかわれる分野です／文楽地方公演、そのために必要な機構は　舞台間口 8 間　舞台奥行 4 間　舞台袖 1 間半　吊ものバトン 4 本　どん帳から 2 間下がった位置から／近隣ホールに来る程度の・商業演劇をよびたい。　・歌舞伎　・バレエ　・ミュージカル　・オペラ等／近隣商店街と連携したコンサート／学校では美術・音楽を教科としてやらないでホールにまかせる

【つたえる・情報共有】相模人形芝居下中座はアマチュアの人形座で日本で最初に国指定無形民俗文化財となりました。日本で 5 本の指に入る人形座を市民が知りません。定期的に市民が集うホールで市民に見せることができたらと思います。市民の誇りになるはずです。小田原は民俗芸能の宝庫です。お囃子だけで 40 団体もあります。その地に根付いた芸能の価値を関わっている人々自身も気づいていないのが現状です。無尽蔵の宝を発表し、伝え、感動させるステージを表現したい。この伝統が全国高校文化祭の相洋高校和太鼓部の活動につながっています。／江戸町文化　総合文化祭／市民・文化欲求のデータベース／コンサートの　CD・DVD　化／図書館業務とつないだアーカイブ／小田原風鈴、ちょうちん、いもの　箱根細工　小田原彫り　etc／失われた文化の再発掘／こゆるぎの人形の製作／文化活動を行う方（団体）をコーディネートする人材の育成／ホールで何をやっているのか伝える媒体（広報誌）／映像のワークショップ　ふるさとの映像を残していくアーカイブ／文化資料室

2班

【小田原のキーワード】小田原の魅力のキーワードを抽出する／小田原の魅力「落ちついた町」／ものづくり／都／宝が隠れてる／無尽蔵・二宮草原

【オープニング事業】多くの人が集まる企画／機能の紹介／会館に魅力を感じる企画／市民に使い方がわかるよう紹介する場／・名画鑑賞会　・本物を見る　・鑑賞のポイント　・トークギャラリー

【継続していく事業】こども若者を大切に／若者が使える自由な空間／子どもが生涯の友人を作るスタートの場に／城址公園の遊園地のように子供を通じて親が参加するもの／学校帰りの小学生が立ち寄って何かに出会える／ホールの中に24時間使用できる若者が使用できるスペースを！／子どもが体を使って遊べる！／真剣な大人の姿、楽しんでいる
子ども対象のワークショップ（造形・色彩）／市民が気軽に使えるスタジオの併設（にぎわい）／文化人が多い町／小田原市は19万人です。この都市全国大会を開催できる都市であるのは箱根を控えているから。小田原の観光事業の活性化のためにも、写真等の全国規模の公募展の開催。／他市（町）、他館との共同制作（県内）、年間計画、横断的な連絡組織作る（製作費低減）（連携）／日常的に活気ある場になるよう　展示事業を（にぎわい）／質の高い企画を　・演劇　・音楽　・美術（たのしむ）／本物を見て感動する！／全国規模の公募展／各種巡回展／伝統芸能大会／作家とのワークショップ（交流）／小田原ブランドとしての芸術文化の造形マーケットの販売スペース／展示作品としての充実／うれしかった体験をリフレクション／市文連との連携／入口がその展示会のイメージをつくるのでその入口を大切にしたい／ワークショップを毎週定時刻に行う、子ども達含めて／図書館機能があると子育て世代、ゆとり世代が利用しやすい（にぎわい）

【これからの事業】ジャンルは縦割りせずに文化連盟に横串を入れ活性する／団体（200 以上）に対して個の作家による展示会等／シルバー人材卒業生の活用。活性化／高齢者へ PR、平日動員策！／技術の継承や後継者の育成事業／市内施設のネットワーク構築、施設の有効活用／小田原の周りの美術館、箱根、湯河原既存の活用／ホール展示場は人の流れ（動線）を考えたレイアウト要／市民、学校職員のネタ集めの場所へ／育成ワークショップ付き展示／ワークショップのための人材バンクを構築する事業／地域作家の広報できるミュージアムショップ／映像や3D を3面から見れる。その中央で前を活かす話をする／映像によるステージ。ユーチューブ、動画を使用した展示会や音楽会が行われている／若い人の掘り起し／将来事業　・現代アート展　・若い人対象のアンデパンダン展／商店街来い！！／1 月にまちなかぶらりミュゼ①商店にアートを飾る、アートで人と地域をつなぐ　②マップ等によりイベント化する／外への発信、広報の工夫／生活文化の発信、芸術文化の発信等インターネットのサービス／個の参加による事業展開を行いプロを育成する事業／日常的に人が集う事業／空白が（Open な）新しい活動に／稼働率の高い施設の活用

3班

【つどう】外から見えるようなギャラリー／展示室、芸術、美術／市民がホールに関心をもつ企画を長期的に立案する／現在あるイベントを利用する／映画祭をやりたい／劇場の原点であるギリシャ、シェイクスピアの解説講座／にぎわい　市民文化祭、市民の発表会／演者の来場のみでない誰でも足が向く施設と企画／ティータイム、アフタヌーンタイム、イブニングタイムコンサートは様々な人が楽しめてよいです！／出会う、つたえる、施設の一角にコミュニティカフェ、地産地消カフェ、小田原ならではのひとやすみ所をつくる／子どもが遊びながら創造できるような場所／市民が使いやすい練習室、スタジオ／貸スタジオを市民が利用できる。例えばバンドの練習、ダンスの練習／若手アーティストが常に集っているコーナー（オープンスペースが望ましい）

【つくる】小田原市と協同して NPO 参加する／ホールで今何をやっているか／えっさホイの練習ができる／市民参加　小ホール機能の充実／誰でも使える舞台でほしい　高齢者・障がい者／市民が広く参加できるようなイベント／市民サークルの趣味の作品展ができる／今市民会館にある「市民活動サポートセンター」を入れる／市民が主体的に考え利用できる／ひろげる、市民参加、市民ホールサポーター、ホールだより、企画

【そだてる】子ども達を巻き込める企画／つたえる　伝統芸能大会（地域の、小田原の、日本の）異世代間交流もかねて／育てる　オペラやミュージカルのワークショップ　①子ども向け　②異世代間交流型／伝統芸能の定期的継承会（子ども対象）／育てる　親子でたのしめる舞台／地域市民の文化に関する意識向上／・モーニングコンサート　小田原や近隣の若手アーティストの発表の場でチケットを安く！　東京都文化会館／育てる　プロの演奏等をとにかく本物の鑑賞方法をさせる、授業の一環として／東京・横浜へ行くよりも割安感の演奏会／POPS 系のコンテスト。ミュージックストリートの参加者で／無料の音楽教室／小田原音楽フェスティバル／小田原の地区の芸能、ワークショップ　・相模人形芝居普及　・北條太鼓の部／育てる　コンテスト、新人音楽家→入賞者にモーニングコンサートなどに協力してもらう／若いアーティストを集めたデザインフェスタ的なもの／音楽研究施設　子ども自由研究　学ぶ空間／昼間のコンサート　子どもと親とのふれあいコンサート

4班

【まず名前を考える！キャッチを考える！】名前は"小田原"という文字は入れたい／「おだわら夢ホール」
ネーミング、これは重要！「市民ホール」ではなくて・・・。「文化創造センター」とか？（一例）新たなネーミング／ホール仮称「おだわらウメ子ホール」or「おだわらウメ子館」／おだわら市民ホール「光未来」

【課題】市の広報不足！議論があること自体興味がない人には知られていない／未来を考えて・・・とはいうものの、今の時代 10 年後のことは誰にも分からない・・・？ならばスピードアップ！全体のスケジュールを 8 掛で振興せよ！アート＆カルチャーなう！／「文化創造センター」（仮）はひとつの名称。何か新たな名称をどんどん出しましょう！またキャッチフレーズも。ネーミングは重要！人間は言葉で作られる、出来ている。／運営組織はボランティアでは難しい。時間、お金、専門性／もちろん予算も重要だが、それに関わる人間の持つサムシングは大切。→情報、企画、デザインパワーetc etc・・・。受信する側だけでなく受け取る側も。

【そだてる】市民ミュージカル、指導者はプロで。　・今からすこしずつ準備、子どもを育てる意味で／キャッチは「人づくり」／運営チームの人材（市民）を育てるアートマネジメント講座。やる気のある市民をプロに！／運営チームによるプロデュース公演の充実。文連の文化祭（団体の発表会）→市民の文化祭（プロデュース公演）／運営チームによる文化の5年、10年計画を育てる。ホールオープンのイベントは今から準備すればいろいろできる。／観客を育てる　演劇、音楽、アートそれぞれの見方、魅力を勉強する講座、観客のレベルが高いと企画のレベルも高くなる／子どもがのびのびと"いたずら"出来る場所　描く、切る、貼る・・・／子どもにもマナーを育ててほしい／マナーを教えつつ敷居が高くないことも教えるような企画（鑑賞者の育成）ホールは楽しいところだと分かってもらう／子どものためのワークショップアート／子ども（親子）のための企画　・音楽　・劇など／一般に「文化」と認識されにくいものを扱ってほしい。よさこい（えっさホイ）・メディア・コンテンポラリーダンス　他にもあるはず／花火、アートです！／「千人太鼓」（プロ・アマ・市民三位一体になって）

【つくる】大人の調理実習ー小田原の食を利用した／有名アーティストのコンサート／TV の公開番組、収録。昔はいろいろありました／NHK「お母さんといっしょ」小田原で／小田原出身のプロアーティストのコンサート。ガラ公演とか！／映画会、ロードショーに係らないが良い映画

【たのしむ】楽しむだけでなく楽しませるエンタテイン！／アート・アーティスト美術評論家の公演会・ギャラリートーク

【出会う】FUSION！　CROSSOVER　異なるフィールドのアイテムをチャンプルさせて新たなコンテンツを作り出す混ぜる！コラボ！／音楽と美術の融合・コラボ／ジャンルのちがう分野の交流　太鼓とダンス等バレエ／憩いの広場／ハロウィーンパーティー、クリスマスパーティー　国際交流ラウンジでは身内だけで会場キャパが／カフェ・レストランつくれ／アクセスのこと、例えば駅から会場までのアクセスにおいてどんなスポットがほしいのか？　カフェ、レストラン etc・・・。何かワクワク感とか・・・。

【ひろげる】この動きの全体を広く市民にプロモしていくべき　最初のプロモ！／新しい企画、文化祭など
文化活動団体の連携をより強める／ホール　古稀亭　清閑亭　文学館　老欅荘　松永記念館　ホールと名建築をコラボした企画／これからは人に投資する時代／運営が（市民の中からプロを大切、育てる）ホールを動かす為に／会場のレイアウト・・・。設計のコンセプト・・・。ホール展示スペース以外の場所は、どんなものがほしいか？エントランス、カフェ、ホワイエ、情報スポット、トイレ、中庭、etc etc／予算つけて！／これを行うにはお金、予算を！

資料 2-3

市民ホール基本計画市民検討委員会

WS 号外 ワークショップかわら版

《作成・発行》
小田原市
文化部文化政策課
＆ 空間創造研究所
平成 23 年 8 月 21 日

気温も低く、過ごしやすい一日となった 7 月 31 日、市民会館では、「市民会館を検証するワークショップ」が行われました。

小田原市市民ホール基本計画市民検討委員会の皆さんを中心に、26 名、（女性 10 名、男性 16 名）、市民会館のスタッフ 4 名、市の事務局スタッフ 10 名、その他の事務局スタッフ 3 名、市民ホール基本計画専門委員会から市来委員、合計 44 名が参加しました。

参加者は 2 グループに分かれ、新しい市民ホールに取り入れたいところ、直したいところなどをメモしながら市民会館の中を詳しく見てまわりました。普段、入れないような市民会館の裏側もみられ、新たな発見も多々あったのではないでしょうか？

小田原市民会館とは？？

【施設概要】

開館日：昭和 37 年 7 月 28 日／延床面積 8,714 ㎡／大ホール 1,095 席・小ホール 300 席／展示室／食堂／楽屋／会議室など

小田原市民会館は今から 49 年前に開館しました。小田原市の皆さんと共に長い間活躍してきた市民会館ですが、老朽化は避けられず、現在、市では新たな芸術文化拠点として、新しいホールの建設準備を進めています。

市民会館のいいところ、なおしたいところを探そう！

2 つのグループにわかれ、市民会館バックステージツアーをスタート。参加者の皆さんには赤・青・黄色のふせんをお渡しし、市民会館を回りながら「良くない部分は“赤”」、「良い部分は“青”」、「その他、注意、疑問点などは“黄”」に記入していただきました。

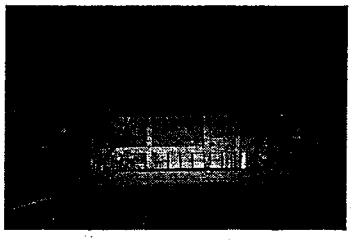
①まずはロビーからスタートです。チケット売場や自動販売機などがあります。
入口の壁面は老朽化により壁画の色が落ちてしまっており、なんとかしたいとの声が多数あがりました。
また、入って右手側の身体障がい者用のトイレについても改善点が多く出されました。

②続いて大ホールへ。客席から舞台を見たり、舞台に上がって客席の見え方を確認しました。
舞台の網元や回り盆の下も確認！公演をみているだけではわからない、舞台の仕組みを色々と見せていただきました。また、舞台の反響板が上がっている状態とセッティングされている状態も比較しました。

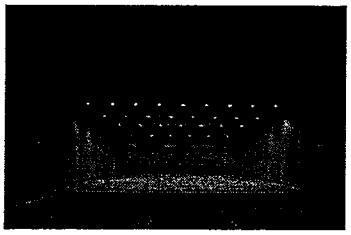
▲フットライト

▲舞台網元

▲回り盆の下へ



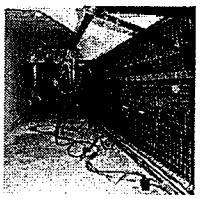
▲音響反射板無し



▲音響反射板有り

③続いて、楽屋、調光室、投影室、映写室、音響調整室、シーリングスポット室、搬入口、地階機械室、展示室、小ホールと見て回りました。
大・小ホールの音響、展示室の照明、ホールへの搬入のしづらさ、お手洗いについてなど、自らの市民会館ご利用経験に基づいたご意見が多く出されました。

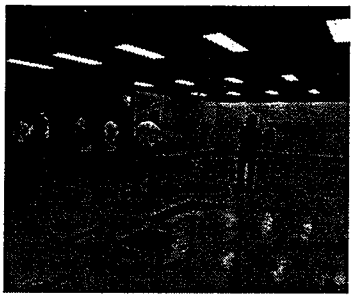
◀小ホール



▲シーリングスポット室

▲大ホール控え室

▲音響調整室



▲展示室

▲搬入口

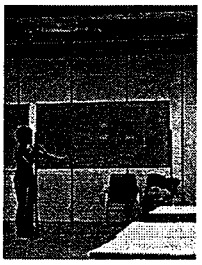
少々駆け足ではありましたが、約 2 時間かけて、市民会館のほとんどを見て回りました。
今回見て回った場所は、バックステージツアーなどでないとゆっくり見る機会がなく、普段使っている市民会館でもそれぞれに新しい発見があったのではないでしょうか？
また、市民会館の見学だけではなく、昨年度の耐震補強工事の概要の説明なども交え、非常に盛りだくさんのバックステージツアーとなりました。

⑤バックステージツアー後、ツアー中に皆さんに記入していただいたふせんを利用してのワーキングを行いました。ツアー班の 1 班、2 班に分かれ、各階図面の該当箇所に気付いたことや考えを張り、グループごとに話し合いを行いました。
1 班からは「ソフト」と「ハード」にわけ、ソフト面では市民ボランティアの導入の提案、ハード面では色が落ちてしまった壁画の修復などの案が提示されました。
2 班では客席数についての議論など、将来の市民ホールを見据えての議論がされていました。
また、この市民会館検証ワークショップの発案者である市来委員からは、今日検証したことで終りにするのでなく、今後 5 年間は利用していくこの市民会館を、どうしたら皆が使い心地よくできるのか、今日の経験を活かして皆で考えていこうというお話がありました。

ワークシートの詳細内容は裏面へ！！

▲ワーキングの様子

▲1 班発表



▲2 班発表

☆★☆ワークシートのふせん内容をご紹介します☆★☆

良くない部分は“赤”
良い部分は“青”
その他、注意、疑問点などは“黄”

		1班	2班
1階（ロビー）	赤	ロビー（ホワイエ）は大きくスペースを。ホワイエはその催しのための展示等ができるように、ピクチャーレールをつける／当日のチケット販売所窓口が時代にはとをなわない。昔は左手に売店があり、パン・サンドイッチなど売られていた／ロビーに物をはるなど、きびしいルールがある。ドア（入り口）にセロテープでポスターなどをはる事が出来なかった	本館ロビー、クマのハクセイを撤去！アート（主体）作品を設置してほしい。回りを明るく塗りかえる。／エントランス周り、雰囲気を明るくしたい。
	黄	クマは資料館へ移す／“ロビー”時代を考えるとコメント出来ません！ロビーは広く、社交サロン的な目的を持つべき。	チケット売場！！こんなもんあったんか！！びっくり！！
2階（展示室・食堂・特別室）	赤	展示室の穴アキボードはやめてほしい。高さは3m以上（できたら4mか）大きさは350平米は必要ですね	折角だからスポット様のレールをつけて、照明をあてられるように／展示室、展示壁があまりにプアー。絵画の背景としては？／展示ホール（2F）穴あきボードにフックが入らないところあり。／各展示作品が死んでいる。
	青	2Fロビー右入り口、昔の焼きレンガ風。何かに残したいものですね。何でも新た／コップがすてき	
	黄	1階の空間に展示野外空間を作ったらどうか	
3階（小ホール）	赤	小ホール楽屋がない。ホールとしての広さ、客席、すべてNG。／小ホールは現状では音響的に使用不能です。／3F 小ホール、ステージが高すぎる、小さい（ステージ）もっと多目的に使えるように真四角がよいのでは。”	小ホール、音楽ではほとんど使えないと思う。展示もなかなか大変だと思います。／小ホール、壁棒に針をうちつけて絵をかざっている／小ホール、イスの出し入れがたいへん！／グレーの壁を塗りかえて明るくして／舞台が高すぎてパイプイスもよろしくない／小ホール、設計のコンセプトが分からない／客席から見える木のぬくもりは良いが、イスの出し入れ大変。
	青	“映画に関する設備があるのは良い。市のどこかにのこしてほしい。／「小ホール」小編成の四重奏などに良い広さだが、吸音されすぎて良い音は楽しめない。すこし手直しすれば使えます。／小ホールは展示として使うときに奥に会議室がついていることはうれしいことです。展示には会議室は必要です。	
	黄	イス、痛い、うん。／想像するのは難しい。／展示室は台とかを含めて大きなものが搬入されるのに、車が直接入れるようにできることが望ましい！	大阪の芸創みたいに客席使ってみては？
4階（市民活動サポートセンターなど）	青		無料で使えて助かっています
	黄	サポートセンターのような活動の場をどのようにするのですか！	
5階・6階（会議室）	黄	小田原城のみえる空間づくりをどのようにとりいれるのですかね／会議（必要に応じて）ピクチャーレールをつけたら！	
大ホール楽屋・控え室など	赤	当初の設計理念は劇場であり、良質の音響を目指したとは思えない。音というと音楽と思うことが良くない。オペラが上演できるホールが理想だが／地下楽屋に行くところに雨もりで水たまりができる／階段が高い。足の悪い人のために手を握れるように／出待ちの控え室の階段があぶない／昔のオーケストラピットのように、実際使用できないなら無駄なものは決して作らないで欲しい（客席の前列）／大ホールの舞台の床の張り替え。反響板の再考を求めたい リフトが小さい／舞台を歩くと足音がある。／舞台袖がせまい。幕をおとした状態は、本日見学した広さよりはるかにせまく、移動しずらい／大ホール入り口のロビーは色彩上最悪に近い。良い所に来たなと思えない。／盆舞台の段差がすごい。新しいホールには盆はいらない！ 回り舞台は舞台に段差がつき危険／11t車トラックから道具を降ろすのに1時間、2時間かかる。（道具をおろすのみ）エレベーターで搬入／搬入は大切。中途半端は×。 階段が急でGD中の移動などあぶない。客席は千鳥配置がベスト／自動販売機はホワイエの中に。催しのための売り場を／音響室は全体が見渡せる場所に！／調光室、音響室は舞台を正面にみる位置に。できれば窓が開くといい。／暗い、入ってきて楽しくない／後5年は使用するので、ロビーの絵はどういかす？（高校のデザイン科にたのむ）／トイレのスペアのトイレットペーパーを針金につるのは？40年前から変わってません。／2F客席からのながめはかなり遠い。もっと舞台、近くに感じられるものにしたい。客席数も2Fはもう少し少なくて良いと思う。／脇の階段の設計は広さの為か急傾斜で危険／トイレはキレイがいい。だって気持ちいいもん。／2階の楽屋にモニターテレビがない。舞台から遠い。／スポットの台数が少ない（シーリングも）／大ホール、全体の階段が急すぎる／スタッフの働く場所。／映写室はいらないと思います。かわりにピンルームを大きくひとへやに。	トイレ、扉開けても便器が見えないこと／控え室、楽屋はトイレ、風呂等（シャワー）設けるべきだ／床、壁、照明を明るく。便器、出来れば新しくして下さい。／保管、楽器／道具を置く場所／上下舞台袖が狭い／舞台、床板を止める釘が浮いていて引っ掛かる気がする／搬入は道路から直接舞台迄入るようにつくるべき。又搬入路も大型トラックが入れるような中に確保／大ホール入口左側の空いている空間は、きれいなけいたい用のかべでかこってみたら、みんな使うのでは？／大ホールの入り口は、顔。かべ、柱を安くリニューアルすべき。それだけでもイメージがずいぶん変わるはず。／ホワイエ 身障者トイレのサインが見にくい／主催者事務室の絵、大きい壁面に移設（後で空調をつけたので絵が隠れてしまっている）／・ドアから音がもれる、・段差につまずく、・時計いらない／大ホールロビー入口壁面アート無惨、作り直してほしい。／ホワイエの壁、アートだと思っていなかった。普通に塗りかえて絵を飾ってもいい／身障者トイレ アコーディオンの取手がない。／チケット売場が使用されていない。不要か？／身障者トイレの看板、扉の取手必要／大ホール 1階の主催者事務室、左側の空いている空間を、荷物あずかり、コート、かさ、（託児室）置き場として使う。／・自動空調ができない。・席がせまい／介護用のトイレがない（使用しづらい）使い勝手が悪い／楽屋、せまい、・階段、段差をなくしてほしい、・時計の位置を直す。／大ホール 禁煙・時計、目立たない方が良い／“エコノミー症候群・消音、温度調整、客席の快適さ”／広すぎるんですよ、きっと。ねー。／空間造り ・照明 ・雑音 ・空調／舞台の時計はとりはずしできるようにする。／大ホールドアが1枚で防音ができない／ピアノ！！もったいなーい！！ピアノがかわいそう／まわり舞台があるのに使われない、使えない！こんなに良い舞台だったのに、粗末な扱い！！もったいない！！←だって意識が足りないんだもん／身障者用のお手洗いの看板を車いすから見えるところに移動すべき。低く、わかりやすく。／2Fロビー壁面アート無惨、アートで作り直してほしい。／2F女子トイレ、修繕必要／喫煙室のソファーのこわれた汚い物は捨てて、広くした方がよい。／温度調整が出来ない、トイレ汚いドアがない、階段が歩きづらい／手すりが低い、2F席、トイレ／“注：Gは現状で5～6年使用する上で安全上改善様子項目。G－1※1大ホール2F、男子トイレ入り口足下段差大、健常者でも危険、要検討。※2大ホール入り口（客席への）足下同じバリアフリー化再検討要、但し、これは音を遮断するため難しい場合は足下注意の「注意札」等でも検討要。／ほとんど客席から花道七三が見えない 2シーリングがない、舞台奥を使うという事を考えていたなかった為
	青	客席から舞台は見やすい。／大ホール舞台上の音響特性はデットであり、アコースティックな音は望めない。オケの全面の楽器は良く鳴るが、後ろの楽器の音とのバランスがとれないだろう。／舞台の広さに驚きました。特に奥行があり、ミュージカルなんかセットしやすいかも／生音から音をつくっていくことが大切なことがわかりました。それにマイク等の音響ということですね。／トイレのエチケットBOXが新しくなっていた。	ボイラー室はおじさん達が支えてくれてる！！ありがとうございます。／模械室初めてみました。古の模械を大切に使っているのがわかりました。／全体的に技術の方の努力で整理されていましたが、塗装をして清潔感を出して下さい。／見やすい、プロセの高さは演劇には適す。／可動式の花道を固定式、フットライト、継ぎ目、木の材質など、箱根細工／オーケストラボックスの利用、身障の方の出入り口など／ある程の用途によっては、使い勝手がよい。舞踊、一幕物歌舞伎は不要／シネマスクリーン／“1962 ホールは49年前／耐震強化、入場券販売”／G－2 新ホール建設時に配慮すべき項目 ※1 チケット売り場の「位置」はホールへ来る人の動線を考えた「位置」に配置する※2身障用トイレ 現状全体面積あるも介護者の動きを考えたレイアウトになってない、介護者の意見を聞くこと要 ※3 ホール内「非常灯」は開演は消灯、非常時のみ点灯に変更すべし、新しい劇場実施ずみあり”／車イススペース（客席内の）は、高さ、広さ、含めすばらしいです。／2Fのハイバック、1Fには使えないのか、楽なのに／職人技も大切にしたいですねー。何でも電動してのもねー。／“G－2 ※4 トイレ（各階共）人の流れ（動線）を考えた入口出口を考えた設計をすべし（短時間・多人数の利用を考えるべし） ※5 客席の横・縦の巾（寸法）は現「トーホウシネマ」レベルにあわすこと検討要。日本人の体格大になってきていること知るべし。”
	黄	ホワイエのカベの絵も市民ボランティアでぬるとか。トイレだけども、学校でもおやじの会がなおしてます。材料費だけでも行政がだせる？市民会館だから。／大ホール座席、せまい、かたい。車イス用、なぜ、はじに？／大ホールのロビー空間の広さは万一の時十分な広さだろうか 音楽と演劇双方が満足できるホールは実現可能か／楽屋のモニターは今はないが、ラインは通している、との事／ローディングスペース、舞台と同平面に／搬入口に 11tトラックを横にしてウイングを開けてつけられるプラットフォームを／PA や撮影用の台とか、位置の設置／1階のロビー（ホワイエ）は小田原という市がみえるもの。”市のデザイン”でしょうか？／2F、3F 等の壁面にアートを描く、うれしいですね。／次世代のホールは楽屋・控え室にも配慮が必要 文化サポーターのような方々の場所を	地下室、回転床、動力室せまい。／女性用トイレ、ドアを閉めると暗い。数も少ない、改修の必要性大きい／楽器を置く場所／ポーダーサスが一本のバトンになっている。間が一間なのは、あきらかに日本の定式物の為／回り舞台初めて見せてもらった。勿かないのがもったいない気がした／つりロープ、地上階／専用トイレがわかりずらい／ロビーとしての広さが足りない。／席数、多目的のための／客席の階段の高さを低く／出入口のドアの巾をもう少し広く／キャパが小さいほうが良い！！／スタッフの働く場所／楽屋にモニターがないと不便！！／このスペースにトイレは増やせないかG－3 現状も将来（新ホール時）にも配慮すべき項目 ※1 標示（表示）は目線を考えて見やすい位置を検討すべし。例：身障者用トイレ看板等／空調を2Fに合わせると1Fが寒い、不便ですね。
その他	赤	音楽の練習室を早めにつくってほしい。若者の支援のために／実際に使用する人が来ていないことはレッドカードです。／ステキな（茶房というか）おちつくところがほしい！／使用時間、退館時間について、ロうるさい。市民として使用と劇団としての使用の温度差がある。優遇されている時は、退館時についてあまり言ってこなかった。／すごい別世界に来たと思えるようなホールの建設を望む。	
	青	“50年の歴史が語ってますネ！TOILET、控室を拝見しての結論です。著名な人の公演はとても無理ですネ！「ホール全体の印象」ホールの現状を市民に広く知ってもらい、有形無形の協力をお願いするべき。／・1962年が募金あつめよう ・1965 それで改善 149年たっている。残りの5年間でおつかれさまでしたといいたい。ゾウの梅子さんのように。市民はお別れと感謝を！！すてきなおもい出をありがとう！”	
	黄	金のかからない「クリーニング」「つくろい」（ぼろいけどみがかれたガラス）、市民ボランティアで。／ここの建物をみると修理や変更がしにくい、基本をシンプルにして、時代による変化に対応しやすくした方が良い／全体として素材の統一感がほしい（石、木、ガラス・・・）／「新ホール」に思う。音楽ホールでなくとも、音響特性が良いホールでありたい。／小田原城とのからみ（関わり）をどのようにするか！／“・バリアフリーをどのように考えていくか。・足の悪い人のトイレ・路”／H28、新ホール完成までに、現存の市民会館をどのように使うのか？方向性（ex.①なるべくお金をかけずまったく手をつけない。②ある程度予算をつけてなおす）がわからないと市民も意見がいえない。	

☆★☆ひとことアンケートから一部をご紹介します☆★☆

どうも同じ事のくりかえしになりがちです。議論が「積み重ねられ」て進化できる、会議のすすめかたが必要です。このような会議の内容を、もっと分かりやすくHPなどで発表したら良いかと思います。／新しいホールの準備は出来るだけオープンに。ハードに関しては、出来るだけコストを下げて、予算をソフトに回せるように。／今の市民会館で何をやっているのかわからないので行けない。情報紙を作って市のこうほうと一緒にくばる。ホワイエの絵は調査したほうがいい。／すぐではなくても、今日検証したことが、実現できますように！！／今日集まったメンバーにも声をかけ市民会館サポーターのようなボランティアグループをつくれたらと思いました。ありがとうと感謝を！！

☆★☆次回の市民検討委員会は☆★☆

◎第2回：8月21日（日曜日）午前10時から12時まで
小田原市役所7階大会議室
「市民ホールに期待される事業・活動を考える！」

資料 2-4

市民ホール基本計画市民検討委員会

WS 号外 ワークショップかわら版

《作成・発行》
小田原市
文化部文化政策課
＆ 空間創造研究所
平成 23 年 8 月 26 日

歩いているだけで汗がにじんでくる真夏日の8月8日、埼玉県にある『富士見市民文化会館キラリ☆ふじみ』のホール視察を行いました。平日だったにも関わらず、市民検討委員会からは 15 人もの方が参加し、市の職員 10 名、その他事務局スタッフ2名、市民ホール基本計画策定専門委員会から勝又委員の合計 28 名が見学を行いました。キラリ☆ふじみ事業担当リーダーの方、施設設計から劇場技術に関わられ、開館年に運営アドバイザーを務めた近江哲朗さんに施設の説明をしていただき、設計時から現在の様子まで、施設のみならず事業や運営面まで細かくお伺いすることができました。

市民検討委員会の皆さんもホールを詳しく見て歩き、これからの市民ホール基本計画市民検討委員会で役立つ発見がたくさんあったのではないでしょうか？

富士見市民文化会館　キラリ☆ふじみとは？？

開館日：平成 14 年 11 月 1 日／延床面積 7,358 ㎡／メインホール 802 席（楽屋 5 室）・マルチホール 255 席（楽屋 4 室）／展示室／アトリエ／会議室／水の広場など

【キラリ☆ふじみと市民参加】

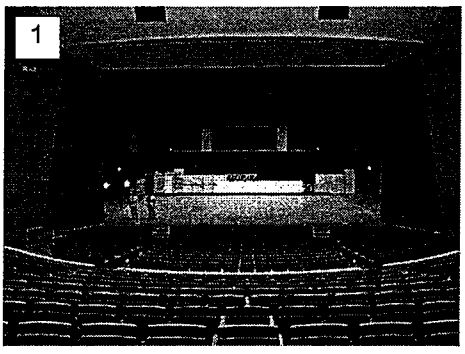
平成 9 年に建設検討委員会が発足。平成 12 年の運営検討委員会には公募により市民約 30 名が参加しました。他、開館記念事業実行委員会への市民の参加（公募）や施設愛称募集、キラリ☆ふじみサポーターを募集するなど、市民参画の手法を多く取り入れています。

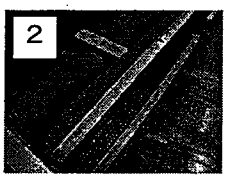
キラリ☆ふじみを見学しよう！！

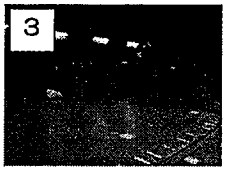
まず、メインホールに集まり施設の概要や見学のポイントなどをお伺いし、その後、実際にホールを見て回りました。

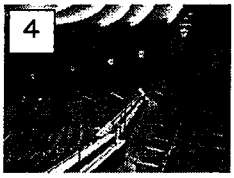
☆★☆メインホール☆★☆

舞台や 2 階客席などからの見え方を確認しました。メインホールの冷暖房用吹き出し口は客席背面で背もたれと一体化されており、効率的に空調を整えることができるようになっています。客席は放射線状になっており、どの客席からも舞台が観やすい工夫がしてあります。希望者は舞台すのこの上にも昇り、バトンなどがどのように吊られているのかも確認しました。









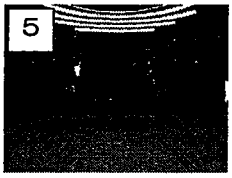


写真 1：客席中央後方から舞台を見た様子。／写真 2：客席いす後ろの空調吹き出し口。
写真 3：舞台上手袖。平台や箱馬などの舞台設営に必要な道具が置いてあります。
写真 4：客席 2 階席／写真 5：舞台から客席を見た様子。／写真 6：舞台すのこの上。

☆★☆マルチホール☆★☆

小ホールは平土間形式になっており、客席は電動式で後方の格納庫から出てきます。舞台の一部は手動で 20cm刻みで高さを調節することができます。その機能を使って客席を広げたり、客席と舞台に高さの違いを出すなど、利用者の工夫により多様な空間構成が可能となっています。

また、小ホール入口側の側壁は全面開放できるようになっており、小ホールとロビー、水の広場と屋外へ連続する一体の空間として利用が可能です。

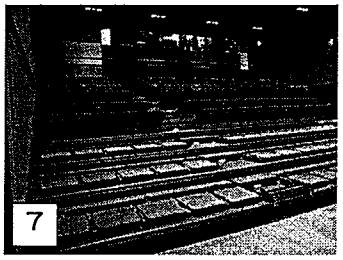
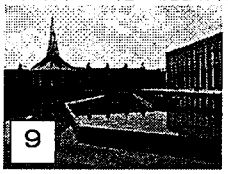
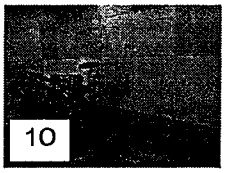


写真 7：可動収納客席稼働中の様子。客席段差が出た後にいすがセットされます。
写真 8：舞台側高さ可変中の様子。段差の間のすきま部分は専用の板で隠すことができます。

☆★☆その他の施設☆★☆





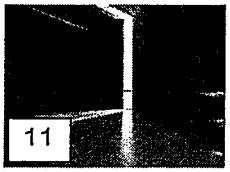


写真 9：水の広場
写真 10、11：スタジオ
写真 12：楽屋
写真 13：展示室

☆★☆Q＆A☆★☆　～皆さんからの質問とお答えをご紹介します～

Q：自主事業と貸し館事業の割合はどのくらいですか？

A：比率にすると自主事業 4 割・貸し館事業 6 割程度になると思う。主催事業が年間で大小あわせて 50 本程度あり、自主事業と貸し館利用の割合をどうするかも難しい問題である。市民利用のことも考えながら自主事業のプログラムを組んでいっている。

Q：芸術監督と館長はどうやって決めましたか？また、館の職員に市の職員はいますか？

A：芸術監督は公募で集まった 26 人の中から決定した。館長は以前は市の職員だったが、平成 22 年度からは、民間から公立ホールの運営や舞台芸術に関する経験が豊富な人物を登用している。

Q：芸術監督はどのようなことを行っているのですか？

A：館長と協力しながら年間のプログラムを作っている。ただ単純に決めるのではなく、周辺の地域性なども考慮の上、キラリ☆ふじみならではのプログラムを考えている。

Q：キラリ☆ふじみにはカフェやレストランがありませんが、あったほうがいいと思いますか？

A：あったほうが良いと思うが、カフェやレストランが赤字になっているホールもあると聞く。現状を考えるとそこまで手がまわらないかと思う。ただし、自主事業の際には近隣の和菓子屋さんやコンビニが臨時で出店している。

Q：これから、市民ホールをつくる上で、気をつけることはありますか？

A：「誰がどういうことをしたいのか」をしっかりと考えること。キラリ☆ふじみの場合は貸館も大事だが、自主事業を行っていくことも大事であり、そのためのハードが求められた。また、ハードだけではなく、意欲をもって働くスタッフを揃えることも重要である。ハードにおいては、自分たちが今欲しいものを求めるだけでは、視野が狭くなってしまい上手くいかないと思う。自分達が利用することだけを考えるのではなく先を見越し、次世代そしてまた次の世代まで喜んで利用できる施設をつくることが大切。

☆★☆ひとことアンケートから一部をご紹介します☆★☆

今日はとても有意義な一日でした。家を建てる時、何度もモデルハウスに足を運びましたが、実際住んでいる人に話しを聞くのが一番だと思いました。実際使ってみてこその参考と思います。／水の広場が魅力のホールだった。小田原でホールを作るなら、劇の休憩や終った時、窓から桜が見えたりしたら最高だと思った。／色々な工夫がされ、色々な使い方ができるようになっているが、使いこなせるようなグループ又はアドバイザーが必要だと感じた。／スタジオの設置がよいと思った。大きな収益の行事でなくとも常にキラリには人が来ていると感じる。／レストランは、なくても良いと思う。／設備等だけでなく、使っている様子や舞台うらなど見学できると良いと思いました。また他市のボランティアや市民団体などと交流できると良いのでは。

先進施設の事業例

資料3

	施設名	事業名	内容
育成普及 そだてる	世田谷パブリックシアター（東京都世田谷区）	劇場ツアー2010『醜男（ぶおとこ）』	公演に合わせてバックステージツアーを開催。
		「笑える話／笑えない話」	公演に合わせてドイツ演劇研究者を招いての上演作品レクチャー。
		『学習発表会に向けての活動報告会』	区内の小中学校へ出向いて演劇ワークショップを行う。
		夏休み『中高生のための演劇ワークショップ「トライアル」』	中高生のための演劇ワークショップ。
		夏休み『中高生のための演劇ワークショップ「トラム」』《音と照明の演劇ワークショップ》	全4回。中高生のための音・照明のワークショップ。
		夏休み『先生のための演劇ワークショップ』	全2回または全1回。小中高などの教師を対象としたワークショップ。
		土曜劇場プレイ・パーク《7月～9月》「夏・劇場で出会う、熱い体験！」	舞台芸術の面白さを体感する様々なプログラムを開催。
		『公共劇場の運営』パブリックシアターのためのアーツマネジメント講座2010	施設のプロデューサー3名が、パブリックシアターでの舞台芸術作品創造事例に基づいて、「公共劇場」で作品をプロデュースすることの意義、これからのプロデューサーに求められる視点を考える。
		舞台技術公開講座～舞台美術の実際	舞台装置の模型をもとにしたペインティング作業など、舞台美術が造られていく過程を目の前で観られる講座。
	座・高円寺（東京都杉並区）	旅とあいつとお姫さま	杉並区の公立小学校4年生全員を劇場に招いて上演。
		みんなの作業場	毎週日曜日午前中に開催する、子どものためのワークショップ。
		絵本の旅＠カフェ	座・高円寺内のカフェで毎週土曜日午前中に開催する、子どもから大人まで楽しめる絵本の会。
		劇場創造アカデミー	劇場関連分野の次代を担う人材の育成を目的とする。演技・舞台演出・劇場環境の3つのコースがある。
	逗子文化プラザホール（神奈川県逗子市）	ティータイム・コンサート	平日14時からの室内楽コンサート。今後活躍していくだろう若手を多く起用している。
		アフタヌーン・コンサート	土日祝日14時からの室内楽コンサート。今後活躍していくだろう若手を多く起用している。
		BEBE@Plaza	0歳から入場できる室内楽コンサート。
	横浜市民ギャラリーあざみ野（神奈川県横浜市）	子どものためのプログラム	アトリエにて定期的に開催。幼児から小学生までを対象とした造形ワークショップを開催。プログラムは多岐に渡る。
	三鷹市芸術文化センター（東京都三鷹市）	小学生向け活弁映画上映 ぼくも、わたしも、活弁で映画を見るのだ！ その5 みたかジュニア・オーケストラの生演奏もあるよ！	活弁の第一人者、澤登翠とみたかジュニア・オーケストラ（MJO）の子供たちの共演。
	神奈川県立音楽堂（神奈川県横浜市）	大野和士のオペラ・レクチャーコンサート	オペラのレクチャーを行いながらのコンサート
	鎌倉芸術館（神奈川県鎌倉市）	かまくらプレミアム・オーケストラ・シリーズVol.10「小澤征爾音楽塾 特別演奏会2009」	歌い手、指揮者、オーケストラすべて小澤征爾氏が才能を見初めた音楽塾の生徒がステージに立つ。
	富士見市民文化会館キラリ☆ふじみ（埼玉県富士見市）	ふらっとシリーズ	無料で楽しめる敷居の高くない企画。プログラムはミニコンサート、体験イベント、公開稽古など。
	横浜みなとみらいホール（横浜市）	シリーズ楽器解体全書 ピアノ解体工房	調律師によるピアノ解体・説明、ハンマーアクション模型作製。
	北九州芸術劇場（福岡県北九州市）	劇場バックステージツアー	地元の演劇人の案内による劇場裏の見学、スタッフによる役割や機材の解説、機材操作の体験など。
		教育普及活動「ドラマ・ワークショップ」	平成21年度から市内小学校を対象に公募実施することを目標に、3校のモデル校にて試験的に実施。
		チャレンジ！えんげき	小学校3年生から6年生の子どもたちを対象とした、夏休みに行われる6日間のワークショップ。
		劇場塾	第一線の講師を迎えて、俳優講座や戯曲講座などを実施。
		月1ダンス部	毎月1回コンテンポラリーダンスの第一線で活躍している振付家・ダンサー・批評家を招き、ダンスを知るプログラムを実
		高校生のための演劇塾	北九州の高文連と協力し、高校演劇部で活動している生徒を対象に演劇づくりの基礎を知ってもらう夏期講習。
		表現教育推進事業	演劇の俳優養成で用いられるエクササイズなどを活用し、「想像力」をキーワードに活動。
	長久手町文化の家（愛知県長久手町）	ガレリアコンサート	アトリウムでの無料コンサート。
		2日間で朗読劇の舞台に立っちゃうワークショップ！	舞台出演者とドラマリーディングで共演。
	ギャラクシティ西新井文化ホール（東京都足立区）	アウトリーチ（芸術普及）事業	高齢者施設や小学校、生物園などでのアウトリーチコンサート。
	山口情報芸術センター（山口県山口市）	ギャラリーツアー 中谷芙二子＋高谷史郎 新作インスタレーション「CLOUD FOREST」	週末開催、専門のスタッフとともに作品を体験し、鑑賞のポイントを発見し、ディスカッションするギャラリーツアー。
	札幌コンサートホールkitara（北海道札幌市）	夏休み オルガン・アドベンチャー	4歳から入場可能の夏休みイベント。 オルガンの中や演奏者の様子を大スクリーンに映し出しながらパイプオルガンについて説明。
	新潟市民芸術文化会館りゅーとぴあ（新潟県新潟市）	新潟市ジュニア音楽教室	ジュニアオーケストラ教室、ジュニア合唱団、ジュニア邦楽教室の3つの音楽教室。
		演劇スタジオ キッズ・コースAPRICOT	小学校4年生から高校3年生まで約60名が在籍。ワークショップを通して専門講師の指導を受け年2回の公演を目指す
	魚沼市小出郷文化会館（新潟県魚沼市）	キッズ・ミュージカル・プロジェクト	小学生から高校生まで幅広く参加者を募集し、オーディションに残った数十名によるミュージカル公演の実施。 3回セット券を購入すると、各公演の一か月前に「見どころガイド」を進呈。33％割引。
	滋賀県立芸術劇場びわ湖ホール（滋賀県大津市）	子どものための管弦楽教室	オーケストラの魅力を親子で楽しめるシリーズ。指揮者体験やオーケストラとうたってみよう！など。
		竹内正実 テルミン レクチャー	実演を交えながらテルミンの歴史や仕組みを解説。無料のロビーコンサートも行う。
		オペラ演出ワークショップ	演出家育成を目的に昭和音楽大学、ドイツ文化センターと共同開催。
	仙南芸術文化センターえずこホール（宮城県仙南地域広域行政事業組合）	えずこ裏方倶楽部	照明・音響・大道具・小道具・ステージマネジャーなどの舞台スタッフを育成するための舞台技術ワークショップ。
		～全館かえっこ～えずこと遊ぶ日	いらなくなったおもちゃの交換プログラム「かえっこ」をメインに、ゲーム、ワークショップ、バックステージツアーなど
		えずこプロ	アートプロデューサーを育成するためのワークショップ。
	静岡県コンベンションアーツセンター（静岡県）	グランシップ静岡能 能楽入門公演	観世流能楽師が、能楽の魅力を実演を交えながら解説。能のダイジェスト版も上演。
		音楽家と指導者のためのワークショップ	エデュケーション・プログラムの先進国であるイギリスから講師を招き、音楽創造ワークショップを開催。
質の高い催し たのしむ	横浜市民ギャラリーあざみ野	小学生のための音楽会	小学生のための本格的なクラシックコンサート。
	神奈川芸術劇場KAAT	金閣寺（作：三島由紀夫 演出：宮本亜門）	芸術監督の宮本亜門が演出。こけら落とし公演として上演。海外ツアーも有り。
	神奈川県立音楽堂	クラシックな休日を♪ in音楽堂	様々なオーケストラ等の公演を行うシリーズ。
	まつもと市民芸術館	サイトウ・キネン・フェスティバル松本	音楽祭の会場の一部としてオペラやクラシックコンサートを上演する。
	第一生命ホール（民間施設）	ロビーでよちよちコンサート	1～3歳の乳幼児と保護者向けのロビーで行う45分間のコンサート。
	滋賀県立芸術劇場びわ湖ホール（滋賀県）	びわ湖ホール オペラへの招待	びわ湖ホール専属の声楽家「びわ湖ホール声楽アンサンブル」が名作オペラを上演。
		ラ・フォル・ジュネびわ湖「熱狂の日」音楽祭2010	ショパンとモーツァルトをテーマとした、びわ湖ホール一帯で有料公演10公演程度、無料公演20公演程度の音楽
	彩の国さいたま芸術劇場（埼玉県）	彩の国ファミリーシアター音楽劇『ガラスの仮面～二人のヘレン～』	蜷川幸雄演出の音楽劇。全公演でバックステージツアーを開催。
	ミューザ川崎シンフォニーホール（神奈川県川崎市）	MUZAランチタイムコンサート MUZA de ナイトコンサート2010	ランチタイムは40分500円、ナイトは1時間1000円と短時間・低価格で楽しめるシリーズ。
市民参加 つくる	新潟市民芸術文化会館りゅーとぴあ（新潟県新潟市）	りゅーとぴあ能楽堂 シェイクスピアシリーズ	新潟で活躍する俳優を中心にシェイクスピア戯曲を能楽堂で展開。
	長久手町文化の家	長久手オペラ	地元の音楽家を中心に、身近で本格的なオペラを目指す。
		長久手町劇団 座★NAGAKUTE	長久手町文化の家を拠点に活動する町劇団。地域の演劇活動育成を目的とし、定期公演のほか高齢者向け公演
	魚沼市小出郷文化会館	キッズ・ミュージカル・プロジェクト	小学生から高校生まで参加者を募集し、「魚沼産☆夢みかり」を結成。ミュージカルを上演する。
地域特性の発信 つたえる	北九州芸術劇場	北九州ドラマ創作工房	拠点となる地域から"物語の種"を発見して、即興の劇遊びやシーン創りを通して作品を創り出していく。
		エンゲキで私イキイキ、地域イキイキ	1年目「広げる」、2年目「深める」、3年目「観せる」をテーマとした3年プログラム。ワークショップから成果発表作品上演ま
		シアターラボ	半年間限定の劇団を作り、公演を行う企画。
		北九州芸術劇場プロデュース「ハコブネ」	演出家が地域に住む、出演者は北九州を中心にオーディションで募集、北九州を舞台にした芝居。
		北九州芸術劇場プロデュース／市民参加企画	出演者を市民から募集、プロの音楽家らと共演。
	山口情報芸術センター	YCAM InterLab	アーティストが山口に滞在し、YCAMの専門スタッフとコラボレーションを行い、オリジナル作品を制作・公開。
	長久手町文化の家	室内楽の楽しみ	愛知県立芸術大学の学内オーディション選抜者の演奏会。
	兵庫県立芸術文化センター（兵庫県）	兵庫芸術文化センター管弦楽団	センター専属のオーケストラ。センターを拠点に公演を行う。他、小中学生対象の公演やアウトリーチ活動など。
	あさひサンライズホール	レジデンス事業	プロのアーティストが中長期的に滞在し、創りあげた作品を地元の顧客に提供。他、ワークショップなど。
		共同招聘・共同企画	複数の主催者で公演を共同招聘をし、経費の削減やマネージメントのノウハウを共有する。
交流促進 出会う	富士見市民文化会館きらり☆ふじみ	キラリンク☆カンパニー3団体が活動中。	キラリ☆ふじみを拠点に、創作活動や地域の人たちとのワークショップなどの活動を行う。
	可児市文化創造センター（岐阜県可児市）	オーケストラで踊ろう！	可児市民100人＋大垣市民100人＋可児交響楽団50名が出演。
		多文化共生つくって・つながる！プロジェクト	ワークショップを通して舞台を創り上演する。昨年は9カ国38名が参加。
		アーラ祭	クラウンショーやパフォーマンスグループ、芸人などを招いての祭り。
	神奈川県立音楽堂	神奈川県立音楽堂フェスティバル おかあさんコーラス	おかあさんコーラスの発表会。誰でも参加可能。開館以来50年続いている。
	彩の国さいたま芸術劇場	さいたまゴールド・シアター	55歳～80歳までの48名が所属。1年間俳優としての訓練を行い、上演する。
		さいたまネクスト・シアター	若手俳優の育成を目的に結成。若手俳優を中心としたプロダクションで、彩の国さいたま芸術劇場にて新作を発表。
	仙南芸術文化センターえずこホール	ホエールトーン・オペラ	1幕、3幕はえずこホールで、2幕と4幕は海の向こう、イギリスで制作・上演してきたオペラ制作国際プロジェクト。
		えずこシアター	1996年仙南圏域の住民劇団としてスタート。13～76歳までの幅広い年代の住民が参加し、ホールの支援の元活
	あさひサンライズホール（北海道士別市）	市民参加劇「体験版芝居で遊びましょ♪」シリーズ	出演者・スタッフともに公募で募集。オリジナル作品を制作・上演する。
		センセイノチカラ	市内小中学校の教職員等による舞台公演の制作事業。
にぎわい創出 にぎわう	まつもと市民芸術館	平成中村座 信州まつもと大歌舞伎	歌舞伎の上演に留まらず、まちを上げてお練りなどを開催。サポーターやエキストラとして市民参加有り。
	座・高円寺	高円寺びっくり大道芸	高円寺のまちをあげての大道芸フェスティバル。会場提供や、フェスティバルに関連したワークショップを行う。
		座の市	毎月第3土曜に開催。まちの飲食店が出店する。
	横浜市民ギャラリーあざみ野	子どものアトリエフレンズ 親子のフリーゾーン	親子に造形広場を解放。ねんどや紙などを自由に使うことができる。参加無料、予約不要。月3回程度の実施。
		あざみ野マルシェ＆あざみ野アートワゴン	アーティストや福祉施設などによるショップを毎月1日限定で開店。作り手と交流しながら野菜やアート作品を購入可
	逗子文化プラザホール	市民企画事業	市民から公募で企画を募集。選ばれた企画はホールの自主事業として上演する。
	長久手町文化の家	住民企画支援事業	住民が企画から当日運営まで行い、ホールスタッフが支援する。
利用促進 ひろげる	仙南芸術文化センターえずこホール	圏民企画劇場	基本理念である住民参加型文化創造施設の考え方を踏まえ圏民のアイディアを「圏民企画劇場」としてえずこホールがバックアップ
	日田市市民文化会館 パトリア日田	住民の利用に対する指導	住民の劇場利用に関して、劇場専属舞台監督が助言・指導する。
	博多座（福岡県福岡市）	市民檜舞台の月	12月一ヶ月間を市民檜舞台の月として貸出。
	金沢市民芸術村（石川県金沢市）	金沢市民芸術村	24時間施設を貸出。
	三原市芸術文化センターポポロ（三原市）	わたしのためのコンサート "Let'sスタインウェイ！！"	ステージ上でスタンウェイのグランドピアノを演奏できる（有料）
	長岡リリックホール（新潟県長岡市）	市民企画公募型事業	市民が企画した地域文化の振興に寄与する事業を財団の自主事業として開催。

■事業の基本方針・施設機能の整理

資料4

1 そだてる(育成普及)
～地域文化の足腰を強くする～

子どもたちの芸術文化への関心を高める事業
- ☆ 子どもたちが本物を鑑賞できる事業
- ☆ 子どもへの音楽・演技・美術などの体験・指導
- ☆ 未就学児対象の催し
- ☆ 小中学生劇場体験
- ☆ ジュニア・オーケストラ
- ☆ ジュニアコーラス
- ☆ ★伝統芸能の公演や継承活動(相模人形芝居下中座、民俗芸能、北条たいこ)
- ★ 子ども舞台教室
- ★ 学校における芸術系科目のホールでの実施
- ★ 子どもが気軽に立ち寄り、遊べる
- ★ 子ども対象ワークショップ(造形、色彩、伝統芸能、オペラ、ミュージカル)
- ★ 親子で楽しめる事業
- ★ 音楽研究施設(学ぶ空間)
- ★ 音楽教室(無料)

マナーを教えつつホールは楽しいところと分かるように

市民が芸術文化の魅力に触れるきっかけ体験事業
- ☆ ★ ワークショップ(多彩な分野)
- ☆ ★ 学校や病院などへのアウトリーチ
- ☆ アート体験プログラム
- ★ 伝統芸能体験

広く市民の芸術文化への関心を呼び覚ます事業
- ☆ 演奏家や演出家によるセミナー
- ☆ シンポジウム
- ☆ 一流講師によるセミナーやレクチャー
- ☆ プレトーク・ポストトーク
- ☆ ギャラリートーク
- ☆ キュレーターによる解説
- ☆ 芸術鑑賞などのスクールプログラム
- ☆ バックステージツアー
- ★ 市民の文化に関する意識向上に向けた事業
- ★ 劇場の原点であるギリシャ、シェイクスピアの解説講座
- ★ 観客を育てる

舞台芸術を支える職能を学び、目指すための事業
- ☆ アートマネジメント講座
- ☆ ★ 舞台技術講座
- ★ 人材の育成(文化活動を行う人・団体をコーディネートする人材、ファシリテーター)
- ★ プロ育成講座
- ★ コンテスト(デザインフェスタ、POPS、新人音楽家)
- ★ 市民の中からプロを育てる事業
- ★ 運営チームによるプロデュース公演

2 たのしむ(質の高い催し)
～創造性を刺激する～

優れた芸術文化を鑑賞する事業
- ☆ ★ 質の高い招へい事業(コンサート・歌舞伎 ・バレエ ・ミュージカル ・オペラ等)
- ☆ 美術作品などの鑑賞機会の提供
- ☆ プロデューサーやアドバイザーによる監修・制作の公演
- ☆ 他都市の公立文化施設などで制作される良質な催しの招へい
- ★ テント公演
- ★ 映画(映画祭、16mm、バリアフリー、ロードショーに掛からない良品)
- ★ アコースティックコンサート
- ★ バリアフリー
- ★ 全国規模の展覧会(写真、公募展、現代アート、アンデパンダン展など)
- ★ TV の公開番組、収録
- ★ 映像を活用した作品

小田原ゆかりの鑑賞事業
- ☆ ★小田原ゆかりのアーティスト・文化人による催し(地元演奏家、大藤信郎、川崎、居崎、首藤、北原白秋)
- ☆ ★伝統芸能の公演や継承活動(相模人形芝居下中座、民俗芸能)
- ★ ガンプラジオラマ風 ガンダムでの興しを
- ★ 小田原鉄道文化祭
- ★ 星空コンサート
- ★ 小田原ならではのコンサート(木の町、ビーチコンサート(御幸の浜)、南風(ホール))
- ★ 小田原ならではのシチュエーションでの映画上映(銅門、梅林、浜)

3 つくる(市民参加)
～創造の輪を拡げる～

市民自らが参加し、体験する舞台芸術創造事業
- ☆ 市民ミュージカル
- ☆ 市民オペラ(＋実現のためのワークショップ)
- ★ えっさホイの練習

市民が文化や芸術に触れるきっかけ事業
- ☆ 市民のための音楽フェスティバル
- ☆ 老若男女の参加者と観衆が楽しめる企画
- ☆ バックステージツアー
- ★ 市民主体の作品展、イベント
- ★ 小田原食材を活用した大人の調理実習

市民が文化や芸術の運営に参加・参画する事業
- ☆ ★ ホールサポーター・ギャラリーサポーター
- ☆ 事業サポーター
- ☆ ★ チラシ・会報作成支援
- ☆ 会場デコレーション
- ☆ 記録写真・ビデオの撮影
- ☆ ★ 市民による作品解説
- ☆ 市民運営委員会
- ☆ 市民企画公募制度
- ☆ ★ NPO 活動、市民・活動サポートセンター

文化や芸術を支える職能を備える市民を育てる事業
- ☆ レセプショニストの養成
- ☆ 市民企画事業
- ☆ アートマネジメント講座
- ☆ 舞台技術講座
- ☆ 企画立案養成講座
- ★ 市民の中からプロを育てる事業
- ★ 運営チームによるプロデュース公演

市民の意見を広く採り入れていくための事業
- ☆ 友の会づくり
- ☆ 優良事業補助制度
- ☆ アンケート・意見箱の設置
- ☆ 運営情報の公開

4 つたえる(地域特性の発信)
～小田原の魅力をつたえる～

小田原を題材にした事業
- ☆ 北原白秋など地元ゆかりの人物を題材とした事業
- ☆ 小田原ゆかりのアーティストによる催し
- ★ 江戸町文化 総合文化祭
- ★ 小田原食材を活用した大人の調理実習

地域の"宝"発見事業
- ☆ 体験ワークショップ
- ☆ 町の歴史聞き取りワークショップ
- ☆ 地域の物語やおはなし作りのワークショップ
- ☆ ★伝統芸能の公演や継承活動(相模人形芝居下中座、民俗芸能、こゆるぎ人形)
- ★ 失われた文化の再発掘

小田原の文化を蓄積し、発信する事業
- ☆ ★ホームページや情報誌、広報紙の発行
- ☆ 公演の記録保存・アーカイブづくり(図書館機能との連携、ふるさとの映像)
- ☆ ★ オリジナルCD・DVD 等の制作
- ☆ ホールグッズ
- ★ 市民活動のデータベース
- ★ 文化資料室
- ★ 生活文化の発信
- ★ ミュージアムショップ
- ★ 市民、学校職員のネタ集めの場所

小田原の特産を活かした地域ブランド発信・育成事業
- ☆ ★ レストラン・カフェでの食文化発信など(出会うコミュニティカフェ、地産地消カフェなど)
- ★ 小田原物産(小田原風鈴、ちょうちん、いもの、箱根細工 小田原彫り、小田原ブランドとしての芸術文化マーケット)

5 出会う(交流促進)
～共感のよろこび～

芸術文化による交流促進事業
- ☆ オペラやミュージカルなど総合芸術事業
- ☆ フェスティバルの開催

異分野交流事業
- ☆ 異なる分野で活動する文化団体のコラボレーション
- ☆ 多くの市民や複数の団体の参加を募れる催し
- ☆ 他分野でのワークショップ
- ★ 作家との交流
- ★ ジャンル横断のコラボレーション
- ★ アートと認識されにくいジャンル(花火、よさこい(えっさホイ) メディア コンテンポラリーダンス、千人太鼓)

人と人との交流事業
- ☆ アーティスト登録紹介制度
- ☆ 芸術家との人的なネットワークづくり
- ★ 文化活動を行う人・団体をコーディネートする人材の育成
- ★ レストラン・カフェでの食文化発信など(出会うコミュニティカフェ、地産地消カフェなど)
- ★ 憩いの広場

小田原市を越えた広域連携事業
- ☆ 他館との共同制作による新しい創造活動
- ☆ 広域圏の文化施設との連携(小田原の周りの美術館、箱根、湯河原既存の活用)
- ☆ 芸術大学などとの連携
- ★ 市内での連携(既存施設、活動団体など)
- ★ ホールと名建築のコラボ(古稀庵 清閑亭 文学館 老欅荘 松永記念館)

6 にぎわう(にぎわい創出)
～催し物がなくても立ち寄れる～

市民ホールにぎわい創出事業
- ☆ 展示系事業
- ★ 日常的な事業

気軽に立ち寄り、楽しめる事業
- ☆ オープンロビーでのコンサートや展示
- ☆ ★ ランチタイム・サロン・モーニン・ティータイム・アフタヌーンタイム・イブニングタイムなどのコンサート
- ☆ 前庭や路上コンサートやパフォーマンス
- ★ レセプション
- ★ 子ども達が体を動かして遊びながら楽しめるもの(工作 ・ダンス ・コーラス・劇)
- ★ 市民文化祭・映画祭・文化祭

まちににぎわいを生み出す事業
- ☆ フリーマーケット
- ☆ ★ 周辺飲食店・商店街などとの連携(食 ・大道芸)
- ☆ 観光情報や芸術文化情報の提供
- ☆ お城周辺での催しと連携
- ★ 季節イベント(ハロウィーンパーティー、クリスマスパーティー)
- ★ 町全体でにぎわいを(町内会対抗コンサート＋一流アーティスト、すべてのバンド集合、小田原おじさん(ロカビリーフォーク etc 大集合、商工祭、ちょうちん祭の復活)
- ★ 商店街マッピング
- ★ 若手アーティストが常に集うオープンスペース
- ★ 外から見えるギャラリー

7 ひろげる(利用促進)
～稼働率の高い施設～

市民ホール利用促進事業
- ☆ 提携・共催事業を含めたラインナップづくり
- ☆ 事業誘致、施設の積極的な貸出事業
- ☆ ホールセールス
- ☆ フェスティバルの開催
- ★ 子どもにとって特別な場所ではないホール
- ★ 稼働率を高く
- ★ 練習室、スタジオ併設(バンド、ダンスなど)
- ★ 市民参加 小ホール機能の充実

サービス・ホスピタリティ提供事業
- ☆ 質の高い施設管理
- ☆ 利用相談
- ☆ コンシェルジュ機能
- ☆ インターネット施設予約
- ★ 若者が 24 時間使える空間

市民への定期情報発信事業
- ★ 市民ホール整備の動きのプロモーション
- ★ 高齢者への PR・活用

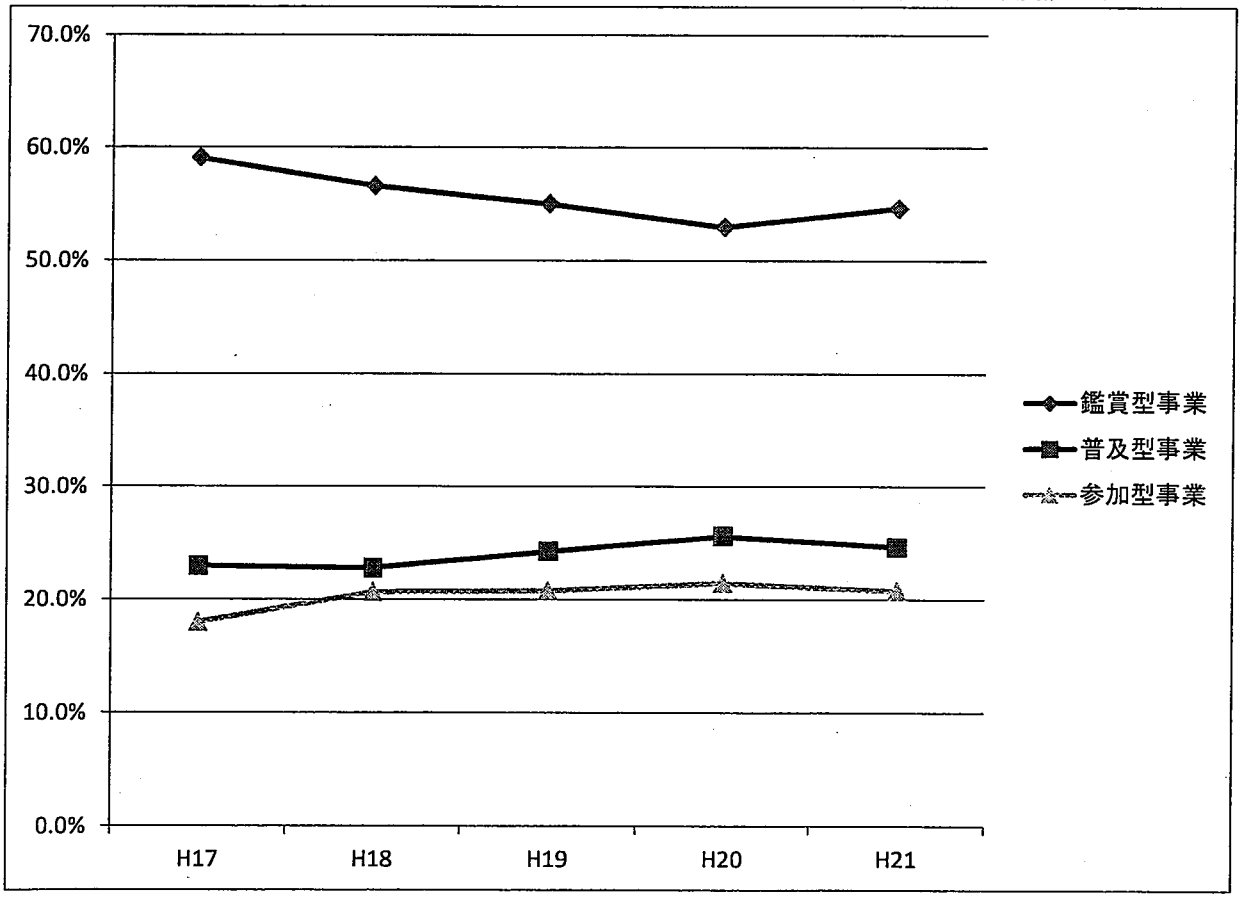
市民ホールの使命	事業の基本方針		事業の方向性	機能
1．そだてる （育成普及） 2．感動する （鑑賞事業） 3．つくりあげる （創造参加） 4．つどい交流する （施設運営）	1 そだてる（育成普及） ～地域文化の足腰を強くする～	・子どもたちが本物を鑑賞できる事業 ・子どもへの音楽・演技・美術などの体験・指導 ・未就学児対象の催し ・小中学生劇場体験 ・ワークショップ ・学校や病院などへのアウトリーチ ・アート体験プログラム ・ジュニア・オーケストラ ・ジュニアコーラス ・伝統芸能体験 ・演奏家や演出家によるセミナー ・シンポジウム ・一流講師によるセミナーやレクチャー ・アートマネジメント講座 ・舞台技術講座 ・プレトーク・ポストトーク ・ギャラリートーク ・キュレーターによる解説 ・芸術鑑賞などのスクールプログラム ・バックステージツアー	・子どもたちの芸術文化への関心を高める事業 ・市民が芸術文化の魅力に触れるきっかけ体験事業 ・広く市民の芸術文化への関心を呼び覚ます事業 ・舞台芸術を支える職能を学び、目指すための事業	大ホール系機能
	2 たのしむ（質の高い催し） ～創造性を刺激する～	・質の高い招へい事業 ・美術作品などの鑑賞機会の提供 ・プロデューサーやアドバイザーによる監修・制作の公演 ・小田原ゆかりのアーティストによる催し ・他都市の公立文化施設などで制作される良質な催しの招へい	・優れた芸術文化を鑑賞する事業 ・小田原ゆかりの鑑賞事業	小ホール系機能
	3 つくる（市民参加） ～創造の輪を拡げる～	・市民ミュージカル ・市民オペラ ・市民のための音楽フェスティバル ・老若男女の参加者と観衆が楽しめる企画 ・バックステージツアー ・ホールサポーター ・事業サポーター ・チラシ・会報作成支援 ・会場デコレーション ・記録写真・ビデオの撮影 ・ギャラリーサポーター ・市民による作品解説 ・レセプショニストの養成 ・市民企画事業 ・アートマネジメント講座 ・舞台技術講座 ・市民企画公募制度 ・企画立案養成講座 ・友の会づくり ・優良事業補助制度 ・アンケート・意見箱の設置 ・運営情報の公開 ・市民運営委員会　　など	・市民自らが参加し、体験する舞台芸術創造事業 ・市民が文化や芸術に触れるきっかけ事業 ・市民が文化や芸術の運営に参加・参画する事業 ・文化や芸術を支える職能を備える市民を育てる事業 ・市民の意見を広く採り入れていくための事業	展示系機能
	4 つたえる（地域特性の発信） ～小田原の魅力をつたえる～	・北原白秋など地元ゆかりの人物を題材とした事業 ・体験ワークショップ ・町の歴史聞き取りワークショップ ・地域の物語やおはなし作りのワークショップ ・小田原ゆかりのアーティストによる催し ・伝統芸能の公演や継承活動 ・ホームページや情報誌の発行 ・公演の記録保存・アーカイブづくり ・オリジナルCD等の制作 ・ホールグッズ ・レストラン・カフェでの食文化発信など	・小田原を題材にした事業 ・地域の“宝”発見事業 ・小田原の文化を蓄積し、発信する事業 ・小田原の特産を活かした地域ブランド発信・育成事業	創造系機能 支援系機能
	5 出会う（交流促進） ～共感のよろこび～	・オペラやミュージカルなど総合芸術事業 ・異なる分野で活動する文化団体のコラボレーション ・多くの市民や複数の団体の参加を募れる催し ・アーティスト登録紹介制度 ・他分野でのワークショップ ・芸術家との人的なネットワークづくり ・フェスティバルの開催 ・他館との共同制作による新しい創造活動 ・広域圏の文化施設との連携 ・芸術大学などとの連携	・芸術文化による交流促進事業 ・異分野交流事業 ・人と人との交流事業 ・小田原市を越えた広域連携事業	交流系機能
	6 にぎわう（にぎわい創出） ～催し物がなくても立ち寄れる～	・展示系事業 ・オープンロビーでのコンサートや展示 ・ランチタイムコンサート ・前庭や路上コンサートやパフォーマンス ・フリーマーケット ・周辺飲食店などとの連携 ・観光情報や芸術文化情報の提供 ・お城周辺での催しと連携	・市民ホールにぎわい創出事業 ・気軽に立寄り、楽しめる事業 ・まちににぎわいを生み出す事業	管理系機能
	7 ひろげる（利用促進） ～稼働率の高い施設～	・提携・共催事業を含めたラインナップづくり ・事業誘致、施設の積極的な貸出事業 ・ホールセールス ・フェスティバルの開催 ・質の高い施設管理 ・利用相談 ・コンシェルジュ機能 ・インターネット施設予約	・市民ホール利用促進事業 ・サービス・ホスピタリティ提供事業 ・市民への定期情報発信事業	

タイプ別事業数の割合

資料5

全　国				
調査年度	事業タイプ	事業数(A)	割合	各館平均事業数(A/各年度施設数)
平成17年度（施設数:1,330）	鑑賞型事業	7,217	59.1%	5.4
	普及型事業	2,805	23.0%	2.1
	参加型事業	2,195	18.0%	1.7
	合　計	12,217	100.0%	9.2
平成18年度（施設数:1,284）	鑑賞型事業	6,996	56.6%	5.4
	普及型事業	2,814	22.8%	2.2
	参加型事業	2,553	20.7%	2.0
	合　計	12,363	100.0%	9.6
平成19年度（施設数:1,272）	鑑賞型事業	7,227	55.0%	5.7
	普及型事業	3,185	24.2%	2.5
	参加型事業	2,726	20.7%	2.1
	合　計	13,138	100.0%	10.3
平成20年度（施設数:1,278）	鑑賞型事業	6,827	53.0%	5.3
	普及型事業	3,299	25.6%	2.6
	参加型事業	2,765	21.4%	2.2
	合　計	12,891	100.0%	10.1
平成21年度（施設数:1,261）	鑑賞型事業	7,147	54.6%	5.7
	普及型事業	3,223	24.6%	2.6
	参加型事業	2,716	20.8%	2.2
	合　計	13,086	100.0%	10.4

(社)全国公立文化施設協会『加盟施設自主事業実施状況調査』平成18、19、20、22年度版より



資料6

市民ホール基本計画策定専門委員会のスケジュールについて（案）

(1) スケジュールと各回の検討課題（旧）

	時期	テーマ	内容(案)	
第1回	5月25日	進め方の確認等	建設用地見学会 委嘱式 委員会の進め方	
第2回	8月	事業について	市民検討委員会での検討事項を参照して方向性をまとめる	← 第1･2回市民検討委員会の報告
第3回	10月	施設機能	市民検討委員会での検討事項を参照して方向性をまとめる	← 第3･4回市民検討委員会の報告
第4回	11月	運営について	事業・施設についての検討も（取り残し課題続き）	← 第5回市民検討委員会の報告
（市民検討委員と専門委員の意見交換会）（12月）				
第5回	1月	とりまとめ	事業・施設・運営についての検討まとめ	
第6回	2月	全体とりまとめ	基本計画のとりまとめ	
（基本計画策定報告シンポジウム）(3月)				

(2) スケジュールと各回の検討課題（新）

	時期	テーマ	内容(案)	
第1回	5月25日	進め方の確認等	建設用地見学会 委嘱式 委員会の進め方	
第2回	8月26日	事業について	市民検討委員会での検討事項を参照して方向性をまとめる	← 第1･2回市民検討委員会の報告
第3回	10月21日	施設機能①	市民検討委員会での検討事項を参照して方向性をまとめる	← 第3･4回市民検討委員会の報告
第4回	11月	施設機能②	市民検討委員会での検討事項を参照して方向性をまとめる	
第5回	11月	運営について	事業・施設についての検討も（取り残し課題続き）	← 第5回市民検討委員会の報告
（市民検討委員と専門委員の意見交換会）（12月）				
第6回	12月	とりまとめ	事業・施設・運営についての検討まとめ	
第7回	1月	全体とりまとめ	基本計画のとりまとめ	
（基本計画策定報告シンポジウム）(3月)				

資料７

文化振興ビジョン策定検討委員会について

１　開催状況（第１回会議）

開催日時　平成２３年８月１０日（水）午後３時３０分から５時３０分まで

開催場所　小田原市役所　大会議室（７階）　一般傍聴者３名

内　　容　１　市長あいさつ

２　委員長・副委員長の選出

３　議題　（１）小田原の課題について（まちづくり／文化面）

（２）文化振興の意義について

２　委員名簿

氏　名	選出区分	所　属　等
◎石　塚　正　孝	学識経験者	ＪＲ東海エージェンシー代表取締役社長
鬼　木　和　浩	学識経験者	横浜市文化観光局文化振興課主任調査員
桧　森　隆　一	学識経験者	嘉悦大学副学長／市民ホール基本計画策定専門委員会委員長
○間　瀬　勝　一	学識経験者	逗子文化プラザホール館長
杉　﨑　宗　雲	市民委員	無尽蔵プロジェクト 市民による芸術文化創造
露　木　清　高	市民委員	無尽蔵プロジェクト ものづくり・デザイン・アート
平　井　太　郎	市民委員	無尽蔵プロジェクト ウォーキングタウン小田原
岩　城　葉　子	市民委員	公募
大　森　　充	市民委員	公募
神　馬　純　江	市民委員	公募
山　口　　博	行　　政	文化部生涯学習課専門監（郷土資料担当）

＊　◎は委員長、○は副委員長　　区分ごと五十音順で表示

３　主な意見

【小田原の課題について（まちづくり/文化面）】

・　財政が厳しい中、豊かな文化を育てるのは難しい。

・　芸術文化の鑑賞などは東京や横浜に行ってしまう。

・　文化にあまり関心のない人にどのように文化に触れてもらうかが課題と認識している。

・ 一般的に文化活動はジャンルごとに縦割りになってしまっており、横串を通すべきである。

【小田原の文化・特長について】

・ 小田原は伝統的なまちなので、古いものから近代のものまで幅広く文化が存在する。
・ 小田原には、豊かな自然環境、歴史的環境、交通の要所など、その風土と歴史から育まれた生活文化があり、それが人々の中に色濃く残っている。このような生活文化に根付いた心の豊かさやゆとりは文化資産といえるものであり、残していきたい。
・ お城だけでなく近代の別邸など新旧の遺産を上手く利用し、また、小田原評定などのマイナスイメージをプラスに変えてく必要がある。

【ビジョン策定に向けた基本的な考え方（想い）について】

・ 自宅に小さな絵や花を飾るだけでも、家族や来客とのコミュニケーションのきっかけとなるなど、日常の中でもっと文化芸術に触れる機会があれば、市民の文化の質を上げることができるのではないか。
・ 「小田原のまちを豊かにするためにどうするのか」という視点を持たなければならない。
・ 文化振興ビジョンとは、「これからこういうまちにしていきたい」という、背景の異なる人々が共通認識として描いていくものである。各分野にわたる政策ビジョンがある中で、文化に関する部分を本委員会で整理していくものと認識している。
・ ビジョンにはストーリーが必要であり、生活文化やなりわいの文化、ものづくりといった小田原ならではの要素をビジョンの中でストーリーとして提示する。多様な価値観があるので、複数のストーリーが共存し、市民が皆で共有できるものが良い。
・ 生活文化や伝統文化など幅が広いため、ビジョンにどう盛り込んでいくかが課題である。
・ ビジョンは作ったから終わりというのではなく、議論を続けることが大切である。

【文化振興（ビジョン）の意義について】

・ 文化によって育まれる大切なものの一つは絆であると考えられ、例えば災害時に支え合って生きる人達の背景には一種の文化がある。また、３月に起こった東日本大震災でも芸術文化によって人は勇気づけられ、その果たしてきた役割は大きい。
・ 文化は情操教育に必要なものである。
・ 文化振興ビジョンは絵に描いた餅ではない。その実現のために施策や事業が実施され、予算が確保されるなど、その根拠となるものである。
・ 今の日本の社会に求められているのは、答えのない問題を解決できる人、壁を突破できる力のある人、生き抜く力のある人であり、その人材育成には教育、文化が重要な役割を担う。

4　今後のスケジュール（予定）

	開催日	時　間	場　所	内容
第２回	平成 23 年 9 月 23 日	10：00～12：00	市役所大会議室	方向性、施策の内容について
第３回	平成 23 年 10 月 26 日	15：00～17：00	市役所大会議室	構成案について
第４回	平成 23 年 11 月 25 日	18：30～20：30	市役所大会議室	素案について
シンポジウム	平成 24 年 3 月頃	未　定	未　定	

市民ホール基本計画策定専門委員会　第３回会議　次第

日　時　平成 23 年 10 月 21 日(金)
18 時～20 時
場　所　小田原市役所　大会議室

1　開　会

2　議　題
(1) 市民ホール基本計画（施設）について

(2) その他

3　閉　会

市民検討委員会の発表概要（施設機能）

資料1-1

項目	小項目	1班	2班	3班	4班（機能については他班と同意見）	専門委員コメント
大ホール	全体	・ロック・ポップス・ジャズなど、メジャーどころのコンサートを小田原で行いたい。 ・市民ミュージカルなどを行いたい。	・多目的なホール。 ・プロセニアム形式の舞台。 ・オーケストラピットは、整備コストを踏まえた検討が必要である。 ・シンプルで使いやすいホール計画とする。		・色々な催しに利用したい。 ・入場料金がとれる事業がしたい。	・市民ミュージカルやロック、ポップスなどについてはホールとして対応できる。 ・オーケストラピットについては、本来の使い方の他に前舞台としてや障がい者のリフトとしての使い方も想定できるためあった方が良いと考える。 ・「十分にオペラが上演できるように」というキーワードは、演劇系、音楽系、両方を満足させる機能を備えることを意味するということで良い。 ・オペラは問題なく上演できる。極端なことを言えば、オーケストラピットがなくても上演できる。 ・コストのことを考えると、設備の一部は借りてくることなどで対応し、あまり重装備なホールにしない方が良いと考える。 ・映画を上映するのであれば、上映ごとに持込むという選択肢もある。 ・大ホールについてはほぼ全ての班で意見が一致ということなので、今後具体的な検討に入っていけるのでないか。 ・大ホールロビーを展示スペースとして貸出すのは現実的には難しい。なぜなら、そのスペースを展示場所として貸出した場合には大ホール自体が貸せなくなるからである。
	舞台	・大ホールの舞台について、ミュージカルなどのことを考えると、間口10間、奥行5間などが必要。	・間口は8～10間、上手・下手の袖は4～5間、奥行は6～8間程度を想定してはどうか。 ・手引きバトンと電動バトンについて要検討の必要がある。	・舞台の設備として字幕スーパーが必要である。		・手引きバトンを十分に操作できる技量を備えた舞台技術者は少なくなってきている。また今日では高い性能を備えた動力バトンが増える傾向にある。 ・全国的に新しく整備される主要な施設では、動力バトンを導入する傾向にある。
	客席	・客席、1,000～1,200席で、500席や700席といったように、中ホール規模のホールとしても利用できるようにして欲しい。 ・車椅子席が客席の端に追いやられないようにして欲しい。 ・ホールのドアの側に、スタッフが座れる収納式の椅子を付けて欲しい。	・どこの席からも観やすい客席構造を検討する。 ・神奈川芸術劇場の3階席は怖かったので2階席までとし、多層バルコニーは防災上の観点からも避けたい。	・座席の前後左右をゆったりととり、高級感のあるものにして欲しい。 ・座席はメンテナンスの行いやすいものにして欲しい。 ・サイトラインに配慮し、千鳥配置を検討する。 ・車椅子席、ベビーカー置き場をしっかりと取って欲しい。 ・バルコニー席を設けて欲しい。 ・オーケストラピットが必要である。		・客席はゆったりとした感じも必要だが、劇場として、席が近いことによる観客同士の一体感があってもよいのではないか。あまりゆったりとしていると間延びした印象になってしまう。3時間程度は座っても身体が痛くならないことを前提に、劇場・ホールの鑑賞に適した座席とした方が良いのではないか。
	その他	・子どもが泣いても気にならない部屋、別の空間で親子で鑑賞できる親子室が欲しい。親子だけではなく、障がい者の方なども利用できたらいいのではないか。	・舞台裏に使いやすい通路を整備する。 ・映像設備もほしい。 ・音響設備の周波数についても十分に検討すること。 ・大ホールに附属する練習室がほしい	・内装は木を使用したい。寄木細工も取り入れていきたい。 ・完璧なオペラが上演できるような設備が欲しい。		

項目	小項目	1班	2班	3班	4班（機能については他班と同意見）	専門委員コメント
小ホール	全体	・小ホールについては二宮のラディアンが音響がいいのではないか、参考にしてほしい。 ・小ホールについては班の中でも大変もめた。 ・南足柄はあまりいい小ホールではないが、稼働率が70%を超えている。小田原に音のいいホールをつくるともっと利用率が上がるのではないか。 ・特に、小田原ではピアノや歌を行っている先生が多いので、音にこだわったホールとしたい。 ・小ホールは音に特化した、日本一のホールを目指したい。 ・是非、全国に誇れ、近隣の人が使える、料金も安い、固定椅子を備えた小ホールをお願いしたい。		・小ホールの基本的な設備は、大ホールと同じように計画する。 ・市民参加、幼稚園、小・中学校の利用、えっさほいの練習、発表会など子どもをメインとした活動を色々とやって欲しい。 ・子どもたちが本物を鑑賞できる事業を行なたい。小規模でも音楽会、演劇会、映画会を行いたい。 ・大ホールでは行えないような小編成のジャンルを問わないコンサート、良質のものを上演して欲しい。 ・自分が劇団を主宰しているので、芝居小屋をイメージしている。現在は横浜や下北沢を利用するしかないので、小田原にその空間が欲しい。	・外国の文化を発表したい。 ・子供達に古典芸能を鑑賞させる機会を設ける。	・小ホール機能の一部がリハーサル室で代用できるのではないかという意見は重要な視点である。 ・芝居小屋が欲しいというのは、結果的に芝居小屋になればよいということである。紀伊國屋ホールや本多劇場では、アマチュアが使うには少し大きい。ザ・スズナリや相鉄本多劇場程度だと相当コンパクトになり、小田原でも実現できるだろう。こういった声を詰めることで実現できることが沢山あると思う。 ・小ホールでは、古典芸能と外国文化という明確なキーワードも出てきた。これをどうするかについても考えていかなければならない。 ・古典芸能系の稽古には太鼓を用いることがあるので、他の団体との利用の兼合いに配慮が必要である。支援系機能の部分で検討していきたい。 ・マルチスペースを利用して小ホール機能の一部を担わせるという新しい視点を見つけられたことが良かったのではないか。 ・小ホールについては、可動式の可能性を残したのは、表現機能を残せたという点ではひとつの検討結果と考える。
	客席	・平土間と固定客席で意見が分かれた。 ・固定客席と平土間のふたつの選択肢があり、どちらかだけとは決められない。 ・固定席と平土間・ロールバック式の2つを造ればいい。 ・音楽系の固定客席のホールと、平土間のホールで方向性をわけて整備する。 【固定席】 ・藤沢市以西に固定椅子を持つ本格的な小ホールをもった公立ホールがない。 ・平土間のホールは多くあるが、近隣の公立ホールに固定客席の小ホールがなく、整備すべき。 ・ロールバックが嫌な意見として、歩くと音がする、可動式は使い勝手が悪い、座り心地が悪い、足音が響く、すきまが危険、落ち着かない、咳やくしゃみをしただけで椅子が揺れる、メンテナンス費用がかかるといったことが上げられた。 ・ロールバックの客席に不満を持つ方や団体は少なくない。 ・固定椅子で、音に特化した小ホール。市内では演劇よりも音楽の利用が多いと感じる。 ・小ホールは市民利用が多くなるので、200～300席の音響の良い固定式が、市民にとっては一番利用しやすいのではないか。 ・使い勝手第一で、日本一を目指したい。 【平土間】 ・大ホールの主舞台と同じ床面積を確保し、リハーサル室としても使用する。防音性能が必要なので、地下の有効利用も考える。 ・リハーサルや様々な催し物にも使用できるマルチな機能を備えた部屋を整備する。 ・高さは4m、ライティング設備も欲しい。また、ステージの位置を自由に変えられたり、youtubeを利用できたり、様々なことが行なえ、若者による新しく多様な活動にも対応でき、将来的に考えられる様々なイベントに耐えうるものにしたい。 ・特に、若者が自由な発想で活用できるスペースにしたい。 ・平土間で行いたいような催し物は、リハーサル室のひとつを広く造り、そこで行えるようにする。 ・平土間も捨てがたい。大ホールの主舞台と同じ床面積のリハーサル室が欲しいという意見があり、それを第2小ホールとし、平土間で200～300席の様々な活動ができるマルチスペースとして計画する。 ・平土間のホールは、色んな若い人たちが新しいことをできるようなホールとしたい。	・展示との共用は認めたくない。 ・固定式の多目的ホールと平土間のホールで意見が分かれている。 ・音楽あるいは演劇のためのホールかで意見が分かれている。 ・音楽用にすると演劇用の舞台設備が制約され、音楽用にすると台詞の明瞭度が制約される。 ・多目的にした場合、演劇・音楽共に制約される。 【固定席】 【平土間】 ・平土間にした場合、展示用の特別な設備は不要だが、展示にも利用できるように考える。	・固定客席にするか平土間にするかで意見がまとまらなかった。 ・演劇・音楽・ダンスなど様々なジャンルの人が使えるので平土間の方が良いのではないかという意見がでたが、固定式の方が良いという意見もあった。 【固定席】 【平土間】 ・平土間にして様々な活動が行なわれることや様々な分野の団体が利用できるようにするのも大事だと思う。展示に特化したい団体、大ホールに特化したい団体、小ホールに特化したい団体などがあるので、どのように特化したいかということについても譲りあっていくことを考えていきたい。 ・音響的には平土間形式の方がよいという意見もあった。 ・平土間、ひな壇の運び込み、壁にカーテン、暗幕という意見もあった。	・固定席か平土間かで意見が分かれた。 ・固定席であれば、県西地区に固定席で充実したホールがないので、稼働率が上がるのではないか。 ・小ホールを平土間にするか固定客席にするかということで非常にもめたが、平土間として利用できる別のスペース（マルチスペース＝多目的ホール）を確保することで意見がまとまった。 ・小ホールを固定にするのであれば、プラスで300㎡程度のマルチスペース（多目的ホール）を設置することで対応する。また展示系の催しであれば、展示系機能とマルチスペースを両方使うことや演劇・音楽系の催しのリハーサルの場として利用できる。 ・大ホール、固定席の小ホール、展示機能に加えてマルチスペースが必要なのではないか。 ・小ホールは固定席で造る。その対案としてマルチスペースをつくることで、リハーサルや展示など小ホールを平土間で使いたいという用途に対応する。 【固定席】 【平土間】	・リハーサル室を第2小ホールにしようということが検討のポイントだった。しかし、今後これを実際の図面に落とし込んでみると面積の都合上、第2小ホールまでもが整備できないこともある。その場合には、運営や利用方法を含めた検討がさらに必要になっていくる。
	その他		・舞台裏に使いやすい通路を整備する。 ・市内の施設との機能分担を考える必要がある。			・他の施設と機能の共有化を図った上で、市民会館機能をどのようにまとめていくのかということは、今後市民ホールの完成まで継続して考えていく必要がある。 ・各施設間の連携は大変重要。近隣の既存施設も含め、今後の展開を議論していく必要がある。

項目	小項目	1班	2班	3班	4班（機能については他班と同意見）	専門委員コメント
大小ホール付属諸室	楽屋	・和室を1室整備して欲しい。 ・楽屋の隣に練習室を造って欲しい。 ・舞台モニターを設置してほしい。	・大ホール、小ホール専用の楽屋が必要である。 ・シャワー室も整備する。	・近代的な楽屋が必要である。 ・楽屋周りにピアノ付きで音だしが可能な楽屋が欲しい。 ・和室楽屋、シャワー室、練習室がほしい。		・和室楽屋をどうするのかは検討が必要。
	トイレ	・女性トイレを多く造りたい。男性トイレよりも多めに造ってほしい。 ・女性トイレには節水の為に音姫を備え付けて欲し	・女性トイレの個数は多く整備する。			
	搬入	・展示室のバックスペース、入口の反対側に搬入車両が寄り付ける搬入口を造って欲しい。展示台など重いものの搬入も考えられる。		・舞台後方からの搬入ができるようにしたい。		
	ロビー	・ロビー・ホワイエの居心地を良くし、社交場としての機能を大切にして欲しい。愛を語れるスペース、誰でも利用できる憩いのスペースがあればなお良い。		・ホール・ロビーは、美しくゴージャスにして欲しい。		
展示		・小田原という地域を発信できる全国規模の公募展など、有料の展示もどんどん行っていってはどうか。 ・展示室はフラットな空間なので、展示だけではなくワークショップなどでも活用してはどうか。 ・可動パネルは、簡便に移動ができるものがよい。 ・天井高は4mがベストではないか。 ・華道展示などを考えると展示室のバックスペースには必ず水場を造ってほしい。 ・使い方によればお茶などもできるだろう。そのための水場を造ってほしい。 ・野外を利用して展示を行ったり、様々な利用ができる仕組みをつくっていきたい。	・シンプルでパーテーションで区画できるようにしたい。 ・大きな作品もあるので、そのことに配慮した搬入口とバックヤードが必要である。 ・天井にものを直接吊れる構造と設備が必要である。 ・展示壁には直接ピンが刺せれる仕様が必要である。 ・現代アートの展示も考え、電気設備等も整備する。 ・電気設備等の増設が後からできるように配慮したい。 ・他の機能の併用は考えなければならないが、会議室等との併用はやめるべきである。 ・搬入動線と観客動線が重ならないように配慮する。 ・高さは高く、広いほうが良い。	・神奈川県立美術館の巡回展、小田原ゆかりの作家の展覧会、学校の書道や小田原ちょうちんの展示などを行いたい。 ・展示物のサイズを問わず、良い照明環境が必要。天井全体がやわらかい照明が理想的である。スポットは移動式とする。 ・平面作品用の展示パネルは、上質のもので長く使用できるものが良い。 ・様々な展示に対応できる展示壁を採用して欲しい。 ・天井高について、平塚美術館程度の高さがあるとよい。 ・床、壁は汚れに強い素材を使って欲しい。 ・展示スペースでも、演劇・音楽などを発表できる工夫をして欲しい。 ・本当は小田原に美術館が欲しい。 ・400㎡の展示スペースができれば、美術館でやるようないい展覧会ができると思う。 ・学芸員をおいて、年間で自主企画を行ってほしい。	・トークショー、参加型ワークショップなど、いつも何か展示されていていきたくなる様な催しがある展示室としたい。 ・現代アートの魅力に触れるイベントを開きたい。 ・大ホールに付随したロビー、けやきの展示室を利用するという案もでた。 ・インターネットの配線、ワークショップスペース、図書館機能、水場、作品保護の空調・照明設備、ミュージアムショップが必要である。 ・天井の高さは4m必要	・まとめられた意見については取り込んでいきたいが、展示機能＋α の部分をどのように考えていくのかは議論が必要である。 ・展示の搬入は、裏からは当然として、催し物が重なった時には表側の建物入口からも搬入できるようにした方が良い。 ・展示室の壁はピンなどを打つので、消耗品として考えた方が良い。 ・他の諸室を展示機能の代用として利活用することや展示室に他の機能を複合させることも検討する必要がある。しかし、まずは展示機能をしっかりと確保することが第一義的に重要である。 ・今回の市民ホールにおける展示室の位置付けを小田原の美術館だと考える人はいないだろうと考える。 ・展示室がいつでも利用で埋まっているということが、アートシーンの覚悟を決めるのだと考える。 ・400㎡は、デパートの美術館よりも少し広いので、場合によっては展覧会ができることもあるだろう。 ・展示系に関しては、バックヤードが大変に重要である。 ・美術館にガラスケースを用意することがあるが、博物館ではないので必ずガラスケースにいれて展示しなければならないのは、掛軸や屏風など日本の古典文化財くらいになるだろう。昨今の美術館では、フレンドリーな形で作品を鑑賞できる。そのような展示スペースができれば良いと考える。 ・お花やそれにともなったお茶会を考えれば、水場が必要である。また、それがきちんと使えるものであれば、素敵な展示スペースになるだろう。
支援系機能		・託児室を造ってほしい。空間を作るだけでなく、子どもが泣いても外に音が漏れない遮音性能や裸足で歩けるような安全性を確保して欲しい。 ・託児が必要な事業が行われるかどうかは今後の事業の在り方次第なので、先ずは託児室として使用できるスペースは確保しておく必要がある。 ・託児室は、誰が責任を持って運営するのかという課題がある。何か起こったときに客席内にいる保護者を呼ぶ手段も検討していかなければならない。		・託児室、キッズスペースが欲しかったという声が多かった。大ホール・小ホールにひとつずつあれば良いのではないか。子どもの声がホールに聞こえないように、カフェなどの交流系機能の近くにまとめればよいのではないか。		・諸室については、バックヤード以外に大変多くの検討のポイントがある。 ・託児室の問題は、今後の運営の段階で検討されるべきことだと考える。これからは、若いお母さん達にも子どもを預けて公演を観る機会が与えられるべきだと考える。今まで劇場に足を運んできたお母さんたちが子育てで10年くらいホールに来られないと言うことは、観客を失うということになる。 ・親子室の提案は、将来的にもとめられる機能ではないか。 ・子どもが自由に遊べるキッズルームがあれば、お母さんは子ども遊ばせてる間、散歩や読書をして過ごすことができるので必要な機能だと考える。
創造系機能	リハーサル室	・楽屋の隣に練習室を造って欲しい。			・リハーサル室を整備してほしい。利用形態に応じてリハーサル室でも公演が行えるようにしたい。	・リハーサル室を充実させたいとのことだが、何室いるのか、大・中・小の大きさはどうなのか、具体的な検討する必要がある。
	スタジオ		・練習室がほしい。 ・リハーサルができるような練習室がほしい。			
	その他	・アトリエ作業ができる場所、造りかけのものを保管できる場所があるといいのではないか。 ・ワークショップができる工作室などのスペースが隣にあるといいのではないか。				

項目	小項目	1班	2班	3班	4班（機能については他班と同意見）	専門委員コメント
交流系機能		・愛が語れるような素敵な喫茶店が欲しい。	・カフェや交流サロンなど市民が交流できる空間を計画する。	・50席～100席程度のカフェが欲しい。 ・ミュージアムショップが欲しい。 ・カフェの話が多く出た。小田原市内にはレストランなどはあるが、カフェは少ない。演劇の台本をその場で読めたりアーカイブを見れたり、オープンカフェとしてロビーと近い距離に置き、オープンライブを行ったりできればよい。	・あまりお金をかけずに文化に触れられるスペースがほしい。	・ホールの歴史を残したい、という発想はとても興味深い。
バリアフリー				・全体的に弱者に優しいホールということを皆さんと話し合った。		
バリアフリー※	（5班）	・大ホールにスロープが欲しい。 ・座席の間にスペースがあると動きやすい。 ・車椅子席は前方や後方ではなく、中間くらいにほしい。また、団体で鑑賞できるスペースがあると良い。 ・座席を外して車椅子席を設けた場合、床に段差があると不便なのでフラットにして欲しい。 ・階段など、暗いと判別が難しいので、照明を設けるなど段差が分かるようにして欲しい。また、滑り止めを設置して欲しい。 ・聴覚障がいのある方は、公衆のFAXがあると便利である。 ・エレベータの設置は必須である。大きな車椅子を利用する方もいるので、20名以上が乗れるエレベータがあると助かる。 ・エレベータについて、中の様子が外から見えるように透明だと助かる。また、文字で「満員です」といった表示がブザーと併用であると良い。 ・エレベータはわかりやすい場所に設置して欲しい。 ・トイレについて、多目的トイレが2つ程度あると助かる。また、男女共用が望ましい。 ・トイレを流す際のバルブの位置について1ヵ所ではなく2ヵ所あると良い。 ・トイレの入口は電動で開くタイプが良い。 ・トイレの大きさについて、車椅子の大きさが人それぞれなので、大きい方がいい。 ・和式や洋式の種別が分かりやすく表示されていることが望ましい。 ・トイレのスイッチの設置位置は統一してほしい。視覚障がいのある方は、場所が統一されていないと手探りで探さなければならないことになる。 ・字幕はあった方がよい。 ・要約筆記のスペースを設けてほしい。 ・入口にはスロープを設けてほしい。 ・事務室などもバリアフリーにして欲しい。 ・エレベータが停止した際の避難経路を考えてほしい。 ・地下駐車場があると雨などの場合濡れないので助かる。				・現在、大ホールでは1000席から1200席が想定されているが、1200席の劇場が建設可能なスペースに1000席のホールを造ることでゆとりという新しい可能性がでてくるかもしれない。バリアフリーに配慮した施設は今後注目されると思う。 ・5班でまとめられたバリアフリーについての意見は、市民検討委員の皆さんから出されている機能と、十分に両立することができる。 ・劇場というのは特殊な空間のため、全ての場所に車椅子で移動することは難しい。しかし、できるだけ多くの裏回りスペースに車椅子でもアクセスできるようにすることが望まれる。 ・バリアフリーを全面に押しだすのではなく、さりげなく、それでいてしっかりとこれまでに検討されてきたことに組みいれていくことが望まれる。 ・障がいを持つ方の意見を聞く機会は大変に貴重である。今後このような機会を重ね、しっかりと計画を検証していかなければならない。 ・ユニバーサルデザインを取り入れるということは、これからの時代の公立文化施設では大変に重要な視点となってくる。 ・男性トイレにもベビーチェアー・ベビーシートが必要になってくる。今後、広くユニバーサルデザインについて考えていく必要がある。
防災					・自然エネルギーを活用、太陽光パネルを取り入れ、災害にも強いホールとする。	
駐車場		・一般観客用にはいらないという意見が多かった。 ・利用者が搬入物を安全に簡便に降ろすことのできる車寄せのスペースを関係者車両の通路に整備することでうまく流れができるようにし、車両の渋滞が起きないようにする。 ・関係者用の駐車場はきちんと確保することが必要。				
前庭		・これまでの検討のほとんどが建物に集中しているが、お堀から30mセットバックして建物を建てるのであれば、前の広場を有効に使うことを考えた方がいい。 ・建物の中に全ての活動を押し込むというのは無理がある。広場を上手く活用し、施設内のウエイトを減らすことができるのではないだろうか。その議論がされていない。				
景観			・できるだけ建物高さが低い建物としたい。			

項目	小項目	1班	2班	3班	4班（機能については他班と同意見）	専門委員コメント
その他	倉庫	・ピアノを収納する倉庫が欲しい。				・ピアノ庫は、新しいホールには問題なく計画される。今後の課題は、ピアノを何台整備するのか、また舞台までの動線についても検討する必要がある。
	事務所					
	その他	・舞台設備については、様々な意見がだされた。 ・舞台技術スタッフには、専門的な人が欲しい。 ・商店街との連携を考えていきたい。高円寺の例も参考にしたいが、小田原市の店舗にアート作品を置き、イベント化されるような形を考えている。そういったことを行わないと利用者が増えないと思う。 ・ホール運営の為の財団を創っていただきたい。 ・ガラスで覆われているようなホールが必要なのか。ホールを利用する時には外光を遮断しているので、普通の照明を備えればよいのではないか。 ・クロークがあると主催者側の負担になるのでいらないのではないか。その代わりにお金の返ってくるコインロッカーを設置して欲しい。	・全体的に整備コストを極力かけない。 ・緊急時に使用できる部屋、救護室、託児室などを計画する。 ・今後の文化政策が明らかでないので意見は分かれたが、文化政策が決まればそれに従って決めていくことができる。	・コストの問題はあるが、色んな意見を出し合い、その中から一番よいものを選択し、あまりコストにこだわらないようにした方がよいのではないか。可能なものは造っていくという考え方で進めて欲しい。 ・ホールの建築音響の考え方、音響設備だけでは解決できない。特に冬場の厚着はタブーなので、クロークをしっかりと整備してほしい。 ・お客さんの中で具合の悪くなった人の為に畳の部屋があればいいのではないかという意見が出た。休憩室としてだけではなく、茶室として利用したりなど、多目的に利用できたらいいのではないか。	・映画会を行いたい。 ・小田原の木材をふんだんに使ったホールにしたい。 ・遊び心のある建物にしてほしい。 ・市民がお金をかけずに文化に触れられる事業や設備と、きちんと収益がとれる事業の両方とも行いたい。	・舞台芸術に関心を持たない方々がどうやったら劇場に足を運んでくれるかが重要である。30%の方が舞台芸術を好きだという一方で、70%の市民は無関心であったり興味がなかったりする。残りの70%の人にどうやって足を運んでもらうかということを考えると、アーカイブスやレストラン、オープンカフェなども整備することでその仕掛けになる。また、そのことによって地域に根差した施設づくりを行なっていくことが、これからの公立文化施設の大きな役割だと考える。 ・市民が利用する施設や機能への関心が高いが、その活動を支える市民が一般には利用しない部分、そこが"公の施設"では疎かになりがちである。裏方の機能もしっかりと整備できないと、市民利用機能は十分に支えていけない。 ・ハードを支えるのはソフトだが、ソフト・運営面だけでも成り立たない。そのためには裏方部分の機能が重要になる。 ・文化施設が今後どのように変わっていくかということを考えてる一方で、舞台芸術の有り方も今後どのように変化していくのかということを考える必要がある。 ・これまでの公立文化施設では、大迫、小迫、廻り舞台、脇花道があるというのが定番だった。しかし、今日ではそのことだけが必ずしも定番ではなくなってきている。 ・舞台芸術の表現スタイルは、どんどん変わってきている。ダンスや映像などでも、舞台芸術の表現が多様になってきている。 ・これからの「地域劇場」のあり方を考えると、どのような施設にしていくべきかということが少し見えてくるのではないか。 ・現代の建築技術では、コンサートにも演劇にも対応できるホールを創ることが可能であると考える。 ・行政が主導して施設や設備を決めるのではなく、こういったひとつの答えの出ない話し合いを重ねるということも重要である。 ・今回の検討でバックヤード、裏方部分の議論が進み、図面に落とした時に「これはどうなってる？」ということがないようにしたい。 ・有名な建築家だからといって、必ずしも使いやすい劇場ができるわけではない。こういった話し合いの成果をきちんと汲み取って計画を進めていくことが大切である。 ・座・高円寺は地下に建物の70%が埋まっている。そのため3月11日の地震ではほとんど揺れなかった。また、地下にあるので冬は暖かい。地下を活用したことのメリットはあったと考える。そのことから地下に諸室を整備するのもいい考えだと思う。 ・音楽ホールが横浜以西にはないとのことで、是非創るべきだと考える。ただし、音楽ホールに特化してしまうと、利用者は全体の30%程度にとどまる。音楽以外の70%を講演会、演劇、ダンス、その他音楽系と考えると、その需要をどうまかなっていくのかという課題がある。そう考えると特化しにくい部分はあるのではないか。

※障がい者の団体のみなさんで、5班としてワークショップを行った。

市民検討委員会施設機能ワーキング検討の取りまとめ

資料1－2

大ホール ＋ 小ホール ＋ 創造系・支援系施設 ＋ 展示室

◎ 大ホール

多目的型
・プロセニアム形式の舞台
・1,000～1,200席の固定客席（一部可動）
・複層バルコニー席
・舞台からの視距離に配慮
・可動式音響反射板
・充実した舞台設備

◎ 第1小ホール：固定席（200～300席）

多目的型
・プロセニアム形式の舞台
・可動音響反射板
・音楽重心型／演劇重心型
（残響長め）（舞台設備充実）

OR

音楽専用型
・ワンボックス型（フライロフト無）
・音響重視（生音の響き重視）

OR

演劇専用型
・プロセニアム形式の舞台
・舞台設備充実（音響反射板無）

＋

◎ 第2小ホール：可動席（200～300席）

平土間型
・平土間ホール
・可動観覧席

*「固定席」を持つ小ホールを優先して計画した場合、「可動席」を持つ小ホールを別途計画するという選択肢が検討される

◎ リハーサル室：マルチスペース

平土間型
・大ホール主舞台同様の大きさ
・可動観覧席（200～300席）

＊第2小ホールに準じる機能を備えた「リハーサル室」を整備するという選択肢が検討された。

同義的な意味での検討が行なわれました。

◎ 多用途利用

展示だけでなく、多用途利用を想定
・展示（平面、立体、映像など）
・セミナー、ワークショップなど
・大道具、小道具など製作工房
・音楽、演劇利用

OR

◎ 展示専用

展示に関わる利用に特化
・展示（平面、立体、映像など）
・関連セミナー、ワークショップなど

資料2

市民ホール基本計画市民検討委員会

WS 3・4 ワークショップかわら版

《作成・発行》
小田原市
文化部文化政策課
＆ 空間創造研究所
平成 23 年 10 月 21 日

今回は連続しての検討だったため、第 3 回と第 4 回の様子をあわせてご紹介します！
第 3 回の市民検討委員会は 9 月 19 日(月・祝)、第 4 回は 10 月 9 日(日)に小田原市役所 7 階大会議室にて行われました。第 3 回は市民委員 41 名、(女性 16 名、男性 25 名)、市の事務局スタッフ 11 名、その他の事務局スタッフ 5 名、市民ホール基本計画策定専門委員会から市来委員、勝又委員の 2 名、合計 59 名、第 4 回は市民委員 36 名、(女性 13 名、男性 23 名)、市の事務局スタッフ 11 名、その他の事務局スタッフ 5 名、市民ホール基本計画策定専門委員会から桑谷委員、三ツ山委員の 2 名、合計 54 名の参加がありました。
また、第 3 回には障がい者の団体の方 5 名が検討に加わり、実際にご利用の立場から、市民ホールのバリアフリーの部分についてを中心に検討を行いました。

諸室や機能とは？

舞台の大きさや設備、楽屋や練習室、カフェなどの、市民ホールに必要な要素です。
今回は、大きく基本構想で整理されている、大ホール系機能、小ホール系機能、展示系機能、創造・支援系機能、交流系機能、管理系機能、その他に分け、それぞれ、どのような設備、諸室があったら良いかの検討を行いました。

第３・４回　「市民ホールに求められる諸室や機能を考える」

第 3・4 回は連続して、市民ホールに求められる諸室や機能についての検討を行いました。
第 3 回は大ホール系機能、小ホール系機能、展示機能を中心に、第 4 回は創造・支援系機能、交流系機能、管理系機能を中心に
専門委員によるミニレクチャー、市民検討委員でのグループワークと発表を行いました。

第 1 回の基本構想の振り返り、第 2 回の事業や活動を中心としたソフトのお話から、施設の諸室や機能というハード面の検討に入りました。
特に、小ホールが固定客席形式がいいか、平土間利用が可能な壁面収納可動型客席がいいかでは各班ともに意見が拮抗し、熱論が繰り広げられました。
ホールについては検討を行えた一方、他の機能については時間が足りなかったため意見が出尽くしていない様子が見受けられました。
そのため、検討を 1 回増やし、第 5 回でも諸室や機能についての検討を行う運びとなりました。

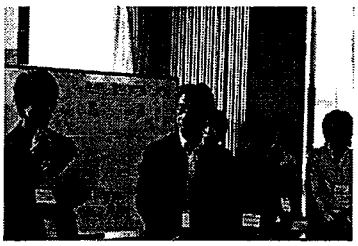
1 班

★☆★Point★☆★
小ホールについては固定客席の音楽ホールと 200～300 席の平土間利用可能なホールの 2 つを整備するいう結論になりました。また、諸室の一部を地下に整備することで、土地を有効活用させるという案も出ました。支援系機能の託児室については整備を望む一方、子どもに何かあったときにどう対応するかの問題提起もなされました。
★☆★委員コメント★☆★
・座・高円寺は施設の 70%の部分が地下に整備されているので、東日本大震災の際にあまり揺れずにすみました。地下を有効活用するメリットもあると思います。
・託児室については運営の段階で検討されるべきかと思いますが、子育て中のお母さんがホールに来られないとなると、その分何年も観客を逃すことになってしまいます。

2 班

★☆★Point★☆★
練習室を求める声があがりましたが、日常練習用かホール利用者専用の練習室なのかという、運営にも関わる意見が出されました。小ホールについては固定客席か平土間利用可能なホールか、音楽ホールか演劇ホールか多目的ホールかで意見が拮抗し、結論は出ませんでした。
★☆★委員コメント★☆★
・プロデューサーの立場で言えば、観客が入る催しなら大ホールで行い、入らない催しなら小ホールで行います。
・これからの「地域劇場」としての在り方を考えると、どのようにしていけばいいか見えてくると思います。
・この様な話し合いを、設計段階できちんと図面に落とし込んで行くことが大切です。

3 班



★☆★Point★☆★
バリアフリーにしっかりと対応した、誰もが使いやすいホール、戯曲やアーカイブを閲覧できるようにするといった特色のあるカフェなどが提案されました。展示についてはしっかりとスペースを確保し、自主企画も行っていきたいという案が出されました。小ホールについては平土間利用を望む方の人数が多少多かったようです。
★☆★委員コメント★☆★
・これからの時代はユニバーサルデザインを取り入れていくことは基本になってくるので、そこをしっかり話せたのはとても意義があることだと思います。地域に根ざした施設づくりが今後の公共文化施設の大きな役割になってきます。
・ハードを支えて行くのはソフト面ですが、ソフト・運営だけでは支えきれないことがでてきます。その時に重要なのがバックヤードの部分です。

4 班

★☆★Point★☆★
展示機能について、三ツ山委員が挙げたような充実した設備(天井高 4m、水場、インターネット設備、図書館機能、水場、木の床、作品保護の為の空調、照明設備、ミュージアムショップ、WS スペースなど)が必要なのではないかという声が上がりました。小ホールについては固定席とし、平土間利用可能なホールの代用として 300 ㎡程度のマルチスペースを整備し、リハーサルや小ホール、展示など様々な用途で利用する、という結論になりました。
★☆★委員コメント★☆★
・展示室がいつでも利用されているということが、今後のアートシーンに繋がって行くと思います。
・マルチスペースという新しい視点を見つけられたことがよかったのではないでしょうか。

5 班

★☆★Point★☆★
バリアフリーについての意見を中心に実際にお使いになられている視点から具体的な案が多数でました。観客動線の段差を無くしスロープにする、階段などが暗くならないようなライト、滑り止め、車いすの方が利用する大きな(20 名程度)エレベーター、公衆用の FAX、複数の多目的トイレ(男女なし)、字幕、要約筆記、雨の日に濡れないですむような地下駐車場等の整備が求められています。また、観客動線だけではなく、事務室などの裏周りも可能な限り対応していくことが望まれています。
★☆★委員コメント★☆★
・「劇場」というのは特殊な空間のため、どうしても全ての場所に車いすで入るというのは難しいです。ですが、できるだけ多くの裏周りに車いすでアクセスできるようにすることは必須と言えます。
・バリアフリーを全面に押し出すのではなく、さりげなく、それでいてしっかりと整備していけるといいと思います。

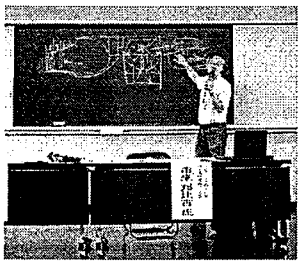
★☆★第３・４回市民ホール基本計画策定専門委員会委員ミニレクチャーの内容をご紹介します★☆★

第３回

勝又委員　～建築的な視点からみた、検討のポイントについて～

- 第２回までの皆さんの検討内容を伺い、基本構想から大きく外れた意見はないように思いました。
- 検討のポイントとして、「なぜその機能が必要なのか」ということを話して頂きたいです。コストなど様々な条件を考えていくと、市民の皆さんがおっしゃる要素を全て市民ホールに入れ込むことは難しいです。ですが、「なぜ必要なのか」という根本的なところを考えていれば、その目的を達成するために既存施設の活用や他施設との連携などの可能性も考えられます。また、ホール機能以外にも、施設全体のバリアフリーや防災機能、ワークショップなどの多様な事業をどこの諸室で行うのかについても考えていけたらと思います。そこにプラスして、将来的に改修工事を行うことや、必要な諸室を付け加える可能性も考えて欲しいと思います。
- 東日本大震災を受け、今後の公共ホールの有り様が変わってくると思います。現在検討している市民ホールは、震災後に建設されるホールとして参考になる事例がなく、今までの公共ホールにはなかったけれども、今後は考えていかねばならない機能も出てくると思います。しかし、防災センターを建設するわけではないので、留意しながらもそこにとらわれすぎずに検討を進めていきたいと思います。

市来委員　～ホールの仕様による可能性について～



- 基本構想では、小ホール系機能、展示系機能についての詳細は明記されていません。施設や事業の方向性によって選択肢が色々とでてくる部分であり、市民の皆さんの意見を聞かずには決められないと、あえて曖昧にしてあります。是非、この検討会で方向性を見いだしていきたいと考えます。
- 小ホールの形状には、固定席や平土間としても利用できる可動収納型客席など色々と種類があり、目的によって大きく有り様が変わってきます。一般的に、可動収納型客席のホールは、平土間利用や客席を並べての利用、仮設客席を設置するなど、固定席に比べ空間の可能性は増えます。
- 基本構想にて大ホールは多目的となっていますが、1000 席から 1200 席程度のキャパシティであれば生声が届くので、音楽・演劇・ポップス系を両立させることができます。
- 音の響きについては、クラシック音楽は響いた方がよく、演劇系は響かない方が良いです。ただし、音楽といっても生音のクラシックではなく、スピーカーを通すポップスなどの音楽は演劇系のホールでも上演可能です。

第４回

三ツ山委員　～近年の展示の傾向と必要な機能について～

- 近年の展示は単に作品を鑑賞するだけでなく、アーティストの話を聞いたり、アーティストが展覧会で自分の作品を巡りながら説明をしたり、一緒に創る WS を行うといったことが主流になってきています。
- 今はプロジェクターを使って壁に映像を投影するといったことが普通になってきていて、市民の方も希望されます。そのため、いつでも天井からプロジェクターが吊れるような設備が必要かと思います。またインターネットを利用する展示もあるので、展示室の壁面にインターネットが利用できる取り口を整備するということも必要です。利用する機会が頻繁にあるわけではなくても非常に役にたちます。
- 横浜市民ギャラリーあざみ野の場合はアトリエがあるので、ものを洗う際に必要な水場があります。しかし、ここではアトリエではなく展示室ということなので、裏方部分に道具を洗える水場が必要とされるかもしれません。
- 現在、展示の最中にものが必要になった際には搬入口で作業をしています。バックヤードは事前に用意できるものはしておいた方がいいですが、ある程度の広さがあれば融通が利きます。アレンジができる余裕を残しておくというのも大事なヒントかと思います。
-

桑谷委員　～「いい施設」とはどんな施設なのか、どのような機能の部屋があると望ましいか～

- 「専門家を支援するための施設」「市民参加を支援する施設」「市民の広場としての施設」の 3 点がセットになり、諸室と空間が充実している施設が「いい施設」と言われるのだと思っています。「専門家を支援するための施設」としては、自由で創造的に利用できるホール、それをスムーズに行える舞台裏などの設備、それを行う人間をサポートするための大人数の楽屋などが挙げられると思います。「市民参加を支援するための施設」としては、市民参加の皆さんが利用できるボランティアスタッフルームや、市民の皆さんが練習するためのスペースなど、市民の参加を応援する施設があればよいと考えます。
- 「市民の広場としての施設」としては、文化施設に興味がない人達もぶらりと遊びに来られるような場所になるための情報ライブラリーや図書の整備、おしゃれなカフェ・レストランを設置するといったことが挙げられると思います。
- 座・高円寺には「座・高円寺 1」「座・高円寺 2」「阿波おどりホール」という 3 つのホールがあります。なぜ 3 つのホールがあるかというと、市民の皆さんが鑑賞で楽しめるプロ仕様のホールとして、「座・高円寺 1」、アマチュアの皆さんが利用できるホールとして、「座・高円寺 2」、高円寺のまちで盛んな阿波踊りの練習に優先して使えるホールとして「阿波おどりホール」を造りました。
- また、アンリ・ファーブルという 60 席のおしゃれなカフェレストランが建物内にあります。子どもたちに遊びにきてもらうために絵本が 300 冊ほど置いてあり、いつ来ても読むことができます。また、毎週土曜には絵本の読み聞かせを行っています。
- また、空間の規模が大きければ、将来、メンテナンスや追加工事などのリノベーションを行うことで新しい施設に生まれ変われる可能性があります。

★☆★ひとことアンケートの一部をご紹介します★☆★

施設機能の具体的な使い方に話が進んできた。自分の興味ある施設の提案には、事前に色々調べておくことが大切／基本的な考え方、コンセプト。※前々回、名称として、「市民ホール」ではなく、例えば、「文化創造センター」という、話が出たが、この件、ちゃんと、出していくべき。単なる、市民会館の建て替え、ではない、というコンセプト、が出ているなら、これを、ちゃんと、告知していくべき。／迎える時代の中で映像（ニコニコ動画等）を利用してのステージ等がおこなわれていくであろう。そのような装置を組み合わせられる場所は、小ホールなのか、展示室なのか、移動パネルでは音がつながってしまう、のでは、困るであろう。展示では搬入口の大きさを大きく、お願いしたい。／第２小ホールの案が出ました。展示室との併用も可でしょう。そこにはロールバック式の椅子なら設置できますね！／カフェがいるいらないの話になったが、全体としてどう考えているのか気になった。／小ホールとはどうあるべきか、決定が難しいと感じた。

★☆★次回予告★☆★

◎第５回：10月23日（日曜日）午前10時から12時30分まで／場所：小田原市役所７階大会議室

「市民ホールに関する機能を考える！」

ミニレクチャー：桧森委員、勝又委員、伊藤委員

◎第６回：11月６日（日曜日）午前10時から12時30分まで／場所：小田原市役所３階全員協議会室

「市民ホール・運営や組織を考える！」

ミニレクチャー：桑谷委員

皆さんのご意見（ワークシートふせん）は別紙にてご紹介します。

ワークシートのふせん内容をご紹介します

1班

【客席】1000～1200 席　分割できる方法。700+500 とか中ホールを含められるように／舞台 1F 席は 20 列くらいにおさめる／1F と 2F の客席数の配分を！／客席の「イス」。それ自体の問題。デザイン etc。マトモなイスが必要／舞台はオーケストラ 100 人と合唱 200 人が入る広さを！！／席の前後のスペース余裕があると嬉しい。　・後ろから蹴られない　・遅れて来た人も楽に入れる　・(できれば)足を伸ばせる／客席の数、客席の割り振り？　1F と 2F、1F600～700、2F200～300／車いす席が端っこに(後ろに)おいやられないように／親子室(子どもが泣いても気にならない部屋)あると親子でも来られるし、回りの人も気にならない／介護者等の席を用意する／介護者等を呼ぶためのベスブールの必要性／親子観劇室、これは 1F うしろに／親子だけではなく、ホールに入れない(障がい者など)が見れる場所(モニター室でも OK)／ドアのそばにドア係が座る収納式イスを付けてほしい／子どもも見える席？イス？の配慮

【トイレ】出演者がトイレ等に迷わない配置を(南足柄のホールは困る、迷路)／トイレの数、女子トイレは男子の 3 倍は必要、是非／トイレはラック付き、ワンウェイのトイレで並ぶストレスのない数／だれもが美しいと思うトイレ(その状態の維持)／トイレは洋式のみにする、ウォッシュレットで／音姫　節水！

【楽屋】楽屋は和室を一カ所ほしい！(邦楽・日舞)スタイロタタミ可／楽屋は出演者が楽につかえるようにするから楽屋ですね／楽屋は舞台の真裏に。／楽屋の隣に練習室(鏡付きバーあり)／事務所(運営ルーム)

【ロビー・ホワイエ】ロビー等に展示室で不足する部分を展示できるように／ロビー・ホワイエに DVD 視聴のできる場を。市の所有する文化活動の DVD の活用、情報発信／ロビーのオープンとはどの範囲を具体的に言うのか？／ロビー・ホワイエに舞台のモニターを用意して欲しい／モニター　楽屋とロビー／ロビー、ホワイエの居心地、社交場としての機能を大切に／できればロビーにもピアノを置きたい、サロンコンサートとか(管理が大変かな？)／オペラ座のように休息時のいる場所の確保。2F 等茶房等もか／愛を語れるスペース／クロークはなし、お金の返ってくるロッカー設置、大・小(数？)／小田原城、お堀の櫻が見える場所を設定

【舞台】演劇のためにフライ、袖舞台がほしい。／大きな額縁を小さくするための設備(黒幕等)がほしい／ミュージカルなどを考えると間に 10 間、奥行 5 間、舞台袖 1 間半必要か！／搬入口、舞台袖(12m×12m)　片側 6 間取って下さい／設備　・振り落とし　・引き道具　・雪かご　・定式幕

【ピアノ庫・倉庫・収納】ピアノ保管庫と楽器保管庫(有料で OK)の設置を／ピアノ庫／楽器をしまう倉庫がほしい。／舞台道具の保管庫は広く(箱馬・平台・所作台・もうせん幕等)

【大ホール系機能】【活動・事業】プロの興業者が小田原へは行きたいと思うホールを！(稼働率 UP となる)／市民ミュージカル／オペラもやりたい。やって、ほしい。アーティストはいっぱいいるでしょ！(オペラハウスで、なく)／プロのバンド系ミュージシャンのコンサートをやって欲しい市民利用事業例　・市レベル-民族芸能大会(6 団体)　・県レベル-相模人形芝居大会レベル(5 団体)、県高校総合文化祭(出演団体 20くらい)　・関東大会レベル・全国規模-人形サミット(出演団体 20くらい)　／ファッションショーのできる。映像をバックにしてイベントの対応性！映像の立体化の対応【機能・諸室・設備】技術スタッフが専門的な人がほしい！！

【創造系・支援系機能】【機能・諸室・設備】練習だけにこだわらない発表もできる部屋(お客さんを呼べる部屋)／鏡とバー付きのレッスン室、床はリノリウムが敷けるように／搬入口側に広めの荷捌き場を／団体数の多い場合、楽屋に転用できる会議室をあまり遠くない場所に設けてほしい／舞台面と同じ広さのリハーサル室がとれれば／広いリハーサル室をつくり、そこで平土間の公演をできるようにする／吊具、掛具の充実。移動式の設置／電動パネル　移動できる照明　白壁をその都度メンテナンスできる／地下をリハーサル室に、音楽練習スタジオを作って欲しい、個人利用に数個／大きさが異なるものが複数必要／リハーサル室ではオーケストラの練習に随時使用したい／地下の利用、埋蔵物をそのままできる／30mセットバック、広場の活用、野外利用／野外展示の可能性／えっさホイの練習(30～50 人位)鏡・防音(防振も？)／小ホール 2、平土間。小ホール固定席にするのであれば可動客席はこちらで／100 人規模とし可動椅子にすれば利用率は UP するはず。／多目的にして　・舞台の可動　・椅子の可動　・ステージ　高さ 4m

【展示系機能】【活動・事業】アパレルの展示会、プレゼンテーション等の使用など、ステージショーのできるものが(例：ファッションショーなど)／小田原をアピールできるイベント　箱根をベースとしての宿泊のある全国的公募展／ギャラリー・スペースだから、色々なものが展示される(幅広いジャンル)インスタレーション、メディアアートにも対応可能であること／せっかくのフラットな空間なので、いろいろ使いたい。展示だけでなくワークショップとか／当然、バックルーム、バックヤード的なスペースは必要。エントランスがきっちり必要の全体のスペースデザイン／プロジェクター、インターネットの利用、youtube　の利用の展示。未来的利用されるであろうものを入れる。／展示室の入口の反対に搬入口。搬入口のところ、バックヤードまで車が入れる。／展示　・パネルの収容室を至近距離に　・照明設備の充実　・小ホールとの併用は問題がある！(機能が全く異なるため)／水場、展示会の水の供給　具の洗い、ゴミ等のバックヤードに

【機能・諸室・設備】展示スペースの400㎡は現数地のなかにホールと共用にとれますか？ホールと展示の各々の機能は別物と考えます／展示スペース、天井までの高さ、レーフレの高さ、ラリッフ○○○4m／・白(クリーム)の壁面の年に一度のメンテナンス　・分割できる可動式パネル　・展示室は白い壁と照明の美しさ必要／神奈川県下の大きな展示会(美術展、生け花展等の巡回を行う。スペースとしては 800㎡ぐらいといわれているが。／展示用のパネルは出入れが容易なこと(収納庫をどうするか)／展示パネル(可動壁)移動が楽なもの　市美展の準備本当に大変・・・。／展示物の搬入が容易にできること(100 号の絵、生け花)／様々な展示系のことが現在おこなわれています。展示台の設置を！／・工作室　・給湯室／アトリエ(作業所)作りかけのものを保管できるスペースあると利用者は楽／ワークショップができるスペースを隣に作る／簡易的な茶室のできる方法として→／放送設備　ステージ・プロジェクター・消化器

【小ホール系機能】【活動・事業】小ホールの利用内容を今後、しっかりと調査して客席の形状を決めてほしい！／何に使われるか？　-市民の発表会、-自主企画。両者のバランス？幅広い発想が増すと。柔軟に。／大ホール舞台と同程度の広さのリハーサル用空間は必要(大ホールの催事を妨げないため)それをどこに置くか？小ホール？創造系機能？／音楽のライブ、ダンス、ポエトリーリーディング、レクチャー etc、をドリンク片手に楽しむスペースを作りたい、ちょっとしたパーティーとかも。／市民の発表会　・ミュージカル　・ピアノ　・LIVE／①市民全体文化を保持できるのが小ホール　②全国に発進できるすばらしいホールというのが小ホール！　どちらかな／小ホールは演奏・演劇・集会用のために固定席にすべきです／平土間のホールは市の他の施設に多々あります。けやき、マロニエ、尊徳記念館等です。アリーナも可／小ホールの舞台のスペースを広くとればそこでイベント等の利用も可能でしょう【機能・諸室・設備】小ホールはこれからの若い人たちが活動できるよう、舞台技術のみのある箱がよいのでは／小ホールの奥行にもよるが、舞台の前に(客席のイスをしまって)舞台をたせる様に出来ないか！！／イスをはずして、前に舞台をつくれるようにしたい。前場を張り出す準備の設備は会館にある、但し手動)／小ホールの舞台袖広くしてほしい(演劇用)／映像とステージにおけるパフォーマンスのできる会場がこれから時代に必要！／多彩な演目が可能な「スペース」が必要。「単なる空間」でいい。／客席の形状をどうするか、固定席にすべきです。演奏演劇集会に使える(平土間はけやき・マロニエ等にあります)／独自の空間であるなら、「大ホールのミニ」である必要はない。ステージは演目で変化する。空間をどう使うか。／小ホールは固定イスで！ロールバックは反対です！／客席は資料にある「現段階ではホールタイプ、客席仕様は定めない」と本日のところはよいのでは！／小ホール楽屋、舞台袖広さ等は、ラディアン二宮を参考に！／小ホールとその他諸室との連携も重要！／小田原独自の特色を持った小ホールにできないか！／搬入口はフラットに。舞台と同じレベルに。／リハーサル室も小ホールとして考える。ホールは固定席、リハーサル室はフラット！／小ホールを2つ！客席 150！！(1 回公演だけでなく、公演回数が増える)／多目的ホール(リハ室)にも照明などを設置！(ホールとして使用の場合)／大ホールのミニ版である「小ホール」でした、舞台芸術(演劇・音楽 etc)ができないとは思わない。未来を考えたらスタティックな考えは NG であろう。もっと柔軟に考えていくべき。

【交流系機能】カフェスペース。美味しいコーヒー・ティーが飲めるスペース。交流の場として。空間、イス、テーブルカップ etc は良いデザインで。リーズナブルな料金で。それなりのフードもほしい。メニュー設定は？これはマストな「場」／情報発信、研究　・公式サイト～内容は？　・アーカイブ充実　・最新情報アウトプット　・フリーペーパー、フライヤー　・ポスターetc 紙媒体／小田原城に来た人が寄って「地場産物」を知る？買う？場所／ネット環境を整備する。U-st、ニコ動 etcにも対応可能であること(ただしコストがかかるが・・・)／団体登録や予約がなくても自由に使える 5～10 人くらいの打合せテーブルを複数(市役所談話ロビーのイメージ)／まちなか商店街とのからみ！(まちなか・ぶらり・ミュゼ)

【管理系機能】全体の進行を SPEED UP！2 倍速はムリだろうから、20%増くらいで。先の事はわからないので、早くやった方がいい。／リハーサル室(100 人)、小様習室(20 人)の設置を／演者のために食堂(レストラン)の設置(街へ出ての食事は時間的にキビシイ)／託児室、誰が管理するの！緊急事態発生時どの様な方法で親又は○○に連絡するか／託児室を作る。子と託児者が入れるゆったりしたもの。／託児室　はだし利用、くつを脱いで上がる部屋、トイレと手洗い場がある／駐車場関係者用とのこと、搬入の流れをつくる。多くの搬入者があるとき。／車寄せが必要／出演者・出品者以外の駐車場はいらない。

【その他】先進技術によるエコ対応施設←21 世紀のホール／エコを考えた空調／これのコンセプトは、単に、今の市民会館の、建て替えという発想ではない。という話が前回に(？)出ていたと思うが、／それを再確認、重要！／インターネットサービス等、IT 関係の設備／現在小田原市内での活性をしている方々との話し合いが必要ではないか。ホールを中心として周りの店とのつながりにおいて！／そもそも「市民ホール」という名称ではなくて、例えば「文化創造センター」という言葉を使う、という話が前々回出てたハズだが、それはどうなった？／有料公演もあり。それぞれがまとめられるように／野外展示スペース、野外ステージ／文連の視察会。神奈川県立芸術劇場→中華街？三浦のマグロ？／文化ふるさと基金を財源の基本基金とする／ホール運営の為の財団をつくりそこで運営する／専門・専任の職員が必要／スタッフルーム、技術部屋と市民用／外観デザイン(大・小ホール含む)「ガラス張り」外観一考されたい。／各種道具類～台車、脚立、平台、イス、テーブル etc・・・がそれなりに必要(数は？)電源は？延長コード類は？／建物全体の話。地上の高さは？地下も多いに利用。(地上の高さのモンダイ規制ってあるの？)

2班

【大ホール系機能】【活動・事業】人間の文化生活としての古典からの練習／多目的なホール／・市民オペラの開催　・海外歌劇場の引越し公演／座席の中を広く、出入りがしやすく／障がい者・高齢者の方も使いやすい場(舞台や客席、移動設備)／カルミナブラーナができるか／オーソドックスな劇場スタイルでよろしい／神奈川芸術劇場の 3 階席とバルコニーはこわかった／・第九　・マーラーの千人の交響曲　・ヴェルディのオペラをやりたい／オーケストラピットはいる、いらない？／バルコニー席はやめる

【機能・諸室・設備】イスのデザイン、長く座っていても疲れない／音楽演奏可能なホール／プロセニアム／地域の音楽コンクール(吹奏楽・合唱等)を実施できるシステム(現在は不可)／舞台裏に通路を作る、上下を自由に通れる／子どものための座席／充分なアーティストラウンジ(舞台左右及び背面の出待スペース)の確保／女性トイレは男性の 2 倍以上／吸音スペクトルの設計を→音楽分野で欲求が異なる／楽器庫／楽屋は大・小少なくとも 4 つ／機能で満載にするか／フルオケが充分乗れるステージの広さ／楽屋、リハーサル室にセミコンピアノ、アップライトピアノの設置／・袖舞台をやや広く／・ホリゾント裏が通路に共用するのはまずい／全席見切れのない席で／楽屋(大 2、中 2、小 2)のほか、シャワー室、リハーサル室、給湯室、洗濯室／クロークの設置／上手・下手の移動通路／完全な暗闇のつくれる舞台→非常灯との関係／フライタワーを低くしてほしい、景観上、予算上／舞台間口 10 間、袖 4～5 間、奥行 8～10 間以上／小オペラ程度に限定、オーケストラピット的なものがいるか？データーを

【創造系・支援系機能】【活動・事業】練習場を 3 つ以上欲しい、ピアノ・バレー等／合唱のまち小田原

【機能・諸室・設備】インターネットができるスペース／演劇の練習用ホール／音楽用の練習用ホール／自由な空間／練習室は大・中・小で。各室にピアノを／演劇の発表もできる練習室／市民によるサロンコンサートが可能にする／全音スタジオ／ピアノの練習室、個人

【展示系機能】【活動・事業】ワークショップ、子どもの木工教室

【機能・諸室・設備】現代アートのための機能　自由な配線、自由に変えられる／展示のための搬入口／自由な可動式パーテーション／美術館機能は別にする→学芸員／天井から自由につるせる／・仕切りをしやすい　・作り変えをやりやすい施設／100 号充分に入る、高さ 4m／シンプルな形／展示室入口はホール入口とは別に設ける／つり、フックわりだし、すべての三次元空間に物体の固定できる設備

【小ホール系機能】【活動・事業】各種リサイタル、小編成合奏等のコンサート／アコースティックな音楽用ホールで人を集められる／演劇・音楽の両立する 70%の多目的ホール／演劇をやりたい。そのための小ホールが望ましい。／音楽用・室内楽用、アコースティックの良いホール

【機能・諸室・設備】何でもできる平土間／アコースティックホール(生音専門)／劇場型小ホールならば諸舞台関係の発表会は喜ばれるだろう／多目的ホール形態は展示室と兼ねない方が良い／アコースティックの優れた音楽用ホールを要求／固定段床の客席／楽屋(大 1、中 2、小 2)とシャワー室／新しい文化志向に自由に使われる未来構想も小ホール形態には必要な検討を望む／女性トイレは男性用の 2 倍以上／固定椅子　段床式　多目的／専用の搬入口を設置／映像設備／展示との兼用はしない／調光室、音響室は欲しいです

【交流系機能】アーカイブ　ライブラリー機能／カフェ　交流サロン／託児所　ベッド／メモリアル空間／大きな機能分担→美術館機能／自然な建築(石組の外かべ)古くなることによって美の増す建築。内装は木の感覚、ディティールの設計(箱根細工等)／庭園と植栽との一体性。公演としての設計を先にして・・・／ディティールの統一、木の感覚、地場の材料、伝統技法を活かす／全体として～風の建築　、メインの公演内容との統一

【管理系機能】地下は地下水があるので GL は／電動でなく手引きの設備／電気・配管などの直しやすい「躯体」／会議室／救護室(簡易ベッド等設置)

【その他】外観のコンセプト／なるべく外観は低く／こんな事をやる←→こんな設備　この議論のすすめ方で良いか／簡易ベッド／楽屋とホールの有機的な配置／お金を極力かけない／救護室ベッド／お金をかけない、大理石等は使わない／大きな美術的コンセプトを早めに決定したい

3班

【舞台】字幕設備が必要／字幕スーパー
【ホール】内装は木質系が良い（雰囲気として）／ホールトーンの考え方だが、音響設備だけでは解決できまい。特に冬場の厚着はタブーなのでクロークをしっかり。／木象嵌や寄木細工などの床に使う
【楽屋】楽屋まわりに音出しできるスペースが欲しい（ピアノ付き）／近代的な楽屋が必要。大、中、小／シャワー室／練習室／楽屋毎で室温調整して使いたい／タタミの楽屋
【ロビー】ホールロビーはゴージャスに？美味しいワインを飲みたいネ！／ミュージアムショップ／休憩室、喫茶コーナー／ロビー以外にもお客様の待機できるスペース／50～100席程度のカフェ（駅前はレストランは多いが、カフェはそれ程多くない／案内所キップ売場
【搬入】大道具、小道具、人の動線を考えた搬入口にする／舞台後方からの搬入／搬入・搬出に必要な間口と搬入路の確保が必要
【舞台設備】簡易的なオペラができる設備は欲しい。そうなるとオケピットは必要か？／舞台装置　舞台機構の充実
／オーケストラピット／客席、舞台までの距離が近いとよい／設備の更新しやすい／映写設備（プロジェクター）／音をきれいに聞きたいし、少しの揺れでも集中をさまたげられるため、固定席が良い
【座席】座席の前後をゆったりとってほしい／＋α高級感のあるもの／メンテナンスしやすい材質の座席にしてほしい。／車いす、ベビーカースペース／車いす対応の席が必要／座席はチドリ／バルコニー
【大ホール系機能】【活動・事業】オーケストラ、オペラ等音楽会は劇場には大ホールが必要／NHK 紅白歌合戦などライブ、あるいは TV 鑑賞／演劇の公演（プロもアマも）コンサートなど／小田原でオペラ／若い世代を対象としたコンサート／市民参加できる各種ワークショップ／チャリティーコンサート／ひらかれた市民ホール
【機能・諸室・設備】音楽フェスティバル／ミュージックストリートのような市民の音楽イベントの会場にもなる／映画会（映画祭）／本物を鑑賞できる／ファッションショーなども／子ども達が本物の生の舞台・音楽を鑑賞できる／車いす対応客席は 20 台以上必要ではないか／メインホール、大楽屋 1 室、中楽屋 2 室、小楽屋 2 室、楽屋事務室、専用入口、アーティストラウンジ／吊りもの設備は動力式が良い（事故数や人件費用をかんがえて）／子ども用いすがホールにほしい／「クローク機能」上下式もしくは回転式のハンガーは便利で小スペースで事足りるかも／オーケストラピットは掘込み式で良い（スペースと費用のことから考えて）
【創造系・支援系機能】【活動・事業】リハーサル必要／会議や打合せ／スタジオが必要／各種の公演が開催されていない時に良い音楽をオーディオで試聴できる所が欲しい。／劇団との打ち合わせ用会議室／茶会ができると言い／美術サークル活動　・絵画教室　・デッサン会／会議室+練習室+スタジオをトータルで考える
【機能・諸室・設備】円卓型会議室／広いロビー／←平日は販売できるテントを出したり、パフォーマーがパフォーマンスできたりしてにぎわいにつながる／主催者控え室は会議室兼用とする／会議室の総数、総面積／リハーサル室、スタジオが必要／体調を悪くされた方が一時的に休めるスペース、ベッド／おもちゃ、絵本など備えた託児室／授乳室が欲しい／託児室があると助かる／託児（一時預かり）民間だと工学なので 500 円程度で／アトリエ・工作室、美術と舞台美術の制作にも利用／休憩室も設置されると良い。具合の悪くなられたお客様・利用者全般用。たたみが良い。／大きな荷物などを入れるためのロッカー、お客様用／劇場専用できれば各ホール毎　託児ルームプロのスタッフ常駐無料で利用できる／親劇等の目的でなくても市民がふらっと入れるフリースペースがあると良い／演者の宿泊できる部屋／防音・防震／「防音ですが」カベだけでなく、厚手のカーテンで吸音できることで少しは解決できるかも
【展示系機能】【活動・事業】会議、ワークショップ、子どもの参加／学校の書道や小田原ちょうちんの展示／神奈川県内の巡回展／市民ホール展示室を会場に加え、久野・片浦の丘陵地帯でアートフェアを展開／ダンスの練習室にも使える鏡、バー／美術館・市民ギャラリーとしての位置づけ、学芸員を置き自主企画を開催して欲しい／小ホールと展示ホールをケースバイケースで「シェア」する（使用・利用）する方法考える／バックヤード 200 ㎡（作品の一時保管、審査 etc）／床は木で考えて欲しい
【機能・諸室・設備】小会場向け作品ができるよう天井を高く暗室にできる／平面作品用の展示パネルは上質のモノで永く使用できるのが良い／展示物のサイズを問わず、良い照明環境は天井全体が柔らかい間接照明が理想。スポットは移動式で！／木のフローリング／いろんな展示に対応できる移動壁／集中できる、静かにできるシステムを作る／展示物によっては入場を規制する／天井高（平塚美術館位の高さがあればよいと思う）／展示スペースでの発表（演劇・人形劇・音楽）できる工夫。平土間、ひな段の運び込み、壁にカーテン（暗幕としての）／床・壁は汚れに強い素材を使ってください／←汚しても汚れを落としやすい／安らぎを与える空間造りの作成
【小ホール系機能】【活動・事業】小ホール、展示室の用途を共有することがらばかり考えず、芝居・音楽・展示、それぞれに特化したスペース作りから発展した共有性を考えたい／固定席とロールバックでどちらがそれぞれ音楽・演劇に有利か／小劇場向け作品（人形劇・コンサート）／市民が使いたい時に利用しやすいシステム。積極的な市民参加／小中学校の利用、えっさホイの練習、市民サークルの利用／子どもたちが本物を鑑賞できる事業（演劇・音楽両方）／小規模での音楽会、演劇会／「発表会」などで気軽に使える。／歌（室内楽）／映画会（映画祭）／Pf、Vn、弦楽（室内楽）／「小ホール」大ホールでは出来ない小編成のジャンルを問わないコンサートを、良質の音場域を創設してほしい／幼稚園や学校に使用してもらう
【機能・諸室・設備】平土間になる可動収納席／映写設備（プロジェクター）／舞台装置設備／小ホール専門の搬入口が必要／ロールバック式の設備が不安／固定段床の客席だといい（広く手軽に芝居が出来る空間がほしいから）／"芝居小屋"として演出できる空間だといい。小田原に芝居小屋を！！／ロールバックにして打上げスペース確保／可動席にするなら絶対にガタつかないもので／内装、寄木細工風／設備の軽量化、照明、音響パネル、座席、etc／小ホール用にロビーとして使えるスペース／楽屋の近くに音出しできるスペースが欲しい（ピアノ付き）／音楽を楽しむ内装は木質系が良い（雰囲気として）／空間を保つメンテナンスしやすい壁にする／楽器を収納する場所／楽屋毎に室温調整できること／楽屋、近代的、給湯室／展示の利用を考えて、移動パネルを用意して欲しい。／小ホールの・楽屋、中 2、小 2、楽屋事務室、専用入口。近くにスタジオが欲しい。大ホール近くではスペースがとれないから。
【交流系機能】演者としての障がい者の対応／打上げの出来る場所／市民ホールで行った催し物やその際に用意、使用した設備を、見ることができる PC および書室←川口にあるメディア・・・（名前忘れ）の成功例／客席階段の巾　・90cm以上　・高さ（階段）18cm以下　・イスの巾　50cm必要／カフェ・レストランがほしい／演劇の台本などを読みながらくつろげるカフェ／芸術に関するライブラリー／ミュージアムショップ／カフェ／情報ライブラリー／カフェコーナーの充実を願う。東京・横浜などのオシャレ感を！（東京・横浜に行かなくても）／市民を中心とした作家や芸術家の作品を常設できるスペース　期間を区切ったフリーマーケット機能／玄関はロビーでオープンなサロンコンサート等ができる。お茶も飲みながら外から見える。
【管理系機能】大道具の収納場所を設置／大道具の操作室の場所、上から下へ／ホール全体の冷暖房ではなく客席の背面に空調をつける
【その他】スロープ／女性用トイレ（新橋演舞場並）／女子トイレを増設すること。トイレに鏡をつけないことで、使用時間が短縮され混雑しないだろう／傘をホール内に持ち込ませず（空調的にも不可）外で処理したい／入口まわり　会場前に並ぶ列を納めるスペースを十分に／駅から市民ホールへのアクセス、通りの整備、街路樹等必要

4班

【大ホール系機能】【活動・事業】プロ・アマチュア、演劇・音楽の団体に来てもらうため／舞台の広さ　70　人オケぐらい、200　人合唱団／映画の上演　・映画会　・自主上映／市民の文化活動の発表の場　・音楽フェスティバル　・小田フィル　・こゆるぎ座　・映画祭／様々な演目に対応するため／ロビー広く　休憩時間にくつろげる、話しができる／質の高いものを観たい、聴きたい、プロをよべるホール／稼働率のよい大ホールが良い
【機能・諸室・設備】搬入口袖直結／舞台の広さ　合唱祭でも対応できる／親子席（キッズルーム）／トイレ　男性と女性で左右は分けて、女性がトイレの前に並ぶ姿をみせないようにする。女性の個室の数を増やす。／リハーサル室の整備（大ホールの稼働率をよくする為に）／音響反射板　音楽にも演劇にも対応できるもの／託児室（必要のない時は別の目的で使用可とする／授乳室／左右対称のオーソドックスなシューボックス型／スクリーンプロジェクター／大きな楽器の倉庫／活動団体が自由に使えるロッカー・倉庫（予約制）／出演者用のトイレ・水場
【創造系・支援系機能】【活動・事業】コスプレイベント　写真撮影会／リハーサル室のマルチ利用を考える／300 ㎡くらい／窓のある展示室
【機能・諸室・設備】マルチメディアルーム→映像の加工／市民が使える　・工作室　・美術室　・アトリエ／リハーサルと展示のできる多目的ホールが必要／すぐ来てすぐ使える／若い人が気軽に使えるスタジオ、ライブにも使える／若い人がお金をかけずに発表もできる場所に／余裕のあるバックヤード／マルチスペースをつくる。リハーサル、小ホールで平土間利用しない人も使える。展示もスタジオ公演もできる。／マルチスペースは最低、大ホールの舞台と同じ大きさが必要／マルチスペースを作れば小ホールの可動席はいらない。固定席。よって、初期投資、年間のランニングコスト、メンテナンス代が節約できる。
【展示系機能】【活動・事業】作家・作品の魅力に触れる　・トークショー　・参加型ワークショップ／外部の人を呼べる、展示もできる／今度、市民が広く文化にふれる場所にしたい／・年に何回かお金がとれる　・お金をかけずにする／いつも何かが展示されていて行ってみたくなる／ロビー内にも作品の展示をできるようにする／現代アートを楽しみたい／お子さん向けワークショップ／楽しいアートの魅力にふれられるイベント（公開アトリエ　ワークショップ）／あまりお金をかけずに文化にふれられるスペースになる
【機能・諸室・設備】搬入口　床しっかり　照明／ガラス張りの外壁とし、歩いている人も絵画・彫刻などがみられる工夫／ライブラリーコーナー／小田原伝統の作品の展示／現代アート、人がよべるもの／天井の吊り作品可能な機能／日常的に誰もが自由に居られる場所としたい／一年中展示で埋まっている、にぎわいのある文化の空間となるようにしたい。／インターネットの為の配線／ワークショップのスペース／図書館機能をもつスペース／水場が必要／ミュージアムショップ／作品保護の為の空調、照明設備を／充分な高さの確保、4m／床材は木で！
【小ホール系機能】【活動・事業】音楽会・演劇発表会（質の高いものを！）／小ホールでも良質なものなら人を呼べる／外国の文化を発表、体験する空間／子どもたちに古典芸能を鑑賞させたいという使命／映画会　・プロジェクター／展示スペースとしての機能も合わせもつのは／市民が気軽に使える施設になる／ワークショップ　子どもに本物を
【機能・諸室・設備】小ホール固定席　舞台の可能性はリハーサルルームでやればいい／固定席で（県西地区できちんとした固定席のある小ホールはない。だから造ろう！／県西地域にまともな小ホールはひとつもない、固定席で。平土間利用はけやきホール、リハーサルルームを使えばいい。／平土間で使うならけやきなど他の場所を使えば良いのではないか／可動椅子で平土間やホールにも対応できる／市民が幅広く使えるように多目的の平土間に／大ホール（固定）小ホール（固定）多目的室を設け、平土間での活動を保障していく。／200～300 席固定席が良い→ただし 300 ㎡以上、マルチで使える可動式平土間の部屋を充実することが条件／小ホール、多くの市民の活用しやすいことを大事に／将来を見越して、自由なスペースで活用を広げたい／演劇・音楽のため集中できる固定席がいい／固定席の小ホールをつくれば、小田原だけでなく、県西地域からも利用者が現れ稼働率が上がる／映像など多用な展示に対応できるように
【管理系機能】展示作品、音楽機材の搬入確保、エレベーター／将来を見越したバックヤードの確保をする（地下でも可）／充分なバックヤード確保／駐車場（別の場所でも良いので確保がほしい）
【交流系機能】用事がなくても寄りたくなるホール　・ショップ　・カフェ／多言語での文化事業案内所／トイレ　・狭すぎない　・化粧室・更衣室　・バリアフリー／お城の景観と一体化（ホワイエ・カフェ）／地域との連携の企画／楽屋にたたみ部屋があると多用に活用できる
【その他】駐車場があると便利（外部の人を呼べる）／広い、多い駐車場／自然エネルギーを使って自家発電、風車、太陽光パネル／遊び心がある建物／小田原の森の気をできるだけ使ってほしい。木の文化の発信地になる。小田原らしいホールに！小田原ちょうちんなど／市の窓口コーナーがあるとよい。／交流もでき、ゆったりとしたスペース車いす可

5班

【大ホール】大ホール（視覚）階段、車いす、足の不自由　①スロープを作ってほしい②トイレの入口、動線複雑、二人で通る、入りやすいトイレ／席から舞台に車いすは上がれるのか→そのままは難しいか・・・廊下なら可能！／暗い時、スロープは危ないので、席と通路の間が分かりやすいようにライトがほしい／席の間が空いていた方が動きやすい／中間に取り外し可能なイスがほしい　/・車いすの場所が両端になってしまっている。　・できれば、横一列自由なものがほしい。／ホールの入口　スロープの位置を分かりやすい所に／席を取り外した後のフロアーをフラットに／電動振動型のイスを用意してほしい／大ホール客席の階段、手すりが必要。
【機能】調理ができるとよい／会議室がほしい／授乳室は別室であった方がいい／公衆の FAX があるといい／地下駐車場があるといい
【エレベーター】エレベーターは車いすで使いやすく、20 人以上の広さ／エレベーターの設置は必要／緊急用エレベーター（舞台の搬入用）／1 つは大きめ（20 人以上）のエレベーターを／エレベーターの設置は必要、ドアが厚いのでなく透明！！／エレベーターの満室が分かるランプ（文字）がほしい（ブザーが聞こえない）／エレベーターはわかりやすいところに／担架が入るような緊急ルートを必要とする
【トイレ】裏方にも多目的トイレを／トイレのバルブの位置、2 カ所あると便利／トイレの入口は電動にしてほしい、ステップ幅がほしい／高齢介護課の前のトイレがよい／多目的は最低 2 つほしい（男女区別なしで 2 つの方がいい）／トイレは車いすで直進して入れるように／・入った先にトイレ　・入った横にトイレ　見えにくいように（車いす・・・）／トイレの中におむつ交換ベッド（大人）／トイレにいくところに段差ないように／多目的というよりみんなのトイレ／WC　和式と洋式の表示があるとよい。／ボタンの位置等、利用者の声を反映させてほしい／トイレのスイッチが統一されているといい
【段差などの対応】スロープはわかりやすいところに／階段の踊り場に鏡を（音が聞こえない）／雨の時などに停められる駐車スペースが段差なし／複雑ではなく段差・階段がないように／フラットな形で作ってほしい／車寄せのあたりも段差がないように／事務室なども車いす対応を／段差のふちに目印をつけてほしい。ホールだけでなく、弱視の方には必要／地震の際には避難経路がしっかりと／音声案内、入口の案内
【字幕など】字幕は前に入った方がいい／聴覚。高齢者の方のことを考えると字幕は必要／要約・筆記のスペースがあるといい／将来的には ipad を個々に貸して字幕対応／字幕上演の日は決定してチケットを販売／字幕の対応はプロジェクターで映す（上手・下手）→その場で打って 10 回に 1～2 回／事前に情報を提供して本番を！（ソフト面）／最新は、前の席に字幕が出る、全席にある。

第3・4回市民検討委員会ふせん内容

資料3

1班
【客席】
1000～1200席　分割できる方法。700+500とか中ホールを含められるように
舞台1F席は20列くらいにおさめる
1Fと2Fの客席数の配分を！
客席の「イス」。それ自体の問題。デザインetc。マトモなイスが必要
舞台はオーケストラ100人と合唱200人が入る広さを！！
席の前後のスペース余裕があると嬉しい。　・後ろから蹴られない　・遅れて来た人も楽に入れる　・(できれば)足を伸ばせる
客席の数、客席の割り振り？　1Fと2F、1F600～700、2F200～300
車いす席が端っこに(後ろに)おいやられないように
親子室(子どもが泣いても気にならない部屋)あると親子でも来られるし、回りの人も気にならない
介護者等の席を用意する
介護者等を呼ぶためのベスプールの必要性
親子観劇室、これは1Fうしろに
親子だけではなく、ホールに入れない(障がい者など)が見れる場所(モニター室でもOK)
ドアのそばにドア係が座る収納式イスを付けてほしい
子どもも見える席？イス？の配慮
【トイレ】
出演者がトイレ等に迷わない配置を(南足柄のホールは困る、迷路)
トイレの数、女子トイレは男子の3倍は必要、是非
トイレはフラック付き、ワンウェイのトイレで並ぶストレスのない数
だれもが美しいと思うトイレ(その状態の維持)
トイレは洋式のみにする、ウォッシュレットで
音姫　節水！
【楽屋】
楽屋は和室を一カ所ほしい！(邦楽・日舞)スタイロタタミ可
楽屋は出演者が楽につかえるようにするから楽屋ですね
楽屋は舞台の真裏に。
楽屋の隣に練習室(鏡付きバーあり)
事務所(運営ルーム)
【ロビー・ホワイエ】
ロビー等に展示室で不足する部分を展示できるように
ロビー・ホワイエにDVD視聴のできる場を。市の所有する文化活動のDVDの活用、情報発信
ロビーのオープンとはどの範囲を具体的に言うのか？
ロビー・ホワイエに舞台のモニターを用意して欲しい
モニター　楽屋とロビー
ロビー、ホワイエの居心地、社交場としての機能を大切に
できればロビーにもピアノを置きたい、サロンコンサートとか(管理が大変かな？)
オペラ座のように休息時のいる場所の確保。2F等茶房等もか
愛を語れるスペース
クロークはなし、お金の返ってくるロッカー設置、大・小(数？)
小田原城、お堀の櫻が見える場所を設定
【舞台】
演劇のためにフライ、袖舞台がほしい。
大きな額縁を小さくするための設備(黒幕等)がほしい
ミュージカルなどを考えると間に10間、奥行5間、舞台袖1間半必要か！
搬入口、舞台袖(12m×12m)　片側6間取って下さい
設備　・振り落とし　・引き道具　・雪かご　・定式幕
【ピアノ庫・倉庫・収納】
ピアノ保管庫と楽器保管庫(有料でOK)の設置を
ピアノ庫
楽器をしまう倉庫がほしい。
舞台道具の保管庫は広く(箱馬・平台・所作台・もうせん幕等)
【大ホール系機能】
[活動・事業]

プロの興業者が小田原へは行きたいと思うホールを！（稼働率UPとなる）
市民ミュージカル
オペラもやりたい。やって、ほしい。アーティストはいっぱいいるでしょ！（オペラハウスで、なく）
プロのバンド系ミュージシャンのコンサートをやって欲しい
市民利用事業例　・市レベル-民族芸能大会（6団体）　・県レベル-相模人形芝居大会レベル（5団体）、県高校総合文化祭（出演団体20くらい）　・関東大会レベル・全国規模-人形サミット（出演団体20くらい）
ファッションショーのできる。映像をバックにしてイベントの対応性！映像の立体化の対応
[機能・諸室・設備]
技術スタッフが専門的な人がほしい！！
【創造系・支援系機能】
[機能・諸室・設備]
練習だけにこだわらない発表もできる部屋（お客さんを呼べる部屋）
鏡とバー付きのレッスン室、床はリノリウムが敷けるように
搬入口側に広めの荷捌き場を
団体数の多い場合、楽屋に転用できる会議室をあまり遠くない場所に設けてほしい
舞台面と同じ広さのリハーサル室がとれれば
広いリハーサル室をつくり、そこで平土間の公演をできるようにする
吊具、掛具の充実。移動式の設置
電動パネル　移動できる照明　白壁をその都度メンテナンスできる
地下をリハーサル室に、音楽練習スタジオを作って欲しい、個人利用に数個
大きさが異なるものが複数必要
リハーサル室ではオーケストラの練習に随時使用したい
地下の利用、埋蔵物をそのままできる
30mセットバック、広場の活用、野外利用
野外展示の可能性
えっさホイの練習（30～50人位）鏡・防音（防振も？）
小ホール2、平土間。小ホール固定席にするのであれば可動客席はこちらで
100人規模とし可動椅子にすれば利用率はUPするはず。
多目的にして　・舞台の可動　・椅子の可動　・ステージ　高さ4m
【展示系機能】
[活動・事業]
アパレルの展示会、プレゼンテーション等の使用など、ステージショーのできるものが（例：ファッションショーなど）
小田原をアピールできるイベント　箱根をベースとしての宿泊のある全国的公募展
ギャラリー・スペースだから、色々なものが展示される（幅広いジャンル）インスタレーション、メディアアートにも対応可能であること
せっかくのフラットな空間なので、いろいろ使いたい。展示だけでなくワークショップとか
当然、バックルーム、バックヤード的なスペースは必要。エントランスがきっちり必要の全体のスペースデザイン
プロジェクター、インターネットの利用、youtubeの利用の展示。未来的利用されるであろうものを入れる。
展示室の入口の反対に搬入口。搬入口のところ、バックヤードまで車が入れる。
展示　・パネルの収容室を至近距離に　・照明設備の充実　・小ホールとの併用は問題がある！（機能が全く異なるため）
水場、展示会の水の供給、洗い、ゴミ等のバックヤードに
[機能・諸室・設備]
展示スペースの400㎡は現敷地のなかにホールと共用にとれますか？ホールと展示の各々の機能は別物と考えます
展示スペース、天井までの高さ、レーフレの高さ、ラリッフ〇〇〇4m
・白（クリーム）の壁面の年に一度のメンテナンス　・分割できる可動式パネル　・展示室は白い壁と照明の美しさ必要
神奈川県下の大きな展示会（美術展、生け花展等の巡回を行う。スペースとしては800㎡ぐらいといわれているが。
展示用のパネルは出入れが容易なこと（収納庫をどうするか）
展示パネル（可動壁）移動が楽なもの　市美展の準備本当に大変・・・。
展示物の搬入が容易にできること（100号の絵、生け花）

様々な展示系のことが現在おこなわれています。展示台の設置を！
・工作室　・給湯室
アトリエ(作業所)作りかけのものを保管できるスペースあると利用者は楽
ワークショップができるスペースを隣に作る
簡易的な茶室のできる方法として→
放送設備　ステージ・プロジェクター・消化器
【小ホール系機能】
[活動・事業]
小ホールの利用内容を今後、しっかりと調査して客席の形状を決めてほしい！
何に使われるか？　-市民の発表会、-自主企画。両者のバランス？幅広い発想が増すと。柔軟に。
大ホール舞台と同程度の広さのリハーサル用空間は必要(大ホールの催事を妨げないため)それをどこに置くか？小ホール？創造系機能？
音楽のライブ、ダンス、ポエトリーリーディング、レクチャーetc、をドリンク片手に楽しむスペースを作りたい、ちょっとしたパーティーとかも。
市民の発表会　・ミュージカル　・ピアノ　・LIVE
①市民全体文化を保持できるのが小ホール　②全国に発進できるすばらしいホールというのが小ホール！　どちらかな
小ホールは演奏・演劇・集会用のために固定席にすべきです
平土間のホールは市の他の施設に多々あります。けやき、マロニエ、尊徳記念館等です。アリーナも可
小ホールの舞台のスペースを広くとればそこでイベント等の利用も可能でしょう
[機能・諸室・設備]
小ホールはこれからの若い人たちが活動できるよう、舞台技術のみのある箱がよいのでは
小ホールの奥行にもよるが、舞台の前に(客席のイスをしまって)舞台をたせる様に出来ないか！！
イスをはずして、前に舞台をつくれるようにしたい。前場を張り出す準備の設備は会館にある、但し手動)
小ホールの舞台袖広くしてほしい(演劇用)
映像とステージにおけるパフォーマンスのできる会場がこれからの時代に必要！
多彩な演目が可能な「スペース」が必要。「単なる空間」でいい。
客席の形状をどうするか、固定席にすべきです。演奏演劇集会に使える(平土間はけやき・マロニエ等にあります)
独自の空間であるなら、「大ホールのミニ」である必要はない。ステージは演目で変化する。空間をどう使うか。
小ホールは固定イスで！ロールバックは反対です！
客席は資料にある「現段階ではホールタイプ、客席仕様は定めない」と本日のところはよいのでは！
小ホール楽屋、舞台袖広さ等は、ラディアン二宮を参考に！
小ホールとその他諸室との連携も重要！
小田原独自の特色を持った小ホールにできないか！
搬入口はフラットに。舞台と同じレベルに。
リハーサル室も小ホールとして考える。ホールは固定席、リハーサル室はフラット！
小ホールを2つ！客席150！！(1回公演だけでなく、公演回数が増える)
多目的ホール(リハ室)にも照明などを設置！(ホールとして使用の場合)
大ホールのミニ版である「小ホール」でした、舞台芸術(演劇・音楽etc)ができないとは思わない。未来を考えたらスタティックな考えはNGであろう。もっと柔軟に考えていくべき。
【交流系機能】
カフェスペース。美味しいコーヒー・ティーが飲めるスペース。交流の場として。空間、イス、テーブルカップetcは良いデザインで。リーズナブルな料金で。それなりのフードもほしい。メニュー設定は？これはマストな「場」
情報発信、研究　・公式サイト～内容は？　・アーカイブ充実　・最新情報アウトプット　・フリーペーパー、フライヤー　・ポスターetc紙媒体
小田原城に来た人が寄って「地場産物」を知る？買う？場所
ネット環境を整備する。U-st、ニコ動etcにも対応可能であること(ただしコストがかかるが・・・)

団体登録や予約がなくても自由に使える5～10人くらいの打合せテーブルを複数（市役所談話ロビーのイメージ）
まちなか商店街とのからみ！〈まちなか・ぶらり・ミュゼ〉
【管理系機能】
全体の進行をSPEED UP！2倍速はムリだろうから、20%増くらいで。先の事はわからないので、早くやった方がいい。
リハーサル室（100人）、小練習室（20人）の設置を
演者のために食堂（レストラン）の設置（街へ出ての食事は時間的にキビシイ）
託児室、誰が管理するの！緊急事態発生時どの様な方法で親又は●●に連絡するか
託児室を作る。子と託児者が入れるゆったりしたもの。
託児室 はだし利用、くつを脱いで上がる部屋、トイレと手洗い場がある
駐車場関係者用、搬入の流れをつくる。多くの搬入者があるとき。
車寄せが必要
出演者・出品者以外の駐車場はいらない。
【その他】
先進技術によるエコ対応施設←21世紀のホール
エコを考えた空調
これのコンセプトは、単に、今の市民会館の、建て替えという発想ではない。という話が前回に（？）出ていたと思うが、それを再確認、重要！
インターネットサービス等、IT関係の設備
現在小田原市内での活性をしている方々との話し合いが必要ではないか。ホールを中心として周りの店とのつながりにおいて！
そもそも「市民ホール」という名称ではなくて、例えば「文化創造センター」という言葉を使う、という話が前々回出てたハズだが、それはどうなった？
有料公演もあり。それぞれがまとめられるように
野外展示スペース、野外ステージ
文連の視察会。神奈川県立芸術劇場→中華街？三浦のマグロ？
文化ふるさと基金を財とする
ホール運営の為の財団をつくりそこで運営する
専門・専任の職員が必要
スタッフルーム、技術部用と市民用
外観デザイン（大・小ホール含む）「ガラス張り」外観一考された。
各種道具類～台車、脚立、平台、イス、テーブルetc・・・がそれなりに必要（数は？）電源は？延長コード類は？
建物全体の話。地上の高さは？地下も多いに利用。（地上の高さのモンダイ規制ってあるの？）

2班
【大ホール系機能】
[活動・事業]
人間の文化生活としての古典からの練習
多目的なホール
・市民オペラの開催　・海外歌劇場の引越し公演
座席の中を広く、出入りがしやすく
障がい高齢者の方も使いやすい場(舞台や客席、移動設備)
カルミナブラーナができるか
オーソ・ドックスな劇場スタイルでよろしい
神奈川芸術劇場の3階席とバルコニーはこわかった
・第九　・マーラーの千人の交響曲　・ヴェルディのオペラをやりたい
オーケストラピットはいる、いらない？
バルコニー席はやめる
[機能・諸室・設備]
イスのデザイン、長く座っていても疲れない
音楽演奏可能なホール
プロセニアム
地域の音楽コンクール(吹奏楽・合唱等)を実施できるシステム(現在は不可)
舞台裏に通路を作るm上下を自由に通れる
子どものための座席
充分なアーティストラウンジ(舞台左右及び背面の出待スペース)の確保
女性トイレは男性の2倍以上
吸音スペクトルの設計を→音楽分野で欲求が異なる
楽器庫
楽屋は大・小少なくとも4つ
機能で満載にするか
フルオケが充分乗れるステージの広さ
楽屋、リハーサル室にセミコンピアノ、アップライトピアノの設置
・袖舞台をやや広く
・ホリゾント裏が通路に共用するのはまずい
全席見切れのない席で
楽屋(大2、中2、小2)のほか、シャワー室、リハーサル室、給湯室、洗濯室
クロークの設置
上手・下手の移動通路
完全な暗闇のつくれる舞台→非常灯との関係
フライタワーを低くしてほしい、景観上、予算上
舞台間口10間、袖4～5間、奥行8～10間以上
小オペラ程度に限定、オーケストラピット的なものがいるか？データーを
【創造系・支援系機能】
[活動・事業]
練習場を3つ以上欲しい、ピアノ・バレー等
合唱のまち小田原
[機能・諸室・設備]
インターネットができるスペース
演劇の練習用ホール
音楽用の練習用ホール
自由な空間
練習室は大・中・小で。各室にピアノを
演劇の発表もできる練習室
市民によるサロンコンサートが可能にする
全音スタジオ
ピアノの練習室、個人
【展示系機能】
[活動・事業]
ワークショップ、子どもの木工教室

[機能・諸室・設備]
現代アートのための機能　自由な配線、自由に変えられる
展示のための搬入口
自由な可動式パーテーション
美術館機能は別にする→学芸員
天井から自由につるせる
・仕切りをしやすい　・作り変えをやりやすい施設
100号充分に入る、高さ4m
シンプルな形
展示室入口はホール入口とは別に設ける
つり、フックわりだし、すべての三次元空間に物体の固定できる設備
【小ホール系機能】
[活動・事業]
各種リサイタル、小編成合奏等のコンサート
アコースティックな音楽用ホールで人を集められる
演劇・音楽の両立する70%の多目的ホール
演劇をやりたい。そのための小ホールが望ましい。
音楽用・室内楽用、アコースティックの良いホール
[機能・諸室・設備]
何でもできる平土間
アコースティックホール(生音専門)
劇場型小ホールならば諸舞台関係の発表会は喜ばれるだろう
多目的ホール形態は展示室と兼ねない方が良い
アコースティックの優れた音楽用ホールを要求
固定段床の客席
楽屋(大1、中2、小2)とシャワー室
新しい文化志向に自由に使われる未来構想も小ホール形態には必要な検討を望む
女性トイレは男性用の2倍以上
固定椅子　段床式　多目的
専用の搬入口を設置
映像設備
展示との共用はしない
調光室、音響室は欲しいです
【交流系機能】
アーカイブ　ライブラリー機能
カフェ　交流サロン
託児所　ベッド
メモリアル空間
大きな機能分担→美術館機能
自然な建築(石組の外かべ)古くなることによって美の増す建築。内装は木の感覚、ディティールの設計(箱根細工等)
庭園と植栽との一体性。公演としての設計を先にして・・・
ディティールの統一、木の感覚、地場の材料、伝統技法を活かす
全体として～風の建築　、メインの公演内容との統一
【管理系機能】
地下は地下水があるのでGLは
電動でなく手引きの設備
電気・配管などの直しやすい「躯体」
会議室
救護室(簡易ベッド等設置)
【その他】
外観のコンセプト
なるべく外観は低く
こんな事をやる←→こんな設備　この議論のすすめ方で良いか
簡易ベッド

楽屋とホールの有機的な配置
お金を極力かけない
救護室ベッド
お金をかけない、大理石等は使わない
大きな美術的コンセプトを早めに決定したい

3班
【舞台】
字幕設備が必要
字幕スーパー
【ホール】
内装は木質系が良い(雰囲気として)
ホールトーンの考え方だが、音響設備だけでは解決できまい。特に冬場の厚着はタブーなのでクロークをしっかり。
木象嵌や寄木細工などの床に使う
【楽屋】
楽屋まわりに音出しできるスペースが欲しい(ピアノ付き)
近代的な楽屋が必要。大、中、小
シャワー室
練習室
楽屋毎で室温調整して使いたい
タタミの楽屋
【ロビー】
ホールロビーはゴージャスに？美味しいワインを飲みたいネ！
ミュージアムショップ
休憩室、喫茶コーナー
ロビー以外にもお客様の待機できるスペース
50～100席程度のカフェ(駅前はレストランは多いが、カフェはそれ程多くない～
案内所キップ売場
【搬入】
大道具、小道具、人の動線を考えた搬入口にする
舞台後方からの搬入
搬入・搬出に必要な間口と搬入路の確保が必要
【舞台設備】
簡易的なオペラができる設備は欲しい。そうなるとオケピットは必要か？
舞台装置　舞台機構の充実
オーケストラピット
客席、舞台までの距離が近いとよい
設備の更新しやすい
映写設備(プロジェクター)
音をきれいに聞きたいし、少しの揺れでも集中をさまたげられるため、固定席が良い
【座席】
座席の前後をゆったりとってほしい
+α高級感のあるもの
メンテナンスしやすい材質の座席にしてほしい。
車いす、ベビーカースペース
車いす対応の席が必要
座席はチドリ
バルコニー
【大ホール系機能】
[活動・事業]
オーケストラ、オペラ等音楽会は劇場には大ホールが必要
NHK紅白歌合戦などライブ、あるいはTV鑑賞
演劇の公演(プロもアマも)こんさーとなど
小田原でオペラ
若い世代を対象としたコンサート
市民参加できる各種ワークショップ
チャリティーコンサート
ひらかれた市民ホール
[機能・諸室・設備]
音楽フェスティバル
ミュージックストリートのような市民の音楽イベントの会場にもなる
映画会(映画祭)

本物を鑑賞できる
ファッションショーなども
子ども達が本物の生の舞台・音楽を鑑賞できる
車いす対応客席は20台以上必要ではないか
メインホール、大楽屋1室、中楽屋2室、小楽屋2室、楽屋事務室、専用入口、アーティストラウンジ
吊りもの設備は動力式が良い（事故数や人件費用をかんがえて）
子ども用いすがホールにほしい
「クローク機能」上下式もしくは回転式のハンガーは便利で小スペースで事足りるかも
オーケストラピットは掘込み式で良い（スペースと費用のことから考えて）
【創造系・支援系機能】
［活動・事業］
リハーサル必要
会議や打合せ
スタジオが必要
各種の公演が開催されていない時に良い音楽をオーディオで試聴できるところが欲しい。
劇団との打ち合わせ用会議室
茶会ができると言い
美術サークル活動　・絵画教室　・デッサン会
会議室+練習室+スタジオをトータルで考える
［機能・諸室・設備］
円卓型会議室
広いロビー
←平日は販売できるテントを出したり、パフォーマーがパフォーマンスできたりしてにぎわいにつながる
主催者控え室は会議室兼用とする
会議室の総数、総面積
リハーサル室、スタジオが必要
体調を悪くされた方が一時的に休めるスペース、ベッド
おもちゃ、絵本など備えた託児室
授乳室が欲しい
託児室があると助かる
託児（一時預かり）民間だと高額なので500円程度で
アトリエ・工作室、美術と舞台美術の制作にも利用
休憩室も設置されると良い。具合の悪くなられたお客様・利用者全般用。たたみが良い。
大きな荷物などを入れるためのロッカー、お客様用
劇場専用できれば各ホール毎　託児ルームプロのスタッフ常駐無料で利用できる
観劇等の目的でなくても市民がふらっと入れるフリースペースがあると良い
演者の宿泊できる部屋
防音・防震
「防音ですが」カベだけでなく、厚手のカーテンで吸音できることで少しは解決できるかも
【展示系機能】
［活動・事業］
会議、ワークショップ、子どもの参加
学校の書道や小田原ちょうちんの展示
神奈川県内の巡回展
市民ホール展示室を会場に加え、久野・片浦の丘陵地帯でアートフェアを展開
ダンスの練習室にも使える鏡、バー
美術館・市民ギャラリーとしての位置づけ、学芸員を置き自主企画を開催して欲しい
小ホールと展示ホールをケースバイケースで「シェア」する（使用・利用）する方法考える
バックヤード200㎡（作品の一時保管、審査etc）
床は木で考えて欲しい
［機能・諸室・設備］
小会場向け作品ができるよう天井を高く暗室にできる
平面作品用の展示パネルは上質のモノで永く使用できるのが良い
展示物のサイズを問わず、良い照明環境は天井全体が柔らかい間接照明が理想。スポットは移動式で!

木のフローリング
いろんな展示に対応できる移動壁
集中できる、静かにできるシステムを作る
展示物によっては入場を規制する
天井高(平塚美術館位の高さがあればよいと思う)
展示スペースでの発表(演劇・人形劇・音楽)できる工夫。平土間、ひな段の運び込み、壁にカーテン(暗幕としての)
床・壁は汚れに強い素材を使ってください
←汚しても汚れを落としやすい
安らぎを与える空間造りの作成
【小ホール系機能】
[活動・事業]
小ホール、展示室の用途を共有することがらばかり考えず、芝居・音楽・展示、それぞれに特化したスペース作りから発展した共有性を考えたい
固定席とロールバックでどちらがそれぞれ音楽・演劇に有利か
小劇場向け作品(人形劇・コンサート)
市民が使いたい時に利用しやすいシステム。積極的な市民参加
小中学校の利用、えっさホイの練習、市民サークルの利用
子どもたちが本物を鑑賞できる事業(演劇・音楽両方)
小規模での音楽会、演劇会
「発表会」などで気軽に使える。
歌(室内楽)
映画会(映画祭)
Pf、Vn、弦楽(室内楽)
「小ホール」大ホールでは出来ない小編成のジャンルを問わないコンサートを、良質の音場域を創設してほしい
幼稚園や学校に使用してもらう
[機能・諸室・設備]
平土間になる可動収納席
映写設備(プロジェクター)
舞台装置設備
小ホール専門の搬入口が必要
ロールバック式の設備が不安
固定段床の客席だといい(広く手軽に芝居が出来る空間がほしいから)
"芝居小屋"として演出できる空間だといい。小田原に芝居小屋を！！
ロールバックにして打上げスペース確保
可動席にするなら絶対にガタつかないもので
内装、寄木細工風
設備の軽量化、照明、音響パネル、座席、etc
小ホール用にロビーとして使えるスペース
楽屋の近くに音出しできるスペースが欲しい(ピアノ付き)
音楽を楽しむ内装は木質系が良い(雰囲気として)
空間を保つメンテナンスしやすい壁にする
楽器を収納する場所
楽屋毎に室温調整できること
楽屋、近代的、給湯室
展示の利用を考えて、移動パネルを用意して欲しい。
小ホールの・楽屋、中2、小2、楽屋事務室、専用入口。近くにスタジオが欲しい。大ホール近くではスペースがとれないから。
【交流系機能】
演者としての障がい者の対応
打上げの出来る場所
市民ホールで行った催し物やその際に用意、使用した設備を、見ることができるPCおよび書室←川口にあるメディア・・・(名前忘れ)の成功例
客席階段の巾　・90cm以上　・高さ(階段)18cm以下　・イスの巾50cm必要
カフェ・レストランがほしい
演劇の台本などを読みながらくつろげるカフェ

芸術に関するライブラリー
ミュージアムショップ
カフェ
情報ライブラリー
カフェコーナーの充実を願う。東京・横浜などのオシャレ感を！（東京・横浜に行かなくても）
市民を中心とした作家や芸術家の作品を常設できるスペース　期間を区切ったフリーマーケット機能
玄関はロビーでオープンなサロンコンサート等ができる。お茶も飲みながら外から見える。
【管理系機能】
大道具の収納場所を設置
大道具の操作室の場所、上から下へ
ホール全体の冷暖房ではなく客席の背面に空調をつける
【その他】
スロープ
女性用トイレ（新橋演舞場並）
女子トイレを増設すること。トイレに鏡をつけないことで、使用時間が短縮され混雑しないだろう
傘をホール内に持ち込ませず（空調的にも不可）外で処理したい
入口まわり　会場前に並ぶ列を納めるスペースを十分に
駅から市民ホールへのアクセス、通りの整備、街路樹等必要

4班
【大ホール系機能】
[活動・事業]
プロ・アマチュア、演劇・音楽の団体に来てもらうため
舞台の広さ　70人オケぐらい、200人合唱団
映画の上演　・映画会　・自主上映
市民の文化活動の発表の場　・音楽フェスティバル　・小田フィル　・こゆるぎ座　・映画祭
様々な演目に対応するため
ロビー広く　休憩時間にくつろげる、話しができる
質の高いものを観たい、聴きたい、プロをよべるホール
稼働率のよい大ホールが良い
[機能・諸室・設備]
搬入口袖直結
舞台の広さ　合唱祭でも対応できる
親子席(キッズルーム)
トイレ　男性と女性で左右は分けて、女性がトイレの前に並ぶ姿をみせないようにする。女性の個室の数を増やす。
リハーサル室の整備(大ホールの稼働率をよくする為に)
音響反射板　音楽にも演劇にも対応できるもの
託児室(必要のない時は別の目的で使用可とする
授乳室
左右対称のオーソドックスなシューボックス型
スクリーンプロジェクター
大きな楽器の倉庫
活動団体が自由に使えるロッカー・倉庫(予約制)
出演者用のトイレ・水場
【創造系・支援系機能】
[活動・事業]
コスプレイベント　写真撮影会
リハーサル室のマルチ利用を考える
300㎡くらい
窓のある展示室
[機能・諸室・設備]
マルチメディアルーム→映像の加工
市民が使える　・工作室　・美術室　・アトリエ
リハーサルと展示のできる多目的ホールが必要
すぐ来てすぐ使える
若い人が気軽に使えるスタジオ、ライブにも使える
若い人がお金をかけずに発表もできる場所に
余裕のあるバックヤード
マルチスペースをつくる。リハーサル、小ホールで平土間利用しない人も使える。展示もスタジオ公演もできる。
マルチスペースは最低、大ホールの舞台と同じ大きさが必要
マルチスペースを作れば小ホールの可動席はいらない。固定席。よって、初期投資、年間のランニングコスト、メンテナンス代が節約できる。
【展示系機能】
[活動・事業]
作家・作品の魅力に触れる　・トークショー　・参加型ワークショップ
外部の人を呼べる、展示もできる
今度、市民が広く文化にふれる場所にしたい
・年に何回かお金がとれる　・お金をかけずにする
いつも何かが展示されていて行ってみたくなる
ロビー内にも作品の展示をできるようにする
現代アートを楽しみたい
お子さん向けワークショップ
楽しいアートの魅力にふれられるイベント(公開アトリエ　ワークショップ)

あまりお金をかけずに文化にふれられるスペースになる
[機能・諸室・設備]
搬入口　床しっかり　照明
ガラス張りの外壁とし、歩いている人も絵画・彫刻などがみられる工夫
ライブラリーコーナー
小田原伝統の作品の展示
現代アート、人がよべるもの
天井の吊り作品可能な機能
日常的に誰もが自由に居られる場所としたい
一年中展示で埋まっている、にぎわいのある文化の空間となるようにしたい。
インターネットの為の配線
ワークショップのスペース
図書館機能をもつ市スペース
水場が必要
ミュージアムショップ
作品保護の為の空調、照明設備を
充分な高さの確保、4m
床材は木で！
【小ホール系機能】
[活動・事業]
音楽会・演劇発表会（質の高いものを！）
小ホールでも良質なものなら人を呼べる
外国の文化を発表、体験する空間
子どもたちに古典芸能を鑑賞させたいという使命
映画会　・プロジェクター
展示スペースとしての機能も合わせもつのは
市民が気軽に使える施設になる
ワークショップ　子どもに本物を
[機能・諸室・設備]
小ホール固定席　舞台の可能性はリハーサルルームでやればいい
固定席で（県西地区できちんとした固定席のある小ホールはない。だから造ろう！
県西地域にまともな小ホールはひとつもない、固定席で。平土間利用はけやきホール、リハーサルルームを使えばいい。
平土間で使うならけやきなど他の場所を使えば良いのではないか
可動椅子で平土間やホールにも対応できる
市民が幅広く使えるように多目的の平土間に
大ホール（固定）小ホール（固定）多目的室を設け、平土間での活動を保障していく。
200～300席固定席が良い→ただし300㎡以上、マルチで使える可動式平土間の部屋を充実することが条件
小ホール、多くの市民の活用しやすいことを大事に
将来を見越して、自由なスペースで活用を広げたい
演劇・音楽のため集中できる固定席がいい
固定席の小ホールをつくれば、小田原だけでなく、県西地域からも利用者が現れ稼働率が上がる
映像など多用な展示に対応できるように
【管理系機能】
展示作品、音楽機材の搬入確保、エレベーター
将来を見越したバックヤードの確保をする（地下でも可）
充分なバックヤード確保
駐車場（別の場所でも良いので確保がほしい）
【交流系機能】
用事がなくても寄りたくなるホール　・ショップ　・カフェ
多言語での文化事業案内所
トイレ　・狭すぎない　・化粧室・更衣室　・バリアフリー
お城の景観と一体化（ホワイエ・カフェ）

地域との連携の企画
楽屋にたたみ部屋があると多用に活用できる
【その他】
駐車場があると便利（外部の人を呼べる）
広い、多い駐車場
自然エネルギーを使って自家発電、風車、太陽光パネル
遊び心がある建物
小田原の森の気をできるだけ使ってほしい。木の文化の発信地になる。小田原らしいホールに！小田原ちょうちんなど
市の窓口コーナーがあるとよい。
交流もでき、ゆったりとしたスペース車いす可

5班（バリアフリー班）
【大ホール】
大ホール（視覚）階段、車いす、足の不自由　①スロープを作ってほしい②トイレの入口、動線複雑、二人で通る、入りやすいトイレ
席から舞台に車いすは上がれるのか→そのままは難しいか・・・廊下なら可能！
暗い時、スロープは危ないので、席と通路の間が分かりやすいようにライトがほしい
席の間が空いていた方が動きやすい
中間に取り外し可能なイスがほしい　・車いすの場所が両端になってしまっている。　・できれば、横一列自由なものがほしい。
ホールの入口　スロープの位置を分かりやすい所に
席を取り外した後のフロアーをフラットに
電動振動型のイスを用意してほしい
大ホール客席の階段、手すりが必要。
【機能】
調理ができるとよい
会議室がほしい
授乳室は別室であった方がいい
公衆用のFAXがあるといい
地下駐車場があるといい
【エレベーター】
エレベーターは車いすで使いやすく、20人以上の広さ
エレベーターの設置は必要
緊急用エレベーター（舞台の搬入用）
1つは大きめ（20人以上）のエレベーターを
エレベーターの設置は必要、ドアが厚いのでなく透明！！
エレベーターの満室が分かるランプ（文字）がほしい（ブザーが聞こえない）
エレベーターはわかりやすいところに
担架が入るような緊急ルートを必要とする
【トイレ】
裏方にも多目的トイレを
トイレのバルブの位置、2カ所あると便利
トイレの入口は電動にしてほしい、ステップ幅がほしい
市役所高齢介護課の前のトイレがよい
多目的は最低2つほしい（男女区別なしで2つの方がいい）
トイレは車いすで直進して入れるように
・入った先にトイレ　・入った横にトイレ　見えにくいように（車いす・・・）
トイレの中におむつ交換ベッド（大人）
トイレにいくところに段差ないように
多目的というよりみんなのトイレ
WC　和式と洋式の表示があるとよい。
ボタンの位置等、利用者の声を反映させてほしい
トイレのスイッチが統一されているといい
【段差などの対応】
スロープはわかりやすいところに
階段の踊り場に鏡を（音が聞こえない）
雨の時などに停められる駐車スペースがほしい+段差なし
複雑ではなく段差・階段がないように
フラットな形で作ってほしい
車寄せのあたりも段差がないように
事務室なども車いす対応を
段差のふちに目印をつけてほしい。ホールだけでなく、弱視の方には必要
地震の際には避難経路がしっかりと
音声案内、入口の案内

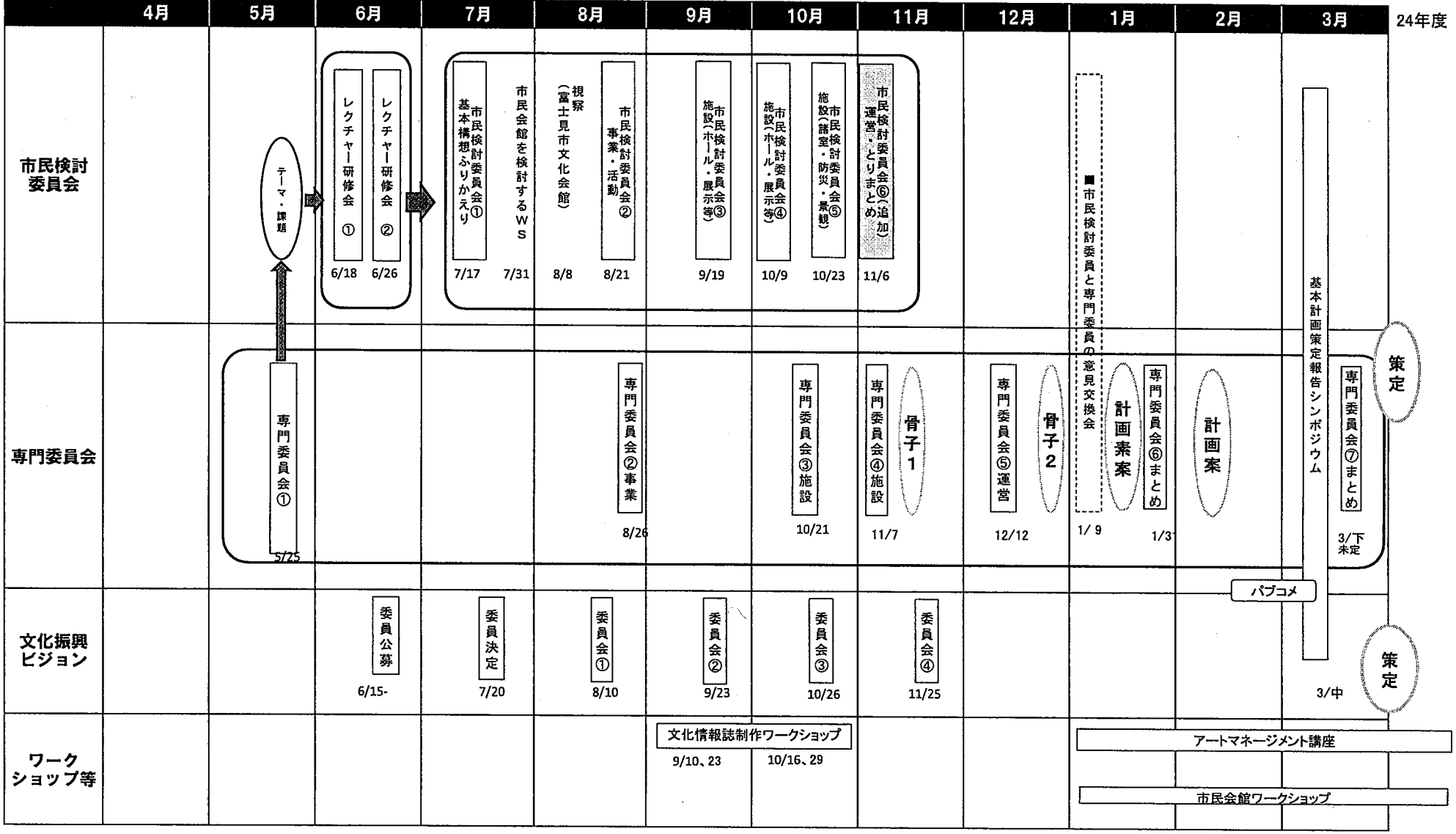
【字幕など】
字幕は前に入った方がいい
聴覚。高齢者の方のことを考えると字幕は必要
要約・筆記のスペースがあるといい
将来的にはipadを個々に貸して字幕対応
字幕上演の日は決定してチケットを販売
字幕の対応はプロジェクターで映す（上手・下手）→その場で打って10回に1～2回
事前に情報を提供して本番を！（ソフト面）
最新は、前の席に字幕が出る、全席にある。

第3・4回市民検討委員会ひとことアンケート

第3回	1	9:00～12:00にしていただけると・・・。4、5班の人が不利です。
	2	施設機能の具体的な使い方に話が進んできた。自分の興味ある施設の提案には、事前に色々調べておくことが大切だ。次回の課題として、参加していきた
	3	全体の話。基本的な考え方、コンセプト。※前々回、名称として、「市民ホール」ではなく、例えば、「文化創造センター」という、話が出たが、この件、ちゃんと、出していくべき。単なる、市民会館の建て替え、ではない、というコンセプト、が出ているなら、これを、ちゃんと、告知していくべき。※全体の進行をスピード、アップ、していくべき。2倍速はムリだろうから、2割増、で、行ってほしい。皆が死んでしまう前に(笑)。今の時代、先の事は分からないから、早くやった方が良い。 建物の外観の話が出たが、(まだその段階ではないだろうが)、高さの、話として高くないほうが、いい、という話も出たが、高くてもいい、と思う。建物全体のデザイン、設計、の事になる、だろうが、当然それなりの高さになるだろう。また、地下も使えるだろうから、(設計思想によって、だろうが)どう地下を使うか、を考え
	4	ハード面を話し合ったことで、ホールのイメージが具体的になってきました。
	5	市民ホール。以外には作らないのですか？小ホールを求めている声は大きいみたいです。
	6	大ホール、小ホールに関してはあまり意見が言えなかったが、今回、最後の報告を聞いて、リハーサル室はどの程度充実させるのか。小田原の木材を使うことについて、現実にはどの位、可能なことなのか、考えていきたい。
	7	オケピの経費を知りたい　バトンの手引き、電動の経費、人件費、設備費、メンテナンスを現在あるところでいいので教えて下さい
	8	迎える時代の中で映像(ニコニコ動画等)を利用してのステージ等がおこなわれていくであろう。そのような装置を組み合わせられる場所は、小ホールなのか、展示室なのか、移動パネルでは音がつながってしまう、のでは、困るであろう。展示では搬入口の大きさを大きく、お願いしたい。
第4回	1	ホールの長年の維持のために使用料金、維持費等を考えない、おねだりの意見が多すぎる。費用対効果に心配あり
	2	ともあれ、SPEED　UP！8掛で進めていきたいものです。今後MTGを1回増やすのはOKです(11月に？)
	3	第2小ホールの案が出ました。展示室との併用も可でしょう。そこにはロールバック式の椅子なら設置できますね！平土間の利用率をcheckして下さい！
	4	カフェがいるいらないの話になったが、全体としてどう考えているのか気になった。
	5	是非、ラゾーナ川崎プラザに螺旋階段の芝居を観に来てください。いい小劇場、観て損はないです。
	6	小ホールとどうあるべきか、決定が難しいと感じた。皆さんが専門的な方々ですごいと思う。次回も同じ班で検討がよい。話が通ずる。
	7	・前回の課題だった小ホールの仕様について時間を使った。 ・活用価値のある小ホールの為には、固定が良いとの考え、専門家以外の観客(市民)の為にはどうあるべきかとの議論から、大・小ホール以外に「多目的ホール」として300㎡程度のリハーサル室を確保し、小ホールの平土間での活動をしっかり保障していくと新しい考えが出たことで、班は納得できた。展示スペースについては皆で認識し合いたい。 進行は時間を守って下さい！！
	8	最新の可動式のホールをみてみたい。
	9	何度も話し合いを重ねてきた結果、やっと結論へと近づいてきました。班のメンバーが数度変わり、多くの人たちと話し合いをもったことの成果だと思います。
	10	今日は充分に発言・参加できず・・・、すみません。良いホールができたらと思います。次回はきちんと参加します。
	11	・市民検討委員さんは一所懸命話し合っていました。市職員も各ワーキンググループに加わっていらっしゃるようでした。この委員会を企画されたのだから、市民と一緒になって、市民の考えをキャッチして良いホールを作ってほしいです。 ・検討委員さんのためのセミナー2回受講しました。とても、眼からウロコのいいセミナーでした。理想は遠すぎますが。ありがとうございました。

平成23年度市民ホール整備／文化振興施策等スケジュール

資料4



2011/10/24

市民ホール基本計画策定専門委員会　第４回会議　次第

日　時　平成 23 年 11 月 7 日(月)
18 時 30 分～20 時 30 分
場　所　小田原市役所　大会議室

1　開　会

2　議　題
(1) 市民ホール基本計画（施設）について

(2) その他

3　閉　会

市民検討委員会の発表概要（施設機能） ver. 2

資料1-1

項目	小項目	1班	2班	3班	4班（機能については他班と同意見）	専門委員コメント
大ホール	全体	・ロック・ポップス・ジャズなど、メジャーどころのコンサートを小田原で行いたい。 ・市民ミュージカルなどを行いたい。 **・大ホールは搬入しやすく、スタッフの体力を損なわないホールそし、使いやすさと音の良さで日本一のホールをつくりたい。**	・多目的なホール。 ・プロセニアム形式の舞台。 ・オーケストラピットは、整備コストを踏まえた検討が必要である。 ・シンプルで使いやすいホール計画とする。 **・小田原にいいホールがないために、音楽のすばらしさに気付いていないと思う。良さを伝えられるホールが出来ればいい。** **・大ホールは講演会などの利用も多い。**		・色々な催しに利用したい。 ・入場料金がとれる事業がしたい。	・市民ミュージカルやロック、ポップスなどについてはホールとして対応できる。 ・オーケストラピットについては、本来の使い方の他に前舞台としてや障がい者のリフトとしての使い方も想定できるためあった方が良いと考える。 ・「十分にオペラが上演できるように」というキーワードは、演劇系、音楽系、両方を満足させる機能を備えることを意味するということで良い。 ・オペラは問題なく上演できる。極端なことを言えば、オーケストラピットがなくても上演できる。 ・コストのことを考えると、設備の一部は借りてくることなどで対応し、あまり重装備なホールにしない方が良いと考える。 ・映画を上映するのであれば、上映ごとに持込むという選択肢もある。 ・大ホールについてはほぼ全ての班で意見が一致ということなので、今後具体的な検討に入っていけるのでないか。 ・大ホールロビーを展示スペースとして貸出すのは現実的には難しい。なぜなら、そのスペースを展示場所として貸出した場合には大ホール自体が貸せなくなるからである。
	舞台	・大ホールの舞台について、ミュージカルなどのことを考えると、間口10間、奥行5間などが必要。	・間口は8～10間、上手・下手の袖は4～5間、奥行は6～8間程度を想定してはどうか。 ・手引きバトンと電動バトンについて要検討の必要がある。 **・専門委員会では、大ホール間口を6間に可変し、そこで行うことも提案されていたが、小田原には300名程度のバレエの需要は凄く多い。**	・舞台の設備として字幕スーパーが必要である。		・手引きバトンを十分に操作できる技量を備えた舞台技術者は少なくなってきている。また今日では高い性能を備えた動力バトンが増える傾向にある。 ・全国的に新しく整備される主要な施設では、動力バトンを導入する傾向にある。
	客席	・客席、1,000～1,200席で、500席や700席といったように、中ホール規模のホールとしても利用できるようにして欲しい。 ・車椅子席が客席の端に追いやられないようにして欲しい。 ・ホールのドアの側に、スタッフが座れる収納式の椅子を付けて欲しい。	・どこの席からも観やすい客席構造を検討する。 ・神奈川芸術劇場の3階席は怖かったので2階席までとし、多層バルコニーは防災上の観点からも避けたい。	・座席の前後左右をゆったりととり、高級感のあるものにして欲しい。 ・座席はメンテナンスの行いやすいものにして欲しい。 ・サイトラインに配慮し、千鳥配置を検討する。 ・車椅子席、ベビーカー置き場をしっかりと取って欲しい。 ・バルコニー席を設けて欲しい。 ・オーケストラピットが必要である。		・客席はゆったりとした感じも必要だが、劇場として、席が近いことによる観客同士の一体感があってもよいのではないか。あまりゆったりとしていると間延びした印象になってしまう。3時間程度は座っても身体が痛くならないことを前提に、劇場・ホールの鑑賞に適した座席とした方が良いのではないか。
	その他	・子どもが泣いても気にならない部屋、別の空間で親子で鑑賞できる親子室が欲しい。親子だけではなく、障がい者の方なども利用できたらいいのではないか。	・舞台裏に使いやすい通路を整備する。 ・映像設備もほしい。 ・音響設備の周波数についても十分に検討すること。 ・大ホールに附属する練習室がほしい	・内装は木を使用したい。寄木細工も取り入れていきたい。 ・完璧なオペラが上演できるような設備が欲しい。		

項目	小項目	1班	2班	3班	4班（機能については他班と同意見）	専門委員コメント
小ホール	全体	・小ホールについては 二宮のジディアンが音響がいいのではないか、参考にしてほしい。 ・小ホールについては狭の中でも大変もめた。 ・南足柄はあまりいい小ホールではないが、稼働率が70%を超えている。小田原に音のいいホールをつくるともっと利用率が上がるのではないか。 ・特に、小田原ではピアノや歌を行っている先生が多いので、音にこだわったホールとしたい。 ・小ホールは音に特化した、日本一のホールを目指したい。 ・是非、全国に誇れ、近隣の人が使える、料金も安い、固定椅子を備えた小ホールをお願いしたい。 **・小ホールは良い音が出せる、演劇、音楽兼用の小ホールがよい。小ホールを使いたいが、これまでなくて市外で活動している団体が多いので、そういった人たちの意見も聞いて欲しい。** **・他班の意見を聞いていると、小ホールは多目的でまとまってきているように思う。**	**・小ホールにも防音で音出しができる部屋が必要ではないか。** **・小ホールは音楽寄りの多目的ホールという方向でまとまった。**	・小ホールの基本的な設備は、大ホールと同じように計画する。 ・市民参加、幼稚園、小・中学校の利用、えっさほいの練習、発表会など子どもをメインとした活動を色々とやって欲しい。 ・子どもたちが本物を鑑賞できる事業を行いたい。小規模でも音楽会、演劇会、映画会を行いたい。 ・大ホールでは行えないような小編成のジャンルを問わないコンサート、良質のものを上演して欲しい。 ・自分が劇団を主宰しているので、芝居小屋をイメージしている。現在は横浜や下北沢を利用するしかないので、小田原にその空間が欲しい。	・外国の文化を発表したい。 ・子供達に古典芸能を鑑賞させる機会を設ける。 **・小ホールは演劇と音楽の両方に利用できる多目的とする。今の技術があれば音楽と演劇両方の機能が担保できるので、そこは専門家に任せ、どう使うかは市民が頑張る。**	・小ホール機能の一部がリハーサル室で代用できるのではないかという意見は重要な視点である。 ・芝居小屋が欲しいというのは、結果的に芝居小屋になればよいということである。紀伊國屋ホールや本多劇場では、アマチュアが使うには少し大きい。ザ・スズナリや相鉄本多劇場程度だと相当コンパクトになり、小田原でも実現できるだろう。こういった声を詰めることで実現できることが沢山あると思う。 ・小ホールでは、古典芸能と外国文化という明確なキーワードも出てきた。これをどうするかについても考えていかなければならない。 ・古典芸能系の稽古には太鼓を用いることがあるので、他の団体との利用の兼合いに配慮が必要である。支援系機能の部分で検討していきたい。 ・マルチスペースを利活用して小ホール機能の一部を担わせるという新しい視点を見つけられたことが良かったのではないか。 ・小ホールについては、可動式の可能性を残したのは、表現機能を残せたという点ではひとつの検討結果と考える。 **・小ホール、多目的でもきちんとした音響を担保するのは十分可能である。**
	客席	・平土間と固定客席で意見が分かれた。 ・固定客席と平土間のふたつの選択肢があり、どちらかだけとは決められない。 ・固定席と平土間・ロールバック式の2つを造ればいい。 ・音楽系の固定客席のホールと、平土間のホールで方向性をわけて整備する。 【固定席】 ・藤沢市以西に固定椅子を持つ本格的な小ホールをもった公立ホールがない。 ・平土間のホールは多くあるが、近隣の公立ホールに固定客席の小ホールがなく、整備すべき。 ・ロールバックが嫌な意見として、歩くと音がする、可動式は使い勝手が悪い、座り心地が悪い、足音が響く、すきまが危険、落ち着かない、咳やくしゃみをしただけで椅子が揺れる、メンテナンス費用がかかるといったことが上げられた。 ・ロールバックの客席に不満を持つ方や団体は少なくない。 ・固定椅子で、音に特化した小ホール。市内では演劇よりも音楽の利用が多いと感じる。 ・小ホールは市民利用が多くなるので、200～300席の音響の良い固定式が、市民にとっては一番利用しやすいのではないか。 ・使い勝手第一で、日本一を目指したい。 【平土間】 ・大ホールの主舞台と同じ床面積を確保し、リハーサル室としても使用する。防音性能が必要なので、地下の有効利用も考える。 ・リハーサルや様々な催し物にも使用できるマルチな機能を備えた部屋を整備する。 ・高さは4m、ライティング設備も欲しい。また、ステージの位置を自由に変えられたり、youtubeを利用できたり、様々なことが行なえ、若者による新しく多様な活動にも対応でき、将来的に考えられる様々なイベントに耐えうるものにしたい。 ・特に、若者が自由な発想で活用できるスペースにしたい。 ・平土間で行いたいような催し物は、リハーサル室のひとつを広く造り、そこで行えるようにする。 ・平土間も捨てがたい。大ホールの主舞台と同じ床面積のリハーサル室が欲しいという意見があり、それを第2小ホールとし、平土間で200～300席の様々な活動ができるマルチスペースとして計画する。 ・平土間のホールは、色んな若い人たちが新しいことをできるようなホールとしたい。	・展示との共用は認めたくない。 ・固定式の多目的ホールと平土間のホールで意見が分かれている。 ・音楽あるいは演劇のためのホールかで意見が分かれている。 ・音楽用にすると演劇用の舞台設備が制約され、音楽用にすると台詞の明瞭度が制約される。 ・多目的にした場合、演劇・音楽共に制約される。 【固定席】 【平土間】 ・平土間にした場合、展示用の特別な設備は不要だが、展示にも利用できるように考える。	・固定客席にするか平土間にするかで意見がまとまらなかった。 ・演劇・音楽・ダンスなど様々なジャンルの人が使えるので平土間の方が良いのではないかという意見がでたが、固定式の方が良いという意見もあった。 **・小ホールは固定席の多目的ホールとする。** 【固定席】 【平土間】 ・平土間にして様々な活動が行なわれることや様々な分野の団体が利用できるようにするのも大事だと思う。展示に特化したい団体、大ホールに特化したい団体、小ホールに特化したい団体などがあるので、どのように特化したいかということについても話しあっていくことを考えていきたい。 ・音響的には平土間形式の方がよいという意見もあった。 ・平土間、ひな壇の選び込み、壁にカーテン、暗幕という意見もあった。	・固定席か平土間かで意見が分かれた。 ・固定席であれば、県西地区に固定席で充実したホールがないので、稼働率が上がるのではないか。 ・小ホールを平土間にするか固定客席にするかということで非常にもめたが、平土間として利用できる別のスペース（マルチスペース＝多目的ホール）を確保することで意見がまとまった。 ・小ホールを固定にするのであれば、プラスで300㎡程度のマルチスペース（多目的ホール）を設置することで対応する。また展示系の催しであれば、展示系機能とマルチスペースを両方使うことや演劇・音楽系の催しのリハーサルの場として利用できる。 【固定席】 ・大ホール、固定席の小ホール、展示機能に加えてマルチスペースが必要なのではないか。 ・小ホールは固定席で造る。その対案としてマルチスペースをつくることで、リハーサルや展示など小ホールを平土間で使いたいという用途に対応する。 【固定席】 【平土間】	・リハーサル室を第2小ホールにしようということが検討のポイントだった。しかし、今後これを実際の図面に落とし込んでみると面積の都合上、第2小ホールまでもが整備できないこともある。その場合には、運営や利用方法を含めた検討がさらに必要になっていく。

項目	小項目	1班	2班	3班	4班（機能については他班と同意見）	専門委員コメント
	その他		・舞台裏に使いやすい通路を整備する。 ・市内の施設との機能分担を考える必要がある。			・他の施設と機能の共有化を図った上で、市民会館機能をどのようにまとめていくのかということは、今後市民ホールの完成まで継続して考えていく必要がある。 ・各施設間の連携は大変重要。近隣の既存施設も含め、今後の展開を議論していく必要がある。
大小ホール付属諸室	楽屋	・和室を1室整備して欲しい。 ・楽屋の隣に練習室を造って欲しい。 ・舞台モニターを設置してほしい。	・大ホール、小ホール専用の楽屋が必要である。 ・シャワー室も整備する。	・近代的な楽屋が必要である。 ・楽屋周りにピアノ付きで音だしが可能な楽屋が欲しい。 ・和室楽屋、シャワー室、練習室がほしい。		・和室楽屋をどうするのかは検討が必要。
	トイレ	・女性トイレを多く造りたい。男性トイレよりも多めに造ってほしい。 ・女性トイレには節水の為に音姫を備え付けて欲し	・女性トイレの個数は多く整備する。			
	搬入	・展示室のバックスペース、入口の反対側に搬入車両が寄り付ける搬入口を造って欲しい。展示台など重いものの搬入も考えられる。		・舞台後方からの搬入ができるようにしたい。		
	ロビー	・ロビー・ホワイエの居心地を良くし、社交場としての機能を大切にして欲しい。愛を語れるスペース、誰でも利用できる憩いのスペースがあればなお良い。		・ホール・ロビーは、美しくゴージャスにして欲しい。		

項目	小項目	1班	2班	3班	4班（機能については他班と同意見）	専門委員コメント
展示		・小田原という地域を発信できる全国規模の公募展など、行料の展示もどんどん行っていってはどうか。 ・展示室はフラットな空間なので、展示だけではなくワークショップなどでも活用してはどうか。 ・可動パネルは、簡便に移動ができるものがよい。 ・天井高は4mがベストではないか。 ・導道展示などを考えると展示室のバックスペースには必ず水場を造ってほしい。 ・使い方によればお茶などもできるだろう。そのための水場を造ってほしい。 ・野外を利用して展示を行ったり、様々な利用ができる仕組みをつくっていきたい。 **・展示室は展示専門としたい。展示室の隣に小ホールとしてマルチなホールがあれば嬉しい。200㎡位の大きさで良いのではないか。** **・展示会と並行してワークショップを行い、市民を呼び込んでいきたい。**	・シンプルでパーテーションで区画できるようにしたい。 ・大きな作品もあるので、そのことに配慮した搬入口とバックヤードが必要である。 ・天井にものを直接吊れる構造と設備が必要である。 ・展示壁には直接ピンが刺せれる仕様が必要である。 ・現代アートの展示も考え、電気設備等も整備する。 ・電気設備等の増設が後からできるように配慮したい。 ・他の機能の併用は考えなければならないが、会議室等との併用はやめるべきである。 ・搬入動線と観客動線が重ならないように配慮する。 ・高さは高く、広いほうが良い。 **・控えや水場は別途設けるのではなく、区切って使えるようにどこかに込んでも良いのではないか。全体で面積は400㎡程度は必要。市の主催する展示会などのように大きい作品がメインなのか、サークルなどの市民活動の作品展示がメインなのかで違ってくる。** **・区切るとしたら、ドアが2つありでどちらからも入れるようになると良い。**	・神奈川県立美術館の巡回展、小田原ゆかりの作家の展覧会、学校の書道や小田原ちょうちんの展示などを行いたい。 ・展示物のサイズを問わず、良い照明環境が必要。天井全体がやわらかい照明が理想的である。スポットは移動式とする。 ・平面作品用の展示パネルは、上質のもので長く使用できるものが良い。 ・様々な展示に対応できる展示壁を採用して欲しい。 ・天井高について、平塚美術館程度の高さがあるとよい。 ・床、壁は汚れに強い素材を使って欲しい。 ・展示スペースでも、演劇・音楽などを発表できる工夫をして欲しい。 ・本当は小田原に美術館が欲しい。 ・400㎡の展示スペースができれば、美術館でやるようないい展覧会ができると思う。 ・学芸員をおいて、年間で自主企画を行ってほしい。 **・展示室は展示に特化したものにする。展示スペース400㎡+バックヤード200㎡を確保するべきという条件で施設を考えた。** **・小田原では年1回大きな展示が必要となる期間がある。しかし2つに区切って使うのでは400㎡では十分ではない。基本的にはリハーサル室で、その時を含め年に何回かは、リハーサル室兼マルチスペースを展示に使いたい。**	・トークショー、参加型ワークショップなど、いつも何か展示されていていきたくなる様な催しがある展示室としたい。 ・現代アートの魅力に触れるイベントを開きたい。 ・大ホールに付随したロビー、けやきの展示室を利用するという案もでた。 ・インターネットの配線、ワークショップスペース、図書館機能、水場、作品保護の空調・照明設備、ミュージアムショップが必要である。 ・天井の高さは4m必要 **・展示スペースのバックヤードは、展示台や機材を収納するために200㎡必要。展示室400㎡＋バックヤード200㎡を確保したい。**	・まとめられた意見については取り込んでいきたいが、展示機能＋αの部分をどのように考えていくのかは議論が必要である。 ・展示の搬入は、裏からは当然として、催し物が重なった時には表側の建物入口からも搬入できるようにした方が良い。 ・展示室の壁はピンなどを打つので、消耗品として考えた方が良い。 ・他の諸室を展示機能の代用として利活用することや展示室に他の機能を複合させることも検討する必要がある。しかし、まずは展示機能をしっかりと確保することが第一義的に重要である。 ・今回の市民ホールにおける展示室の位置付けを小田原の美術館だと考える人はいないだろうと考える。 ・展示室がいつでも利用で埋まっているということが、アートシーンの覚悟を決めるのだと考える。 ・400㎡は、デパートの美術館よりも少し広いので、場合によっては展覧会ができることもあるだろう。 ・展示系に関しては、バックヤードが大変に重要である。 ・美術館にガラスケースを用意することがあるが、博物館ではないので必ずガラスケースにいれて展示しなければならないのは、掛軸や屏風など日本の古典文化財くらいになるだろう。昨今の美術館では、フレンドリーな形で作品を鑑賞できる。そのような展示スペースができれば良いと考える。 ・お花やそれにともなったお茶会を考えれば、水場が必要である。また、それがきちんと使えるものであれば、素敵な展示スペースになるだろう。 **・展示室の付属室をどうするかということと、支援交流スペースでどんなことが必要かということ皆さんに形としてお見せして議論した方がいいかと思う。ただし、スペースが限られているので優先順位を付けないといけない。**
支援系機能		・託児室を造ってほしい。空間を作るだけでなく、子どもが泣いても外に音が漏れない遮音性能や裸足で歩けるような安全性を確保して欲しい。 ・託児が必要な事業が行われるかどうかは今後の事業の在り方次第なので、先ずは託児室として使用できるスペースは確保しておく必要がある。 ・託児室は、誰が責任を持って運営するのかという課題がある。何か起こったときに客席内にいる保護者を呼ぶ手段も検討していかなければならない。	**・託児室は必要ではあるが、用途を限定してしまう室が必要かどうかは検討すべき。**	・託児室、キッズスペースが欲しかったという声が多かった。大ホール・小ホールにひとつずつあれば良いのではないか。子どもの声がホールに聞こえないように、カフェなどの交流系機能の近くにまとめればよいのではないか。 **・市民活動サポートセンターの機能を入れ、打合せや会議などのワークスペースとして利用できる場所がほしい。**		・諸室については、バックヤード以外に大変多くの検討のポイントがある。 ・託児室の問題は、今後の運営の段階で検討されるべきことだと考える。これからは、若いお母さん達にも子どもを預けて公演を観る機会が与えられるべきだと考える。今まで劇場に足を運んできたお母さんたちが子育てで10年くらいホールに来られないと言うことは、観客を失うということになる。 ・親子室の提案は、将来的にもとめられる機能ではないか。 ・子どもが自由に遊べるキッズルームがあれば、お母さんは子ども遊ばせてる間、散歩や読書をして過ごすことができるので必要な機能だと考える。 **・支援交流スペースでどんなのが必要かというのを皆さんにお見せして議論した方がいいかと思う。ただし、スペースが限られているので優先順位を付けないといけない。**

項目	小項目	1班	2班	3班	4班（機能については他班と同意見）	専門委員コメント
創造系機能	リハーサル室	・楽屋の隣に練習室を造って欲しい。	・リハーサル室は大ホールを利用する時にウォーミングアップができるスペース。声出しや音出しができ、大人数の際には楽屋にもなり、楽器も置いておけるなどの多様性を持たせる。 ・それぞれの室に固定的な名称ををつけると、固定観念から用途が狭められてしまう可能性があるので、あまり捕らわれない方がいいのではないか。 ・リハーサルルームなど、兼用にしすぎると使いく、音漏れも嫌煙される。そこが解決できるのであれば機能を兼ねても良いと思う。	・リハーサル室もマルチスペースであるが、演劇公演も可能な設備を備えるということで意見がまとまった。基本的には平土間だが、客席はロースパックとするかスタッキングチェアで対応するかの結論は出ていない。	・大ホール・小ホールに付属して、当日の音合わせ用にリハーサル室があったほうがよい。 ・広さは120㎡と書いてあるが、どのくらいが適当かはまだ分からない。 ・防音の練習室、スタジオが欲しいといっているが、本番前に声出し、音出しができるリハーサル室が必要という意味。	・リハーサル室・マルチスペースを充実させたいとのことだが、何室いるのか、大・中・小の大きさはどうなのか、具体的な検討する必要がある。 ・リハーサル室の仕様がポイント。
	マルチスペース		・練習室がほしい。 ・リハーサルができるような練習室がほしい。		・マルチホールを整備してほしい。ここでは、利川形態に応じて公演も行えるようにしたい。 ・マルチスペースは飲食、音楽、展示も含めた交流に使えたらよいと思うので、平土間で広さ300㎡程度、大ホール主舞台の大きさ程度を確保したい。 ・マルチスペースは大ホールの主舞台と同じ程度の大きさを確保する。飲食、創造、アートなど市民が何をしてもいい、汚してもよい場が欲しいという意味。尚かつ、大ホールの舞台で上演することをこの場で練習出来るようにしたい。 ・マルチスペースの防音はある程度で良いと思う。	・飲食できる場所は音楽堂でも必要だと思っているので、いいアイディアである。 ・高校生が集まるのはダンス系が多い。どこかのスペースを床を踊れるようにしたらいい ・マルチスペースも小ホールという形で提案されていた。 マルチスペースという新しい要素が入ると、全体の面積が過大になることが心配。
	スタジオ		・スペースに余裕があれば欲しいが、管理が難しいので無くて良いのではないか。学生の利用が中心であれば、平日の昼間は稼働しない。		・本番使用のリハーサル室よりも、本番前に声だし、音出しができるリハーサル室が必要。 ・若い人たちが使える、演劇や音楽、バンドの練習のできるスタジオ機能は4部屋程度整備したい。 ・防音の練習室、スタジオというのは、キラリ☆ふじみをイメージしている。音が出せる練習ができる小さなスタジオのこと。	・スタジオがいらないという部分が気になったが、本当になくて大丈夫か。 ・高校生や若い人がスタジオを利用することが、このホールの賑わいになると言う意見もあったので、賑わい創出と言う目的も併せて考えてはどうか。
	その他	・アトリエ作業ができる場所、造りかけのものを保管できる場所があるといいのではないか。 ・ワークショップができる工作室などのスペースが隣にあるといいのではないか。		・創造系施設は施設の中で完結するのではなく、外に活動がしみ出るようにして欲しい。通りに賑わいをみせることで可能性が広がっていく。		・中の活動が見えるようにすると、設計上ブラインドはつけてはならない。 ・市民が楽しそうに活動していることが、このホールをまちに開いていくことになるので、重要な視点と考える。 ・料理教室もガラス貼りのところがあり、それが集客につながっている。 ・リハーサル室、マルチスペース、スタジオ等の名称を整理した方が良い。 ・マルチペースという新しい要素が入ると、面積が心配である。 ・スタジオ、練習室等、座・高円寺や金沢市民芸術村では、スタジオ施設はホールとは切り離して整備されている。 高校生が集まるのはダンス系が多い。どこかに踊る事のできる床を備えたスペースを整備すると良い。
交流系機能		・愛が語れるような素敵な喫茶店が欲しい。	・カフェや交流サロンなど市民が交流できる空間を計画する。	・50席～100席程度のカフェが欲しい。 ・ミュージアムショップが欲しい。 ・カフェの話が多く出た。小田原市内にはレストランなどはあるが、カフェは少ない。演劇の台本をその場で読めたりアーカイブを見れたり、オープンカフェとしてロビーと近い距離に置き、オープンライブを行ったりできればよい。 ・広場にオープンカフェがでるといい。	・あまりお金をかけずに文化に触れられるスペースがほしい。	・ホールの歴史を残したい、という発想はとても興味深い。 ・オープンカフェを含め、外と中で一体感が出せると良いのではないか。

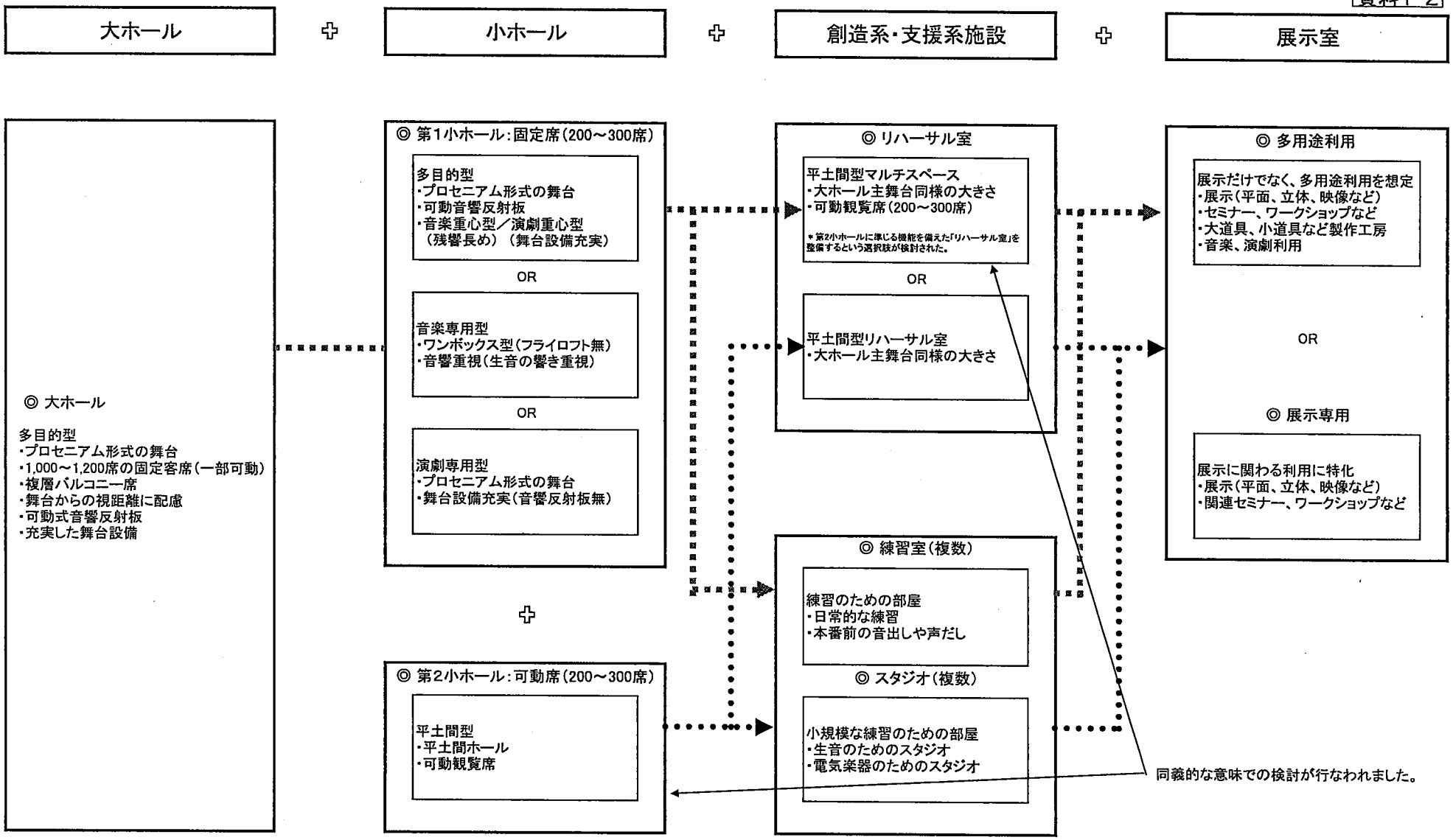
項目	小項目	1班	2班	3班	4班（機能については他班と同意見）	専門委員コメント
バリアフリー			・バリアフリーには十分考慮して欲しい	・全体的に弱者に優しいホールということを皆さんと話し合った。		
バリアフリー※	（5班）	・大ホールにスロープが欲しい。 ・座席の間にスペースがあると動きやすい。 ・車椅子席は前方や後方ではなく、中間くらいにほしい。また、団体で鑑賞できるスペースがあると良い。 ・座席を外して車椅子席を設けた場合、床に段差があると不便なのでフラットにして欲しい。 ・階段など、暗いと判別が難しいので、照明を設けるなど段差が分かるようにして欲しい。また、滑り止めを設置して欲しい。 ・聴覚障がいのある方は、公衆のFAXがあると便利である。 ・エレベータの設置は必須である。大きな車椅子を利用する方もいるので、20名以上が乗れるエレベータがあると助かる。 ・エレベータについて、中の様子が外から見えるように透明だと助かる。また、文字で「満員です」といった表示がブザーと併用であると良い。 ・エレベータはわかりやすい場所に設置して欲しい。 ・トイレについて、多目的トイレが2つ程度あると助かる。また、男女共用が望ましい。 ・トイレを流す際のバルブの位置について1ヵ所ではなく2ヵ所あると良い。 ・トイレの入口は電動で開くタイプが良い。 ・トイレの大きさについて、車椅子の大きさが人それぞれなので、大きい方がいい。 ・和式や洋式の種別が分かりやすく表示されていることが望ましい。 ・トイレのスイッチの設置位置は統一してほしい。視覚障がいのある方は、場所が統一されていないと手探りで探さなければならないことになる。 ・字幕はあった方がよい。 ・要約筆記のスペースを設けてほしい。 ・入口にはスロープを設けてほしい。 ・事務室などもバリアフリーにして欲しい。 ・エレベータが停止した際の避難経路を考えてほしい。 ・地下駐車場があると雨などの場合濡れないので助かる。			・現在、大ホールでは1000席から1200席が想定されているが、1200席の劇場が建設可能なスペースに1000席のホールを造ることでゆとりという新しい可能性がでてくるかもしれない。バリアフリーに配慮した施設は今後注目されると思う。 ・5班でまとめられたバリアフリーについての意見は、市民検討委員の皆さんから出されている機能と、十分に両立することができる。 ・劇場というのは特殊な空間のため、全ての場所に車椅子で移動することは難しい。しかし、できるだけ多くの裏回りスペースに車椅子でもアクセスできるようにすることが望まれる。 ・バリアフリーを全面に押しだすのではなく、さりげなく、それでいてしっかりとこれまでに検討されてきたことに組みいれていくことが望まれる。 ・障がいを持つ方の意見を聞く機会は大変に貴重である。今後このような機会を重ね、しっかりと計画を検証していかなければならない。 ・ユニバーサルデザインを取り入れるということは、これからの時代の公立文化施設では大変に重要な視点となってくる。 ・男性トイレにもベビーチェアー・ベビーシートが必要になってくる。今後、広くユニバーサルデザインについて考えていく必要がある。
防災		・地震や津波等の災害に配慮し、観光客や観客が帰宅難民になった場合の対応ができる職員を配置したほうがよい。			・自然エネルギーを活用、太陽光パネルを取り入れ、災害にも強いホールとする。	・防災で気になるのは、海沿いの地域のため地震の際の津波である。景観に配慮し高さを抑えるということを考えつつ、津波への対策を考えるかというが今後の検討課題となる。
駐車場		・一般観客用にはいらないという意見が多かった。 ・利用者が搬入物を安全に簡便に降ろすことのできる車寄せのスペースを関係者車両の通路に整備することでうまく流れができるようにし、車両の渋滞が起きないようにする。 ・関係者用の駐車場はきちんと確保することが必要。 ・小田原市条例で駐車場は建坪により台数が決められている。今まで出ている条件から概算台数を出し、今の敷地にその台数の駐車場ができるかを検討した方がよい。				・市条例での付置義務による台数程度であれば関係者用程度になる考えられる。 ・神奈川県立音楽堂は9台までが主催が無料で使える駐車台数。子どもが大型バスで来る場合や、議員さんなど県の関係のものなどは別扱い。
前庭		・これまでの検討のほとんどが建物に集中しているが、お堀から30mセットバックして建物を建てるのであれば、前の広場を有効に使うことを考えた方がいい。 ・建物の中に全ての活動を押し込むというのは無理がある。広場を上手く活用し、施設内のウエイトを減らすことができるのではないだろうか。その議論がされていない。 ・現状の芝生の部分も有効に使わなければただの空き地になってしまう。	・敷地の前庭について、城趾公園や野外イベントのことも考え、設計段階から検討していただきたい。	・広場をつくり、ミュージックストリートのような活動が日常的にできたら良い。 ・広場にオープンカフェがでると良い。		・外で若者が練習し、ある程度のルールが守れるのであれば、そういったことがまちの賑わいになるのではないか。
景観		・門からどう見えるのかを重視し、どの程度のスペースを開けて整備するのかを早く決めた方がよい。 ・高さ制限などの様々な条例を認識させて欲しい。	・できるだけ建物高さが低い建物としたい。	・外からホールを見るという視点もあるが、高さがある施設という特長を活かして、中から外の景色を観る視点もある。お城や海などのビューポイントを確保してほしい。		・景観について、ホールは一度つくったら何十年も存在するので、非常に重要である。

項目	小項目	1班	2班	3班	4班（機能については他班と同意見）	専門委員コメント
その他	倉庫	・ピアノを収納する倉庫が欲しい。				・ピアノ庫は、新しいホールには問題なく計画される。今後の課題は、ピアノを何台整備するのか、また舞台までの動線についても検討する必要がある。
	事務所					
	その他	・舞台設備については、様々な意見がだされた。 ・舞台技術スタッフには、専門的な人が欲しい。 ・商店街との連携を考えていきたい。高円寺の例も参考にしたいが、小田原市の店舗にアート作品を置き、イベント化されるような形を考えている。そういったことを行わないと利用者が増えないと思う。 ・ホール運営の為の財団を創っていただきたい。 ・ガラスで覆われているようなホールが必要なのか。ホールを利用する時には外光を遮断しているので、普通の照明を備えれば良いのではないか。 ・クロークがあると主催者側の負担になるのでいらないのではないか。その代わりにお金の返ってくるコインロッカーを設置して欲しい。 ・小田原おもてなし隊のようなチームパフォーマンス集団をつくり、定期公演を行っていけたらという声があった。実際に活動しているところがあるらしい。 ・運営のための財団をつくってほしい。今からでも既存施設の運営を行いながら、新しいホールの運営にあたって欲しい。 ・市民会館と今考えているホールを結ぶ商店街はお堀端通りになる。いろんなイベントを絡ませようとしても商店が少ない。施設でイベントなどをしないと難しい。また商店街との連携も難しいと思っている。 ・現市民会館がなくなった時に、その跡地を練習室やミーティングルームなど、市民が一般的に使えるものを整備してはどうか ・屋外には、こもれびがあるような落ち着いた風景があったほうがよい。屋外で現代美術などの展示も可能ではないか。 ・ソーラーシステムや雨水の再利用を行っていきたいという案が出た。 ・ソフトはいつでもできるが、早くやらないと問題点が出てこない。新しい施設ができなければできないわけではない。古いが市民会館やけやきなどの施設はある。そこを今からどう使うか、すぐに取り組んだ方が良い。 ・市民ホールの諸室は基本的に有料とする。それを原則に割り引きなどの対応を考えれば良い。	・全体的に整備コストを極力かけない。 ・緊急時に使用できる部屋、救護室、託児室などを計画する。 ・今後の文化政策が明らかでないので意見は分かれたが、文化政策が決まればそれに従って決めていくことができる。	・コストの問題はあるが、色んな意見を出し合い、その中から一番よいものを選択し、あまりコストにこだわらないようにした方がよいのではないか。可能なものは造っていくという考え方で進めて欲しい。 ・ホールの建築音響の考え方、音響設備だけでは解決できない。特に冬場の暖房はタブーなので、クロークをしっかりと整備してほしい。 ・お客さんの中で具合の悪くなった人の為に畳の部屋があればいいのではないかという意見が出た。休憩室としてだけではなく、茶室として利用したりなど、多目的に利用できたらいいのではないか。	・映画会を行いたい。 ・小田原の木材をふんだんに使ったホールにしたい。 ・遊び心のある建物にしてほしい。 ・市民がお金をかけずに文化に触れられる事業や設備と、きちんと収益がとれる事業の両方とも行いたい。	・舞台芸術に関心を持たない方々がどうやったら劇場に足を運んでくれるかが重要である。30%の方が舞台芸術を好きだという一方で、70%の市民は無関心であったり興味がなかったりする。残りの70%の人にどうやって足を運んでもらうかということを考えると、アーカイブスやレストラン、オープンカフェなども整備することでその仕掛けになる。また、そのことによって地域に根差した施設づくりを行なっていくことが、これからの公立文化施設の大きな役割だと考える。 ・市民が利用する施設や機能への関心が高いが、その活動を支える市民が一般には利用しない部分、そこが"公の施設"では疎かになりがちである。裏方の機能もしっかりと整備できないと、市民利用機能は十分に支えていけない。 ・ハードを支えるのはソフトだが、ソフト・運営面だけでも成り立たない。そのためには裏方部分の機能が重要になる。 ・文化施設が今後どのように変わっていくかということを考えてる一方で、舞台芸術の有り方も今後どのように変化していくのかということを考える必要がある。 ・これまでの公立文化施設では、大迫、小迫、廻り舞台、脇花道があるというのが定番だった。しかし、今日ではそのことだけが必ずしも定番ではなくなってきている。 ・舞台芸術の表現スタイルは、どんどん変わってきている。ダンスや映像などでも、舞台芸術の表現が多様になってきている。 ・これからの「地域劇場」のあり方を考えると、どのような施設にしていくべきかということが少し見えてくるのではないか。 ・現代の建築技術では、コンサートにも演劇にも対応できるホールを創ることが可能であると考える。 ・行政が主導して施設や設備を決めるのではなく、こういったひとつの答えの出ない話し合いを重ねるということも重要である。 ・今回の検討でバックヤード、裏方部分の議論が進み、図面に落とした時に「これはどうなってる？」ということがないようにしたい。 ・有名な建築家だからといって、必ずしも使いやすい劇場ができるわけではない。こういった話し合いの成果をきちんと汲み取って計画を進めていくことが大切である。 ・座・高円寺は地下に建物の70%が埋まっている。そのため3月11日の地震ではほとんど揺れなかった。また、地下にあるので冬は暖かい。地下を活用したことのメリットはあったと考える。そのことから地下に諸室を整備するのもいい考えだと思う。 ・音楽ホールが横浜以西にはないとのことで、是非創るべきだと考える。ただし、音楽ホールに特化してしまうと、利用者は全体の30%程度にとどまる。音楽以外の70%を講演会、演劇、ダンス、その他音楽系と考えると、その需要をどうまかなっていくのかという課題がある。そう考えると特化しにくい部分はあるのではないか。 ・賑わいというのは大事、まちを建物のなかに持ち込む設計が必要である。 ・アートの創造の場として、あとは市民が頑張るというのは力強く良いと思う。

項目	小項目	1班	2班	3班	4班（機能については他班と同意見）	専門委員コメント
						・誰もが100%満足するホールは難しいので、あとは運営と工夫が必要である。 ・何でもできる場所を整備し、その場を活かすという気概こそが、ホールを活かしていくことになる。 ・入るならなんでも入れてほしいが、敷地を考えた時に入らないのではないか。優先順位の問題・高校生や若い人がそういう施設を利用することが、このホールの賑わいになる、という意見もあったので、賑わい創出という目的も合わせて考えたらどうか。 ・若者が集まる仕掛けは、何らかの形で考えていきたい。 ・建物についてはモデル設計の段階で面積やコストの概算が出てくる。 ・財団をつくり今から既存施設を活用した事業を行っていくというのは非常に重要な視点。そういった活動の実践からそれぞれの部屋の使いこなしが出来ると考える。 ・知恵と工夫だけはどうしても対処しきれないことは、新しいホールの機能としてしっかりと盛り込んでいけると良い。 ・金沢市民芸術村は旧工場跡を活用し24時間体制で稼働できる施設を整備している。 ・全て有料が原則という形で考えていただきたい。ホールの収入は貸館収入と主催事業の入場料収入がある。かなり優秀なホールでも、年間の管理運営経費に対して収入で補えるのは30%程。その目標を持って運営しなければならない。

※障がい者の団体のみなさんで、5班としてワークショップを行った。

資料1-2



＊「固定席」を持つ小ホールを優先して計画した場合、「可動席」を持つ小ホールを別途計画するという選択肢が検討される

市民検討委員会施設機能ワーキング検討の取りまとめ

資料1-3

機能分類	諸室名	諸室機能
創造系・支援系機能	リハーサル室	広さはホールの主舞台に準じる広さを備え、舞台芸術作品を創造するための機能を備える。必要に応じて仮組みの大道具や本番用の舞台照明を仕込んで立稽古を行なうこともある。そのためには、中長期の連続使用が可能なように検討する必要がある。設備として姿見やバレエバー、舞台照明や舞台音響設備も備えることがある。 また特殊なケースとして、ホールの楽屋としても使用ができる動線を確保しておくこともある。
		また、移動型の客席を備える(組み立てる)ことによって、小規模な公演や試演会を行う可能性を残すことも考えられる。特に平土間で固定の客席を持たないことから、任意の位置に舞台や客席を設定できると共に、舞台芸術や音楽芸術の公演というだけでなく、自由な発想での利用が期待できる。ただし、そのためには遮音性能や静音性能にも優れている必要がある。
	練習室	リハーサル室に比較して、大道具などの仮組みまでは想定しないが、小規模の練習(立ち稽古など)が行なえる部屋。 また、本番前の声出しや音出しなども行なえることが望まれる。
	スタジオ	練習室よりさらに小規模な部屋で、数人でのアンサンブルの練習や本番前の音出し、声だしなどが行なえる必要がある。一般には、生音の楽器の練習に適したスタジオの他に、電気楽器を使用できる吸音性能と遮音性能の高いスタジオを整備することがある。 ピアノやドラムセットを常設するスタジオを計画することもある。
	創造スタッフ室	積極的に市民参加活動を行なっていこうとうする市民(あるいは団体)のための控室。打合わせや印刷などの作業を行なうことに加えて、定期的な活動を行なう団体毎の収納ロッカーを設置する。
	授乳室	施設利用者が授乳や着替えをさせるために使用するための部屋。洗面設備などを設けることがある。
	託児室	子どもを同伴して来館された方が、鑑賞や活動の間、一時的に子どもを預かる機能を備えた部屋。洗面や子どものための更衣スペースやトイレなどを備える。 利用に際して、子どもの面倒を見てくれる専門家を配置するかどうかは運営によって決定する。
	会議室	会議や小規模のレクチャーなどが可能な機能を備える。必要に応じて隣室と一体利用ができるなど、利用によって会議室の大きさが可変できることもある。ただし、隣室間では一定の遮音性能を備える必要もある。
	更衣室	リハーサル室や練習室で練習する前に着がえるための部屋。男女別に更衣室を計画し、施錠ができるロッカーを内部に設置することもある。 また、必要に応じてシャワー室やトイレなどの併設も考えられる。
	ロッカー室	手荷物を置いてリハーサル室や練習室で練習をする場合の利用を想定。ただし、上記の更衣室内にまとめて計画する場合もある。
	楽器庫	練習室で使用する楽器(多くはピアノ及び椅子、移動台車など)を格納し、常時温度と湿度の管理を単独で行なえるようにする。リハーサル室や練習室の数が多い場合には、収納する楽器の台数や種類も増えてくる可能性がある。
展示系機能	展示室	大型の作品を展示できるように4m以上の天井高さを備える。展示室の四周を展示壁面とするが、天井吊移動型パネルを供えることで、展示壁面長を補うと共に自在な展示空間を形成できるようにする。 展示される作品は、平面作品だけでなく立体や生花など様々な利用に加えて、関連ワークショップや講演なども想定する。
	準備室	展示室で行なう準備を行なえる機能を備える。水場を備えるとともに作業台や必要な備品庫などを配置する。
	備品庫・収納他	展示台や展示照明、脚立や高所作業台など展示のための準備を行なう備品などを収納しておく。

資料2

市民ホール基本計画市民検討委員会

WS 5 ワークショップかわら版

《作成・発行》
小田原市
文化部文化政策課
＆ 空間創造研究所

平成23年11月7日

清々しい秋晴れとなった10月23日(日)、小田原市役所7階大会議室にて第5回市民ホール基本計画市民検討委員会が行われました。第5回は市民委員33名、(女性12名、男性21名)、市の事務局スタッフ9名、その他の事務局スタッフ4名、市民ホール基本計画策定専門委員会から桧森委員、勝又委員、伊藤委員の3名、合計49名が参加しました。

急遽追加の検討委員会となった今回は班ごとに第3回、第4回の議論の中で足りなかった所を中心に、引き続き市民ホールに求められる機能を考えていきました。

第5回　「市民ホールに求められる諸室や機能を考える③」

第3、4回に引き続き、市民ホールに求められる諸室や機能についての検討を行いました。
今回は班ごとに第3、4回で足りなかった部分、複数の意見がでていたところを整理していきました。
また、ホールの景観やエコ対策、防災対策、バリアフリーなどについても各班から意見がでました。

1班

★☆★Point★☆★
財団を設立しホールの運営を行う提案がされました。運営についてはホールの開館を待つのではなく、今からでも市民会館や生涯学習センターけやきの展示室を利用して、できることを始めたいという意見が出されました。また、景観や防災、エコについての対策も求められました。

★☆★委員コメント★☆★
・ホールという建物は一度つくると何十年も目にすることになるので、景観は非常に重要だと思います。
・財源やスペースには限りがあるので、どうしても知恵と工夫で対処しきれない部分を補える設備が必要かと思います。

2班

★☆★Point★☆★
展示室の面積について「展示室+バックヤードで400㎡は必要」という意見がだされました。また、スタジオは稼働率が低いこと、敷地面積が足りないことが懸念されるので他の施設との役割分担をして、整備は必要ないのではないかという提案がされました。小ホールについては、音楽重視の固定席多目的ホールではどうかという見解にまとまりました。

★☆★委員コメント★☆★
・スタジオを利用する若い人が出入りすることが賑わい創出となる可能性もあるので、その点も合わせて考えてはどうでしょうか。
・小ホールは音楽重視型の固定席多目的ホールが提案されましたが、今の技術では多目的でもしっかりと音響を担保できます。

3班

★☆★Point★☆★
創造支援系の施設として、サポートセンターの併設や打合せや会議など、ワークスペースとして利用できる場所が求められました。
展示室については「展示室400㎡+バックヤード200㎡=600㎡」が求められました。
また、中の活動を外に伝え、通りやまちにホールの賑わいを見せていくことで可能性を広げていく提案がされました。

★☆★委員コメント★☆★
・賑わいをホールの外に伝えるということはとても大事です。建物の中にまちを持ち込む設計が必要になってくると思います。
・市民の皆さんが楽しそうに活動していることが、ホールをまちに開いていくことになるので、とても重要な視点だと思います

4班

★☆★Point★☆★
「大ホール利用者が本番前に利用するリハーサル室」と「市民が自由に使えるマルチスペース」の両方の整備が求められました。また、若い人が音楽や演劇の稽古で利用できるスタジオの整備や、展示室400㎡+バックヤード200㎡の展示室も提案されました。

★☆★委員コメント★☆★
・簡単な打ち上げができる飲食可のマルチスペースがあると使い勝手が良いと思います。
・誰もが100%満足するホールを作ることは物理的に不可能なので、何でもできる場所をつくり、市民の皆さんがその場所を利用して自由な発想で利用していくという想いが、建物全体を活かすことになると思います。

★☆★市民ホール基本計画策定専門委員ミニレクチャーの内容をご紹介します★☆★

勝又委員　～第3回専門委員会会議内容と今後の検討について～

- 第3回専門委員会の感想ですが、市民の皆さんの意見が分かれているように、専門委員の間でも意見が分かれている部分があります。「できるだけ皆さんに使いやすく」と考えていますが、全て100%と言えない部分があります。
- 劇場は相反する部分が多々あります。例えばゆったりとした客席を作れば舞台から遠くなってしまいますし、客席の3階席が怖いという意見もありますが、舞台までは近くなります。様々な選択肢があるので、こういったことを問題だと思うのではなく、楽しんで考えて頂きたいと思います。

伊藤委員　～神奈川県立音楽堂の諸室と活用方法について～

- 音楽堂には最低限の設備しかなく、足りないところは工夫して運営しています。ミニマムな例としてご参照ください。
- 楽屋は和室1室(6畳)、洋室4室(大2、中2)、リハーサル室(90㎡、40名程度、グランドピアノ)があります。人数が多く楽屋が足りない場合は、リハーサル室を楽屋として利用します。また、和室楽屋が1室しか無いため、古典・伝統芸能系は洋室に畳を敷いて対応しています。
- リハーサル室は楽屋の中に付随しているので、ホールを借りると自動的に利用可能になります。本番前の音出し・声出しはリハーサル室で行います。また、2ヶ月前に舞台に何も催しがない場合は、リハーサル室のみの貸出もおこなっています。
- 音楽堂を継続的に利用し、定期的に打合せがある団体には、事務所の棚などの一部を貸出しています。

桧森委員　～使いやすいホール、求められるホールについて～

- ホールでイベント制作を行っている立場から見ると、使いやすいホールと使いにくいホールがあります。主催者側からすると、何事も時間のかからないホールは非常に使いやすいです。例えば、搬入動線が他の場所と重なっていない、スタッフの動線と観客動線がしっかり分かれている、といったことが上げられます。
- 理由は、時間がかかるとホール使用料や人件費なども多くなるためです。そういった細部に配慮できているホールが、市民の皆さんが利用しやすいホールになります。
- 何を目的にホールを運営するのか考えたときに、ホールごとの特徴がでてくるのが創造・支援系の部分になります。例えば、あちこちにホールを訪れた人が座れるイスが置いてあるホールでは、そこを利用する人がいるので自然な賑わいができます。皆さんがホールに集まって創造する、ミーティングすると考えたときに、どの様なものがあったらいいかを考えていただけるといいと思います。

ワークシートのふせん内容をご紹介します

1班

【大ホール】大ホール、搬入口は短く、巾は広く、トラック(11t)の横付きを可能な道路を！／大ホール、舞台を広く！ オーケストラは 100 人、合唱等は 200 人可能な広さを是非確保！！／大・小ホール使いやすさを重視、搬入時間等スタッフの体力をそこなわない様に
【小ホール】小ホールは大ホールの小型、しかしムダのない使い易さを求める／小ホールは演奏、演劇専用に特化(固定椅子です) 他は第 2 小ホールは平土間で多目的用に／小ホールの利用者、小田原市以外で活動せざるをえない環境にいる団体の声を聞いてほしい／いわゆる小ホールは固定席だと、そうでない空間の使い方が出来なくなる訳だが、それでいいのか？空間の使い方としては、幅広い発想で行くべき→可動席スタイル or 平土間／展示の行われているときのワークショップや作家と語る会とかを行う小ホールの在り方。／小ホールの「モンダイ」はサジが投げられて以来、まだまとまっていないので今後も・・・。簡単にまとまるようなモンダイではないだろう。稼働率、コストも含め、詰め！！／"小田原おもてなし隊"のようなチームパフォーマンス集団を作って小ホールで定期公演(笑)
【舞台設備】音響、大道具、照明、制作のプロの方々に「こういうホールが使いやすい」「こういうホールが嫌」というのをアンケートとか取って、プロの意見を集めるのも大切だと思います。
【展示室】展示室は展示専門としてほしい。ゆえに第 2 小ホールのことが存在する。／水場には流す水がゴミが流れないようにアミをつけれるように！／展示スペースで何か別のイベントをやる場合、最低の音響システムが必要。その手の空間は「音」がヒドイ事が多い。「音楽」をやることを前提に。
【創造系】市民へ貸出可能なミーティングルーム、防音スタジオを作る(創造・支援・交流)／工作室はケヤキにあるのでそちらで！／工作室にかわるものを、ケヤキにあるものをもっと充実して利用する／現市民会館に工作室や駐車場、アトリエ、スタジオ、練習室をつくったら／練習スタジオ 小・・・ピアノ、バンド(ドラム含む) 楽器(個人、アンサンブル) 声楽(1 人～少人数) 中・・・たいこ、ダンス(少人数) ハンドベル？ 楽器 大・・・ダンス(大人数)、バレエ、合唱、ブラスバンド それぞれどのくらいのニーズがあるか分かれば必要な数も分かってくるかと思います／バレエのバーと鏡一面のお稽古室がないと。オーディオ機器付きまで／バレエ・ダンス等でバー付き、鏡付きスタジオ、床リノリウム付き／伝統芸能のお稽古が出来る環境
【支援系】無尽蔵の活動の中で気軽に集まれるカフェのようなものがほしい。アートカフェギャラリーかも！／施設、予約ナシで自由な時間に使えるミーティングルームを(会議室兼用も可)／パソコン等のインターネット施設の利用／事務室に市民をいれるのは利用者の個人情報書類もあるので危険。専用の活動、打合せスペースはあったほうがいい。／ミーティングルーム ※アート、カフェ、ギャラリー ※会議室小 2 コ／登録団体のロッカールーム／サポセンとは違う、この施設を利用する人、団体の名簿づくり。利用料、ミーティングルーム etc／小規模な打ち上げが可能な飲食用の部屋を
【付属諸室】大ホール、小ホール、展示室のそれぞれの搬入口／楽器の保管庫を(有料で可) 是非入れて欲しい！！／楽屋 和室は絶対必要です／大小ホールに問わず楽屋スペースにトイレは作って欲しいです。／カフェはハーバルカフェにするとリラックス＆ヘルシー！(私やりますよー(笑))
【運営】施設の利用料は原則全て有料→ここから料金を区分していく方法、割引、無料等／ホール運営をするための財団や部署(常駐経営)を設けて！／運営は今からスタートできるのでは？
【トイレ】女子トイレはスペースがあるなら、洗面台とは別に化粧スペースが欲しい。(洗面台で化粧直しをされると、手を洗えない人が詰まってしまうので)
【駐車場】大・小ホール及び展示場の概算建坪を算出して駐車場数がどの程度になるか要検討(重要)／決まった範囲、他に決まった条例、あらゆる制約の中でそこを考えながら中身を作っていくことを考える。理想と現実の兼ね合わせ。／ホールとお堀の地下に駐車場をつくりつなげる。
【外観】もう具体的な箱の案(サイズ・デザイン)の話も欲しい。
【景観】外観 小田原城三の丸小との共感／お堀の環境にマッチすること！(ガラス張りは不可)／シンプルな外観で充実した中身。／屋上から城をみる屋上庭園、又、エコ施設を多いに使う／そのサイズの土地の中に建てる建物の面積(サイズ)はおのずと大体決まるであろう。その場合、天地のサイズもおのずと出てくるとおもうが、その天地の長さはどのくらい？(地上何m+地下何m？)／こもれびのある広場と東屋。そして次に野外展／前庭のスペース(サイズはともかく)そこでもなんか出来ることを考える(ex:テント張って WS、イベント、バザール、フリマ、etc・・・)
【エコ】電力 ソーラーシステムの設置も一案(メンテナンスがかかるか？)／文化センターとして文化の発信地、小田原のエコカーの発車場／エコ配慮の施設とする 21 世紀の必須条件と思う／トイレでもエコ対策を！！／インフォメーション様にその電力は風力発電！プロペラをアートにしたら！／屋上というスペースを上手に使いたい。ガーデン、ソーラーパネル etc・・・。エコな感じのスペース／風力発電のプロペラがアートであったら！屋外に展示(インフォメーション)／雨水をためて利用する
【防災】・津波の避難場所 ・帰宅難民対応／避難誘導、緊急時の対応がきちんと出来るスタッフが常駐していること(スタッフの研修が必要)／避難者の受け入れどうするか。緊急時の対応をきちんと決めて、混乱のないように(市レベルできめなくてはいけない)

2班

赤字だと南足柄のように閉鎖になってしまう／小田原市の可動人口を考慮することが大切だと思う／大ホールにリハーサル室(ウォーミングアップ)のためのスペース／小ホールには楽屋・リハ室兼用で良い。防音できる／楽屋等にバリアフリー十分な考慮を／バンド系スタジオは別の施設で良い／400 ㎡を平場にしておいてその他の機能はパーテーションで／災害時に広くつかえる設計も／名の付かないフリースペースの方が良い。／守っていく文化⇔育てていく文化「○○のまちへ」／今の文化活動か未来の「○○」のまちへか／庭園設計は設計図の初期段階から公園全体の景観と合わせて／前庭、防災上なるべく広いスペース／鎌倉(藤沢？)に新しくできた武田の設計所は、全て津波の高さや向きを計算されて作られています。

3班

【大ホール・オペラ】やりたいオペラ フィガロ、魔笛、椿姫、ヴェリズモ 1 幕物 オルフェオ ヘンゼルとグレーテル アマールと夜の訪問者
【小ホール】小ホール 音楽と演劇の両立、くれぐれも／小ホールは固定式で音響の良い本格的なものが良い(藤沢以西で唯一のもの)／第 2 小ホールはリハーサル室とし、マルチスペースで平土間客席や舞台を自由に配置することが出来、多彩な演出が可能、発表会やコンサート、演劇、展示など幅広く対応できる。練習室としても利用できる。／大ホールにしても小ホールにしても充分なバックヤードが必要だと思う。
【展示室】展示室を何に使うか ①洋画 ②日本画 ③書道 ④写真 ⑤商業美術 ⑥水彩 ⑦彫刻 ⑧オブジェ ⑨工芸全般 ⑩陶芸 ⑪華道 ⑫茶道 ⑬伝統工芸 ⑭コンテンポラリーアートとすると・・・／展示室は小さくてもコンベンションルームと考えれば展示専用が相応しいかも。／展示室の天井高は高ければ良いとは思えない。冬と夏の温度管理をしっかりできるほうが快適な鑑賞が可能だろう(温度対策)／展示室は美術館的機能を要求するには無理がある。／200 ㎡バックヤード、インターネット配線、プロジェクター(天井から吊せる)、400 ㎡、天井高 4m／市民ギャラリー真白なカベの大きな部屋／展示施設は市民ギャラリーの名称にしてほしい。／西相展 10 月 市展 5 月 スケジュールかち合い大丈夫そう／展示ギャラリーは市民ギャラリーの名称にして欲しい／☆呼称「プレゼンルーム」or「コンベンションルーム」／展示はどこでも出来るというわけではない。背景となる壁面の仕上げが重要。従って小ホールでの展示は良くない。／現在の市民会館小ホールを改装して展示スペースにしたらどうか？
【リハーサル室】リハーサル室は第一に大ホールのイベントに特化する空間であって良いと思う。スケジュール組みによってリハーサル室のみの使用やギャラリーとの同時利用が出来ると良い。★大ホールで大人数が動くイベントは大きな控えの空間が必要だから
【創造系施設】創造系施設での活動が通りから見える「にぎわってるなあ」／練習室は防音両方出来るか？／練習室も密室でなく、外部からのぞけるオープンな雰囲気が良い。／会議室という名称はやめる／作業室、打合せ室、ワークショップ室／奥行 45cmの折畳み机は使わない／キャスター付き机の奥行は 60cm／打合せ机は 10 人が座れる楕円机／部屋の周囲に奥行 60cmの作業台を作り付け(2～3 室)／学校の教室方式はだめ(フリースペースにキャスター付き机で対処)／無線 LAN 設置／薄型 TV 設置(プロジェクター代わり)／主催者室はこれで兼用／打合せや簡単な稽古等を通りがかりの人々がショーウインドウ的に見られる空間があると良い。閉じていない施設。／練習室、アトリエ、会議室、ラウンジ 利用者が気持ちよく創作活動を行うことが出来るスペースを／タテヨコ比は 1:2 タタミ 1 畳 1:2 タタミ 2 畳 1 タタミ 3 畳 1.5 タタミ 4.5 畳 1 タタミ 6 畳 1.33 タタミ 8 畳 1 A4 1.41／・打合せの部屋 ・会議室 ・ワーキングスペース ・フリースペース(テーブル、イス)／現市民サポートセンターを移す
【交流系】共通ロビーはどの方向に面しているのか、もしお堀端の方向ならオープンロビーなども良いかも エントランスとする／レセプションルームが必要 100 人程度が交流できる、小規模だが天井の高い、拡張ある心地良い空間で／打ち上げパーティー、ミニコンサートなどにも使用出来る
【広場・景観】ホールの前面(堀端に面する所)は何車道より 30m位後退するようだが、ホールから見て借景として利用できないか／広場はミュージックストリートを毎日+オープンカフェ／スケールに関係なく毎日何かやってる市民ホール！／カフェ(異食)多く作ろう／バーもいります／海のみえるバー／ホール全体を巡る道に出来る限り素敵な案内掲示塔を設置したい／ラウンジをイメージしたカフェをお城が見える方角につくってほしい
【景観】海のみえる場所を確保してほしい／高さと景観は基本構想案で可

4班

【大ホール】ピアノは大ホールだけでなく、ロビーや展示室にも移動できるようフラットな設計にする。／大ホール、小ホールにはリハーサル室を使いやすいところに設置する
【小ホール】固定席 300 席
【リハーサル室】120 ㎡／大ホールと小ホールに付随する本番前のリハーサル専用。／若者のイベントが練習できる場所／ピアノのある楽屋／楽屋は大ホールと小ホールそれぞれ別に設けることが必要だろう(同時開催の事を考慮)／リハーサル室は、リハーサル、練習として使う。
【マルチスペース】300 ㎡／小ホールは演劇と音楽が両方できるものをつくる(今、音楽利用が多いからという理由は関係ない)／打ち上げをする場所がほしい／マルチスペースは打ち上げ、創造の場。何をしてもいいスペース。食事ができる、汚してもいい場所／若い人が気軽に楽しめる防音スタジオを、4 部屋はいる。／レセプションができるスペース／飲食もできる場所としても使えるといい(打ち上げ)／大ホールの舞台リハーサルとして使用可能なスペース／交流スペースとして多目的ホールでは簡単なパーティーができるようにしたい。／マルチスペースは音楽・演劇の発表会として使ってもいい／マルチスペース(大ホール舞台と同じ大きさ)と練習室、教室、防音／マルチスペースに可動観覧席は必要ない。必要に応じてイスを置けばいい。その倉庫が必要。
【展示室】400 ㎡以上 バックヤード 200 ㎡／展示室、展示スペース 400 ㎡+バックヤード 200 ㎡／企画展ができるような広さの展示スペース／平面・立体・映像など多用な展示可能なスペースとしたい／専門家による計画的な運営をしていく／今度の多用な展示活動の為に十分な広さのバックヤード(三ツ山案)の 400 ㎡に対して半分／展示と音楽がコラボできるようピアノが入るようにしておく(=バリアフリー)
【その他】市民が自由に使えるスタジオ(音楽・演劇・バンド・太鼓)4 部屋は必要／企画創造室／・ロビーで生演奏を聞きながらお客さんにくつろいでもらえる ・作品を見ながらピアノ演奏を聴けたらスバラシイ！！／若い人が集える機能が大切(ホールの利用を広げる層の育成)／小田原の自慢できる景色を楽しんでもらえると良い 海、お城／1 階にオープンカフェがあるといい。／駐車場はホールから近くなくても安価で使える場所の確保はできないか。／市民活動の場となる「サポセン」の機能を設けてにぎわいを／同日に他団体が出演する時は楽屋→舞台などの移動時に混乱しないように動線を考える。

★☆★ひとことアンケートの一部をご紹介します★☆★

・4班のマルチスペース：市民が何に使ってもよいスペースというのは、よい考え。・3班のオープンカフェ：にぎわい、外からホールを見るという考え、賛同。・2班のリハーサル室等の室の名称の固定化にまどわされないに、賛同。・1班のエコ、防災、非常時を考えていくに、賛同。常に思うのが、この立派に作るホールを誰が運営、事業企画するの？できてから決めるの？？／話し合いを重ね、かなり具体的な市民ホールの姿が見えてきた。「広く市民が集い、若い人たちにも親しまれ、企画で外部に発信することで、町に活気が生まれる」市民ホールが文化創造の拠点となるような気がします。展示スペースの400㎡確保。展示スペース外に200㎡のバックヤードは確保したいと思います。／ホールロビーが「にぎわっている」状況とホールそのものに人が来ていると「にぎわい」は同じとする意見があるが、おかしい。ホールの「にぎわい」は基本的に「ホール」運営企画次第でロビーが「にぎわい」とは「ニゲ」の対案では？／議論も大部につまってきたように感じます。もうすこし諸室について話し合った方が良いように思います。

★☆★第６回市民ホール基本計画市民検討委員会★☆★

日時：11月6日（日曜日）

午前10時から12時30分

場所：小田原市役所3階全員協議会室

「市民ホール・運営や組織を考える！」

ミニレクチャー：桑谷委員

資料3

第5回市民検討委員会ふせん内容

1班
【大ホール】
・大ホール、搬入口は短く、巾は広く ・トラック(11t)の横付きを可能な道路を！
大ホール、舞台を広く！ オーケストラは100人、合唱等は200人可能な広さを是非確保！！
大・小ホール使いやすさを重視、搬入時間等スタッフの体力をそこなわない様に
【小ホール】
小ホールは大ホールの小型、しかしムダのない使い易さを求める
小ホールは演奏、演劇専用に特化(固定椅子です) 他は第2小ホールは平土間で多目的用に
小ホールの利用者、小田原市以外で活動せざるをえない環境にいる団体の声を聞いてほしい
いわゆる小ホールは固定席だと、そうでない空間の使い方が出来なくなる訳だが、それでいいのか？空間の使い方としては、幅広い発想で行くべき→可動席スタイルor平土間
展示の行われているときのワークショップや作家と語る会とかを行う小ホールの在り方。
小ホールの「モンダイ」はサジが投げられて以来、まだまとまっていないので今後も・・・。簡単にまとまるようなモンダイではないだろう。稼働率、コストも含め、詰め！！
“小田原おもてなし隊”のようなチームパフォーマンス集団を作って小ホールで定期公演(笑)
【舞台設備】
音響、大道具、照明、制作のプロの方々に「こういうホールが使いやすい」「こういうホールが嫌」というのをアンケートとか取って、プロの意見を集めるのも大切だと思います。
【展示室】
展示室は展示専門としてほしい。ゆえに第2小ホールのことが存在する。
水場には流す水がゴミが流れないようにアミをつけれるように！
展示スペースで何か別のイベントをやる場合、最低の音響システムが必要。その手の空間は「音」がヒドイ事が多い。「音楽」をやることを前提に
【創造系】
市民へ貸出可能なミーティングルーム、防音スタジオを作る(創造・支援・交流)
工作室はケヤキにあるのでそちらで！
工作室にかわるものを、ケヤキにあるものをもっと充実して利用する
現市民会館に工作室や駐車場、アトリエ、スタジオ、練習室をつくったら
練習スタジオ 小・・・ピアノ、バンド(ドラム含む) 楽器(個人、アンサンブル) 声楽(1人～少人数) 中・・・たいこ、ダンス(少人数) ハンドベル？ 楽器 大・・・ダンス(大人数)、バレエ、合唱、ブラスバンド それぞれどのくらいのニーズがあるか分かれば必要な数も分かってくるかと思います
バレエのバーと鏡一面のお稽古室がないと。オーディオ機器付きまで
バレエ・ダンス等でバー付き、鏡付きスタジオ、床リノリウム付き
伝統芸能のお稽古が出来る環境
【支援系】
無尽蔵の活動の中で気軽に集まれるカフェのようなものがほしい。アートカフェギャラリーかも！
施設、予約ナシで自由な時間に使えるミーティングルームを(会議室兼用も可)
パソコン等のインターネット施設の利用
事務室に市民をいれるのは利用者の個人情報書類もあるので危険。専用の活動、打合せスペースはあったほうがいい。
ミーティングルーム ※アート、カフェ、ギャラリー ※会議室小2コ
登録団体のロッカールーム
サポセンとは違う、この施設を利用する人、団体の名簿づくり。利用料、ミーティングルームetc
小規模な打ち上げが可能な飲食用の部屋を
【付属諸室】
大ホール、小ホール、展示室のそれぞれの搬入口
楽器の保管庫を(有料で可) 是非入れて欲しい！！
楽屋 和室は絶対必要です
大小ホールに問わず楽屋スペースにトイレは作って欲しいです。
カフェはハーバルカフェにするとリラックス＆ヘルシー！(私やりますよー(笑))

【運営】
施設の利用料は原則全て有料→ここから料金を区分していく方法、割引、無料等
ホール運営をするための財団や部署(常駐経営)を設けて！
運営は今からスタートできるのでは？
【トイレ】
女子トイレはスペースがあるなら、洗面台とは別に化粧スペースが欲しい。(洗面台で化粧直しをされると、手を洗えない人が詰まってしまうので)
【駐車場】
大・小ホール及び展示場の概算建坪を算出して駐車場数がどの程度になるか要検討(重要)
決まった範囲、他に決まった条例、あらゆる制約の中でそこを考えながら中身を作っていくことを考える。理想と現実の兼ね合わせ。
ホールとお堀の地下に駐車場をつくりつなげる。
【外観】
もう具体的な箱の案(サイズ・デザイン)の話も欲しい。
【景観】
外観　小田原城三の丸小との共感
お堀の環境にマッチすること！(ガラス張りは不可)
シンプルな外観で充実した中身。
屋上から城をみる屋上庭園、又、エコ施設を多いに使う
そのサイズの土地の中に建てる建物の面積(サイズ)はおのずと大体決まるであろう。その場合、天地のサイズもおのずと出てくるとおもうが、その天地の長さはどのくらい？(地上何m+地下何m？)
こもれびのある広場と東屋。そして次に野外展
前庭のスペース(サイズはともかく)そこでもなんか出来ることを考える(ex：テント張ってWS、イベント、バザール、フリマ、etc・・・)
【エコ】
電力　ソーラーシステムの設置も一案(メンテナンスがかかるか？)
文化センターとして文化の発信地、小田原のエコカーの発車場
エコ配慮の施設とする　21世紀の必須条件と思う
トイレでもエコ対策を！！
インフォメーション様にその電力は風力発電！プロペラをアートにしたら！
屋上というスペースを上手に使いたい。ガーデン、ソーラーパネルetc・・・。エコな感じのスペース
風力発電のプロペラがアートであったら！屋外に展示(インフォメーション)
雨水をためて利用する
【防災】
・津波の避難場所　・帰宅難民対応
避難誘導、緊急時の対応がきちんと出来るスタッフが常駐していること(スタッフの研修が必要)
避難者の受け入れどうするか。緊急時の対応をきちんと決めて、混乱のないように(市レベルできめなくてはいけない)

2班
赤字だと南足柄のように閉鎖になってしまう
小田原市の可動人口を考慮することが大切だと思う
大ホールにリハーサル室(ウォーミングアップ)のためのスペース
小ホールには楽屋・リハ室兼用で良い。防音できる
楽屋等にバリアフリー十分な考慮を
バンド系スタジオは別の施設で良い
400㎡を平場にしておいてその他の機能はパーテーションで
災害時に広くつかえる設計も
名の付かないフリースペースの方が良い。
守っていく文化⇔育てていく文化「○○のまちへ」
今の文化活動か未来の「○○」のまちへか
庭園設計は設計図の初期段階から公園全体の景観と合わせて
前庭、防災上なるべく広いスペース
鎌倉(藤沢？)に新しくできた武田の設計所は、全て津波の高さや向きを計算されて作られています。

3班
【大ホール・オペラ】
やりたいオペラ　フィガロ、魔笛、椿姫、ヴェリズモ1幕物　オルフェオ　ヘンゼルとグレーテル　アマールと夜の訪問者
【小ホール】
小ホール　音楽と演劇の両立、くれぐれも
小ホールは固定式で音響の良い本格的なものが良い(藤沢以西で唯一のもの)
第2小ホールはリハーサル室とし、マルチスペースで平土間客席や舞台を自由に配置することが出来、多彩な演出が可能、発表会やコンサート、演劇、展示など幅広く対応できる。練習室としても利用できる。
大ホールにしても小ホールにしても充分なバックヤードが必要だと思う。
【展示室】
展示室を何に使うか　①洋画　②日本画　③書道　④写真　⑤商業美術　⑥水彩　⑦彫刻　⑧オブジェ　⑨工芸全般　⑩陶芸　⑪華道　⑫茶道　⑬伝統工芸　⑭コンテンポラリーアートとすると・・・
展示室は小さくてもコンベンションルームと考えれば展示専用が相応しいかも。
展示室の天井高は高ければ良いとは思えない。冬と夏の温度管理をしっかりできるほうが快適な鑑賞が可能だろう(温度対策)
展示室は美術館的機能を要求するには無理がある。
200㎡バックヤード、インターネット配線、プロジェクター(天井から吊せる)、400㎡、天井高4m
市民ギャラリー真白なカベの大きな部屋
展示施設は市民ギャラリーの名称にしてほしい。
西相展10月　市展5月　スケジュールかち合い大丈夫そう
展示ギャラリーは市民ギャラリーの名称にして欲しい
☆呼称「プレゼンルーム」or「コンベンションルーム」
展示はどこでも出来るというわけではない。背景となる壁面の仕上げが重要。従って小ホールでの展示は良くない。
現在の市民会館小ホールを改装して展示スペースにしたらどうか？
【リハーサル室】
リハーサル室は第一に大ホールのイベントに特化する空間であって良いと思う。スケジュール組みによってリハーサル室のみの使用やギャラリーとの同時利用が出来ると良い。　★大ホールで大人数が動くイベントは大きな控えの空間が必要だから
【創造系施設】
創造系施設での活動が通りから見える「にぎわってるなあ」
練習室は防音両方出来るか？
練習室も密室でなく、外部からのぞけるオープンな雰囲気が良い。
会議室という名称はやめる
作業室、打合せ室、ワークショップ室
奥行45cmの折畳み机は使わない
キャスター付き机の奥行は60cm
打合せ机は10人が座れる楕円机
部屋の周囲に奥行60cmの作業台を作り付け(2～3室)
学校の教室方式はだめ(フリースペースにキャスター付き机で対処)
無線LAN設置
薄型TV設置(プロジェクター代わり)
主催者室はこれで兼用
打合せや簡単な稽古等を通りがかりの人々がショーウインドウ的に見られる空間があると良い。閉じていない施設。
練習室、アトリエ、会議室、ラウンジ　利用者が気持ちよく創作活動を行うことが出来るスペースを
タテヨコ比は1:2　タタミ1畳1:2　タタミ2畳1　タタミ3畳1.5　タタミ4.5畳1　タタミ6畳1.33　タタミ8畳1　A4 1.41
・打合せの部屋　・会議室　・ワーキングスペース　・フリースペース(テーブル、イス)
現市民サポートセンターを移す
【交流系】

共通ロビーはどの方向に面しているのか、もしお堀端の方向ならオープンロビーなども良いかも　エントランスとする
レセプションルームが必要　100人程度が交流できる、小規模だが天井の高い、拡張ある心地良い空間で
打ち上げパーティー、ミニコンサートなどにも使用出来る
【広場・景観】
ホールの前面（堀端に面する所）は何車道より30m位後退するようだが、ホールから見て借景として利用できないか
広場はミュージックストリートを毎日+オープンカフェ
スケールに関係なく毎日何かやってる市民ホール！
カフェ（異食）多く作ろう
バーもいります
海のみえるバー
ホール全体を巡る道に出来る限り素敵な案内掲示塔を設置したい
ラウンジをイメージしたカフェをお城が見える方角につくってほしい
【景観】
海のみえる場所を確保してほしい
高さと景観は基本構想案で可

4班
【大ホール】
ピアノは大ホールだけでなく、ロビーや展示室にも移動できるようフラットな設計にする。
大ホール、小ホールにはリハーサル室を使いやすいところに設置する
【小ホール】
固定席300席
【リハーサル室】
大ホールと小ホールに付随する本番前のリハーサル専用。
120㎡
若者のイベントが練習できる場所
ピアノのある楽屋
楽屋は大ホールと小ホールそれぞれ別に設けることが必要だろう(同時開催の事を考慮)
リハーサル室は、リハーサル、練習として使う。
【マルチスペース】
300㎡
小ホールは演劇と音楽が両方できるものをつくる(今、音楽利用が多いからという理由は関係ない)
打ち上げをする場所がほしい
マルチスペースは打ち上げ、創造の場。何をしてもいいスペース。食事ができる、汚してもいい場所
若い人が気軽に楽しめる防音スタジオを、4部屋はいる。
レセプションができるスペース
飲食もできる場所としても使えるといい(打ち上げ)
大ホールの舞台リハーサルとして使用可能なスペース
交流スペースとして多目的ホールでは簡単なパーティーができるようにしたい。
マルチスペースは音楽・演劇の発表会として使ってもいい
マルチスペース(大ホール舞台と同じ大きさ)と練習室、教室、防音
マルチスペースに可動観覧席は必要ない。必要に応じてイスを置けばいい。その倉庫が必要。
【展示室】
400㎡以上　バックヤード200㎡
展示室、展示スペース400㎡+バックヤード200㎡
企画展ができるような広さの展示スペース
平面・立体・映像など多用な展示可能なスペースとしたい
専門家による計画的な運営をしていく
今度の多用な展示活動の為に十分な広さのバックヤード(三ツ山案)の400㎡に対して半分
展示と音楽がコラボできるようピアノが入るようにしておく(=バリアフリー)
【その他】
市民が自由に使えるスタジオ(音楽・演劇・バンド・太鼓)4部屋は必要
企画創造室
・ロビーで生演奏を聞きながらお客さんにくつろいでもらえる　・作品を見ながらピアノ演奏を聴けたらスバラシイ！！
若い人が集える機能が大切(ホールの利用を広げる層の育成)
小田原の自慢できる景色を楽しんでもらえると良い　海、お城
1階にオープンカフェがあるといい。
駐車場はホールから近くなくても安価で使える場所の確保はできないか。
市民活動の場となる「サポセン」の機能を設けてにぎわいを
同日に他団体が出演する時は楽屋→舞台などの移動時に混乱しないように動線を考える。

第5回市民検討委員会ひとことアンケート

1	・4班のマルチスペース： 市民が何に使ってもよいスペースというのは、よい考え。 ・3班のオープンカフェ： にぎわい、外からホールを見るという考え、賛同。 ・2班のリハーサル室等の室の名称の固定化にまどわされないに、賛同。 ・1班のエコ、防災、非常時を考えていくに、賛同。 常に思うのが、この立派に作るホールを誰が運営、事業企画するの？できてから決める
2	話し合いを重ね、かなり具体的な市民ホールの姿が見えてきた。「広く市民が集い、若い人たちにも親しまれ、企画で外部に発信することで、町に活気が生まれる」市民ホールが文化創造の拠点となるような気がします。 展示スペースの400㎡確保。展示スペース外に200㎡のバックヤードは確保したいと思います。
3	ホールロビーが「にぎわっている」状況とホールそのものに人が来ていると「にぎわい」は同じとする意見があるが、おかしい。ホールの「にぎわい」は基本的に「ホール」運営企画次第でロビーが「にぎわい」とは「ニゲ」の対案では？
4	「誰が」「何時から・・・何時までに」「どの様な方法で」・・・そろそろ会議内容の舵（進路）を目標に向って切る時期に来ていると感じる。《あれもほしい》《これもほしい》の提案は出尽くした。「建設準備会」から内容が進捗しているとは感じられない本委員会には前委員会の御三方が居られる。この方々の率直な感想を聞いてほしい。「予定通り進んでいる」と思っているなら別
5	議論も大部につまってきたように感じます。もうすこし諸室について話し合った方が良いように思います。
6	サジとサイが投げられた「小ホール」モンダイは、まだまだ、継続的に詰めていくしかないであろう。稼働率、コスト、etcも含めて。～2つのスペースを作るのか？1つなら再方できる、可動席しかないでしょう。
7	予算ありきで、スペース、駐車場、様々な部屋等の概要が出てくるのでは？これまでのアイデア出しばかりでは実に結ばないと感じる。アイデアばかり出していても実現性に欠ける。
8	専門家の方たちのちょっとした意見が、とても参考になりました。さすがです。

資料4

大道具等搬入口（大道具・舞台設備・衣裳他）

駐車スペース
（搬出入車輌用/関係者用）

大ホール楽屋入口（出演者・関係者）

搬入口・組立場

小ホール楽屋入口（出演者・関係者）

大ホール系機能

- ■ 舞台(プロセニアム形式)
  - ● 倉庫･収納
  - ● 楽器庫
- ■ 客席(1,000～1,200 席)
  - ● 調整室
  - ● 親子室　他
- ■ 楽屋(和室にも配慮)
  - ● 楽屋口

- ■ ホワイエ
  - ● バー･ビュッフェ
  - ● クロークまたはロッカー
  - ● 主催者控え室
  - ● トイレ(女性用数に配慮)

創造系・支援系機能

- ■ 練習室
- ■ リハーサル室
  （第 2 小ホール／
  平土間ﾛｰﾙﾊﾞｯｸ付）
- ■ スタジオ
- ■ 創造スタッフ室
- ■ 授乳室･託児室
- ■ 会議室
- ■ 更衣室
- ■ ロッカー室
- ■ 楽器庫

- ■ 創造系／支援系機能
  共通ロビー

展示系機能

- ■ 展示室
  （多様な展示、WS など）
  - ● 準備室
    （水場に配慮）
  - ● その他
    （備品庫･収納他）

- ■ 展示系機能共通ロビー

小ホール系機能

- ■ 舞台
  （音楽専用？演劇専用？多目的？）
  - ● 倉庫･収納
  - ● 楽器庫
- ■ 客席(200～300席)
  - ● 調整室
  - ● 親子室　他
- ■ 楽屋(和室にも配慮)
  - ● 楽屋口

- ■ ホワイエ
  - ● バー･ビュッフェ
  - ● クロークまたはロッカー
  - ● 主催者控え室
  - ● トイレ(女性用数に配慮)

交流系機能

- ■ 共通ロビー
- ■ レストラン･カフェ
- ■ 情報アーカイヴス
- ■ インフォメーション
- ■ チケットボックス
- ■ トイレ

管理系系機能

- ■ 事務室
- ■ 救護室
- ■ 親子室
- ■ 緊急時などに使用できる部屋　他

ホール施設入口（観客・施設利用者・その他）

市民ホール基本計画策定専門委員会　第５回会議　次第

日　時　平成 23 年 12 月 12 日(月)
18 時 00 分～20 時 00 分
場　所　小田原市役所　大会議室

１　開　会

２　議　題
(1) 市民ホール基本計画（施設）について

(2) 市民ホール基本計画（運営）について

(3) その他

３　閉　会

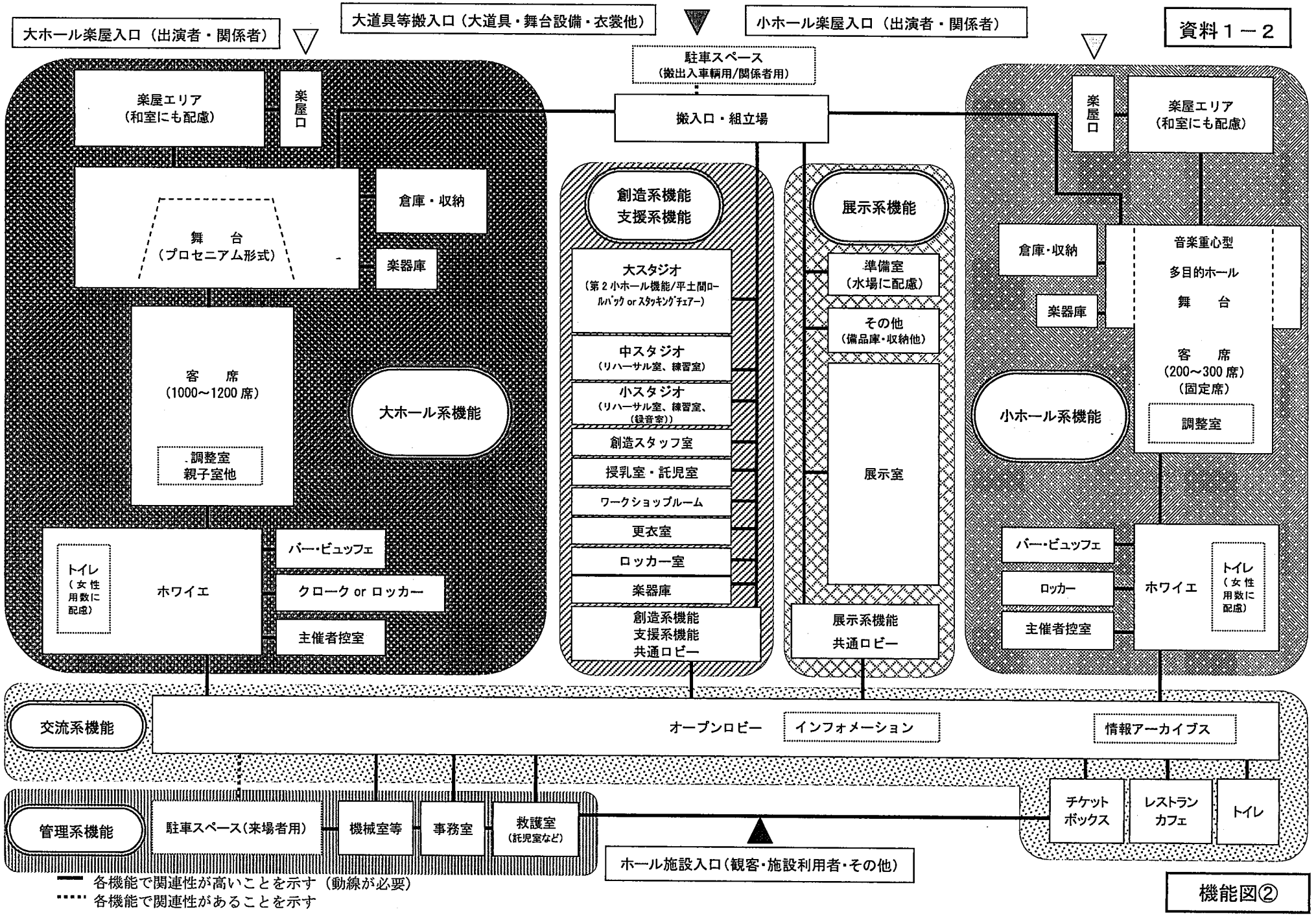
諸室の名称及び機能

資料1－1

機能分類	基本構想における名称	諸室名	諸室機能
大ホール系機能	大ホール	大ホール	多目的型 ・プロセニアム形式の舞台 ・1,000～1,200席の固定客席（一部可動） ・複層バルコニー席 ・舞台からの視距離に配慮 ・可動式音響反射板 ・充実した舞台設備
		楽屋	必要な数を確保する。
小ホール系機能	小ホール	小ホール	多目的型 ・固定席（200～300席） ・プロセニアム形式の舞台 ・可動音響反射板 ・音楽重心型 （残響長め）
創造系・支援系機能	リハーサル室	大スタジオ	・広さはホールの主舞台に準じる広さを備え、舞台芸術作品を創造するための機能を備える。 ・必要に応じて仮組みの大道具や本番用の舞台照明を仕込んで立稽古を行なうこと。そのためには、中長期の連続使用が可能なように検討する必要がある。 ・設備として姿見やバレエバー、舞台照明や舞台音響設備も備えること。 ・また、特殊なケースとして、ホールの楽屋としても使用ができる動線を確保しておく。
			・移動型の客席を備える（組み立てる）ことによって、小規模な公演や試演会を行う。 ・特に平土間で固定の客席を持たないことから、任意の位置に舞台や客席を設定できると共に、舞台芸術や音楽芸術の公演というだけでなく、自由な発想での利用。そのためには遮音性能や静音性能にも優れている必要がある。
	練習室	中スタジオ	リハーサル室に比較して、大道具などの仮組みまでは想定しないが、小規模の練習（立ち稽古など）が行なえる部屋。また、本番前の声出しや音出しなども行なえることとする。
	スタジオ	小スタジオ	・練習室よりさらに小規模な部屋で、数人でのアンサンブルの練習や本番前の音出し、声出しなどが行なえる。 ・一般には、生音の楽器の練習に適したスタジオの他に、電気楽器を使用できる吸音性能と遮音性能の高いスタジオを整備する。 ・ピアノやドラムセットを常設するスタジオを検討する。
	創造スタッフ室	創造スタッフ室	・積極的に市民参加活動を行なっていこうとする市民やNPO団体の活動のための部室。 ・打合わせや印刷などの作業を行えるようにする。
	授乳室・託児室	授乳室	施設利用者が授乳や着替えをさせるために使用するための部屋。
		託児室	・子どもを同伴して来館された方が、鑑賞や活動の間、一時的に子どもを預かる機能を備えた部屋。（洗面や子どものための更衣スペースやトイレなども検討する。） ・利用に際して、子どもの面倒を見てくれる専門家を配置するかどうかは管理運営計画によって決定する。 ・会議室などに利用できることも検討する。
	会議室	ワークショップルーム	・会議や小規模のレクチャーなどが可能な機能を備える。 ・必要に応じて隣室と一体利用ができるなど、利用によって会議室の大きさが可変できることなどを検討する。ただし、隣室間では一定の遮音性能についても検討する。
	―	更衣室	・リハーサル室や練習室で練習する前に着がえるための部屋。 ・男女別に更衣室を計画し、施錠ができるロッカーを内部に設置することもある。また、必要に応じてシャワー室やトイレなどの併設も検討する。
	―	ロッカー室	手荷物を置いてリハーサル室や練習室で練習をする場合の利用を想定。ただし、上記の更衣室内にまとめて計画する場合もある。
	―	楽器庫	・練習室で使用する大型楽器を格納し、常時温度と湿度の管理を単独で行なえるようにする。 ・楽器庫の利用方法は今後検討を要する。

機能分類	基本構想における名称	諸室名	諸室機能
展示系機能	展示室	展示室	・大型の作品を展示できるように4m以上の天井高さを備える。 ・展示室の四周を展示壁面とするが、天井吊移動型パネルを供えることで、展示壁面長を補うと共に自在な展示空間を形成できるようにする。 ・展示される作品は、平面作品だけでなく立体や生花など様々な利用に加えて、関連ワークショップや講演なども想定する。
	準備室	準備室	・展示室で行なう準備を行なえる機能を備える。 ・水場を備えるとともに作業台や必要な備品庫などを配置する。
	備品庫・収納他	備品庫・収納他	展示台や展示照明、脚立や高所作業台など展示のための準備を行なう備品などを収納しておく。
交流系機能	オープンロビー	オープンロビー	・市民ホール全体の共有ロビーとして、誰でも利用可能なスペースとする。 ・一般利用者の主たる出入機能を有する。 ・インフォメーション、情報アーカイブスを含む。
	レストラン・カフェ	レストラン・カフェ	飲食の可能な設備を計画。簡易な厨房を設ける。
管理系機能	管理事務室	管理事務室	・運営管理事務室機能有する。 ・応接室・更衣室、利用者カウンター、チケットボックス等を含む。
	ー	救護室	託児室などにも利用できる多目的な部屋。
	ー	その他	清掃・維持管理職員用の執務室兼休憩室など。
共通	ー	倉庫・トイレ	必要な数を確保する。トイレについては多目的トイレを含む。

資料１－２



━ 各機能で関連性が高いことを示す（動線が必要）

┅ 各機能で関連性があることを示す

機能図②

資料2-1

市民検討委員会の発表概要（運営・組織・防災・景観）

項目	1班	2班	3班	4班	専門委員コメント
市民参加	・市民参加として企画やレセプショニスト、広報などの作成への参加か、ホールの管理運営組織として関わるか。 ・可児と北上の方式を参考にしたらどうか。 ・市民参加、市民参画などというが、市民が協働してやっていかねばならないということを決意した。参加ではなく参画という方向に持っていく。例えばこの検討委員会でメーリングリストを作るなど、そういうところからやっていかねばならない。		・市民参加をどういう観点で捉えるのか、今後議論を行う必要がある。		・持論だが、劇場運営の側からみれば、チケットを買って客席に座るのが市民参加だと言っている。何故かというと、劇場で公演するときに沢山のお客様に観てほしい、フォローしてほしいという思いがあるから。
運営組織	・誰が運営するかについて、財団、NPO、民間の指定管理者など色々とあり、市民の中でやる気がありホールの運営に関わりたいという方々も沢山いるが、どこまで関わるのかという想定が大事。 ・管理運営組織になるのであれば、建物全ての管理運営をせねばならない。赤字や器物破損、事故などの責任を市民団体でできるのか。 ・市民団体が運営組織になるのであれば、そこまで市民が責任を取らねばならないという話をした。 ・ホールの運営には市民の力が必要。 ・やりたいことがある市民が市役所職員に相談に来るという。まずは市民会館大ホール小ホール、けやきがあるので、そういった場所でやりたいことを実現させていくことが先決ではないかと発言した。しかし、そのためには運営組織を作らねばどうにもならない。今できることから始めていきたい。 ・市民団体で運営するという話が出るとは思わなかった。	・芸術監督は予算があればいるに越したことはないが、予算がかかりすぎるのは問題。芸術監督がいるのならば、選出は公募にして欲しい。 ・運営組織は専門家だけでなく、一般市民も入れるように。 ・芸術監督、芸術アドバイザー、館長、ゼネラルマネージャーなど、肩書きをつけるときに明確に役割を決め、そういう人も入れて欲しい。	・運営について、ひとことで言えば小田原ならではの運営ができたらいい。やはり友の会というのがあり、市民の文化に対する愛着がベースになった、皆で盛り立てて運営していこうという雰囲気が自然に現れる組織が理想的。 ・そのための市民参加の形として、ボランティアという形では続かないのではないか。段階的に有償と無償の階層が必要なのではないか。システムは市民参加といってもきちんとしたシステムをつくる必要がある。現行で文化サポーターがあるが人員的にきついものがあるので、今の現行のものを補強できるような運営ができないか。 ・運営に関して全体的に言えるが、専門家は必ず必要。その専門家と一緒になって運営していく市民組織を作っていきたい。そのための友の会を作ったらどうか。例えば会費を集め、ホールの全公演を1割引で観れるなどの特典をつけたり、ホールの広報誌を作る。今の市民会館は情報が分からないので伝わりにくい。 ・運営について、市民が希望を出すことはできるが、実際に運営組織を形作っていくのは、優先ではないが専門家の考えが基本となる。	・市民参加の範囲について、線引きしようという訳ではないが、組織運営については基本的には専門職が相応しい。 ・組織の中心は市役所。 ・運営組織の問題、市民が参加し自分たちが楽しむのだから年間1万くらいの高額の会費をとってもいいのでは。責任の所在は市の中に存在し市の人が最終責任を負うべき。	・運営組織にどう参加するかだが、プロの職業として運営に参加するのと市民がアマチュアで参加するという二つの運営団体を考えた場合、責任の持ち方、役割、権限が違う。職業として携わっている人には相応の重さがある。 ・どう責任をとるか、経営責任がとれるのか、トラブルや事故にどう対応するのか。また、施設管理に関しては消防法を理解していないと参加できない。 ・事業運営だけという場合もあるが、プロの目線で見た場合、やはり差が出る。役割分担はあると思う。 ・市民と専門家の協働作業がないとこれからの事業は運営できない。 ・芸術監督の公募について、前例がないことはなく可能性はある。 ・市民が運営に参加することは必要だと思うが、オープンしてからの関わり方は、市民にオープンな組織でないとならないと思う。民間だと株式会社となるし、直営だと職員でやっていく。開かれた組織になって、自分たちの意見が言える組織が理想的ではないか。これからは開かれた運営組織であるべき。 ・劇場は自立した経営をしていかねばならないが、民間で言えば館長は社長にあたり、社長次第で状況が変わる。そういう意味で民間の形態を少し参考にしながら造っていくべきかと思う。 ・可児でやっていたのは会費をとらない友の会だった。理由はいかに多くの人に情報を届けるかが目的だった。800～5,000人の友の会の参加者がいたのは会費を取らなかったからだと思う。その代わり割引はないが先行予約、催しのお知らせは定期的に送っていた。しかし友の会はつくると定期的に収支決算をせねばならず、事務局をつくる必要があるので体制づくりが大変。なので、無責任な形で運営ができ、多くの人に情報を届けるという意味でやっていた。 ・黒部の場合は、裏方サポーターというボランティアがいた。地元にスタッフが居なかったのでスタッフを近場で依頼できなかった。それならば自分たちが勉強しながらお手伝いしようと生まれたもの。ただし、責任の問題を考えればこれは窮余の策で、本来の在り方ではないと思う。 ・北上の場合は、管理が財団、運営NPO。運営が市民サポートでやるということに関しても、予算交渉から作品の質や量も考え、どこまで市民に対して責任をもてる事業運営ができるのかと考えれば、これも窮余の策であり本来の在り方とは違うのではないかと、私自身は感じた。 ・市民サポーターの在り方は、基本的には楽しんで続けるという雰囲気をつくるのが考え方の中心になったほうがいいのでは。そうなると色んなことができるのでは

項目	1班	2班	3班	4班	専門委員コメント
運営システム	・市民会館やけやきの料金よりは上がると思う。そこを市民がどう考えて使っていくのかを念頭に入れて欲しい。	・学割を取り入れて欲しい。マロニエの音楽室が使われないのは利用料が高いから。利用者の裾野を広げて欲しい。 ・施設利用のルールは適切なものを、がちがちに縛らないで欲しい。	・システムは市民参加といってもきちんとしたシステムをつくる必要がある。 ・スタッフとして活動していく人の制服や目印があると、それを身につけていることがステータスになっていけば無償でもやりたい人がいるのではないか。	・文化活動ということに焦点を絞る必要がある。大人の遊び感覚であまり杓子定規にものを考えず楽しいことをやろう。 ・広義に小田原を告知するために、小田原全体のデザイン力を高め、幅広い広報を行うべき。 ・いかに効率よく運営するか。運営にはお金の問題がついてくる。それには稼働率を上げるのが一番手っ取り早い。運営に対する経済的な基盤と市民のニーズを取り込んだ企画の2つが運営の大きな問題だと思う。	・市民ホールに求める要望は色々とあると思うが、ヒントになることは、自分の人生の時代それぞれに関わることが市民ホールに求められることになってくると思う。3、4歳ならば遊べる部屋が欲しい。中高生ならば、話したり勉強したりできる広場。若者には発表したり練習できる場所。子どもができたら子どものための施設。中高年になればゆったりと散歩しながら語せる場所やカフェなど、時代ごとに求めることが変わってくる。そういう立場で意見を出してもらえれば、市民が目的なく遊びに来られるホールになるのではないか。 ・稼働率は平均、高くて大ホールで7割、低ければ3割以下。大ホールは年間の半分が空いているというのが全国の平均。だからといって大きなホールがいらないわけではないが、どの様に稼働率をあげていくのかは運営者の課題だと思っている。
防災	・防災について、津波対応をどうするか。今の状態ではマンションの屋上か小田原城に行くしかない。例えばホールの屋上にある程度逃げられるようにするなど、対策を考えていければいいと思う。	・建築するときに震度いくつという想定を。ここに来ると言われている震度よりも高くして欲しい。	防災について、最低3階の高さ。何かあったときに対応できる場所が必要かと思う。	・防災、エネルギー的に独立するために太陽光パネルを。エネルギー的に自立できる避難場所に変更できるように。	・大震災時の役割分担は行政と市民が協働したが、やはり自治会の方々の力がないと早く復興に結びつきはしなかった。市民と専門家の協働作業がないとこれからの事業は運営できない。 ・防災の拠点について、緊急の避難場所にはなるが、長期的な避難場所にはなりえないのではないか。ホールというものは安全な場所が少なく、客席舞台を含めかなり危険な設備がある。小さな部屋は沢山あるが、部屋ごとに状況が違うので一体感が無くなってくる。一体感の無い場所で避難生活を送っていると、自治会の連携が取りにくい。ひとつの問題提起だが、緊急の避難場所にはなり得るが、持続的な避難場所にはならないのではないかと思っている。 ・だが、その後の文化施設は被災後に欠かせない物をもっているので、早く復旧してその後の避難生活者に文化ホールの役割を発揮していけばいいのかと思っている、
景観		・WSでアートを制作し建物の一部に取り入れたい。具体的には寄木細工などという案があった。小田原の市民が参加した証しとして残したい。	・お城や緑という小田原のいいものがあるので、隣接しているという強みを生かしたものになれないか。 ・お城にあった小田原らしいものに。いろんな人を引き入れる、なごませる、まちづくりと併せながら、盛り上がりのあるホールを取り囲む景観をみつめて欲しい。		
その他			・商店街と自治会にもう少し関心をもってもらえないか。	・今までの検討意見から、皆さんの意見は出尽くしたように思う。それよりもホール建設後にこの意見が持続し、意向を汲んでくれるかということと思う。それには市民の努力も必要。 ・皆さんにそれぞれの思いがあり、自らの技術や知識を市のために捧げたいという方々だと思う。この委員会が終わった後も解散するのではなく、各々が特化しているものを行政に渡せることがあれば嬉しい。	・商店街の人たちが参加という意見があったが、それを逆手にとり、新しい市民ホールは大きな役割を持っている地域の劇場という意味をしっかりと肝に銘じて、運営していくべき。そのことが商店街、自治会の面々を動かしていく。そこから仲間に引き入れても遅くないのではないか。

項目	1班	2班	3班	4班	専門委員コメント
設計・建設	・「環境配慮建築」という言葉をいれ、そういう設計をして欲しい。そのために市民がコンペに参加できるようにして欲しい。第一段階はスケッチ画で参加でき、第二段階からはプロという方法もあるのではないか。	・予算とスペースに限りがあるので、建物の物理的なサイズが何m×何m×何mのものができるのかという話になる。これからは何をカットしていくかという話も出てくるだろう。 ・デザイン的な話も色々と出ている。立方体としてのサイズにも関わってくる。 ・今後設計に入るときにコンペをやるのではないかと思う。今まで色々と議論を行ってきて、どういうものが最終的に形になるのかについて一番気になっていると思う。決定する段階で、市民が参加できないだろうか。前回のコンペ案、とくに外観に対して市民からの意見が多く出た。しかし、外観というのは個々の好みであり善し悪しはない。例えば市民の声をある程度考慮して審査員が意見を聞いてくれれば、最後まで市民が参加したことになるし、不平不満も少なくなるのではないか。 ・設計段階でも市民の声が反映できないか。どういう設計がしてあるか市民がチェックできないか。 ・極力地元業者に入ってもらい、内装や基礎部分などは小田原の業者にお金を落として欲しい。	・敷地の問題、最大限に活かす方法を見つけて欲しい。		・コンペでどういう議論をして設計事務所を選んだか、市民が分かるようにするのは、最低限必要なこと。 ・可児で2年くらい市民とともに劇場を造ったが、それにはとても長い時間とお金がかかるということと、市民の皆さんの強いエネルギーがないとできない。設計事務所にアイディアを実現してもらうのには時間がかかるし、皆さんのエネルギーがないとできない。それが許されるかが大きな課題としてある。 ・上田市、長野市の劇場コンペの審査員を行ったが、行政としては市民参加でと言い、市民もそう思っていたが、結局時間が無く基本設計を作った段階で発表・見直しをし、基本設計を作り直す程度のことしかできなかった。現状ではそういうことも起きているので、時間が無い場合はいかに自分たちの思いを言い、いかに審査員とデザイン会社が実現に向けていくかという苦然にかかっている。大きな問題だと思うが、ある程度専門家に委ねるのがいいのでは無いかと思っている。

資料 2-2

市民ホール基本計画市民検討委員会

WS 6 ワークショップかわら版

《作成・発行》
小田原市
文化部文化政策課
＆ 空間創造研究所

平成 23 年 12 月 1 日

11 月 6 日(日)、いよいよ最後となりました、第 6 回市民ホール基本計画市民検討委員会が小田原市役所 7 階大会議室にて行われました。第 6 回は市民委員 27 名、(女性 8 名、男性 19 名)、市の事務局スタッフ 9 名、その他の事務局スタッフ 4 名、市民ホール基本計画策定専門委員会から桑谷委員、合計 40 名が参加しました。

7 月から 5 ヶ月にわたり市民検討委員会を行い、市民ホールの在り方や望まれること、またこれからクリアしていくべき課題が少し具体的に見えてきたのではないでしょうか？

第６回　「市民ホール　運営や組織を考える」

最後の市民検討委員会では、可児市文化創造センターなどで行われている市民参画の事例を参考にしながら、市民ホールの運営にはどのような組織や人員が望ましいのか、またホールの外観や景観、防災機能について中心に検討を行いました。

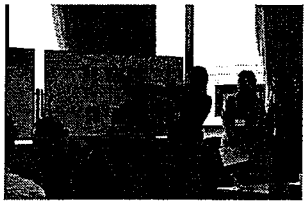
特に、「施設運営に係る権限と責任の重さについて」、市民の皆さんがどういった形で関わって行くのかについて議論が交わされました。

1 班

★☆★Point★☆★
施設の管理運営について、「市民がどこまで責任をもって管理運営に関わるか」について議論されました。また、「今できること」から始めるために、市民会館やけやきなどの活用、そのための運営組織の立ち上げについての問題提起がされました。

★☆★委員コメント★☆★
・運営組織にどう参加するか、プロの職業として運営に参加するのと市民がアマチュアで参加するという二つの運営団体を考えた場合、責任の持ち方、役割、権限が違ってきます。有事の際の経営責任がとれるのか、対応はどうするかなど、職業として携わっている人には相応の重さがあります。また、施設管理に関しては消防法を理解していないとなりません。

2 班



★☆★Point★☆★
設計に関して、設計者選定や外観に関して市民の意見が反映できないかとの意見がありました。芸術監督などの専門家については、どういう役割の人が必要なのか、予算を含めきちんとした検討が必要といったことや、芸術監督の場合は市民が人選に参加できないかといった提案がされました。

★☆★委員コメント★☆★
・設計者選定の理由や経過を市民がわかるように公開するのは、最低限必要なことだと思います。
・審査員と設計者が、いかに市民の皆さんの思いを実現に向けていくか。それには皆さんの思いを訴えていくことが必要不可欠です。市民の設計への関わり方は大きな検討課題ですが、ある程度専門家に委ねることも必要ではないでしょうか。

3 班

★☆★Point★☆★
市民参加の形として、有償ボランティアと無償ボランティアの階層を分ける必要があるのではないか、そして、いずれの場合も専門家は必要不可欠であるという意見がでました。また、現在ある文化サポーターを補強し、協働していけないかという提案がされました。

★☆★委員コメント★☆★
・市民サポーターの在り方は、基本的には「楽しんで続ける」雰囲気をつくるということを考え方の中心にした方が、良いのではと思います。そうなると楽しみながら色んなことができるのではないでしょうか。
・市民がNPO 組織や裏方として管理運営を行っている事例もありますが、あくまで窮余の策であり本来の在り方ではないと思います。

4 班

★☆★Point★☆★
「文化活動は大人の楽しみなので、杓子定規にならずに楽しんで関わっていこう」という意見がありました。また、防災機能については、あまり意識しすぎるとホール建設の目的そのものが変わってしまうのではないか、という懸念がされました。

★☆★委員コメント★☆★
・劇場、ホールには客席や舞台を含め危険な場所が多いという点、また、諸室が分散されているので一体感がなく集団生活が難しいという点から、緊急の避難場所にはなりますが長期的な避難場所にするのは難しいと思います。ただし、文化施設はその後の復興に欠かせない役割を担うので、復興時に文化施設としての役割を発揮していけばいいのではないでしょうか。

★☆★第６回市民ホール基本計画策定専門委員ミニレクチャーの内容をご紹介します★☆★

桑谷委員　～市民サポーター事例　可児市文化創造センター「ala クルーズ」について～

- 「ala クルーズ」とは、基本構想の検討段階から市民公募で集まっていた人たちが創立メンバーとなり、その後、NPO の法人格を取得した市民参加型のボランティアグループです。
- 市民サポーターが集まるための部屋として創造スタッフ室ができました。その部屋は、その施設の中で責任をもって管理運営のサポートをしていくという、固い意志の元で造られていると思っています。
- 机、パソコン、打合せスペースなどが保証されて市民が協働できるようになります。共用ではありますが、印刷室やデジタルアート工房などを利用して広報活動などを行うことができます。施設によっては劇場を造っても市民サポーターの部屋が無いことがありますが、それはホールと市民が協働していく意味では、欠落した考え方だと思います。
- ala クルーズはボランティアですが、施設に対して自立するという思いで年間 2000 円の参加費を徴収し、事務経費などの運営経費にあてています。
- ala クルーズは有償ボランティアとなっています。「ala マネー」というものがあり、フロントスタッフなどをすると ala マネーがたまり、公演等を鑑賞ことができます。
- 当初のメンバーは 100 名程度でしたが、現在は 60 名余になっていいます。当初は企画、広報、支援の3グループに分かれ活動していましたが、再編成し一本化することになりました。
- ala クルーズが立ち上がってから 10 年間の歳月で、創立メンバーの高齢化や新規メンバー参加の少なさがありました。10 年経つとどうしてもマンネリ化していきます。運営に革新的なアイディアがなかったこと、若い人の参加が少なかったことがネックとなっていると考えられます。
- 当初の設置目的や理想を掲げながらも、時が経つとどうしても停滞していく。そこをどうするかがこれからの市民ボランティアの課題です。

ワークシートのふせん内容をご紹介します

1班

【市民参加】青少年を育成する企画が必要／フェスティバルを開催したい。演劇、音楽。／市民参加といえどもギャラは必要。"タダ"で行う文化はNG／新ホールへの登録団体は一般財団法人化する必要性を！（非営利法人への動引 etc）／ala をパクりしてみては。それに岩手県北上市を加えたら／非営利法人の会場費の割引等
【運営組織】自然をテーマにした総合コンセプト／"文化活動の三層構造"／ハイパーな連絡組織（中立的な情報伝達組織）、主体としての目標をもった組織（ジャンル毎、流派毎）、具体的なイベント毎の組織、送り手の組織化と受け手の組織化、つなぎ手の組織化。／施設管理者、直営 orNPO、館長、芸術監督、自主事業、貸館、市民参加／NPOなど市民の団体が管理者となるのであれば、全て自立して運営できるよう人材をそろえる必要がある（何でも行政頼りという意識でいてはだめ）／市民が団体を設立して運営主体となることにこだわらなくても、JV（共同企業体）や市民サポート組織など市民参加の方法はある。／住民自治の街（自治基本条例との整合を）／体を使って行動できる企画担当の設立を。／市民を運営、指導する等する事。内容は桧森委員長に！／芸術監督は必要／芸術プロデューサー（監督？）を〇年契約してスパラシイホールにする（日本一に）ソフト的である（運営システム）／名プロデューサーのいる組織。→個人ではなく、市民の合意で／文化団体個人のネットワークのデータベース「文化市民ハンドブック」をつくる／重なり合う関係による文化のネットワーク。市内⇔郊外
【運営システム】年中無休が基本。時間は 22:00 までインフォメーションを／託児サービス 0～3 歳の子を預かるのなら専門スタッフを入れること！！／市民が使える料金に。／24 時間運営
【防災】非常時にきちんと対応できるよう、きちんと訓練されたスタッフが常時いること（市でも防災の体制や役割分担をしておく必要がある）／津波が来た場合の逃げる所をどうするのか。小田原城なのか、ホールの屋上なのか
【景観】本来の小田原城が八幡山であるならば今の小田原城は？この新ホールは金、昔の小田原城の"くるわ"がみえるように
【その他】環境配慮の設定を基本にする。／現約 20 万人が 15 年度ぐらいは 15 万人ぐらいといわれます。現状維持できる都市にするには一。ホール運営は。／コンペのやり方、審査も／素人が参加できるレベルでのコンペを／保安（カギ・・・）や空調など、分割管理できる建物の設計

2班

【市民参加】常に市民に情報を開示、参加できる／この検討委員会でイベントをやりつつ運営に活かす／建物の一部をワークショップでアートにして欲しい。
【運営組織】専門家とはアートマネージメント資格所有者／運営していくオーガニゼーションをどう使っていくか、彼らが、どう動いていくかキチンと設定していくべきである／運営組織は専門家と市民運営希望者数人によって構成すべき／早めに運営組織を立ち上げ、建築家と相談しながら、使い勝手のいい、運営ビジョンにあったホールをつくる。／芸術監督は予算があれば、いてもらった方がよいが、それも公募にしてほしい。／・芸術監督 ・芸術アドバイザー ・館長 ・ジェネラル・マネージャーetc その空間を担う、「肩書き」を出す必要があるであろう。
【運営システム】個人でも借り易く使用条件をがちがちに縛らない／小田原のことだけを考えるのではなく、2 市 8 町、全国に向けた運営ビジョンを考える。／一つの組織、文化に偏らない運営組織を／文化所属団体の優遇措置をなくし、各事業単位で考えていく／施設の使用において、既得権を廃し、平等に使えるようにしたい。／学割、利用者を広げる（使用料）／使用のルールについては、新しい「マトモ」な物を設定する。「フェア」さは、重要。
【防災】地震想定を高く設定して欲しい／落ちない天板／前庭はなるべく広く（お客さんの一旦集合出来る場所）／「防災の設備」は現在の常識的なコトで大体決まるであろう（それはどの程度のモノ？）最低限OKならいいでしょう。
【景観】結局、建物自体のサイズ（立体物）は、大体、決められるであろう。→高さが大体決まる→地上何メートル、／地下何メートルにするか決める必要あり。予算分け！／大手門の復元をするのであれば、それも念頭にいれたデザイン／「建物」自体のサイズ（大きさ）は「予算」で自ずと決まるであろう。そうするとその容積の中に、何が入れられるのか、大体出るであろう→結局どお？／高さはなるべく低くしてほしい。
【設計に対しての市民意見】設計者には、小田原城の歴史をしっかり勉強して、尊重してほしい、謙虚であって欲しい、／「建物」のデザインは無論、重要。「マトモなデザイン」をどう実現させるか？プロセスをどう公開し、フィードバックしていけるか、そのシステムを設定／設計段階で市民参加を考えてほしい／全てのコト、モノに関して「名称」「ネーミング」は重要。今後詰めていく必要。（この建物全体の名称しかり）／設計コンペ案決定時に外観について市民参加の形がとれるようなシステムをつくる／寄木細工など（トイレ）使って下さい 例：ラスカ
【その他】小ホールは木のホールにしたい。小田原の特色を出す音楽、演劇、両方できるものに。／「小ホール」のスペースをどんなモノにするのか現時点でまだ「未定」であろう。今後キチンと詰めていくしかないであろう／この建物は、ホール 2 種+展示スペースがメインだろうが、その他のスペースもさることながら、基本的コンセプトは市民が集まる広場、情報インプット＆アウトプット・センター。様々なコト、モノの交流の場でしょう。そのためには、何が・・・？／市民文化祭のお金の収支をデータできちんと情報開示してほしい→今後の運営に反映するため／予算（建物）はなるべく安く／極力地元の業者を使ってほしい／結局「予算」ってどれくらい？それで、スペース自体ソフト自体の規模が出てくるであろう。（「シバリ」がある、ということ）／夜の照明は小田原ちょうちんをデザインしたものに

3班

【市民参加】市民参加にはちゃんとしたシステム（組織）を作る必要あり／現行の文化団体と連携、組織化しての市民参加（ネットワーク）／市民の文化への「愛着」がベースになった、小田原ならではの組織／無償ボランティアでは続かないと思う／今の「文化サポーター」「レセプショニスト」を更に深化させていく／無償ボランティアをまとめ、管理する有償ボランティアが必要だと思う／市民参加は市民意識の持ち方、考え方、その程度によって左右される／新しい催し物の打合せ、相談ができるような ・スタッフ室 ・フリースペース／活動には不要な物品を置いておけるロッカースペース／責任を負う分有償であった方が良い。
【運営システム】市民利用の申し込みを最優先する／スタッフは全くのボランティアではない方が・・・／スタッフルーム、いつでも利用できるところ、詰め所がほしい／小田原が県西の中心、小田原に関心を呼び込もう／市民が利用しやすい利用料／市の広報誌にホールの催し物を宣伝する。
【運営組織】円滑な運営は専門知識層のリードが必要となるのでは・・・／「友の会」／鑑賞する組織としての友の会／ホールの広報誌を作る／それぞれの専門分野を活かし、多用な市民団体が市民活動ができる組織／専門家が先導するような催しを企画する運営組織
【防災・景観】小田原ちょうちんをかざる／ホールに入って非常口が一目で分かる案内板が欲しい←非常口までの避難ルートの案内も／立地場所が四方に開けているので、基本的防災対策を押していけば余分な考えはあまり気にしないのでは／小田原の歴史を感じる外観が良い／「城」と「緑」と一体になった心地よい空間に！／当たり前の事だが、城跡に溶け込む小田原ホール構想は不可欠／景観：城のみどり、広場空間と一体的にみどりの配置、広場づくりの計画を／ホールの中からお城の景色が楽しめる／景観：賑わいが通りにあふれる工夫／駅を降りて会場までの間にホールのフラッグを設置（催し物の案内）／景観：圧迫感を軽減する工夫をする。（立面の分割など）／景観：ハレの日の施設→適度な華やかさ、貫禄。／ポスターを貼れる場所／津波のことを考えるとある程度の高さは必要／ホール利用者が一時避難できるくらいのスペースが必要
【その他】商店街や周囲の自治会もホールに興味を持って、盛り上がって欲しい／みんなが気軽に入れるような入口／土地の有効利用（敷地）を最大限に生かせないか？制約多すぎる。

4班

【運営組織】組織の中心は市役所／協調する協力者／運営組織はいまから立ち上げるべきです！（民主体、官+民など）／運営-組織としての機能、企画-催し物の内容、洋和／財団設立には国策から推進できるかどうか？／運営は専門職にゆだねることが望ましい
【運営システム】責任の在り方→役割／ボランティア→フォロワー、協力者／料金設定が大事／協調／本格的な運営はプロ、市民がサポート／大人の遊び、年会費は 10,000 円（上限なし）／サポーター支援する事、手助けとしては違う、もっと重たい意／市民参加の楽しみ、会費負担／ホールでの公演活動運営も？／文化活動は大人の遊び、費用、会費
【市民参加】現在できる事／将来的なもの夢／子供会、ジュニアリーダー等、小・中・高生からも企画、意見の聞ける運営、サポーターになれるとよい／鑑賞する市民、友の会（会費）を納め、チケット先行予約や割引などがあると参加できる／小田原の広義のデザイン力を高め、広報のお手伝いがしたい
【防災・景観】津波の時に逃げられる屋上スペースを作る／地震、津波対策をホール建設にどの程度反映すべきか？意識しすぎはホールの本来の建設（構想）を阻害するかも。／太陽光パネル、発電パネル設置、防災
【その他】市民として（参加して）楽しむこと／市民検討委員個人として何ができるかが重要／場と仲間があればミッションは達成できる／託児室あるいは託児に利用する予定の部屋にトイレと洗面所があるとよい。

★☆★ひとことアンケートの一部をご紹介します★☆★

今から"新ホールオープニング"のイベントを企画することが必要なのかなと感じた。／使用料金が高くなりすぎない料金設定を考えてほしい／多様な意見が出るなごやかな雰囲気になって来た。これからの意見統合が楽しみだ。／広報誌ということが出てくるが、現在、各行事のチラシの配布が大変多いのが現状であり、それにより広報が埋没されてしまう恐れがある。／組織の内容はわかりやすいものにしてほしい。運営管理部門の内容と、市民参加組織と、運営管理との協議する評議委員会のようなものの必要性。／結局この委員会の成果は運営団体を作らないと何もできないのではないかということが確認出来たのがよかったのかなと思う。／防災談議は世の風潮から一つの争点となるであろうが、あんまり過分にとらわれすぎると他の必要点を見落とすことになりかねない。専門委員先生方の冷静な判断をご期待したい。

★☆★お知らせ★☆★

◎市民ホール基本計画意見交換会◎

2012年1月9日（月・祝）
午後2時から4時
場所：小田原市民会館3階小ホール

専門委員と市民委員の皆さんの意見交換会を行います。
傍聴は申し込み不要です。直接会場にお越しください！！

施設運営体制事例

資料3－1

施設名		施設概要	開館時間	休館日	申し込み時期				連続利用			利用料（市内・外など）	減免	申し込み受付時間
					大ホール	小ホール	展示系	創造支援系	ホール系	展示系	創造支援系			
視察施設	めぐろパーシモンホール	大ホール（1,186席）、小ホール（200席）、リハーサル室（73㎡）、練習室3室（42㎡～54㎡）、会議室（34㎡）、保育室、レストラン、カフェ	9:00 ～ 22:00	年末年始（12月29日～1月3日） ＋臨時休館	12ヶ月前	6ヶ月前	—	3ヶ月前	一月に3日、連続7日間	—	一月に3日、連続7日間	一般団体、芸術文化団体、営利・非営利、入場料の有無・金額により利用料を加算	区、その他認められた団体が行政目的のために利用するとき 指定管理者が必要と認めたとき	9:00 ～ 19:00
	富士見市民文化会館キラリ☆ふじみ	中ホール（802席）、小ホール（255席）、展示室（50㎡）、会議、展示室（175㎡）、スタジオ4室（17㎡～72㎡）	9:00 ～ 22:00	年末年始（12月28日～1月4日） ＋臨時休館	12ヶ月前		12ヶ月前	6ヶ月前または3ヶ月前	条例上規定なし			平日・土日祝日、入場料の有無・金額、営利・非営利の場合、利用料金に加算あり	条例で規定なし	9:00 ～ 21:00
近隣（県内）類似施設	神奈川県立県民ホール	大ホール（2,488席）、小ホール（433席）、大会議室（240名）、ギャラリー（展示室5室）、レストラン・喫茶	9:00 ～ 21:00 展示は18:00まで	年末年始（12月28日～1月4日） ＋臨時休館	12ヶ月前		12ヶ月前	4ヶ月前	条例上 規定なし	7日間セット	条例上 規定なし			9:00 ～ 17:00
	逗子文化プラザホール	中ホール（555席）、小ホール（160席）、ギャラリー（72㎡）、練習室3室（25～34㎡）	9:00 ～ 22:00	毎月第1・第3火曜日 ※国民の祝日に当たる場合はその翌日 12月29日～1月3日	13ヶ月前		13ヶ月前	4ヶ月前	5日以内	14日以内	1月4回まで	平日・土日祝日、入場料の有無・金額、営利・非営利の場合、利用料金に一定料金を加算	市長が特別の必要があると認めるとき	9:00 ～ 20:00
	相模原市文化会館グリーンホール相模大野	大ホール（1,790席）、小ホール（220席～280席）、リハーサル室（280㎡）、練習室2室（63㎡）、カフェ	9:00 ～ 22:00	年末・年始（12月28日～1月3日） 毎月第1月曜日（原則） ＋臨時休館	12ヶ月前 ＊市外利用は11ヶ月前		—	4ヶ月前（単独利用の場合） ＊市外利用は3ヶ月前	7日 ＊多目的ホールは10日	—	3日	平日・土日祝日、入場料の有無・金額、営利・非営利の場合、利用料金に一定料金を加算	指定管理者が規定で定める範囲	8:30 ～ 19:00
	鎌倉芸術館	大ホール（1,500席）、小ホール（600席）、ギャラリー3室（72㎡～202㎡）リハーサル室、練習室2室、スタジオ、集会室（80名～150名）、会議室2室、和室	9:00 ～ 22:00	年末年始期間（12月28日～1月4日） ＋臨時休館日	12ヶ月前 ＊営利利用は6ヶ月前		12ヶ月前 ＊営利利用は6ヶ月前	6ヶ月前 ＊営利利用は3ヶ月前	7日	10日	3日	平日・土日祝日、入場料の有無・金額、営利・非営利の場合、利用料金に一定料金を加算	所定の条件に該当する市内の社会教育団体、社会福祉団体および芸術文化活動団体等の施設利用について	9:00 ～ 19:00
	厚木市文化会館	大ホール（1,400席）、小ホール（376席）、集会室・会議室6室（12名～200名）、和室2室（20畳、30畳）、展示室3室（140㎡）	9:00 ～ 21:30	毎週火曜日 祝日の翌日 年末年始（12月29日～1月3日） ＋臨時休館日	7ヶ月前 ＊市外利用は6ヶ月前		7ヶ月前 ＊市外利用は6ヶ月前	7ヶ月前 会議室のみ3ヶ月前 ＊市外利用は6ヶ月前と3ヶ月前	5日以内	—	—	平日・土日祝日、入場料の有無・金額、営利・非営利の場合、利用料金に加算あり		9:00 ～ 17:00
	茅ヶ崎市民文化会館	大ホール（1,400席）、小ホール（410席）、展示室3室（47㎡～148㎡）、会議室6室（14名～82名）、練習室3室（27㎡～98㎡）、和室2室（15畳）	9:00 ～ 21:30	月曜日 休日の翌日 年末年始（12月28日～1月3日） ＋臨時休館日	12ヶ月前 ＊市外利用は11ヶ月前		12ヶ月前 ＊市外利用は11ヶ月前	12ヶ月前 ＊市外利用は11ヶ月前	4日	7日	4日	平日・土日祝日、入場料の有無・金額、営利・非営利の場合、利用料金に加算あり		9:00 ～ 19:00
埼玉県	鴻巣市文化センタークレアこうのす	大ホール（1,132席）、小ホール（306席）、リハーサル室（96㎡）、練習室（32㎡）、会議室等8室（18名～96名）、和室1室（10畳）、展示コーナー、歴史民族資料コーナー	9:00 ～ 22:00	年末年始（12月28日～1月4日）	12ヶ月前		6ヶ月前	6ヶ月前 ＊リハーサル室は3ヶ月前	7日	7日	3日	入場料を徴収する場合、基本使用料金に以下を加算。ただし、営利目的の場合、入場料を徴収しない場合であっても基本料金の額に一定額を加算。	指定管理者が特別の理由があると認める時は、市長が定める基準に従い、その全部又は一部を選付。	9:00 ～ 18:30
岩手県	久慈市文化会館アンバーホール	大ホール（1,178席）、小ホール（351席）、展示室（500㎡）、練習室（105㎡）、視聴覚室（88㎡）、会議室3室、文化情報コーナー、ラウンジ、展望台	9:00 ～ 22:00	火曜日 年末年始（12月29日～1月3日）	6ヶ月前		6ヶ月前	3ヶ月前	条例上規定なし			入場料、平日・休日によって基本使用料金がに加算あり営利目的で規定以上の入場料を徴収する場合、使用料の5倍	以下のいずれかに該当する画愛、市長が使用料の全部または一部を免除 (1)障がい者基本法第2条に規定する障がい者 (2)その他市長が適当と認めるとき	9:00 ～ 22:00
茨城県	つくば国際会議場エポカルつくば	大ホール（1,250席）、小ホール1（200席）、小ホール2（324席）、大会議室（2室）、中会議室（7室）、小会議室（13室）、特別会議室、レストラン	9:00 ～ 21:00	年末年始（12月28日～1月4日）	大ホール、中ホールを利用する国際会議：随時 多目的ホール、会議室を利用する国際会議：2年前 大ホール、中ホールを利用する会議等：2年前 上記以外：1年前				条例上規定なし			入場料、平日・休日、営利・非営利によって規定の料金を加算	指定管理者が特別の理由があると認める時場合、指定管理者が必要と認める額を減免	9:00 ～ 17:00
愛媛県	西条市総合文化会館	大ホール（1,140席）、小ホール（392席）、リハーサル室（214㎡）、練習室3室（27㎡～41㎡）、展示室（210㎡）、研修室（64㎡）、視聴覚室（60㎡）、和室（60㎡）、会議室（60㎡）、特別会議	9:00 ～ 22:00	月（祝の場合翌日） 年末年始（12月29日～1月3日）	1年前		6ヶ月前	6ヶ月前 ＊リハーサル室は3ヶ月前	4日	9日	4日	土日祝、冷暖房利用、営利目的、入場料を徴収する場合は入場料によって、基本使用料から規定のの割合を加算	有り	9:00 ～ 17:00
兵庫県	たつの市総合文化会館赤とんぼ文化ホール	大ホール（1,100席）、小ホール（342席）、リハーサル室（159㎡）、ギャラリー（127㎡）、会議室2室（42㎡、72㎡）	～	月・祝翌日 年末年始（12月28日～1月4日） ＋臨時休館	1年前		1年前	6ヶ月前	5日	13日	5日	基本使用料（平日・土日区分有り）を基準に、入場料、営利・非営利、市内・外、冷暖房使用により規定の金額を加算	条例で規定なし	8:30 ～ 18:00
広島県	はつかいち文化ホールさくらぴあ	大ホール（1,091席）、小ホール（296席）、リハーサル室（105㎡）、練習室3室（13㎡～28㎡）、会議室（37㎡）	9:00 ～ 22:00	月（祝の場合翌日） 年末年始（12月29日～1月3日）	1年前		—	6ヶ月前	4日	4日	4日	基本使用料（平日・土日区分有り）を基準に入場料、飲食の有無にて規定の金額を加算	市長が特別の理由があると認めるとき	9:00 ～ 21:00

優先利用などの設定事例

施設名		優先・先行利用対象	受付開始日
世田谷パブリックシアター	パブリックシアター/シアタートラム	■芸術活動に関係するものを優先（申し込み期間を早く設定して、長期優先を打ち出しているため、事実上、芸術活動関係の利用となっている） ■調整にあたっての基準：設置目的にあったものを優先し、施設利用の促進につながるもの、つまり長期のものを優先している。 参考：第1条　区民が優れた演劇、音楽等の文化及び芸術を享受することができる機会並びに区民が自ら文化活動及び芸術活動を実践することができる場を提供するとともに、区民の地域交流活動、国際交流活動等を促進することにより、豊かな地域社会の形成に資するため、東京都世田谷区太子堂四丁目1番1号に世田谷区立世田谷文化生活情報センター（以下「センター」という。）を設置する。	■利用の16～14月前の月の1日から（3, 6, 9, 12のいいずれか）。 ■計画書の提出→プログラム委員会での内定→通知→申請書の提出→利用の承認。
北九州芸術劇場	中劇場／小劇場	演劇・舞台芸術事業を優先的に受付。	■1年前の月初日（毎月1日、1月は4日）から受付を開始。 ■受付開始日（11:30～12:00）に限り、演劇・舞台芸術事業を優先的に受付。（受付開始日12:00以降は、通常受付となり先着順）
長久手町文化の家	森のホール	芸術文化活動目的での利用	利用日の属する月の12か月前
		練習目的で舞台のみの利用	利用日の属する月の3 か月前
		その他の利用	利用日の属する月の6 か月前
新潟市民芸術文化会館	劇場	全部利用	18月前の第1受付日午前10時より
		一部利用（3階席及び劇場バルコニー席を利用しない場合）	13月前の第1受付日午後2時より
		練習目的で舞台・オルガンのみを利用する場合	3月前の第2受付日午後2時より

事業評価方法設定事例

資料3－2

施設名	事業評価	実施年	評価方法	備考
世田谷文化生活情報センター	世田谷文化生活情報センター事業評価等に関する調査	H13年	●施設整備の過程で取りまとめられた「（仮称）文化・生活情報センター事業計画大綱（1993年10月）」に基づき、開館後3年間の実績の評価・分析と、課題の整理や方向性の提示を行っている。実績の評価・分析にあたっては、以下の2種の調査を実施している。 ・アンケート調査（対象：観客、一般来場者、Sept会員、一般区民） ・インタビュー調査（世田谷区関係セクション、外部専門家、利用団体）	
北九州芸術劇場	北九州芸術劇場事業評価	H15年（開館年）から毎年	●以下の項目等により、事業評価を行っている。 ・観客調査 ・経済波及効果 ・パブリシティまとめ （以上は毎年実施） ・学芸事業参加者調査(H16) ・学芸事業グループインタビュー(H16) ・市民調査(H17) ・グループインタビュー(H18) ・小学校を対象とした学芸調査(H19) ・貸館利用者調査(H19、20) ・劇場スタッフを対象としたグループインタビュー（H20）	
まつもと市民芸術館	松本市民芸術館事業評価	H20年度	●「公立ホール・公立劇場の評価指針」を活用した事業評価 ●まつもと市民芸術館事業評価アンケート（利用者アンケート） ●まつもと市民芸術館の事業運営による経済効果分析	（財）地域創造「地域の文化・芸術活動支援事業」により実施
可児市文化創造センター	可児市文化創造センター事業・運営の実績及び経済波及効果に関する調査	H21年度	●劇場運営基礎データの収集・分析 ●劇場運営に関するアンケート調査（対象：自主事業公演の観客、貸館事業の施設利用者、施設の来館者、ワークショップ等の参加者） ●経済波及効果の把握分析 ●パブリシティ効果の把握分析	

公立文化施設における事業収支比較表

資料4

単位:千円

施設	県	人口	A事業支出				B事業収入				C負担(A−B−助成金等)				開館	ホール座席数		
			鑑賞型	普及型	参加型	計	鑑賞型	普及型	参加型	計	鑑賞型	普及型	参加型	計				
可児市文化創造センター	岐阜県	9.7	131,885	7,249	13,658	152,792	46,091	0	629	46,720	63,893	7,249	11,229	82,371	H14.7.27	1,023		313
北上市文化交流センター	岩手県	9.3	62,485	4,886	5,919	73,290	56,243	1,376	1,873	59,492	1,001	3,510	4,046	8,557	H15.11.27	1,425		466
山口情報芸術センター	山口県	19.6	22,473	31,998	4,243	58,714	1,657	336	0	1,993	4,521	25,647	3,229	33,397	H15.11.1	500	300	100
三鷹市文化芸術センター	東京都	18.6	103,456	14,787	1,766	120,009	57,890	1,308	624	59,822	43,066	10,804	1,142	55,012	H7.11.3		628	252
小平市民文化会館	東京都	18.7	47,162	15,706	3,535	66,403	46,588	4,599	1,349	52,536	77	10,577	2,186	12,840	H5.11.21	1,229	555	150
めぐろパーシモンホール	東京都	26.8	51,365	25,683	6,153	83,201	38,599	9,630	382	48,611	12,766	10,853	3,171	26,790	H14.9.20	1,200		200
富士見市民文化会館	埼玉県	10.6	32,050	2,796	13,463	48,309	10,385	122	2,252	12,759	19,465	1,267	9,717	30,449	H14.11.1	802		255
逗子市文化プラザホール	神奈川県	5.8	14,444	3,669	2,393	20,506	12,580	1,666	551	14,797	245	2,003	1,787	4,035	H17.6.19		558	160
鎌倉芸術館	神奈川県	17.4	105,938	0	0	105,938	84,820	0	0	84,820	19,218	0	0	19,218	H5.10.1	1,500	600	
厚木市文化会館	神奈川県	22.4	92,944	7,472	3,451	103,867	73,071	728	1,795	75,594	19,873	643	1,656	22,172	S53.11.2	1,400		382
茅ヶ崎市民文化会館	神奈川県	23.5	5,761	10,988	11,422	28,171	10,315	3,621	3,821	17,757	−4,554	7,367	7,601	10,414	S55.10.1	1,400		410
鴻巣市文化センター	埼玉県	12	36,198	4,393	105	40,696	26,847	900	0	27,747	9,351	3,493	105	12,949	H12.9.9	1,132		306
久慈市文化会館	岩手県	3.7	25,619	1,129	9,417	36,165	12,755	0	522	13,277	11,864	1,129	8,895	21,888	H11.2.3	1,178		351
西条市総合文化会館	愛媛県	11.4	2,595	11	1,224	3,830	2,945	0	247	3,192	−350	11	977	638	H8.4.1	1,140		392
たつの市総合文化会館 赤とんぼ文化ホール	兵庫県	8	85,687	14,417	0	100,104	61,391	0	0	61,391	23,246	14,417	0	37,663	H9.4.1	1,100		342
はつかいち文化ホール	広島県	11.8	51,426	799	4,016	56,241	31,877	0	1,051	32,928	18,834	799	2,765	22,398	H9.4.25	1,091		296

施設	県	人口	A事業支出				B事業収入				C負担(A−B−助成金等)				管理運営機関
			鑑賞型	普及型	参加型	計	鑑賞型	普及型	参加型	計	鑑賞型	普及型	参加型	計	
可児市文化創造センター	岐阜県	9.7	86.3%	4.7%	8.9%	100%	98.7%	0.0%	1.3%	100%	41.8%	4.7%	7.3%	54%	(公財)可児市文化芸術振興財団
北上市文化交流センター	岩手県	9.3	85.3%	6.7%	8.1%	100%	94.5%	2.3%	3.1%	100%	1.4%	4.8%	5.5%	12%	(財)北上市文化創造
山口情報芸術センター	山口県	19.6	38.3%	54.5%	7.2%	100%	83.1%	16.9%	0.0%	100%	7.7%	43.7%	5.5%	57%	(公財)山口市文化振興財団
三鷹市文化芸術センター	東京都	18.6	86.2%	12.3%	1.5%	100%	96.8%	2.2%	1.0%	100%	35.9%	9.0%	1.0%	46%	(公財)三鷹市芸術文化振興財団
小平市民文化会館	東京都	18.7	71.0%	23.7%	5.3%	100%	88.7%	8.8%	2.6%	100%	0.1%	15.9%	3.3%	19%	(公財)小平市文化振興財団
めぐろパーシモンホール	東京都	26.8	61.7%	30.9%	7.4%	100%	79.4%	19.8%	0.8%	100%	15.3%	13.0%	3.8%	32%	(公財)目黒区芸術文化振興財団
富士見市民文化会館	埼玉県	10.6	66.3%	5.8%	27.9%	100%	81.4%	1.0%	17.7%	100%	40.3%	2.6%	20.1%	63%	(財)富士見市施設管理公社
逗子市文化プラザホール	神奈川県	5.8	70.4%	17.9%	11.7%	100%	85.0%	11.3%	3.7%	100%	1.2%	9.8%	8.7%	20%	逗子市
鎌倉芸術館	神奈川県	17.4	100.0%	0.0%	0.0%	100%	100.0%	0.0%	0.0%	100%	18.1%	0.0%	0.0%	18%	サントリーパブリシティグループ
厚木市文化会館	神奈川県	22.4	89.5%	7.2%	3.3%	100%	96.7%	1.0%	2.4%	100%	19.1%	0.6%	1.6%	21%	(公財)厚木市文化振興財団
茅ヶ崎市民文化会館	神奈川県	23.5	20.5%	39.0%	40.5%	100%	58.1%	20.4%	21.5%	100%	−16.2%	26.2%	27.0%	37%	(財)茅ヶ崎市文化振興財団
鴻巣市文化センター	埼玉県	12	88.9%	10.8%	0.3%	100%	96.8%	3.2%	0.0%	100%	23.0%	8.6%	0.3%	32%	(財)鴻巣市施設管理公社
久慈市文化会館	岩手県	3.7	70.8%	3.1%	26.0%	100%	96.1%	0.0%	3.9%	100%	32.8%	3.1%	24.6%	61%	久慈市
西条市総合文化会館	愛媛県	11.4	67.8%	0.3%	32.0%	100%	92.3%	0.0%	7.7%	100%	−9.1%	0.3%	25.5%	17%	アクティオ(株)
たつの市総合文化会館 赤とんぼ文化ホール	兵庫県	8	85.6%	14.4%	0.0%	100%	100.0%	0.0%	0.0%	100%	23.2%	14.4%	0.0%	38%	(財)童謡の里龍野文化振興財団
はつかいち文化ホール	広島県	11.8	91.4%	1.4%	7.1%	100%	96.8%	0.0%	3.2%	100%	33.5%	1.4%	4.9%	40%	(財)廿日市市文化スポーツ振興事業団

※鑑賞型事業:プロ公演の買取公演、共催公演、自主制作公演等を行い、住民に良質な公演を提供し、ある程度の収入をあげることを目的としたもの
※普及型事業:舞台芸術を普及するために行われる住民公開講座や無料公演など採算性よりも住民に広く芸術文化に親しんでもらうことを重視した事業
※参加型事業:ワークショップやそれら終了後に行われる発表会的位置付けの公演、住民参加のミュージカルや合唱などの公演

出展「(社)全国公立文化施設協会『加盟施設自主事業実施状況調査』平成22年度版(21年度実績)より」

市民ホール基本計画策定専門委員会　第６回会議　次第

日　時　平成 24 年 1 月 31 日(火)
18 時 00 分～20 時 00 分
場　所　小田原市役所　大会議室

1　開　会

2　議　題
(1) 市民ホール基本計画（素案）について

(2) その他

3　閉　会

資料２

文化振興ビジョン策定検討委員会について

１　委員名簿

氏　名	選出区分	所　属　等
◎石　塚　正　孝	学識経験者	ＪＲ東海エージェンシー代表取締役社長
鬼　木　和　浩	学識経験者	横浜市文化観光局文化振興課主任調査員
桧　森　隆　一	学識経験者	嘉悦大学副学長／市民ホール基本計画策定専門委員会委員長
○間　瀬　勝　一	学識経験者	逗子文化プラザホール館長
杉　﨑　宗　雲	市民委員	無尽蔵プロジェクト 市民による芸術文化創造
露　木　清　高	市民委員	無尽蔵プロジェクト ものづくり・デザイン・アート
平　井　太　郎	市民委員	無尽蔵プロジェクト ウォーキングタウン小田原
岩　城　葉　子	市民委員	公募
大　森　　充	市民委員	公募
神　馬　純　江	市民委員	公募
山　口　　博	行政	文化部生涯学習課専門監（郷土資料担当）

＊　◎は委員長、○は副委員長　　区分ごと五十音順で表示

２　開催状況

(1)第１回会議

ア　開催日時　平成２３年８月１０日（水）午後３時３０分から５時３０分まで

イ　開催場所　小田原市役所　大会議室（７階）　一般傍聴者３名

ウ　議　　題　(1)小田原の課題、文化振興の意義について①

(2)第２回会議

ア　開催日時　平成２３年９月２３日（金・祝）午前１０時から１２時まで

イ　開催場所　小田原市役所　大会議室（７階）　一般傍聴者４名

ウ　議　　題　(1)小田原の課題、文化振興の意義について②

(2)ビジョンの方向性について

(3)具体的な取り組みについて

(3)第３回会議

ア　開催日時　平成２３年１０月２６日（水）午後３時から５時まで

イ　開催場所　清閑亭　一般傍聴者２名

ウ　議　　題　(1)文化振興ビジョン骨子案について

(4)第４回会議

ア　開催日時　平成２３年１１月２５日（金）午後６時３０分から８時３０分まで

イ　開催場所　小田原市役所　大会議室（７階）　一般傍聴者２名

ウ　議　　題　(1)文化振興ビジョン（素案）について①

(5)第５回会議

ア　開催日時　平成２３年１２月２１日（水）午前１０時から１２時まで

イ　開催場所　小田原市役所　大会議室（７階）　一般傍聴者５名

ウ　議　　題　(1)文化振興ビジョン（素案）について②

３　今後のスケジュール

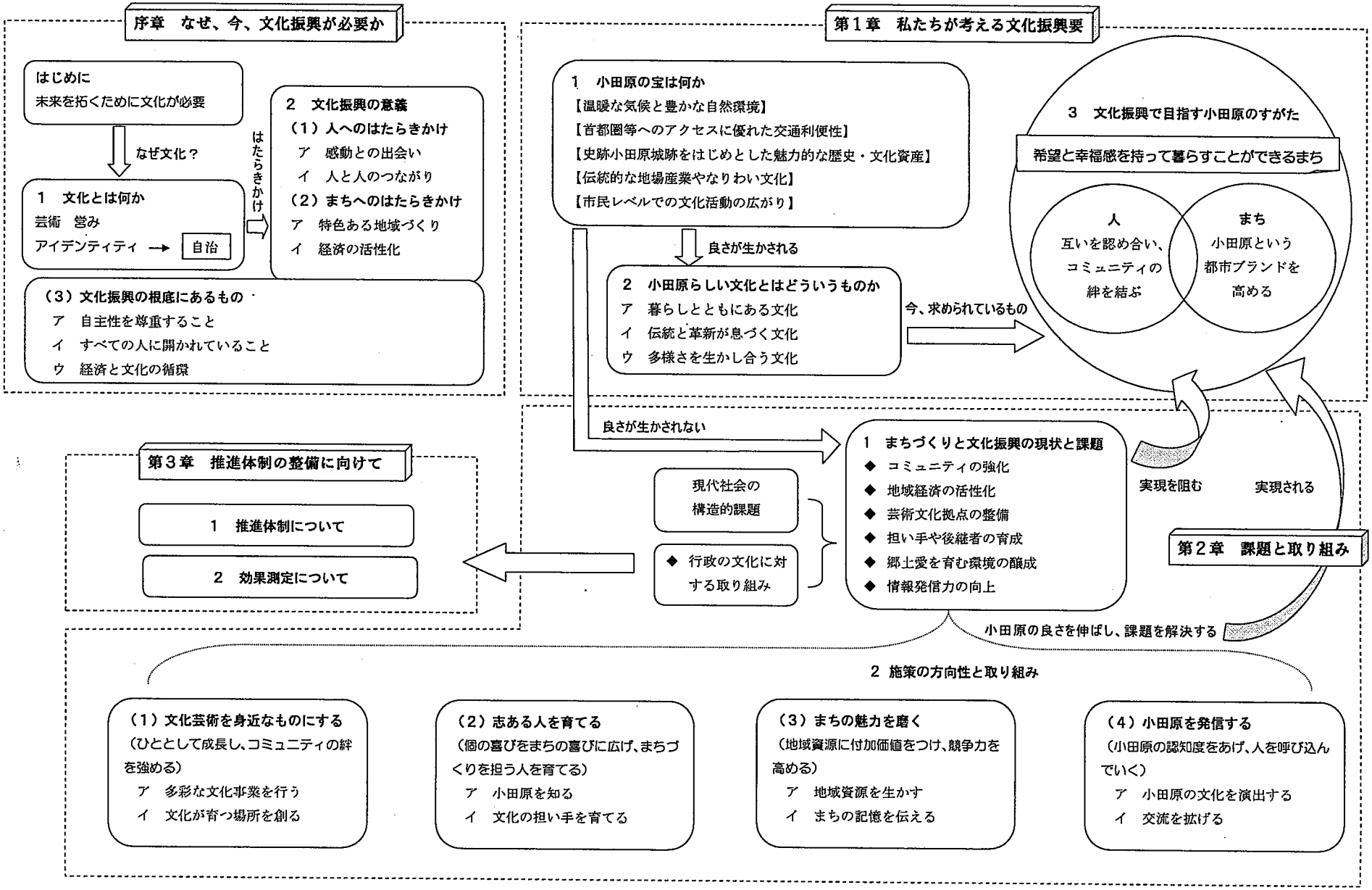
２月中旬～３月中旬　パブリックコメント実施

３月中旬　　シンポジウムの開催

小田原市文化振興ビジョン概念図

参考資料

＊ 策定に向けての検討段階のため、この概念図は今後変更となる可能性があります。



（平成 23 年 12 月 28 日現在）

市民ホール基本計画策定専門委員会　第７回会議　次第

日　時　平成 24 年 3 月 27 日(火)
15 時 30 分～17 時 30 分
場　所　小田原市役所　大会議室

1　開　会

2　議　題
(1) 市民ホール基本計画（案）について

(2) その他

3　市長との懇談会

4　閉　会

市民ホール基本計画市民検討委員会
意見とりまとめ

■市民ホール基本計画市民検討委員会　市民意見とりまとめ目次

はじめに　1

市民ホール基本計画市民検討委員会経過　2

1.市民ホール整備の目的と使命
(1)基本理念　7
(2)7つの基本方針　7

2.事業計画　12

3.施設規模と機能及び概要
(1)各機能の概要
①大ホール系機能　12
②小ホール系機能　13
③展示系機能　17
④創造系機能　18
⑤支援系機能　19
⑥交流系機能　20
⑦管理系機能　20
⑧その他機能　21
(2)施設規模　21
(3)留意事項
①防災　21
②省エネ　22
③ユニバーサルデザイン　22
④景観　23
⑤前庭　23
(4)全体イメージ　23

4.運営組織
(1)想定される組織概要　25
(2)管理運営母体の考え方　25
(3)市民協働組織の考え方　26
(4)運営　26

5.敷地条件　27

6.課題・その他意見　27

7.むすびに
(1)振り返りによる考え方の変化等 28
(2)振り返りによる意見等 29

8.関連資料(ワークショップかわら版)

9.関連資料(市民検討委員と専門委員による市民ホール基本計画意見交換会要旨)

はじめに

市民ホール基本計画市民検討委員会は、市民ホール基本計画の策定に向けた検討を目的とし、公募による市民51名により組織され、平成23年6月から2回のレクチャー研修会、6回の市民検討委員会ワークショップ(「オリエンテーション＋基本構想のふりかえり」、「市民ホールに期待される事業・活動を考える！」、「市民ホールに求められる諸室や機能を考える①②③」、「市民ホール　運営や組織を考える」)、市民会館を検証するワークショップ、富士見市民文化会館☆ふじみの視察、市民検討委員と専門委員による市民ホール基本計画意見交換会の計11回の活動を行いました。
本意見とりまとめは、市民検討委員会の活動の成果として、これまでの検討の中で述べられた意見を集約したものであり、この意見を基に市民ホール基本計画策定専門委員会において議論が重ねられ、市民ホール基本計画が策定されました。
なお、活動状況が分かるようにワークショップかわら版と市民検討委員と専門委員による市民ホール基本計画意見交換会要旨を関連資料として加えました。

市民ホール基本計画市民検討委員会経過

1　市民ホール整備レクチャー研修会の開催経過

(1)第1回市民ホール整備レクチャー研修会

開催日時：平成23年6月18日（土）午後1時から4時まで

開催場所：小田原市保健センター3階　大研修室

参 加 者：73名

［パネリスト（敬称略）］

氏　名	専門分野	所属等
桧森　隆一	学識経験者	嘉悦大学副学長／文化政策・アートマネージメント 市民ホール基本計画策定専門委員会委員長
勝又　英明	学識経験者	東京都市大学教授／建築学 市民ホール基本計画策定専門委員会副委員長
市来　邦比古	舞台技術	世田谷パブリックシアター技術部長／せたがや文化財団 市民ホール基本計画策定専門委員会委員
三ツ山　一志	展示系	横浜市民ギャラリーあざみ野館長／横浜市芸術文化振興財団 市民ホール基本計画策定専門委員会委員
間瀬　勝一	文化施設運営 舞台制作	逗子文化プラザホール館長 全国公立文化施設協会アドバイザー

(2)第2回市民ホール整備レクチャー研修会

開催日時：平成23年6月26日（日）午後1時から4時まで

開催場所：小田原市役所7階　大会議室

参 加 者：59名

［パネリスト（敬称略）］

氏　名	専門分野	所属等
桧森　隆一	学識経験者	嘉悦大学副学長／文化政策・アートマネジメント 市民ホール基本計画策定専門委員会委員長
勝又　英明	学識経験者	東京都市大学教授／建築学 市民ホール基本計画策定専門委員会副委員長
桑谷　哲男	ホール管理運営	座・高円寺支配人／NPO法人劇場創造ネットワーク事務局長 市民ホール基本計画策定専門委員会委員
蔭山　陽太	劇場管理運営	神奈川芸術劇場KAAT支配人
伊藤　由貴子	音楽ホール管理運営	神奈川県立音楽堂館長 市民ホール基本計画策定専門委員会委員

2 市民ホール基本計画市民検討委員会の開催経過

(1)第1回市民検討委員会

開催日時：平成23年7月17日（日）午前10時から12時30分まで
開催場所：小田原市役所7階　大会議室
参 加 者：市民検討委員41名
テ ー マ：「オリエンテーション＋基本構想のふりかえり」

［専門委員参加者（敬称略）］

氏　名	専門分野	所属等
桧森　隆一	学識経験者	嘉悦大学副学長／文化政策・アートマネージメント 市民ホール基本計画策定専門委員会委員長
市来　邦比古	舞台技術	世田谷パブリックシアター技術部長／せたがや文化財団

(2)市民会館を検証するワークショップ

開催日時：平成23年7月31日（日）午後1時から5時まで
開催場所：小田原市民会館
参 加 者：26名
内　　容：「市民会館バックステージツアー」、「市民会館を検証するワークショップ」

［講師（敬称略）］

氏　名	専門分野	所属等
市来　邦比古	舞台技術	世田谷パブリックシアター技術部長／せたがや文化財団 市民ホール基本計画策定専門委員会委員
草加　叔也	劇場コンサルタント	空間創造研究所代表／文化庁芸術文化活動支援員

(3)先進事例視察

開催日時：平成23年8月8日（月）午後1時から3時30分まで
視察箇所：富士見市民文化会館キラリ☆ふじみ
参 加 者：28名
内　　容：「施設内視察」、「質疑応答」

［講師（敬称略）］

氏　名	専門分野	所属等
勝又　英明	学識経験者	東京都市大学教授／建築学 市民ホール基本計画策定専門委員会副委員長
近江　哲朗	劇場コンサルタント	A.T.Network代表

(4)第2回市民検討委員会

開催日時：平成 23 年 8 月 21 日（日）午前 10 時から 12 時 30 分まで

開催場所：小田原市役所 7 階　大会議室

参 加 者：市民検討委員 39 名

テ ー マ：「市民ホールに期待される事業・活動を考える！」

[専門委員参加者（敬称略）]

氏　名	専門分野	所属等
桑谷　哲男	ホール管理運営	座・高円寺支配人／NPO 法人劇場創造ネットワーク事務局長
三ツ山　一志	展示ホール管理運営	横浜市民ギャラリーあざみ野　館長
伊藤　由貴子	音楽ホール管理運営	神奈川県立音楽堂館長

(5)第3回市民検討委員会(ワークショップ)

開催日時：平成 23 年 9 月 19 日（月・祝）午前 10 時から午後 1 時まで

開催場所：小田原市役所 7 階　大会議室

参 加 者：市民検討委員 41 名 ＋ 障がい者の団体の方 5 名

テ ー マ：「市民ホールに求められる諸室や機能を考える（1）」

～大ホール、小ホール、ユニバーサルデザイン～

[専門委員参加者（敬称略）]

氏　名	専門分野	所属等
市来　邦比古	舞台技術	世田谷パブリックシアター技術部長／せたがや文化財団
勝又　英明	学識経験者	東京都市大学教授／建築学

(6)第4回市民検討委員会(ワークショップ)

開催日時：平成 23 年 10 月 9 日（日）午前 10 時から午後 1 時まで

開催場所：小田原市役所 7 階　大会議室

参 加 者：市民検討委員 36 名

テ ー マ：「市民ホールに求められる諸室や機能を考える（2）」

～小ホール、展示室等～

[専門委員参加者（敬称略）]

氏　名	専門分野	所属等
桑谷　哲男	ホール管理運営	座・高円寺支配人／NPO 法人劇場創造ネットワーク事務局長
三ツ山　一志	展示ホール管理運営	横浜市民ギャラリーあざみ野　館長

(7)第5回市民検討委員会(ワークショップ)

開催日時：平成23年10月23日（日）午前10時から午後1時まで

開催場所：小田原市役所7階　大会議室

参 加 者：市民検討委員33名

テ ー マ：「市民ホールに求められる諸室や機能を考える（3）」

～交流系機能、創造系機能、支援系機能、その他機能～

[専門委員参加者（敬称略）]

氏　名	専門分野	所属等
桧森　隆一	学識経験者	嘉悦大学副学長／文化政策・アートマネージメント
伊藤　由貴子	音楽ホール管理運営	神奈川県立音楽堂館長
勝又　英明	学識経験者	東京都市大学教授／建築学

(8)第6回市民検討委員会(ワークショップ)

開催日時：平成23年11月6日（日）午前10時から午後1時まで

開催場所：小田原市役所7階　大会議室

参 加 者：市民検討委員27名

テ ー マ：「市民ホール・運営や組織を考える！」

～運営管理、市民参加、景観等～

[専門委員参加者（敬称略）]

氏　名	専門分野	所属等
桑谷　哲男	ホール管理運営	座・高円寺支配人／NPO法人劇場創造ネットワーク事務局長

3 市民検討委員と専門委員による市民ホール基本計画意見交換会

開催日時：平成 24 年 1 月 9 日（月・祝）午後 1 時 45 分から午後 4 時 30 分まで
開催場所：小田原市民会館 3 階　小ホール
参 加 者：市民検討委員 29 名
傍 聴 者：12 名

［専門委員参加者（敬称略）］

氏　名	専門分野	所属等
桧森　隆一	学識経験者	嘉悦大学副学長／文化政策・アートマネージメント
勝又　英明	学識経験者	東京都市大学教授／建築学
市来　邦比古	舞台技術	世田谷パブリックシアター技術部長／せたがや文化財団
桑谷　哲男	ホール管理運営	座・高円寺支配人／NPO 法人劇場創造ネットワーク事務局長
三ツ山　一志	展示系	横浜市民ギャラリーあざみ野館長／横浜市芸術文化振興財団
伊藤　由貴子	音楽ホール管理運営	神奈川県立音楽堂館長

1.市民ホール整備の目的と使命

(1)基本理念

【基本構想】

①「そだてる(育成普及)」

②「感動する(鑑賞事業)」

③「つくりあげる(創造参加)」

④「つどい交流する(施設運営)」

・市の文化事業の戦略が最重要
・プロモーション/市からの情報をもっと「発信する」ことが必要
・子供や青少年などでこれまで芸術に関わりのなかった人などに、豊かさを伝えられたらいい
・文化創造センターとしての整備・ネーミング
・理想的だが現状の小田原市民にはハードルがやや高い
・文化って何？小田原市は本当に歴史を大切にしているか/小田原の何かがある
・日常→文化空間への切り替え、余韻を楽しんでから再び日常へ戻るアクセス

(2)7つの基本方針

【基本構想】

①そだてる･･･育成普及～地域文化の足腰を強くする～

②たのしむ･･･質の高い催し～創造性を刺激する～

③つくる･･･市民参加～創造の輪を拡げる～

④つたえる･･･地域特性の発信～小田原の魅力をつたえる～

⑤出会う･･･交流促進～共感するよろこび～

⑥にぎわう･･･にぎわい創出～催し物がなくても立寄れる～

⑦ひろげる･･･利用促進～稼働率の高い施設～

【①そだてる】

・育てる・つどい交流 に賛同
・①③、今までに子供から大人まで一緒に作りあげるものが無かった
・今からスタートが必要/誰が育てるか/子どもの教育
・小田原で大きなイベントを組むことより、機会が増えていく参加者が増える
・人材（市民）を育てるアートマネジメント講座
・ホールを動かす為に市民の中からプロを育てる/プロ育成事業
・子ども舞台教室
・伝統芸能や民俗芸能のワークショップや定期的継承会
・学校教育での美術・音楽をホールで
・親子でたのしめる舞台/子どもと親とのふれあいコンサート/本物の鑑賞/子ども(親子)のための企画 ・音楽 ・劇など

・オペラやミュージカルのワークショップ ①子ども向け ②異世代間交流型
・子ども達を巻き込める企画
・マナー教育と日常性の両立
・子どもの学ぶ空間としての音楽研究施設
・アウトリーチで育てる
・子ども対象ワークショップ
・子ども達が体を動かして楽しめるもの（工作・ダンス・コーラス・劇など）/子どもが遊びながら創造できるような場所
・今から準備する
・地域市民の文化に関する意識向上/人に投資する時代/人材の掘り起こし
・文化活動を行う方（団体）をコーディネートする人材の育成/ワークショップのための人材バンクを構築する事業
・運営チームによるプロデュース公演
・技術の継承や後継者の育成事業/育成ワークショップ付き展示/無料の音楽教室
・子供むけの企画を定期的に行う。クラシック、音楽、劇など
・子ども達を大切にするイベントワークショップ
・地元縁の人材/かくれた人材の発掘/人材活動を活性化/育成するための人材/舞台技術に関する人材育成
・音楽フェスティバル/若いアーティストのデザインフェスタ/ POPS 系のコンテスト/新人音楽家→入賞者にモーニングコンサートなどに協力してもらう
・演劇、音楽、アートそれぞれの味方、魅力を勉強する講座、観客のレベルが高いと企画のレベルも高くなる/劇場の原点であるギリシャ、シェイクスピアの解説講座
・よさこい（えっさホイ）/メディア/コンテンポラリーダンス/花火/「千人太鼓」

【②たのしむ】
・②「たのしむ」はもう一歩高い「感動する」にしたい
・演劇 ・音楽 ・美術（たのしむ）/本物を見て感動する/有名アーティストのコンサート/TV の公開番組/東京・横浜へ行くよりも割安感の演奏会/アコースティックコンサート/楽しむだけでなく楽しませるエンタテインメント/テント公演
・商業演劇の招へい/歌舞伎・バレエ・ミュージカル・オペラ等
・バリアフリー上映/16mm映画館/映画祭/ロードショーに係らないが良い映画
・映像を使った作品上演
・映像で公演記録“皆で何かつくりたい”/映像関連ワークショップ
・小田原鉄道文化祭/バリアフリー観劇堂/ギャラリートーク
・コンテンポラリーダンス
・映画会を行いたい

【③つくる】
・①③、今までに子供から大人まで一緒に作りあげるものが無かった

・地元の音楽家・出身者による演奏会/小田原出身の文化人、有名人のピックアップ ・大藤信郎、川崎、居崎、首藤、北原白秋 etc
・ガンプラジオラマ風 ガンダムでの興しを
・小田原の地区の芸能のワークショップ/相模人形芝居普及/北条たいこの部/えっさホイ
・様々なシチュエーションでの映画上映（銅門、梅林、浜）/木の町小田原コンサート（木の文化大集合）/星空コンサート/ビーチコンサート（みゆきヶ浜）+南風（ホール）コンサート
・市民オペラ（実現のためのワークショップ）/市民ミュージカル
・市民参加事業/市民の創造演劇とか、音楽祭などが生まれると楽しい
・自主企画展覧会の開催（小田原ゆかりの作家）
・小ホール機能の充実
・誰でも使える舞台 高齢者・障がい者/市民が広く参加できるイベント/市民サークル作品展
・小田原の食を利用した大人の調理実習
・「アート・イン・レジデンス」小田原周辺の良い環境を活かし滞在型でアートを産み出す
・発表をバックアップ

【④つたえる】
・相模人形芝居下中座/民俗芸能（40団体ものお囃子）/こゆるぎの人形の製作/江戸町文化 総合文化祭/異世代交流
・小田原風鈴、ちょうちん、いもの 箱根細工 小田原彫り etc
・ホールでやっていることを伝える広報誌/外へ伝える広報の工夫/生活文化の発信、芸術文化の発信等インターネットのサービス
・ふるさとの映像を残していくアーカイブ/図書館業務とつないだアーカイブ/コンサートのCD・DVD化/市民・文化欲求のデータベース/
・映像のワークショップ
・相模人形芝居の普及

【⑤出会う】
・ホールと名建築をコラボした企画（古希亭 清閑亭 文学館 老夢壮 松司記念館）
・異分野とのコラボ/ジャンル横断
・他地域、他館との共同制作
・市内施設のネットワーク構築、施設の有効活用/小田原周辺美術館、箱根、湯河原既存施設の活用
・憩いの広場/ハロウィーンやクリスマスパーティー/若手アーティストが常に集っているコーナー
・作家とのワークショップ

【⑥にぎわう】

・若手アーティスト達が集うコーナー・子どもたちがいつも集うコーナー
・サロンコンサート/モーニングコンサート/昼間のコンサート/レセプション/ティータイム/アフタヌーンタイム/イブニングタイムコンサート/定期的なワークショップ
・市民が気軽に使えるスタジオの併設/若者が使える自由な空間/子どもが気軽に立ち寄れる場友人を作るスタートの場
・中高生がいつもたまる仕掛け
・「バンド」集まれ！！企画/小田原おじさん（ロカビリーフォーク etc）大集合/町内会対抗コンサート+一流アーティスト
・全国規模の公募展/写真展/各種巡回展/個人の作家展/現代アート展/若い人対象のアンデパンダン展
・子育て世代/ゆとり世代
・本物で感動するもの
・和と洋のうわさになるくらい美味しいお店/ミュニティカフェ、地産地消カフェ、小田原ならではのひとやすみ所
・住時の商工祭、ちょうちん祭の復活、それにともなう製作活動／町全体で住時のにぎわいを取り戻したい（商工等）／地元の商店街とのをつなげる事業 ・食 ・大道芸
・造形マーケット/地域作家を広報するミュージアムショップ
・①商店にアートを飾る、アートで人と地域をつなぐ ②マップ等によりイベント化する/近隣商店街と連携したコンサート
・ホール・展示場・商店街とのタイアップ、活性化
・市民文化祭／市民発表会
・日常的に行われる事業

【⑦ひろげる】

・文楽地方公演
・子どもとの距離を近く
・文化活動団体の連携強化/市文連
・市民ホールサポーター/ホールだより/企画/ＮＰ/市民・活動サポートセンター/市民が主体的に考え利用できる
・街のギャラリーとの連携
・活動団体のステップアップ
・学校など教育現場との連携・つながり
・文化団体との連携
・2市8町の国際交流団体をまとめるきっかけ/国際交流も文化
・市内の文化活動を市広報でPR/現在市民会館で行っている演目がわからない/市民ホールのPR
・文化芸術への関心層を広げていく/文化を人ごとにしない

【その他】

・土日仕事の人も楽しめる企画
・外から見えるようなギャラリー/展示室、芸術、美術
・市民がホールに関心をもつ企画を長期的に立案する/演者の来場のみでない誰でも足が向く施設と企画/現在あるイベントを利用する
・市民が使いやすい練習室、スタジオ（バンドの練習、ダンスの練習など）
・ホール予定地をアートと花でうめつくそう/お城をアートと音楽でうめよう
・地域の人とかかわってこの委員会でイベントをする
・超未来は読めないが近未来での小田原市民が何を（音楽・演劇・様々なイベント）望んでいるのか知る必要あり。
・音楽ホール、演劇場、アートギャラリーなど望むものがバラバラで計画の骨格が見えない/小田原にこれからも必要な文化を育てるステー/オペラが上演できる音響の良いホール
・落ちついた町/ものづくり/都/宝が隠れてる/無尽蔵 ・二宮草原
・“小田原”という文字を入れる/文化創造センター
・おだわらウメ子ホール/おだわらウメ子館/おだわら市民ホール「光未来」/おだわら夢ホール
・事業を行うためには予算が必要
・シルバー人材卒業生の活用・活性化／高齢者へPR、平日動員策
・市民、学校職員のネタ集めの場所へ
・稼働率の高い施設の活用
・事業の継続性/良い物を継続していく姿勢
・ホールで“何をするのか”少し漠然としている

2.事業計画

・ホールにとどまらず、街へとあふれる意識/「まちへとあふれる」はいいこと
・多くの人が集まる企画/名画鑑賞会/本物を見る/鑑賞のポイント/トークギャラリー
・市民に使い方がわかるよう紹介する場/機能の紹介
・会館に魅力を感じる企画
・ホールオープンのイベントは今から準備すればいろいろできる。

3.施設規模と機能及び概要

(1)各機能の概要

①大ホール系機能

【全体】

・バックヤードの充実（ホール規模は小さくてもよい）/楽屋とステージのスムーズな行き来/動線への配慮
・ロック・ポップス・ジャズなど、メジャーどころのコンサートを小田原で行いたい
・市民ミュージカルなどを行いたい
・大ホールは搬入しやすく、スタッフの体力を損なわないホールそし、使いやすさと音の良さで日本一のホールをつくりたい
・多目的なホール
・プロセニアム形式の舞台
・オーケストラピットは、整備コストを踏まえた検討が必要である
・シンプルで使いやすいホール計画とする
・小田原にいいホールがないために、音楽のすばらしさに気付いていないと思う良さを伝えられるホールが出来ればいい
・大ホールは講演会などの利用も多い
・色々な催しに利用したい
・入場料金がとれる事業がしたい

【舞台】

・舞台設備については、様々な意見がだされた
・照明・音響・舞台機構等の充実/スクリーンの設置
・大ホールの舞台について、ミュージカルなどのことを考えると、間口 10 間、奥行 5 間などが必要
・間口は 8～10 間、上手・下手の袖は 4～5 間、奥行は 6～8 間程度を想定してはどうか
・手引きバトンと電動バトンについて要検討の必要がある
・専門委員会では、大ホール間口を 6 間に可変し、そこで行うことも提案されていたが、小田原には 300 名程度のバレエの需要は凄く多い
・舞台の設備として字幕スーパーが必要である

【客席】

・客席、1,000～1,200席で、500席や700席といったように、中ホール規模のホールとしても利用できるようにして欲しい
・車椅子席が客席の端に追いやられないようにして欲しい
・ホールのドアの側に、スタッフが座れる収納式の椅子を付けて欲しい
・どこの席からも観やすい客席構造を検討する
・神奈川芸術劇場の3階席は怖かったので2階席までとし、多層バルコニーは防災上の観点からも避けたい
・座席の前後左右をゆったりととり、高級感のあるものにして欲しい
・座席はメンテナンスの行いやすいものにして欲しい
・サイトラインに配慮し、千鳥配置を検討する
・車椅子席、ベビーカー置き場をしっかりと取って欲しい
・バルコニー席を設けて欲しい
・オーケストラピットが必要である

【その他】

・小さい用地に大ホールは必要か
・にぎわい創出の為？
・音楽の活動場所/吹奏楽コンクールの県西予選会
・音楽と演劇の両立
・子どもが泣いても気にならない部屋、別の空間で親子で鑑賞できる親子室が欲しい。親子だけではなく、障がい者の方なども利用できたらいいのではないか
・舞台裏に使いやすい通路を整備する
・映像設備もほしい
・音響設備の周波数についても十分に検討すること
・大ホールに附属する練習室がほしい
・内装は木を使用したい。寄木細工も取り入れていきたい
・完璧なオペラが上演できるような設備が欲しい
・ホールの建築音響の考え方、音響設備だけでは解決できない。特に冬場の厚着はタブーなので、クロークをしっかりと整備してほしい

②小ホール系機能

【全体】

・多目的、平床式、展示できるように/展示室と小ホールは共有できるのではないか
・音楽・展示は両立させると中途半端にならないか
・本格的な演奏、演劇を主とした小ホール
・小ホールについては二宮のラディアンが音響がいいのではないか、参考にしてほしい
・小ホールについては班の中でも大変もめた

・南足柄はあまりいい小ホールではないが、稼働率が70%を超えている。小田原に音のいいホールをつくるともっと利用率が上がるのではないか
・特に、小田原ではピアノや歌を行っている先生が多いので、音にこだわったホールとしたい
・小ホールは音に特化した、日本一のホールを目指したい
・是非、全国に誇れ、近隣の人が使える、料金も安い、固定椅子を備えた小ホールをお願いしたい
・小ホールは良い音が出せる、演劇、音楽兼用の小ホールがよい。小ホールを使いたいが、これまでなくて市外で活動している団体が多いので、そういった人たちの意見も聞いて欲しい
・他班の意見を聞いていると、小ホールは多目的でまとまってきているように思う
・小ホールにも防音で音出しができる部屋が必要ではないか
・小ホールは音楽寄りの多目的ホールという方向でまとまった
・小ホールの基本的な設備は、大ホールと同じように計画する
・市民参加、幼稚園、小・中学校の利用、えっさほいの練習、発表会など子どもをメインとした活動を色々とやって欲しい
・子どもたちが本物を鑑賞できる事業を行ないたい。小規模でも音楽会、演劇会、映画会を行いたい
・大ホールでは行えないような小編成のジャンルを問わないコンサート、良質のものを上演して欲しい
・自分が劇団を主宰しているので、芝居小屋をイメージしている。現在は横浜や下北沢を利用するしかないので、小田原にその空間が欲しい
・外国の文化を発表したい
・子供達に古典芸能を鑑賞させる機会を設ける
・小ホールは演劇と音楽の両方に利用できる多目的とする。今の技術があれば音楽と演劇両方の機能が担保できるので、そこは専門家に任せ、どう使うかは市民が頑張る

【客席】
・固定客席にするか平土間にするかで意見がまとまらなかった
・演劇・音楽・ダンスなど様々なジャンルの人が使えるので平土間の方が良いのではないかという意見がでたが、固定式の方が良いという意見もあった。
・小ホールは固定席の多目的ホールとする
・平土間と固定客席で意見が分かれた
・展示との共用は認めたくない
・固定式の多目的ホールと平土間のホールで意見が分かれている
・音楽あるいは演劇のためのホールかで意見が分かれている
・音楽用にすると演劇用の舞台設備が制約され、音楽用にすると台詞の明瞭度が制約される
・多目的にした場合、演劇・音楽共に制約される

・固定席か平土間かで意見が分かれた
・固定席であれば、県西地区に固定席で充実したホールがないので、稼働率が上がるのではないか
・小ホールを平土間にするか固定客席にするかということで非常にもめたが、平土間として利用できる別のスペース（マルチスペース＝多目的ホール）を確保することで意見がまとまった
・小ホールを固定にするのであれば、プラスで300㎡程度のマルチスペース（多目的ホール）を設置することで対応する。また展示系の催しであれば、展示系機能とマルチスペースを両方使うことや演劇・音楽系の催しのリハーサルの場として利用できる
・大ホール、固定席の小ホール、展示機能に加えてマルチスペースが必要なのではないか
・小ホールは固定席で造る。その対案としてマルチスペースをつくることで、リハーサルや展示など小ホールを平土間で使いたいという用途に対応する

<u>〈固定席〉</u>
・固定客席と平土間のふたつの選択肢があり、どちらかだけとは決められない
・固定席と平土間・ロールバック式の2つを造ればいい
・音楽系の固定客席のホールと、平土間のホールで方向性をわけて整備する
・藤沢市以西に固定椅子を持つ本格的な小ホールをもった公立ホールがない
・平土間のホールは多くあるが、近隣の公立ホールに固定客席の小ホールがなく、整備すべき
・ロールバックが嫌な意見として、歩くと音がする、可動式は使い勝手が悪い、座り心地が悪い、足音が響く、すきまが危険、落ち着かない、咳やくしゃみをしただけで椅子が揺れる、メンテナンス費用がかかるといったことが上げられた
・ロールバックの客席に不満を持つ方や団体は少なくない
・固定椅子で、音に特化した小ホール。市内では演劇よりも音楽の利用が多いと感じる
・小ホールは市民利用が多くなるので、200～300席の音響の良い固定式が、市民にとっては一番利用しやすいのではないか
・使い勝手第一で、日本一を目指したい

<u>〈平土間〉</u>
・大ホールの主舞台と同じ床面積を確保し、リハーサル室としても使用する。防音性能が必要なので、地下の有効利用も考える
・リハーサルや様々な催し物にも使用できるマルチな機能を備えた部屋を整備する
・高さは4m、ライティング設備も欲しい。また、ステージの位置を自由に変えられたり、youtubeを利用できたり、様々なことが行なえ、若者による新しく多様な活動にも対応でき、将来的に考えられる様々なイベントに耐えうるものにしたい。
・特に、若者が自由な発想で活用できるスペースにしたい

・平土間で行いたいような催し物は、リハーサル室のひとつを広く造り、そこで行えるようにする
・平土間も捨てがたい。大ホールの主舞台と同じ床面積のリハーサル室が欲しいという意見があり、それを第2小ホールとし、平土間で200～300席の様々な活動ができるマルチスペースとして計画する
・平土間のホールは、色んな若い人たちが新しいことをできるようなホールとしたい
・平戸間にこだわらずホールにもできる可動的な物/多様性
・可動にして稽古場が欲しい
・平土間にした場合、展示用の特別な設備は不要だが、展示にも利用できるように考える
・平土間にして様々な活動が行なわれることや様々な分野の団体が利用できるようにするのも大事だと思う。展示に特化したい団体、大ホールに特化したい団体、小ホールに特化したい団体などがあるので、どのように特化したいかということについても譲りあっていくことを考えていきたい
・音響的には平土間形式の方がよいという意見もあった
・平土間、ひな壇の運び込み、壁にカーテン、暗幕という意見もあった

【その他】
・中ホールが欲しい
・舞台裏に使いやすい通路を整備する
・市内の施設との機能分担を考える必要がある

※大小ホール附属施設
<楽屋>
・和室を1室整備して欲しい
・楽屋の隣に練習室を造って欲しい
・舞台モニターを設置してほしい
・大ホール、小ホール専用の楽屋が必要である
・シャワー室も整備する
・近代的な楽屋が必要である
・楽屋周りにピアノ付きで音だしが可能な楽屋が欲しい
・和室楽屋、シャワー室、練習室がほしい
<トイレ>
・女性トイレを多く造りたい。男性トイレよりも多めに造ってほしい
・女性トイレには節水の為に音姫を備え付けて欲しい
・女性トイレの個数は多く整備する
<搬入>
・展示室のバックスペース、入口の反対側に搬入車両が寄り付ける搬入口を造って欲しい。展示台など重いものの搬入も考えられる

・舞台後方からの搬入ができるようにしたい

<ロビー>

・ロビー・ホワイエの居心地を良くし、社交場としての機能を大切にして欲しい。愛を語れるスペース、誰でも利用できる憩いのスペースがあればなお良い

・ホール・ロビーは、美しくゴージャスにして欲しい

③展示系機能

・ガラス張りにし、アーティストの作品展示場に

・市民ギャラリー

・常設会場

・400 ㎡以上/保管庫/十分な高さ

・小田原という地域を発信できる全国規模の公募展など、有料の展示もどんどん行っていってはどうか

・展示室はフラットな空間なので、展示だけではなくワークショップなどでも活用してはどうか

・可動パネルは、簡便に移動ができるものがよい

・天井高は4mがベストではないか

・華道展示などを考えると展示室のバックスペースには必ず水場を造ってほしい

・使い方によればお茶などもできるだろう。そのための水場を造ってほしい

・野外を利用して展示を行ったり、様々な利用ができる仕組みをつくっていきたい

・展示室は展示専門としたい。展示室の隣に小ホールとしてマルチなホールがあれば嬉しい。200 ㎡位の大きさで良いのではないか

・展示会と並行してワークショップを行い、市民を呼び込んでいきたい

・シンプルでパーテーションで区画できるようにしたい

・大きな作品もあるので、そのことに配慮した搬入口とバックヤードが必要である

・天井にものを直接吊れる構造と設備が必要である

・展示壁には直接ピンが刺せれる仕様が必要である

・現代アートの展示も考え、電気設備等も整備する

・電気設備等の増設が後からできるように配慮したい

・他の機能の併用は考えなければならないが、会議室等との併用はやめるべきである

・搬入動線と観客動線が重ならないように配慮する

・高さは高く、広いほうが良い

・控えや水場は別途設けるのではなく、区切って使えるようにどこかに込んでも良いのではないか。全体で面積は 400 ㎡程度は必要。市の主催する展示会などのように大きい作品がメインなのか、サークルなどの市民活動の作品展示がメインなのかで違ってくる

・区切るとしたら、ドアが 2 つありでどちらからも入れるようになると良い

・神奈川県立美術館の巡回展、小田原ゆかりの作家の展覧会、学校の書道や小田原ちょうちんの展示などを行いたい

・展示物のサイズを問わず、良い照明環境が必要。天井全体がやわらかい照明が理想的である。スポットは移動式とする
・平面作品用の展示パネルは、上質のもので長く使用できるものが良い
・様々な展示に対応できる展示壁を採用して欲しい
・天井高について、平塚美術館程度の高さがあるとよい
・床、壁は汚れに強い素材を使って欲しい
・展示スペースでも、演劇・音楽などを発表できる工夫をして欲しい
・本当は小田原に美術館が欲しい
・400㎡の展示スペースができれば、美術館でやるようないい展覧会ができると思う
・学芸員をおいて、年間で自主企画を行ってほしい
・展示室は展示に特化したものにする。展示スペース400㎡+バックヤード200㎡を確保するべきという条件で施設を考えた
・小田原では年1回大きな展示が必要となる期間がある。しかし2つに区切って使うのでは400㎡では十分ではない。基本的にはリハーサル室で、その時を含め年に何回かは、リハーサル室兼マルチスペースを展示に使いたい
・トークショー、参加型ワークショップなど、いつも何か展示されていていきたくなる様な催しがある展示室としたい
・現代アートの魅力に触れるイベントを開きたい
・大ホールに付随したロビー、けやきの展示室を利用するという案もでた
・インターネットの配線、ワークショップスペース、図書館機能、水場、作品保護の空調・照明設備、ミュージアムショップが必要である
・天井の高さは4m必要
・展示スペースのバックヤードは、展示台や機材を収納するために200㎡必要。展示室400㎡＋バックヤード200㎡を確保したい

④創造系機能
・楽屋の隣に練習室を造って欲しい
・リハーサル室は大ホールを利用する時にウォーミングアップができるスペース。声出しや音出しができ、大人数の際には楽屋にもなり、楽器も置いておけるなどの多様性を持たせる
・それぞれの室に固定的な名称ををつけると、固定観念から用途が狭められてしまう可能性があるので、あまり捕らわれない方がいいのではないか
・リハーサルルームなど、兼用にしすぎると使いく、音漏れも嫌煙される。そこが解決できるのであれば機能を兼ねても良いと思う
・リハーサル室もマルチスペースであるが、演劇公演も可能な設備を備えるということで意見がまとまった。基本的には平土間だが、客席はロースバックとするかスタッキングチェアで対応するかの結論は出ていない
・大ホール・小ホールに付属して、当日の音合わせ用にリハーサル室があったほうがよい
・広さは１２０㎡と書いてあるが、どのくらいが適当かはまだ分からない

・防音の練習室、スタジオが欲しいといっているが、本番前に声出し、音出しができるリハーサル室が必要という意味
・練習室がほしい
・リハーサルができるような練習室がほしい
・マルチホールを整備してほしい。ここでは、利用形態に応じて公演も行えるようにしたい
・マルチスペースは飲食、音楽、展示も含めた交流に使えたらよいと思うので、平土間で広さ300㎡程度、大ホール主舞台の大きさ程度を確保したい
・マルチスペースは大ホールの主舞台と同じ程度の大きさを確保する。飲食、創造、アートなど市民が何をしてもいい、汚してもよい場が欲しいという意味。尚かつ、大ホールの舞台で上演することをこの場で練習出来るようにしたい
・マルチスペースの防音はある程度で良いと思う
・スペースに余裕があれば欲しいが、管理が難しいので無くて良いのではないか。学生の利用が中心であれば、平日の昼間は稼働しない
・本番使用のリハーサル室よりも、本番前に声だし、音出しができるリハーサル室が必要
・若い人たちが使える、演劇や音楽、バンドの練習のできるスタジオ機能は4部屋程度整備したい
・防音の練習室、スタジオというのは、キラリ☆ふじみをイメージしている。音が出せる練習ができる小さなスタジオのこと
・練習場機能あれば事業がないときでも人が集まる
・リハーサルスタジオ/稽古場
・練習場がないと居酒屋がもうからない/下北沢的イメージ
・創造活動に施設を利用した市民ってどれくらいいるのだろう/どんな創造活動に使いたいのか
・アトリエ作業ができる場所、造りかけのものを保管できる場所があるといいのではないか
・ワークショップができる工作室などのスペースが隣にあるといいのではないか
・創造系施設は施設の中で完結するのではなく、外に活動がしみ出るようにして欲しい。通りに賑わいをみせることで可能性が広がっていく

⑤支援系機能
・託児室を造ってほしい。空間を作るだけでなく、子どもが泣いても外に音が漏れない遮音性能や裸足で歩けるような安全性を確保して欲しい
・託児が必要な事業が行われるかどうかは今後の事業の在り方次第なので、先ずは託児室として使用できるスペースは確保しておく必要がある
・託児室は、誰が責任を持って運営するのかという課題がある。何か起こったときに客席内にいる保護者を呼ぶ手段も検討していかなければならない
・託児室は必要ではあるが、用途を限定してしまう室が必要かどうかは検討すべき

・託児室、キッズスペースが欲しかったという声が多かった。大ホール・小ホールにひとつずつあれば良いのではないか。子どもの声がホールに聞こえないように、カフェなどの交流系機能の近くにまとめればよいのではないか
・市民活動サポートセンターの機能を入れ、打合せや会議などのワークスペースとして利用できる場所がほしい

⑥交流系機能
・イベントがない時も気軽に子どもがあつまれるよう
・逗子文化ホールのように、子供が気軽に自由に出入りできる空間に（常ににぎやかで良い）
・平日のにぎわいが欲しい/平日でも寄ってみたい場所
・気軽に子供から老人がその場所に集える
・情報、人、コト etc が集まる。発信する。INPUT&OUTPUT
・10 代 20 代が興味を持ちやすいホール機能/児童館のように子供たちが自由に遊べる空間
・オープンロビーで低料金で販売に利用できるスペース
・自由に使えるスペース（多目的）展示、発表、音楽など
・国際交流スペースとして 50 人以上が入れる場所
・観光客の立ち寄り所に！歴史・物産の紹介の場も
・情報発信 spot/ミニ FM/イベント告知スペース
・オープンカフェは欲しい/ホールを利用した前・後に使いたい/昼間の利用に良い
・ホールに café を作るより商店街へ流動を
・小田原城跡をみられるおしゃれな茶屋/カフェの充実/コミュニティカフェ
・地産カフェレストラン、あじ、かまぼこ、レモン、みかん、うめ等。小田原の職を伝えられる機能
・“地産地消”でなくても良い！
・愛が語れるような素敵な喫茶店が欲しい
・カフェや交流サロンなど市民が交流できる空間を計画する
・50 席～100 席程度のカフェが欲しい
・ミュージアムショップが欲しい
・カフェの話が多く出た。小田原市内にはレストランなどはあるが、カフェは少ない。演劇の台本をその場で読めたりアーカイブを見れたり、オープンカフェとしてロビーと近い距離に置き、オープンライブを行ったりできればよい
・広場にオープンカフェがでるといい
・あまりお金をかけずに文化に触れられるスペースがほしい

⑦管理系機能
<u>〈全体〉</u>
・中継地点”でないインフラ
・平日親子のつどえる場に（託児室）

〈駐車場〉

・一般観客用にはいらないという意見が多かった
・利用者が搬入物を安全に簡便に降ろすことのできる車寄せのスペースを関係者車両の通路に整備することでうまく流れができるようにし、車両の渋滞が起きないようにする
・関係者用の駐車場はきちんと確保することが必要
・小田原市条例で駐車場は建坪により台数が決められている。今まで出ている条件から概算台数を出し、今の敷地にその台数の駐車場ができるかを検討した方がよい
・市民会館では駐車場足りない
・駐車場を一つにまとめると、公演前後に混雑してしまう
・駐車場はないといけないのか。駅～ホールのルートに立ち寄ることができる

〈その他〉

・ピアノを収納する倉庫が欲しい
・緊急時に使用できる部屋、救護室、託児室などを計画する
・お客さんの中で具合の悪くなった人の為に畳の部屋があればいいのではないかという意見が出た。休憩室としてだけではなく、茶室として利用したりなど、多目的に利用できたらいいのではないか

⑧その他機能

・お金が戻るロッカー/トイレ汚いのは嫌/入り口ロビーに北条五代の展示コーナー設置
・シンプルな設備でランニングコスト削減/清掃しやすい施設
・ガラスで覆われているようなホールが必要なのか。ホールを利用する時には外光を遮断しているので、普通の照明を備えればよいのではないか
・クロークがあると主催者側の負担になるのでいらないのではないか。その代わりにお金の返ってくるコインロッカーを設置して欲しい
・現市民会館がなくなった時に、その跡地を練習室やミーティングルームなど、市民が一般的に使えるものを整備してはどうか
・ＷＳでアートを制作し建物の一部に取り入れたい。具体的には寄木細工などという案があった。小田原の市民が参加した証しとして残したい

(2)施設規模

・予算とスペースに限りがあるので、建物の物理的なサイズが何m×何m×何mのものができるのかという話になる。これからは何をカットしていくかという話も出てくるだろう
・デザイン的な話も色々と出ている。立方体としてのサイズにも関わってくる

(3)留意事項

①防災

・防災対策/屋上を避難用に/津波対策/ホールの天井が落ちないように

・地震や津波等の災害に配慮し、観光客や観客が帰宅難民になった場合の対応ができる職員を配置したほうがよい
・自然エネルギーを活用、太陽光パネルを取り入れ、災害にも強いホールとする
・防災について、津波対応をどうするか。今の状態ではマンションの屋上か小田原城に行くしかない。例えばホールの屋上にある程度逃げられるようにするなど、対策を考えていければいいと思う
・建築するときに震度いくつという想定を。ここに来ると言われている震度よりも高くして欲しい
・防災について、最低3階の高さ。何かあったときに対応できる場所が必要かと思う
・防災、エネルギー的に独立するために太陽光パネルを。エネルギー的に自立できる避難場所に変更できるように

②省エネ
・再生可能エネルギーの有効活用、太陽光パネルの採用

③ユニバーサルデザイン
・利用しやすい障害者トイレ/車いすや足が悪い人などに配慮した設計/段差なし
・バリアフリーには十分考慮して欲しい
・全体的に弱者に優しいホールということを皆さんと話し合った
・大ホールにスロープが欲しい
・座席の間にスペースがあると動きやすい
・車椅子席は前方や後方ではなく、中間くらいにほしい。また、団体で鑑賞できるスペースがあると良い
・座席を外して車椅子席を設けた場合、床に段差があると不便なのでフラットにして欲しい
・階段など、暗いと判別が難しいので、照明を設けるなど段差が分かるようにして欲しい。また、滑り止めを設置して欲しい
・聴覚障がいのある方は、公衆のFAXがあると便利である
・エレベータの設置は必須である。大きな車椅子を利用する方もいるので、20名以上が乗れるエレベータがあると助かる
・エレベータについて、中の様子が外から見えるように透明だと助かる。また、文字で「満員です」といった表示がブザーと併用であると良い
・エレベータはわかりやすい場所に設置して欲しい
・トイレについて、多目的トイレが2つ程度あると助かる。また、男女共用が望ましい
・トイレを流す際のバルブの位置について1ヵ所ではなく2ヵ所あると良い
・トイレの入口は電動で開くタイプが良い
・トイレの大きさについて、車椅子の大きさが人それぞれなので、大きい方がいい
・和式や洋式の種別が分かりやすく表示されていることが望ましい
・トイレのスイッチの設置位置は統一してほしい。視覚障がいのある方は、場所が統一されていないと手探りで探さなければならないことになる
・字幕はあった方がよい

・要約筆記のスペースを設けてほしい
・入口にはスロープを設けてほしい
・事務室などもバリアフリーにして欲しい
・エレベータが停止した際の避難経路を考えてほしい
・地下駐車場があると雨などの場合濡れないので助かる

④景観
・門からどう見えるのかを重視し、どの程度のスペースを開けて整備するのかを早く決めた方がよい
・高さ制限などの様々な条例を認識させて欲しい
・できるだけ建物高さが低い建物としたい
・外からホールを見るという視点もあるが、高さがある施設という特長を活かして中から外の景色を観る視点もある。お城や海などのビューポイントを確保してほしい
・お城や緑という小田原のいいものがあるので、隣接しているという強みを生かしたものになれないか
・お城にあった小田原らしいものに。いろんな人を引き入れる、なごませる、まちづくりと併せながら、盛り上がりのあるホールを取り囲む景観をみつめて欲しい

⑤前庭
・これまでの検討のほとんどが建物に集中しているが、お堀から30mセットバックして建物を建てるのであれば、前の広場を有効に使うことを考えた方がいい
・建物の中に全ての活動を押し込むというのは無理がある。広場を上手く活用し、施設内のウエイトを減らすことができるのではないだろうか。その議論がされていない
・現状の芝生の部分も有効に使わなければただの空き地になってしまう
・敷地の前庭について、城趾公園や野外イベントのことも考え、設計段階から検討していただきたい
・広場をつくり、ミュージックストリートのような活動が日常的にできたら良い
・広場にオープンカフェがでると良い
・屋外には、こもれびがあるような落ち着いた風景があったほうがよい。屋外で現代美術などの展示も可能ではないか

(4)全体イメージ
・神奈川県で一番良いホールを創ってほしい
・空間（スペース）をもっと大きく考えたい
・シンプルで使い勝手が良いもの
・30年40年に使用の主体となる若者の声を多いに取り入れるべし
・ホールの大きさだけではない質への配慮
・高齢化による人口減少への対策
・首都圏に専用的ホールが造られている、小田原に専門性的ホールは何が必要か
・公演によってデザインできる/各施設とも本来の機能を保ちつつ専用性を強めず他用途を/目的の変化に対応出来る施設

・観る側、演じる側、展示する側、人の動きを考えた機能
・おしゃれしてホールに
・管理や修繕のしやすさ。管理者の手間を減らし、ソフト等に力を入れるべき
・駅からホールまでのアクセスを整備し分かりやすく、地下街も有効利用（おみやげや情報発信の場）/商店街活性化のための歩いていく/駅からの仕掛け
・終演後のお客様の居場所空間を街にほしい
・建設コストの考慮
・全体的に整備コストを極力かけない
・コストの問題はあるが、色んな意見を出し合い、その中から一番よいものを選択し、あまりコストにこだわらないようにした方がよいのではないか。可能なものは造っていくという考え方で進めて欲しい
・小田原の木材をふんだんに使ったホールにしたい
・遊び心のある建物にしてほしい
・市民がお金をかけずに文化に触れられる事業や設備と、きちんと収益がとれる事業の両方とも行いたい
・“建築物としての市民ホール”デザインは重要
・「環境配慮建築」という言葉をいれ、そういう設計をして欲しい。そのために市民がコンペに参加できるようにして欲しい。第一段階はスケッチ画で参加でき、第二段階からはプロという方法もあるのではないか
・今後設計に入るときにコンペをやるのではないかと思う。今まで色々と議論を行ってきて、どういうものが最終的に形になるのかについて一番気になっていると思う。決定する段階で、市民が参加できないだろうか。前回のコンペ案、とくに外観に対して市民からの意見が多く出た。しかし、外観というのは個々の好みであり善し悪しはない。例えば市民の声をある程度考慮して審査員が意見を聞いてくれれば、最後まで市民が参加したことになるし、不平不満も少なくなるのではないか
・設計段階でも市民の声が反映できないか。どういう設計がしてあるか市民がチェックできないか
・極力地元業者に入ってもらい、内装や基礎部分などは小田原の業者にお金を落として欲しい

4.運営組織

(1)想定される組織概要

- 専門家（学芸員・事業担当）の採用/人材の確保/アクティブに動ける人材/専門のプロデューサーが必要/プロを使うべき
- 組織をよく考えてほしい
- 舞台技術スタッフには、専門的な人が欲しい
- ホールの運営には市民の力が必要
- やりたいことがある市民が市役所職員に相談に来るという。まずは市民会館大ホール小ホール、けやきがあるので、そういった場所でやりたいことを実現させていくことが先決ではないかと発言した。しかし、そのためには運営組織を作らねばどうにもならない。今できることから始めていきたい
- 芸術監督は予算があればいるに越したことはないが、予算がかかりすぎるのは問題。芸術監督がいるのならば、選出は公募にして欲しい
- 運営組織は専門家だけでなく、一般市民も入れるように
- 芸術監督、芸術アドバイザー、館長、ゼネラルマネージャーなど、肩書きをつけるときに明確に役割を決め、そういう人も入れて欲しい
- 運営について、ひとことで言えば小田原ならではの運営ができたらいい。やはり友の会というのがあり、市民の文化に対する愛着がベースになった、皆で盛り立てて運営していこうという雰囲気が自然に現れる組織が理想的
- そのための市民参加の形として、ボランティアという形では続かないのではないか。段階的に有償と無償の階層が必要なのではないか。システムは市民参加といってもきちんとしたシステムをつくる必要がある。現行で文化サポーターがあるが人員的にきついものがあるので、今の現行のものを補強できるような運営ができないか
- 運営に関して全体的に言えるが、専門家は必ず必要。その専門家と一緒になって運営していく市民組織を作っていきたい。そのための友の会を作ったらどうか。例えば会費を集め、ホールの全公演を1割引で観れるなどの特典をつけたり、ホールの広報誌を作る。今の市民会館は情報が分からないので伝わりにくい
- 運営について、市民が希望を出すことはできるが、実際に運営組織を形作っていくのは、優先ではないが専門家の考えが基本となる
- 市民参加の範囲について、線引きしようという訳ではないが、組織運営については基本的には専門職が相応しい
- 組織の中心は市役所
- 運営組織の問題、市民が参加し自分たちが楽しむのだから年間1万くらいの高額の会費をとってもいいのでは。責任の所在は市の中に存在し市の人が最終責任を負うべき

(2)管理運営母体の考え方

- 直営か指定管理者制度の導入か
- ホール運営の為の財団を創っていただきたい

・運営のための財団をつくってほしい。今からでも既存施設の運営を行いながら、新しいホールの運営にあたって欲しい
・誰が運営するかについて、財団、NPO、民間の指定管理者など色々とあり、市民の中でやる気がありホールの運営に関わりたいという方々も沢山いるが、どこまで関わるのかという想定が大事
・管理運営組織になるのであれば、建物全ての管理運営をせねばならない。赤字や器物破損、事故などの責任を市民団体でできるのか
・市民団体が運営組織になるのであれば、そこまで市民が責任を取らねばならないという話をした
・市民団体で運営するという話が出るとは思わなかった

(3)市民協働組織の考え方
・市民の主体的な参加活動とその仕組みの構築/ボランティア中心
・ボランティアに頼りすぎない
・ボランティア、身銭文化であってはいけない。かといって、市民の税金をあてにしてはならない
・市民が参加して何ができるのか
・小田原おもてなし隊のようなチームパフォーマンス集団をつくり、定期公演を行っていけたらという声があった。実際に活動しているところがあるらしい
・市民参加として企画やレセプショニスト、広報などの作成への参加か、ホールの管理運営組織として関わるか
・可児と北上の方式を参考にしたらどうか
・市民参加、市民参画などというが、市民が協働してやっていかねばならないということを決意した。参加ではなく参画という方向に持っていく。例えばこの検討委員会でメーリングリストを作るなど、そういうところからやっていかねばならない
・市民参加をどういう観点で捉えるのか、今後議論を行う必要がある

(4)運営
・ホールで黒字にするのは大変/収支バランス/ランニングコストはどの程度か
・人件費の確保/事業予算/財源の確保
・文化に対する費用を呼び起こす魅力ある文化活動を始める/身銭を切る
・全国規模の公演に対応
・友の会システム
・商店街との連携を考えていきたい。高円寺の例も参考にしたいが、小田原市の店舗にアート作品を置き、イベント化されるような形を考えている。そういったことを行わないと利用者が増えないと思う
・市民会館と今考えているホールを結ぶ商店街はお堀端通りになる。いろんなイベントを絡ませようとしても商店が少ない。施設でイベントなどをしないと難しい。また商店街との連携も難しいと思っている
・商店街と自治会にもう少し関心をもってもらえないか

・今後の文化政策が明らかでないので意見は分かれたが、文化政策が決まればそれに従って決めていくことができる。
・市民会館やけやきの料金よりは上がると思う。そこを市民がどう考えて使っていくのかを念頭に入れて欲しい
・学割を取り入れて欲しい。マロニエの音楽室が使われないのは利用料が高いから。利用者の裾野を広げて欲しい
・施設利用のルールは適切なものを、がちがちに縛らないで欲しい
・システムは市民参加といってもきちんとしたシステムをつくる必要がある
・スタッフとして活動していく人の制服や目印があると、それを身につけていることがステータスになっていけば無償でもやりたい人がいるのではないか
・文化活動ということに焦点を絞る必要がある。大人の遊び感覚であまり杓子定規にものを考えず楽しいことをやろう
・広義に小田原を告知するために、小田原全体のデザイン力を高め、幅広い広報を行うべき
・いかに効率よく運営するか。運営にはお金の問題がついてくる。それには稼働率を上げるのが一番手っ取り早い。運営に対する経済的な基盤と市民のニーズを取り込んだ企画の２つが運営の大きな問題だと思う

5.敷地条件
・敷地の問題、最大限に活かす方法を見つけて欲しい

6.課題･その他意見
・もっと現在の市民ホール整備に向けた動きを伝えていくべき
・スピードアップ
・運営組織はボランティアでは難しい。時間、お金、専門性が必要
・関わる人間の持つサムシングは大切
・今までの検討意見から、皆さんの意見は出尽くしたように思う。それよりもホール建設後にこの意見が持続し、意向を汲んでくれるかということと思う。それには市民の努力も必要
・皆さんにそれぞれの思いがあり、自らの技術や知識を市のために捧げたいという方々だと思う。この委員会が終わった後も解散するのではなく、各々が特化しているものを行政に渡せることがあれば嬉しい

7.むすびに

(1)振り返りによる考え方の変化等

・仕事をしながらの参加で大変でしたが、皆出席だったので、殆どの流れがわかり今迄の小田原では形だけの市民意見と専門家まかせの感がありましたが、今回は大きく変わってきたと感じています。
市民ホールに関しては、市民、専門委員、市職員の方々がひとつになって取り組めた意義は大きいと思います。
ただし、小ホールの事などは市民意見がうまく伝わらず専門委員全員が毎回来てくれている訳ではないので、前回と違う意見の場合、誤った方向に流れてしまう危険性を感じました。この様なことの無いように市側の方の更なる努力をお願いしたいと思います。

・市民ホール建設準備会の委員をやっている時にはあまり分からなかったいろいろな意見を持った人達と意見をかわすことが出来たのは良い経験でした。
様々な意見をどうまとめていくかが大事だと思います。

・これは以前からなのですが、各団体の連携がほぼなく、協力して何かやろーよとか言う考えもあまりないと言う事を今回の検討委員会に参加されていた方々と接してつとに思いました。また、みなさん小田原評定が好きだなーとも(笑)
みなさん話のまぜ返しと、市政に不満がある方が多かったり、事前の下調べなどもない方が多く、正直言って建設的な議論ができたかと言うと大変不満の残るものでした
そして、自分の分野は主張するが、他の分野には理解を得られない、我を通すだけの人が多くて・・・。

・初めて参加した時には「自分か参加していいのか？」と思った。資料は読み込んでいたが議論出来るレベルには達していなかったが、回を重ねるごとに分かってきた。
行政と市民が力を合わせないといけないということがよく分かった。

・平成１２年３月（仮称）城下町ホール建設市民委員会設置以来、８年の歳月をかけ建設寸前にあった（仮称）城下町ホール建設は、平成２０年５月「１億数千万円の設計費」を支払って中止。翌２１年１２月「市民ホール建設準備会」設置。２３年３月同建設準備会により「市民ホール基本構想」策定完了。「基本構想」を基に、平成２３年７月「市民ホール基本計画市民検討委員会」設立。「運営（ソフト）及び施設（ハード）」内容の具体化を様々な立場から市民の意見を集約。次の専門家からなる「専門委員会」へ「基本計画（案）」として引き継ぐべく２回のレクチャー・視察を含む１０回の活動を経て今日に至る。しかし、１０回会合を経た今日「達成感」を感じない。何故か！参加する前は「市民ホール基本構想」を基に内容を検討。実現性のある内容に各項目を絞り込むを目的とする「市民ホール基本計画市民検討委員会」と思っていた。しかし、結果は「基本構想」の復習会に終始した。市民検討委員会諸氏の、事前配布資料「市民ホール基本構想」の内容確認が十分されていれば、同じ内容・項目は既に「市民ホール基本構想」に述べられていることに気づき、この「基本構想」を「ではどうするか」に検討が進展したはずである。・・・何回か進め方おかしい！のシグナルを出したが声を大にしなか

った事を反省している。

・市民として、自分達の住む街を、良くするのは、市役所の職員でなく、自分達なのだと感じた。また、市民の中に、いろんな活動を積極的にされている方々が多くいることを知った。
今後は、もっと市の施設の利用、事業に参加したいと思う。
市民ホールに対し、具体的な設備等について、提案はできないが、ひとりでも多くの市民が利用する“ホール”になることが一番である。

・市政が市民意見を求める事は大切な事と思う。コンペティションで入選したモノを建ててしまったら使いものにならない、ホール設計は小田原市民を愚弄するものだった。やり直して良かったと思う。

・あちこちの劇場やホールはたくさん知ってますが、「市」のもののことを考えたり、参加したことがほとんど無かったので、いいきっかけになりました。
考え方というか、ずーっと温めるだけ温めて終ると思っていた企画を実行しようという気持ちになれました。ありがとうございました。

・ホールが市内にあることの意味や、文化自体について考えるきっかけとなりました。また、このホールだけでなく、周辺のホールと役割分担する、という考え方を学びました。
小ホールの議論をとおして、それぞれの立場によって、求めるものが違い、様々な考え方があることに気づきました。

・１０回の活動にすべて参加致しました。４０名を超える一般市民の参加は、建設に向けての市民の意見、要望を出し合うという所期の目的は達成されたものと考えます。「城下町ホール」の段階から関わってきた者にとっては、特に施設、設備に関しての考え、理解度に歯がゆいものを感じましたが、回を重ねる毎に参加者の理解度が進んだ様でした。

・この委員会に参加されている人の中には興味本位から参加した人もいるでしょう。又、仲間としてこのようなホールという決めて参加した人もいるでしょう。私に見えなかったのはこの人の後側です。この人はどのような人たちと関わりをもったのか又、このホールが建ってからどのようにつながっていくのか。
それは、その人が過去に行なってきた仕事をもっと知っておきたいと思います。
個の意見だけを通すことだけしか考えておらず、それでは次のつながりがみえないのです。

(2)振り返りによる意見等

・展示については、三ツ山委員が入られたことによりホールと文化創造の幅が広がったと感じています。
今後は運営が大事になってきます。今回まとめられたホールや、大スタジオのあり方はどのように運営されるかで使用頻度が大きく変わることでしょう。

使用料金を下げる為にも建築コストはシンプルな作りにして、極力下げるべきです。
箱物が出来ても使う人がいなくては意味がありません。
運営も今迄のような貧弱な予算では何も出来ません。１％の文化予算とすれば６億円。最初からそれは無理とは思いますが、維持管理、人件費を除いた分で最低２、３千万円の予算がなければ何も始らないと思います。
市民の皆さんに本当に役立つ文化創造施設であることを理解してもらって下さい。
勿論予算を承認する議員の方々にもこの施設の可能性と重要な事を理解をして頂きたいと思っています。
これまでも可児市のホールへ視察に行かれたり見識の高まっておられる方も多いと思いますが、様々な場面でホールの事を考え身近に感じてもらいたいと思います。
その為にも広報が大切です。様々な手段、方法を考えていく必要があると思います。
文化ビジョンの委員会にも出席しましたが、委員の方もホールの委員会に参加して頂ければ更に良かったと思います。もっと現場に添った論議が出来たかもしれません。
小田原、それも三の丸、お城のそばに作るホールです。市の職員の方々にお城だけでなく是非、大外郭を一流の説明員をつけて歩いて頂きたいと思います。そうすれば、小田原を観る視点がより大きくなり、変わってくると思います。
小学校の子供達にも６年間のうち、１～２回は大外郭を歩き、小田原の歴史と文化、その奥深さ、広さを感じてほしいと思います。タテ割行政ではなく、ヨコのつながりのなかで教育委員会も巻き込みつつ実現して下さい。
子供時代に経験することは、本当に大事です。ホールは必ず赤字になります。それを上回る成果、その為にこのホールは未来の子供達への投資と考えて下さればと思います。
景観は三の丸に作るホールです。当然、高さをおさえる必要があります。防災の為に高くすることは反対です。周囲に配慮し調和のとれたホールを望みます。
まだまだホール完成迄に５年もかかります。この動きを止めないよう今後共もどうぞ宜しくお願い致します。

・運営についての検討が十分に行われなかったような気がしています。準備会の時も時間が足りなかったように感じました。もう少し突っ込んだ検討が必要ではないかと思います。
金額で使えないようなホールにしてほしくありません。

・市民ホールとは言え、町の一施設です。
市民ホールに人を集めるのではなく、街に人を集める事を第一義にして頂きたい。
【ホール】とするのですから、まずはホールが重要で展示場やカフェなどは重要度はほとんど必要ないと思っております。
むしろ周辺のカフェや画廊などが無数にあるのですから、そちらと結びつけれるようなイベントをすればよいと思います。
あまりにも立派すぎる展示スペースは市民ホールのみの完結で終わるでしょう。
また、稼働も大して見込めないどころか、そのような周辺の施設がわりを食いかねないと思います。
運営組織においては市で色々と活動されてる団体の中からジャンルや年齢が片寄らないようにした方々に参画いただくことを望みます。その際には小田原市や市議など、あま

り力のある人の参画は望みません(アドバイザー的な参画を望みます)(文化ビジョン～～は片寄りを感じます)
イベントなどは【小田原中心市街地】だけではなく、置き去りにされてる感がある小田急沿線や橘など【小田原】でやるイベントができればと思います。

・各委員に協力してもらって新ホールを使用したいと考えている団体にどのようなホールにしたいか？アンケートや意見を聞く機会を作る。
市民会館の利用者に意見を聞いて改善していく団体の設立。まず、ここからスタートして、徐々に地震の時のマニュアル制作やトイレの問題を解決していく。
ホールでどのようなことをしたのか記録を残していつでも利用出来るようにする。

・今回の「市民ホール基本計画市民検討委員会」は「大ホール・小ホール・展示場及び各関連施設（以下“文化施設”に総称）」建設に際し「基本計画（案）」策定を目的として発足した。然るにこれもできる様に！・あれもできる様に！の希望・要求項目は個々にはそれぞれ意味があり最もである。しかし、資金・敷地は無限ではない。“ではどうするか！”に踏み込む問題意識なく、止め処なく希望と要求に終始。次の「専門委員会」に各要求項目の絞込みを託す結果となった。
本来、計画の三施設にそれぞれ最小にして最大の機能を付加した場合、現在の予定地（現交渉中の土地を含め）に三施設は収まるか否かの検討も実態は見えず、基本計画を進めた際、予定地が原因（土地不足）で計画の縮小を余儀なくされる事等、先を想定した対応が見えず・・・後々問題にならなければ良いがと危惧する。
本来ならこれらを想定して「三施設の相関関係」を検討しておく必要を感じる。検討内容によっては何らかの施設は他の敷地又は、他建物の一時使用等、計画に柔軟性と幅のある内容を検討しておくべきと考える。（予算の関係で、将来に追加・増設等を考慮して）又、資金面も同様で、市議会でも「城下町ホール」の経験と現在の世相を鑑み、建設費は「城下町ホール」時の予定額以下にすべきとの意見が大勢を占めている。
然るに市民検討委員会の実態は、提案の検討整理なく全てが採用されるが如き状態となっている。資金面を危惧する意見は現状皆無に近い、
「敷地・資金には限りがある」と思考する意見は少ない。このまま市民検討委員会が終了した場合、此の市民検討委員会の目的は何だったのか、今だ自問自答の中にいる。
その意味で「基本構想」に記載の「基本理念」及び「基本方針　７項目」を再読。
結果、私見ではあるが実態からかけ離れた又は、提案の実施にはどのような問題があるか等、検討が不十分なまま記録が残されている「気になる提案」を記載させて頂く。
【気になる提案】
其の１
“託児サービス”・・・本件は既に事務局が調査済みの他施設の“託児サービス”の実態を市民検討委員会に公開すべきと考えます。幼児を預かる難しさ・事故発生時の責任の所在を認識した上で、「ではどうするか」の検討不十分・・・故に記す。幼児を預かるリスクを再考する必要ありと考える。年齢制限有無不明。もし、ゼロ歳児の預かりはないと思うが、あったら自信ある？
其の２
オープンカフェ・地産カフェレストラン・・・前述の「基本方針　７項目」と照合する

と、本来の目的から逸脱した過大提案ではと感じる。・・・打ち合わせの時、気軽にお茶でも飲みながらのカフェなら、現市民会館一階ロビーの一角にスタンド式カフェコーナーを作り“試行”し反響を確認するのも将来に役立つと思う。何にしてもこの案採用の場合は、文化施設に隣接するも、その管理は独立させた施設とするを提案する。又、出来れば近隣商店の計画参加を呼びかけ役割分担するを提案したい。
更に、小田原特産の云々・・・観光会館？・・・併設するほど敷地に余地はないと思うが。
其の３
“催しものがない時も賑わうホール”・・・案としてロビーをオープンにする等の提案があるが、防犯（テロ）対策は如何にするか提案者は考えたか疑問。・・・地下鉄サリン事件をお忘れか！現在の我が国は以前と異なり安全な国ではない。・・・本来はホールの賑わいが目標で、オープンロビーの賑わいは本末転倒。企画力の問題である。どうしてもの場合は視察した「富士見市民文化会館のレイアウトを参考にすべきと考える。大ホール・マルチホールが休止の時はそれぞれ閉鎖、中央部エントランスロビーのみ開放のシステムが参考になると考える。また、「２４時間利用できる施設！」提案者の提案意図を聞きたい？更に「子供達が何時来ても遊べる施設！」等“遊園地？・児童館？”何かヘンだ！
幼児（園児）・青少年等、それぞれに合った催しを計画するのが市民が目指す「文化施設の基本理念」と思うが「２４時間利用云々・・・」・「子供達が何時来ても・・・」と言い。どうも思考が逸脱している様に感じるのは私だけか。
其の他
平成２２年１１月８日建設準備会資料、可児市文化創造センター館長兼劇場総監督「衛紀生」氏の資料の再読と、市内各所に点在する市関係施設・県関係施設（事務局配布済み）を確認し、「使い方・仕分け」をすることも必要と感じる。全てを今回の施設内に取り込むことは無理、現実を直視すべきと考える。
また、運営管理（ソフト）は新「文化施設」が完成しないと出来ない問題ではないはず。「ああしてみたい」「こうしてみたい」を提案した諸氏！今からスタートし試行することを提案したい。
最後に、小田原市が建設を進めている「文化施設」は前述のように高い授業料（設計料）を支払い建設を中止。・・・結果、全国文化施設関係者及び、現市民会館ホールを使用した関係者の多くが「小田原は・小田原市民は」さて「どんな文化施設を作るか」大きな関心をもって注目している。完成後・・・「他市既存の文化施設と特に変わりなし」の評価となるか。
「なるほど設計料を支払い建設を中止しただけの事はある。さすが！」の評価となるか。我々は、此のことを再認識し内容を「ではどうする・ではどうする」を繰り返し検討すること関係者各位再確認すべきと考える。また、この施設完成の暁には、数十億円の借財を次世代市民に託す事実を忘れてはならないと、感じる今日この頃である。

・今回は自主参加だったが、委員の年代層が高かったと・・・。中・高生の意見、子育て層の親の参加の声も必要だったのではと感じる。

・専門委員諸氏は本当に御苦労だと思いますが、今迄の小田原の文化活動の有り様、小田

原のレベルを掴んでいないと思う。例えば、マロニエやけやきといった何の特徴も持たず、活用仕切れていない数多くの建物を改造して活用するといった。
市来委員の発言だったと思いますが、小劇場や発表会等、それぞれの地元に近い場所で実行可能な場を整えて、新しい小ホールは音楽（アコースティックの優れた）に特化する様な、創造といった概念を重視して戴きたい。
新しいホールを建てることは、文化的な創造活動、重要な文化活動であることを認識して、行動して戴きたいと思う。
特徴ある個性的な場の実現を望みます。

・皆さんいつも同じ意見の繰り返しで、何回もやる必要なかったでは？と。もう具体的に動いて行きましょう。ホールの中に余計なものは不要！！「いいホール」という箱を作ることに重点を！！

・まちづくりに重要な点のひとつとして、小田原市に何かを提案してくれる建築になってほしいです。

・ホールを常々使用する側と、鑑賞を主とする側とはホールに関する要望も異なる事は当然の事と思います。使用する側からの要望を主に述べさせていただきます。
【施設・設備関係】
・「大ホール」
公共ホールの建設は、演奏、演劇、集会等が主な使用を考慮しての設計としてほしい。
１．形状はオーソドックスなシューボックスが望ましい。
２．音響については１を満たしていれば、音響設計は良質なものがなされると考える。
３．客席数は１，２００席程度あれば、小田原近隣の使用でプロの公演、アマチュアの活動、集会等の要件を満たせると考える。
４．舞台は、可能な範囲で広いスペースが必要。（例えばオーケストラが１００名と合唱団が２００名収容出来る広さ）
５．舞台への装置等の搬入路はできるだけ短く、適度な広さ（幅）があること。
６．楽屋と舞台の距離もできるだけ短く、同一平面にあること。
７．楽屋には和室との併用ができる部屋が一つは必要。（舞踊、邦楽等の使用）
８．オケピットは、本格的なオペラ上演は、小田原近郷での可能性（経済的な採算性）を考慮してその必要性を感じないのが現状ではないでしょうか。
・「小ホール」
１．小ホールは大ホールの機能を縮小した施設とすべきものと考えます。
２．客席は固定椅子で、３００席が適度な規模でしょう。
３．多目的な使用のため、平土間での可動椅子は演奏、演劇には不適当です。
（床の振動、椅子のキシミ音等が現在の技術で完全にクリヤー出来るでしょうか？）
４．平土間での使用に対しては、市民検討委員会での案の第２小ホールは、リハーサル室や展示施設としての使用に最適と考えます。（規模は収容人員１００～１５０名程度の広さ）
５．平土間としての施設は、けやき、尊徳記念館、マロニエ等に存在しており、あえて小ホールを多目的使用の平土間形式にする必要性を感じない。

（現在、西湘地区には本格的な小ホールが存在していない。南足柄市の小ホールは可動椅子で歩くと床が振動し、下からせり上がった椅子は揺れてキシミます。それでも稼働率は７４％です。近隣地区に本格的な小ホールがないため、仕方なく使用しているのが現状です。小田原市に本格的な小ホールが完成すれば、近隣からの小コンサート、演劇、発表会、小集会等の利用が可能であり、稼働率はアップするはずです。

・「展示施設」

市民ホールに展示施設が共存することは、合理性からは否定しないが、ホール機能と展示機能とは全く別のものと考えます。限られて敷地で一つの建物の中に二つ施設を作る事は双方の機能が相殺されかねません。ホール内のロビー、「第２小ホール」や会議室等を利用すれば展示は可能でしょう。富士見市民文化会館の展示施設は、小規模ながら参考になりましょう。将来的には、本格的な美術館の建設を望みますが、緊急避難的にとりあえず、現在使用していない城内高校を県から借り受けての展示施設としての利用は如何でしようか。

・「その他の設備」

１．楽屋、控室、シャワー室、託児室、ミーティングルーム等機能が十分な施設を。

２．ロビーは、休憩時、終演後の社交の場です。来場者が寛げる施設としたい。

３．館内に軽食の取れるレストランが欲しい。特に出演者はリハーサルの合間に短時間で食事をとる事が多い。（町へ出ての食事の時間は取れないため）
採算性に問題はあるが、常時一般市民が立ち寄って食事ができる様にしたい。
終演後の打ち上げ等はそこで出来れば、街中に移動しないで済みます。（貸切の部屋があればベスト）

４．女子トイレは男子の３倍程度が必要。休憩時に次の開始に十分な時間の余裕が必要です。

５．駐車は出演者、来場者を含めて出来るだけのスペースが欲しいが、敷地の広さもあり、立体を含めて検討してほしい。

６．ティンパニー等オーケストラ所有の楽器保管庫を是非お願いしたい（有料で可）

・「運営組織や事業企画など」

公共ホールは、独自の採算で経済的に黒字を出すのは極めて困難な存在と考えます。貸ホールを主とするなどは論外です。しっかりとした運営組織を立ち上げ、人件費を極力抑えて、可能な限りボランティアの方々に協力を願う運営がのぞましい。ホール運営の最高責任者の選出は大きなカギとなりましょう。年間を通して市民の多様なニーズに沿った企画やホール独自の市民文化を育てる企画を盛り込むことが大切です。要は「稼働率」をアップし、常に文化的な活動としての拠点にしなければなりません。幸い小田原市の市民文化祭は２ケ月にわたって開催されています。他市でこれだけの期間開催しているところは稀でしょう。素地はあるはずです。運営組織がリーダーシップをとり、市民文化のさらなる向上発展の中心的な存在としての運営を目指したいと考えます。

小田原の新しい市民ホールが、施設機能、組織運営について、全国のモデルとなるよう努力してまいりましょう。

・新ホールの場所と商店街との関わりを考えたときに高円寺のように商店が２，０００も

あり、商店街も２０もあるような、人がかかわってできるモノがある地と違い、小田原は、駅前の中心が東通り、お城通り、ダイヤ街、錦通りと商店の集まり。新ホールへのお堀端は店が少ない。
はたして、新ホールと商店街との関わりができるのだろうかと思っている。桑谷さんとは、この部分でしっかりと小田原の場所を見ていただき可能性があるかどうか、話したいと思います。そして、商店街の活動をしている人達の関わりが新ホールを求めているかどうかです。
新ホールだけが活動していては、三の丸でイベントを行っているものを箱でつくったというのと同じになってしまう。東通りや、おしゃれ横丁までとの関わりと人の回遊性をつくっていかねばと思います。その仕組みをできるかどうかですね。

8.関連資料(かわら版)

(1)WS1　ワークショップかわら版(「オリエンテーション＋基本構想のふりかえり」)
(2)WS 号外　ワークショップかわら版(「市民会館のいいところ、なおしたいところを探そう！」)
(3)WS 号外　ワークショップかわら版(「キラリ☆ふじみを見学しよう！！」)
(4)WS2　ワークショップかわら版(「市民ホールに期待される事業・活動を考える！」)
(5)WS3・4　ワークショップかわら版(「市民ホールに求められる諸室や機能を考える①②」)
(6)WS5　ワークショップかわら版(「市民ホールに求められる諸室や機能を考える③」)
(7)WS6　ワークショップかわら版(「市民ホール　運営や組織を考える」)

9.関連資料(市民検討委員と専門委員による市民ホール基本計画意見交換会要旨)

WS 1

市民ホール基本計画市民検討委員会
ワークショップかわら版

《作成・発行》
小田原市
文化部文化政策課
＆ 空間創造研究所
平成 23 年 8 月 21 日

夏らしい晴れ渡った天気の 7 月 17 日、市役所の 7 階大会議室にて、「第 1 回市民ホール基本計画市民検討委員会」が開催されました。

今回は市民委員 41 名、(女性 16 名、男性 25 名)、市の事務局スタッフ 12 名、その他の事務局スタッフ 5 名、市民ホール基本計画策定専門委員会から桧森委員、市来委員の 2 名、合計 60 名もの参加者がありました。会社員や主婦の方からご高齢の方まで、活動ジャンルもさまざまな皆さんが、市民検討委員として集まってくださいました。この日は第 1 回ということで、5つのグループに分かれ、自己紹介の後に「基本構想のふりかえり」をテーマに基本構想や小田原市の文化についてなどについてグループワークを行いました。どのグループからも疑問、質問など、日頃の実感にもとづく積極的な質問・意見が数多く出されました。

「ワークショップって何でしょう?」

会議の一種ですが、

① 初めての人でも意見を出しやすい工夫をしてあること
② ちょっとした作業やゲームを通して楽しく語り合えること
③ 相手を言い負かすのではなく、いっしょにつくっていく「合意形成」に重点がおかれていること

などが、ふつうの会議とは違います。

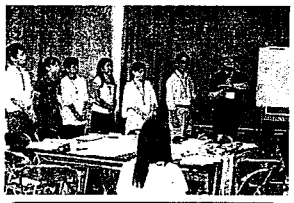
つまり、みなさん一人ひとりの思いを今後の検討に活かしていくための取り組みです。積極的に、お気軽にご参加ください。

第 1 回　「オリエンテーション+基本構想のふりかえり」

5 つのグループにわかれ、基本構想のいいと思うところ、足りないと思うところ、疑問点や今後の市民ホール基本計画などについて具体的に話をしました。ふせんに整理をした後、班ごとにワークシートをつくって意見を発表しました。

《ワークシートのふせんから一部をご紹介します》

1 班



児童館のように子供たちが自由に遊べる空間／オープンロビーで低料金で販売に利用できるスペース／ランニングコストがおさえられるもの／神奈川県で一番良いホールを創ってほしい／公演によって好きにデザインできるように
【ソフト系】《何をする?》ホールで“何をするのか”少し漠然としている／全国規模の公演に対応／展示スペース自主企画展覧会の開催（小田原ゆかりの作家）
《子ども　にぎわい》イベントがない時も気軽に子どもが集まれるよう／子供むけの企画を定期的に行う。
《国際交流》2 市 8 町の国際交流団体をまとめるきっかけ
【理念】「プロモーション」というコトは大切。市の文化事業の戦略が最重要／文化創造センター／駅からホールまでのアクセスを整備してほしい／
【ハード整備】《駐車場》駐車場は?／市民会館では駐車場足りない。《食》／オープンカフェ欲しい。／地産カフェレストラン、小田原の食を伝えられる機能。／《外観》“建築物としての市民ホール”デザインは重要。／管理、修繕しやすさ。こったつくりの設備は不要。管理者の手間を減らし、ソフト等に力を入れるべき。

★☆★Point★☆★
基本理念からまちの賑わいや小田原市ならではの文化について など、幅広い視点からの意見がでました。

2 班

【ソフト】平日でも寄ってみたい場所にする。／専門性のある学芸員、コーディネーターが必要／街のギャラリーとの連携が必要／市民が主体的となり参加活動していくのは良い／ホール・展示場・商店街とのタイアップ、活性化！
【基本理念】／理想的だが現状の小田原市民にはハードルがやや高い／〔7 つの基本方針〕②「たのしむ」はもう一歩高い「感動する」にしたい／・育てる　・つどい交流　に賛同する／ネーミングを文化創造センターにすることに賛成／
【ハード】／目的の変化に対応出来る施設を／情報発信としての機能ほしい（ハード・ソフト）／バックヤードを大事にしてホール規模は小さくてもよいと思う／託児室は平日親子のつどえる場になったらよい／展示の保管庫／小さい用地に大ホールは必要か／展示スペースも重要だが「高さ」を重視
【その他】観光客の立ち寄り所に！歴史・物産の紹介の場も／終演後のお客様の居場所空間を街にほしい／市内の文化活動を市広報で PR する／相模人形芝居の普及（市民に知ってもらう）／友の会システムは良い、出資できる／地下街を観光客のおみやげや情報発信の場に／展示場、常設会場にするアイディア

★☆★Point★☆★
基本理念・ソフト・ハード・その他とふせんを色わけし、それぞれについて具体的な案が多数でました。

3 班

【にぎわい】オープンカフェがほしい！／大ホール、にぎわい創出のみ?
【事業】学校との協力／ホールを黒字にするのは大変／「事業」ボランティア?お金を取る?／運営は直営なのか指定管理なのか。小田原は直営だった
【市民参加】市民の創造演劇とか、音楽祭などが生まれると楽しい！／市民が参加して何ができるのか／創造活動に施設を利用した市民ってどれくらいいるのだろう?／どんな創造活動に使いたいのだろう?／“プロ”って言葉って?
【文化って何?】小田原市は本当に歴史を大切にしてるの／文化って何?／小田原の何かがある／“地産地消”じゃなくても良い！／多様性がある方が良い（小ホール）
【ハード面】防災対策はどうするのだろう?／映像で公演記録“皆で何かつくりたい”／当時は良い設備が更新されない／閉じた貸出は必要?／映像関連のワークショップを／展示室と小ホールは共有できるのでは?／スクリーンの設置／リハーサルスタジオは欲しい！／小ホールを可動式にする理由…稽古場ほしい！！／ホールに café を作るより商店街へ流動を／練習場ないと居酒屋がもうからない／下北沢的イメージ／ホールを利用した前・後に使いたい（café）／昼間の利用に良い（カフェ）

★☆★Point★☆★
「文化って何?」「プロとは?」といった話や、市民参加、まちの賑わいについてなど掘り下げた議論が行われました。

4 班

【①金】これだけの物を作るのに予算は?ランニングコストは?／身銭（予算の確保）人件費、タダボランティアは反対／ボランティア、身銭文化であってはいけない。かといって、市民の税金をあてにしてはならない／文化への財源の確保／文化に対する費用を呼び起こす魅力ある文化活動を始める／財源確保
【②広報（伝える）】市民ホールの PR more／文化を人ごとにしない→どんなことか?／文化芸術への関心層を広げていく／市民会館で行っている演目がわからない／教育現場とのつながり広報／子ども達を大切にするイベントワークショップ
【③人】小田原市民だけでホールの運営はできるのか?専門のプロデューサーが必要だ。／小田原の一つの中心に人材活動を活性化／運営にかかわるのはボランティア?　プロを使うべき／文化に関わる団体の連携を／かくれた人材の発掘
《アクセス》商店街活性化　歩いていく
《カ・良質》八方美人は無個性である。／観る側、演じる側、展示する側、人の動きを考えた機能／アートには人を元気にする力がある
《防災》屋上を避難用に／「防災対策」抜け落ちている

★☆★Point★☆★
人材育成、アートの持つ力、団体同士の連携など、ホールを中心としたまちへの広がりについて等の議論が交わされました。

5 班

【soft 面】
小田原市内に約 200 団体がある、これらをステップ UP させる／誰が育てるの?今からスタートが必要／〈感動する〉日常→文化空間スイッチの切り替え　余韻を楽しんでから再び日常へ戻る／〈にぎわう〉・若手アーティストたちが集うコーナー　・子どもたちがいつも集うコーナー／情報発信 spot　・ミニ FM　・イベント告知スペース　・コミュニティエリア、カフェなどの設置／ランニングコスト、イニシャルコストを考えて建てること！！／首都圏に専門的ホールが造られている、小田原に専門ホールは必要か／
【ハード】ホールの天井が落ちないように！！／お金が戻るロッカー／ホールの動線、今の市民ホールは使いにくい／小ホール　小田原近隣には本格的な小ホールが存在しない！演奏、演劇を主とした小ホールを是非実現したい！／ちょくの段差でいいかもしれないと思うのですが、段差はなしで／高齢化での人口の減少に対しての対策は／楽屋とステージのスムーズな行き来／障害者トイレあればよいではなく、利用しやすい／車いすや足が悪い人などに配慮した設計を！

★☆★Point★☆★
ソフト面・ハード面でのポイントをわかりやすく簡潔に整理しました。また、防災機能についての意見も多数でました。

★☆★ひとことアンケートの一部をご紹介します★☆★
音楽や演劇をやってる方が多数いられるので、情報交換が出来れば、これからの発展になるのではないかと思いました。／有意義でした。今日の発言が多く反映されることを願います。／会議が終わる時間が守られるように。設定時間が短いです。／子どもたちが未来に希望を夢を持てるようなホールを！！／話を始めると 2 時間ではたりないのではないか。／お金の問題、継続の問題等。解決しなければならないことがまだまだたくさんあるなあと思いました。／最初の自己紹介が長いなー。今日は問題提起で今後これが具体的に話せればと思います。

☆☆☆Q&A☆☆☆

?市民ホール基本計画とは?

小田原市では新たな芸術文化創造拠点として、市民ホールの整備を進めています。その基本的な整備の方針を定めた基本構想を 23 年 3 月に策定しました。今年度からは基本構想を受け、基本計画をつくります。ここでは「運営（ソフト）と「施設（ハード）」の両面について、整備に向けて内容を深め具体化していきます。

?市民ホール基本計画市民検討委員会とは?

基本計画の策定には、市民の皆さまからの意見が欠かせません。「市民検討委員会」は様々な立場からの市民の皆さまの意見を集約する場と捉えています。その意見を、文化施設や文化活動などに関する専門家からなる「専門委員会」が、「基本計画（案）」としてとりまとめていきます。

市民の生の声を「専門委員会」に届けることが市民検討委員会の大きな役割です！

☆☆☆次回予告☆☆☆

◎先進事例視察：8 月 8 日（月）午後 13 時から 15 時半まで
富士見市民文化会館『キラリ☆ふじみ』

◎第 2 回：8 月 21 日（日曜日）午前 10 時から 12 時まで／小田原市役所 7 階大会議室
「市民ホールに期待される事業・活動を考える！」
ミニレクチャー：桑谷委員、三ツ山委員、伊藤委員

◎第 3 回：9 月 19 日（月曜日）午前 10 時から 12 時まで／小田原市役所 7 階大会議室
「あたらしい市民ホール・どんなホール機能が必要か?」
ミニレクチャー：勝又委員、市来委員

ご紹介しきれなかったご意見は裏面へ！！

ワークシートのふせん内容をご紹介します

1班

児童館のように子供たちが自由に遊べる空間／オープンロビーで低料金で販売に利用できるスペース／マロニエ社会福祉センター児童スペースあり／小ホール、多目的、平床式、展示できるように／小ホール、平土間にこだわらずホールにもできる可動的な物がほしい（南足柄の小ホール）／国際交流スペースとして 50 人以上が入れる場所／自由に使えるスペース（多目的）展示、発表、音楽など／空間（スペース）をもっと大きく考えたい。／ランニングコスト削減／再生可能エネルギーの有効活用／清掃しやすい、つねにピカピカ／シンプルな設備でランニングコストがおさえられるもの／太陽光パネルの採用／神奈川県で一番良いホールを創ってほしい／公演によって好きにデザインできるように

【ソフト系】何をする？／ホールで"何をするのか"少し漠然としている／情報、人、コト etc が集まる。発信する。INPUT＆OUTPUT／音楽、ステージ etc.全国公演のひとつで小田原でも公演を呼ぶ。／専門家（会館学芸員）を採用し、市民ギャラリーにする。／全国規模の公演に対応／展示スペース自主企画展覧会の開催（小田原ゆかりの作家）／コンテンポラリーダンスとかも／ソフト整備専門家の採用を必ず（予算化）

【子ども にぎわい】イベントがない時も気軽に子どもがあつまれるよう／逗子文化プラザホールのように、子供が気軽に自由に出入りできる空間に（常ににぎやかで良い）／子供むけの企画を定期的に行う。クラシック、音楽、劇など／平日のにぎわいが欲しい。土日仕事の人も楽しめる企画

【国際交流】2 市 8 町の国際交流団体をまとめるきっかけ／国際交流も文化だ

【理念】市長のビジョン（文化対策）／「プロモーション」というコトは大切。どうプロモードしていくか？いけるか？／市の文化事業の戦略が最重要／子供や青少年などでこれまで芸術に関わりのなかった人などに豊かさを伝えられたらイイネ！／「発信する」市からの情報がもっと必要、もっとわかりやすく？（基本構想の概要も）／文化創造センター／駅からホールまでのアクセスを整備してほしい／駅周辺の道が不便（分かりづらい、一方通行多い）／地下街も有効利用（人の流れを）／練習場機能あれば事業がないときでも人が集まる。

【駐車場】駐車場は？／市民会館では駐車場足りない。／駐車場一つにまとめると、公演前後に混雑してしまう。／駐車場の問題。基本的に不要。駅～ホールのルートに立ち寄ることができる。／Parking はないといけないのか？

【食】基本構想 17P、オープンロビーやレストランカフェってどのようなレストランカフェ？もっと具体的に示すべき。／オープンカフェ欲しい。／地産カフェレストラン、あじ、かまぼこ、レモン、みかん、うめ等。小田原の職を伝えられる機能。／10 代 20 代が興味を持ちやすいホール機能

【外観】"建築物としての市民ホール"デザインは重要。ソフトにおいてもデザイン重要。／外観がカッコイイ／デザインの力、プロモートの力／管理、修繕しやすさ。こったつくりの設備は不要。管理者の手間を減らし、ソフト等に力を入れるべき。

2班

【ソフト】平日でも寄ってみたい場所にする。／小中学生の美術作品展／専門性のある学芸員、コーディネーターが必要／街のギャラリーとの連携が必要／市民が主体的となり参加活動していくのは良い／市民参加のいつも何かやってるホールにしたい／運営はボランティア中心とすることを重要と考えます／ホール・展示場・商店街とのタイアップ、活性化！

【基本理念】理想的だが現状の小田原市民にはハードルがやや高い／市民がつどい交流する場面について人（かかわる人材・人間関係）／一組織をよく考えてほしい／〔7 つの基本方針〕②「たのしむ」はもう一歩高い「感動する」にしたい／・育てる ・つどい交流 に賛同する／市民ホールがホールにとどまらず、街へとあふれる意識を持つことに賛成／ネーミングを文化創造センターにすることに賛成／最終的ネーミングは別にして検討段階から内容（目的）の分かるネーミング「文化創造センター」に

【ハード】シンプルで使い勝手が良いものがいい／30 年 40 年に使用の主体となる若者の声を多いに取り入れるべし／各施設とも専用性を強めず他用途を（本来の機能を保ちつつ）／目的の変化に対応出来る施設を情報発信としての機能ほしい（ハード・ソフト）／バックヤードを大事にしてホール規模は小さくてもよいと思う／照明はコンピューターで動かせるように／音楽と演劇を両方使うなら反射板とバトンが互いに殺し合わないように／託児室は平日親子のつどえる場になったらよい／展示の保管庫／現予定地にホール（大・小）展示場がどのレベルで建設可能有無の具体的な検討はどこまで進められたか？／小さい用地に大ホールは必要か／400 ㎡以上の高さを十分考えた展示スペースをキープする／展示スペースも重要だが「高さ」を重視／小ホールで音楽・展示は両立しうるか中途半端（現在市民会館が良い例）

【その他】観光客の立ち寄り所に！歴史・物産の紹介の場も／終演後のお客様の居場所空間を街にほしい／地下街を観光客のおみやげや情報発信の場に／市内の文化活動を市広報で PR する／展示場、常設会場にするアイディア／本物で感動するものが欲しい（代用品でなく）／相模人形芝居の普及（市民に知ってもらう）／友の会システムは良い、出資できる／人材育成（屋台を組める人材）

3班

【にぎわい】オープンカフェがほしい！／大ホール、にぎわい創出の為？

【事業】学校との協力／発表をバックアップ／人材がいる／ホールを黒字にするのは大変／「事業」ボランティア？お金を取る？／アクティブに動ける人を！／もうけとボランティアのバランス／運営は直営なのか指定管理なのか。小田原は直営だった

【市民参加】年齢的に気軽に子供から老人がその場所に集えるか／市民の創造演劇とか、音楽祭などが生まれると楽しい！／市民が参加して何ができるのか／創造活動に施設を利用した市民ってどれくらいいるのだろう？／どんな創造活動に使いたいのだろう／基本方針の①③、今までに子供から大人まで一緒に作りあげるものが無かった。／"プロ"って言葉って？

【文化って何？】小田原市は本当に歴史を大切にしてるの／文化って何？／小田原の何かがある／"地産地消"じゃなくても良い！／多様性がある方が良い（小ホール）／"中継点"でないインフラ

【ハード面】防災対策はどうするのだろう？／映像で公演記録"皆で何かつくりたい"／当時は良い設備が更新されない／閉じた貸出は必要？／機能は分配させたくない／映像関連のワークショップを／展示室と小ホールは共有できるのでは？／スクリーンの設置／中ホールを川東地区に？／リハーサルスタジオは欲しい！／小ホールを可動式にする理由・・・稽古場ほしい！！ホールに café を作るより商店街へ流動を／練習場ないと居酒屋がもうからない／下北沢的イメージ／ホールを利用した前・後に使いたい（café）／昼間の利用に良い（カフェ）

4班

【①金】これだけの物を作るのに予算は？ランニングコストは？／身銭（予算の確保）人件費、タダボランティアは反対 文化活動には、お金がかかります／「身銭を切る！」 松本の例の様に／ボランティア、身銭文化であってはいけない。かといって、市民の税金をあてにしてはならない／おかね／文化への財源の確保／小田原の人は文化に身銭を切らない／文化に対する費用を呼び起こす魅力ある文化活動を始める／1000 円以上は！！／財源確保

【②広報（伝える）】市民ホールの PR more／広報／文化をひとごとにしない→どんなことか？／文化芸術への関心層を広げていく／市民会館で行っている演目がわからない／他府県から人が呼べるホールであれ／open であること

教育現場とのつながり広報／面白ければホールに行く（自分は子どもが key か）／子ども達を大切にするイベントワークショップ

【③人】「まちへとあふれる」どういうことかわからないが、いいことだと思う。／小田原市民だけでホールの運営はできるのか？専門のプロデューサーが必要だ。／人を育てる為の人がいない＿のでは、英才教育は成立しない！／ボランティアに頼りすぎないで。／小田原の一つの中心に人材活動を活性化／運営にかかわるのはボランティア？ プロを使うべき／文化に関わる団体の連携を／かくれた人材の発掘／プロとアマの融合／音楽関係者を活かす／若者に魅力ある町でありたい

《アクセス》商店街活性化 歩いていく／駐車場（車のアクセス）／駅からの仕掛け

《継続》良い物を継続していく姿勢／事業の継続性／アートは人を動かす力がある／低劣な TV 文化中心の発想はやめる／職の魅力を町に／「アート・イン・レジデンス」小田原周辺の良い環境を活かして 滞在してアートを産み出せるように

《力・良質》おしゃれしてホールに／八方美人は無個性である。／ホールの大きさだけではない別のよさがある

観る側、演じる側、展示する側、人の動きを考えた機能／アートには人を元気にする力がある

《防災》屋上を避難用に／「防災対策」抜け落ちている

5班

【soft 面】小田原市内に約 200 団体がある、これらをステップ UP させる／育てる-小田原で大きなイベントを組むことより、機会が増えていく 参加者が増える／誰が育てるの？今からスタートが必要／

〈感動する〉日常→文化空間スイッチの切り替え 余韻を楽しんでから再び日常へ戻る／〈感動する〉・Hall へいくまでのアクセス ・帰りみちの充実感／〈にぎわう〉・若手アーティストたちが集うコーナー ・子どもたちがいつも集うコーナー／小田原の人は自分の分野だけの意識が強すぎる。全体的に参加できるようにするには！／育てる-子ども教育子ども会との両輪化、甲府市が行っている／市民にかかわる演目だけでなく、チケットをもぎるとか、市民が参加する方法を、仕組みを／小田原市の PR ・入りロロビーに北条五代の展示コーナー設置 ・売店も充実／情報発信 spot ・ミニ FM ・イベント告知スペース ・コミュニティエリア、カフェなどの設置／ホールは観るだけではない。 ・カフェ ・ロビー ・インフォメーション／カフェ、レストラン、売店の充実／ランニングコスト、イニシャルコストを考えて建てること！！／外壁はアーティストの作品展示場にしたら、ガラス張り／首都圏に専門ホールが造られている、小田原に専門ホールは必要か／小田原城跡をみられる茶屋、おしゃれな！

【ハード】「吹奏楽コンサート」が出来ない。音楽の活動場所がない。合唱団など／ホールの天井が落ちないように！！／お金が戻るロッカー／トイレ汚いのは嫌／ホールの動線、今の市民ホールは使いにくい／小ホール 小田原近隣には本格的な小ホールが存在しない！演奏、演劇を主とした小ホールを是非実現したい！／吹奏楽コンクールの県西予選会が小田原市民会館でできるように！／ちょくの段差でいいかもしれないと思うのですが、段差はなしで／高齢化にての人口の減少に対しての対策は／楽屋とステージのスムーズな行き来／障害者トイレあればよいではなく、利用しやすい／車いすや足が悪い人などに配慮した設計を！／舞台監督の人（プロ）の意見をききたい、音楽演劇両立のため／津波対策

2 時間を超える初回の市民検討委員会では様々な立場の皆さんから、こんなに多くの意見が出されました。
今回の検討委員会をふまえ、次回以降はより具体的なところへと話がすすんでいきます。
皆さんで検討委員会を盛り上げていきましょう！

WS 号外

市民ホール基本計画市民検討委員会
ワークショップかわら版

《作成・発行》
小田原市
文化部文化政策課
＆ 空間創造研究所
平成 23 年 8 月 21 日

気温も低く、過ごしやすい一日となった 7 月 31 日、市民会館では、「市民会館を検証するワークショップ」が行われました。

小田原市市民ホール基本計画市民検討委員会の皆さんを中心に、26 名、（女性 10 名、男性 16 名）、市民会館のスタッフ 4 名、市の事務局スタッフ 10 名、その他の事務局スタッフ 3 名、市民ホール基本計画専門委員会から市来委員、合計 44 名が参加しました。

参加者は 2 グループに分かれ、新しい市民ホールに取り入れたいところ、直したいところなどをメモしながら市民会館の中を詳しく見てまわりました。普段、入れないような市民会館の裏側もみられ、新たな発見も多々あったのではないでしょうか？

小田原市民会館とは？？

【施設概要】

開館日：昭和 37 年 7 月 28 日／延床面積 8,714 ㎡／大ホール 1,095 席・小ホール 300 席／展示室／食堂／楽屋／会議室など

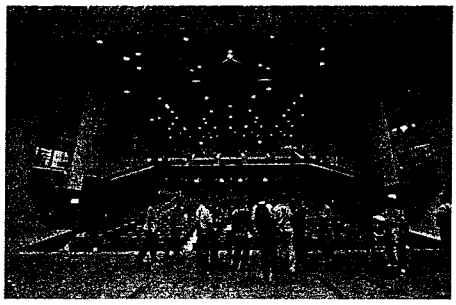
小田原市民会館は今から 49 年前に開館しました。小田原市の皆さんと共に長い間活躍してきた市民会館ですが、老朽化は避けられず、現在、市では新たな芸術文化拠点として、新しいホールの建設準備を進めています。

市民会館のいいところ、なおしたいところを探そう！

2 つのグループにわかれ、市民会館バックステージツアーをスタート。参加者の皆さんには赤・青・黄色のふせんをお渡しし、市民会館を回りながら「良くない部分は “赤”」、「良い部分は “青”」、「その他、注意、疑問点などは “黄”」に記入していただきました。

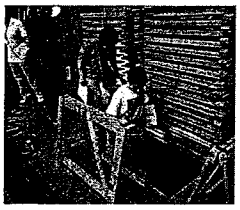
①まずはロビーからスタートです。チケット売場や自動販売機などがあります。
入口の壁面は老朽化により壁画の色が落ちてしまっており、なんとかしたいとの声が多数あがりました。
また、入って右手側の身体障がい者用のトイレについても改善点が多く出されました。

②続いて大ホールへ。客席から舞台を見たり、舞台に上がって客席の見え方を確認しました。
舞台の綱元や回り盆の下も確認！公演をみているだけではわからない、舞台の仕組みを色々と見せていただきました。また、舞台の反響板が上がっている状態とセッティングされている状態も比較しました。

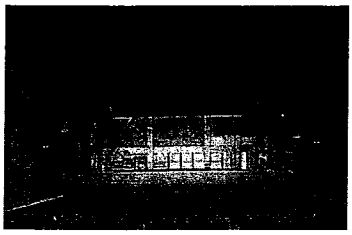


▲フットライト

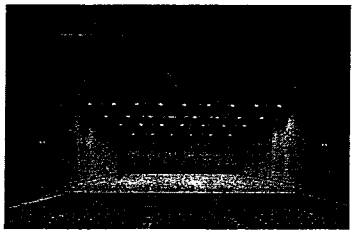
▲舞台綱元



▲回り盆の下へ



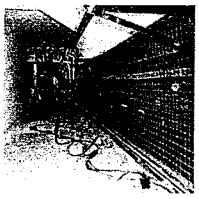
▲音響反射板無し



▲音響反射板有り

③続いて、楽屋、調光室、投影室、映写室、音響調整室、シーリングスポット室、搬入口、地階機械室、展示室、小ホールと見て回りました。
大・小ホールの音響、展示室の照明、ホールへの搬入のしづらさ、お手洗いについてなど、自らの市民会館ご利用経験に基づいたご意見が多く出されました。

◀小ホール



▲シーリングスポット室

▲大ホール控え室

▲音響調整室

▲展示室

▲搬入口

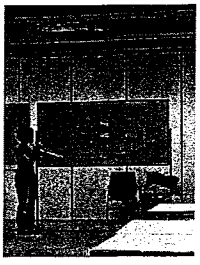
少々駆け足ではありましたが、約 2 時間かけて、市民会館のほとんどを見て回りました。
今回見て回った場所は、バックステージツアーなどでないとゆっくり見る機会がなく、普段使っている市民会館でもそれぞれに新しい発見があったのではないでしょうか？
また、市民会館の見学だけではなく、昨年度の耐震補強工事の概要の説明なども交え、非常に盛りだくさんのバックステージツアーとなりました。

⑤バックステージツアー後、ツアー中に皆さんに記入していただいたふせんを利用してのワーキングを行いました。ツアー班の 1 班、2 班に分かれ、各階図面の該当箇所に気付いたことや考えを張り、グループごとに話し合いを行いました。
1 班からは「ソフト」と「ハード」にわけ、ソフト面では市民ボランティアの導入の提案、ハード面では色が落ちてしまった壁画の修復などの案が提示されました。
2 班では客席数についての議論など、将来の市民ホールを見据えての議論がされていました。
また、この市民会館検証ワークショップの発案者である市来委員からは、今日検証したことで終りにするのでなく、今後 5 年間は利用していくこの市民会館を、どうしたら皆が使い心地よくできるのか、今日の経験を活かして皆で考えていこうというお話がありました。

ワークシートの詳細内容は裏面へ！！

▲ワーキングの様子

▲1 班発表



▲2 班発表

☆★☆ワークシートのふせん内容をご紹介します☆★☆

良くない部分は“赤”
良い部分は“青”
その他、注意、疑問点などは“黄”

		1班	2班
1階（ロビー）	赤	ロビー（ホワイエ）は大きくスペースを。ホワイエはその催しのための展示等ができるように、ピクチャーレールをつける／当日のチケット販売所窓口が時代にはともなわない。昔は左手に売店があり、パン・サンドイッチなど売られていた／ロビーに物をはるななど、きびしいルールがある。ドア（入り口）にセロテープでポスターなどをはる事が出来なかった	本館ロビー、クマのハクセイを撤去！アート（主体）作品を設置してほしい。回りを明るく塗りかえる。／エントランス周り、雰囲気を明るくしたい。
	青	クマは資料館へ移す／「ロビー」時代を考えるとコメント出来ません！ロビーは広く、社交サロン的な目的を持つべき。	チケット売場！！こんなもんあったんか！！びっくり！！
2階（展示室・食堂・特別室）	赤	展示室の穴アキボードはやめてほしい。高さは3m以上（できたら4mか）大きさは350平米は必要ですね	折角だからスポット様のレールをつけて、照明をあてられるように／展示室、展示壁があまりにプアー。絵画の背景としては？／展示ホール（2F）穴あきボードにフックが入らないところあり。／各展示作品が死んでいる。
	青	2Fロビー右入り口、昔の焼きレンガ風。何かに残したいものですね。何でも新た／コップがすてき	
	黄	1階の空間に展示野外空間を作ったらどうか	
3階（小ホール）	赤	小ホール楽屋がない。ホールとしての広さ、客席、すべてNG。／小ホールは現状では音響的に使用不能です。／3F 小ホール、ステージが高すぎる、小さい（ステージ）もっと多目的に使えるように真四角がよいのでは。”	小ホール、音楽ではほとんど使えないと思う。展示もなかなか大変だと思います。／小ホール、壁棒に針をうちつけて絵をかざっている／小ホール、イスの出し入れがたいへん！／グレーの壁を塗りかえて明るくして／舞台が高すぎてパイプイスもよろしくない／小ホール、設計のコンセプトが分からない／客席から見える木のぬくもりは良いが、イスの出し入れ大変。
	青	”映画に関する設備があるのは良い。市のどこかにのこしてほしい。／「小ホール」小編成の四重奏などに良い広さだが、吸音されすぎて良い音は楽しめない。すこし手直しすれば使えます。／小ホールは展示として使うときに奥に会議室がついていることはうれしいことです。展示には会議室は必要です。	
	黄	イス、痛い、うん。／想像するのは難しい。／展示室は台とかを含めて大きなものが搬入されるのに、車が直接入れるようにできることが望ましい！	大阪の芸創みたいに客席使ってみては？
4階（市民活動サポートセンターなど）	青		無料で使えて助かっています
	黄	サポートセンターのような活動の場をどのようにするのですか！	
5階・6階（会議室）	黄	小田原城のみえる空間づくりをどのようにとりいれるのですかね／会議（必要に応じて）ピクチャーレールをつけたら！	
大ホール楽屋・控え室など	赤	当初の設計理念は劇場であり、良質の音響を目指したとは思えない。音というと音楽と思うことが良くない。オペラが上演できるホールが理想だが／地下楽屋に行くところに雨もりで水たまりができる／階段が高い。足の悪い人のために手を摺れるように／出待ちの控え室の階段があぶない／昔のオーケストラピットのように、実際使用できないなら無駄なものは決して作らないで欲しい（客席の前列）／大ホールの舞台の床の張り替え。反響板の再考を求めたい リフトが小さい／舞台を歩くと足音がある。／舞台袖がせまい。幕をおとした状態は、本日見学した広さよりはるかにせまく、移動しずらい／大ホール入り口のロビーは色彩上最悪に近い。良い所に来たなと思えない。／盆舞台の段差がすごい。新しいホールには盆はいらない！ 回り舞台は舞台に段差がつき危険／11t車トラックから道具を降ろすのに1時間、2時間かかる。（道具をおろすのみ）エレベーターで搬入／搬入は大切。中途半端は×。 階段が急でGD中の移動などあぶない。客席は千鳥配置がベスト／自動販売機はホワイエの中に。催しのための売り場を／音響室は全体が見渡せる場所に！／調光室、音響室は舞台を正面にみる位置に。できれば窓が開くといい。／暗い、入ってきて楽しくない／後5年は使用するので、ロビーの絵はどういかす？（高校のデザイン科にたのむ）／トイレのスペアのトイレットペーパーを針金につるのは？40年前から変わってません。／2F客席からのながめはかなり遠い。もっと舞台、近くに感じられるものにしたい。客席数も2Fはもう少し少なくて良いと思う。／脇の階段の設計は広さの為か急傾斜で危険／トイレはキレイがいい。だって気持ちいいもん。／2階の楽屋にモニターテレビがない、舞台から遠い。／スポットの台数が少ない（シーリングも）／大ホール、全体の階段が急すぎる／スタッフの働く場所。／映写室はいらないと思います。かわりにピンルームを大きくひとへやに。	トイレ、扉開けても便器が見えないこと／控え室、楽屋はトイレ、風呂等（シャワー）設けるべきだ／床、壁、照明を明るく。便器、出来れば新しくして下さい。／保管、楽器／道具を置く場所／上下舞台袖が狭い／舞台、床板を止める釘が浮いていて引っ掛かる気がする／搬入は道路から直接舞台迄入るようにつくるべき。又搬入路も大型トラックが入れるような中に確保／大ホール入口左側の空いている空間は、きれいなけいたい用のかべでかこってみたら、みんな使うのでは？／大ホールの入り口は、顔。かべ、柱を安くリニューアルすべき。それだけでもイメージがずいぶん変わるはず。／ホワイエ 身障者トイレのサインが見にくい／主催者事務室の絵、大きい壁面に移設（後で空調をつけたので絵が隠れてしまっている）／・ドアから音がもれる、・段差につまずく、・時計いらない／大ホールロビー入口壁面アート無惨、作り直してほしい。／ホワイエの壁、アートだと思っていなかった。普通に塗りかえて絵を飾ってもいい／身障者トイレ アコーディオンの取手がない。／チケット売場が使用されていない。不要か？／身障者トイレの看板、扉の取手必要／大ホール 1階の主催者事務室、左側の空いている空間を、荷物あずかり、コート、かさ、（託児室）置き場として使う。／・自動空調ができない。・席がせまい／介護用のトイレがない（使用しづらい）使い勝手が悪い／楽屋、せまい、・階段、段差をなくしてほしい、・時計の位置を直す。／大ホール 禁煙・時計、目立たない方が良い／”エコノミー症候群・消音、温度調整、客席の快適さ”／広すぎるんですよ、きっと。ねー。／空間造り・照明・雑音・空調／舞台の時計はとりはずしできるようにする。／大ホールドアが1枚で防音ができない／ピアノ！！もったいなーい！！ピアノがかわいそう／まわり舞台があるのに使われない、使えない！こんなに良い舞台だったのに、粗末な扱い！！もったいない！！←だって意識が足りないんだもん／身障者用のお手洗いの看板を車いすから見えるところに移動すべき。低く、わかりやすく。／2Fロビー壁面アート無惨、アートで作り直してほしい。／2F女子トイレ、修繕必要／喫煙室のソファーのこわれた汚い物は捨てて、広くした方がよい。／温度調整が出来ない、トイレ汚いドアがない、階段が歩きづらい／手すりが低い、2F席、トイレ／”注：Gは現状で 5～6 年使用する上で安全上改善様子項目。G－1※1大ホール2F、男子トイレ入り口足下段差大、健常者でも危険、要検討。※2大ホール入り口（客席への）足下同じバリアフリー化再検討要、但し、これは音を遮断するため難しい場合は足下注意の「注意札」等でも検討要。／ほとんど客席から花道七三が見えない 2シーリングがない、舞台奥を使うという事を考えていたなかった為
	青	客席から舞台は見やすい。／大ホール舞台上の音響特性はデットであり、アコースティックな音は望めない。オケの全面の楽器は良く鳴るが、後ろの楽器の音とのバランスがとれないだろう。／舞台の広さに驚きました。特に奥行があり、ミュージカルなんかセットしやすいかも／生音から音をつくっていくことが大切なことがわかりました。それにマイク等の音響ということですね。／トイレのエチケットBOXが新しくなっていた。	ボイラー室はおじさん達が支えてくれてる！！ありがとうございます。／機械室初めてみました。古の機械を大切に使っているのがわかりました。／全体的に技術の方の努力で整理されていましたが、塗装をして清潔感を出して下さい。／見やすい、プロセの高さは演劇には適す。／可動式の花道を固定式、フットライト、継ぎ目、木の材質など、箱根細工／オーケストラボックスの利用、身障の方の出入り口など／ある程の用途によっては、使い勝手がよい。舞踊、一幕物歌舞伎は不要／シネマスクリーン／”1962 ホールは49年前／耐震強化、入場券販売”／G－2 新ホール建設時に配慮すべき項目 ※1 チケット売り場の「位置」はホールへ来る人の動線を考えた「位置」に配置する※2身障用トイレ 現状全体面積あるも介護者の動きを考えたレイアウトになってない、介護者の意見を聞くこと要 ※3 ホール内「非常灯」は開演は消灯、非常時のみ点灯に変更すべし、新しい劇場実施ずみあり”／車イススペース（客席内の）は、高さ、広さ、含めすばらしいです。／2Fのハイバック、1Fには使えないのか、楽なのに／職人技も大切にしたいですねー。何でも電動ってのもねー。／”G－2 ※4 トイレ（各階共）人の流れ（動線）を考えた入口出口を考えた設計をすべし（短時間・多人数の利用を考えるべし）※5 客席の横・縦の巾（寸法）は現「トーホウシネマ」レベルにあわすこと検討要。日本人の体格大になってきていること知るべし。”
	黄	ホワイエのカベの絵も市民ボランティアでぬるとか。トイレだけども、学校でもおやじの会がなおしてます。材料費だけでも行政がだせる？市民会館だから。／大ホール座席、せまい、かたい。車イス用、なぜ、はじに？／大ホールのロビー空間の広さは万一の時十分な広さだろうか 音楽と演劇双方が満足できるホールは実現可能か／楽屋のモニターは今はないが、ラインは通している。との事／ローディングスペース、舞台と同平面に／搬入口に 11tトラックを横にしてウイングを開けてつけられるプラットフォームを／PA や撮影用の台とか、位置の設置／1階のロビー（ホワイエ）は小田原という市がみえるもの。”市のデザイン”でしょうか？／2F、3F 等の壁面にアートを描く、うれしいですね。／次世代のホールは楽屋・控え室にも配慮が必要 文化サポーターのような方々の場所を	地下室、回転床、動力室せまい。／女性用トイレ、ドアを閉めると暗い。数も少ない、改修の必要性大きい／楽器を置く場所／ボーダーサスが一本のバトンになっている。間が一間なのは、あきらかに日本の定式物の為／回り舞台初めて見せてもらった。動かないのがもったいない気がした／つりロープ、地上階／専用トイレがわかりずらい／ロビーとしての広さが足りない。／席数、多目的のための／客席の階段の高さを低く／出入口のドアの巾をもう少し広く／キャパが小さいほうが良い！！／スタッフの働く場所／楽屋にモニターがないと不便！！／このスペースにトイレは増やせないかG－3 現状も将来（新ホール時）にも配慮すべき項目 ※1 標示（表示）は目線を考えて見やすい位置を検討すべし。例：身障者用トイレ看板等／空調を2Fに合わせると1Fが寒い、不便ですね。
その他	赤	音楽の練習室を早めにつくってほしい。若者の支援のために／実際に使用する人が来ていないことはレッドカードです。／ステキな（茶房というか）おちつくところがほしい！／使用時間、退館時間について、口うるさい。市民として使用と劇団としての使用の温度差がある。優遇されている時は、退館時についてあまり言ってこなかった。／すごい別世界に来たと思えるようなホールの建設を望む。	☆★☆ひとことアンケートから一部をご紹介します☆★☆ どうも同じ事のくりかえしになりがちです。議論が「積み重ねられ」て進化できる、会議のすすめかたが必要です。このような会議の内容を、もっと分かりやすくHPなどで発表したら良いかと思います。／新しいホールの準備は出来るだけオープンに。ハードに関しては、出来るだけコストを下げて、予算をソフトに回せるように。／今の市民会館で何をやっているのかわからないので行けない。情報紙を作って市のこうほうと一緒にくばる。ホワイエの絵は調査したほうがいい。／すぐではなくても、今日検証したことが、実現できますように！！／今日集まったメンバーにも声をかけ市民会館サポーターのようなボランティアグループをつくれたらと思いました。ありがとうと感謝を！！
	青	”50年の歴史が語ってますネ！TOILET、控室を拝見しての結論です。著名な人の公演はとても無理ですネ！「ホール全体の印象」ホールの現状を市民に広く知ってもらい、有形無形の協力をお願いするべき。／・1962 年が募金あつめよう ・1965 それで改善 149 年たっている。残りの 5 年間でおつかれさまでしたといいたい。ゾウの梅子さんのように。市民はお別れと感謝を！！すてきなおもい出をありがとう！”	
	黄	金のかからない「クリーニング」「つくろい」（ぼろいけどみがかれたガラス）、市民ボランティアで。／ここの建物をみると修理や変更がしにくい、基本をシンプルにして、時代による変化に対応しやすくした方が良い／全体として素材の統一感がほしい（石、木、ガラス・・・）／「新ホール」に思う。音楽ホールでなくとも、音響特性が良いホールでありたい。／小田原城とのからみ（関わり）をどのようにするか！／”・バリアフリーをどのように考えていくか。・足の悪い人のトイレ・路”／H28、新ホール完成までに、現存の市民会館をどのように使うのか？方向性（ex.①なるべくお金をかけずまったく手をつけない。②ある程度予算をつけてなおす）がわからないと市民も意見がいえない。	☆★☆次回の市民検討委員会は☆★☆ ◎第2回：8月21日（日曜日）午前10時から12時まで 小田原市役所7階大会議室 「市民ホールに期待される事業・活動を考える！」

市民ホール基本計画市民検討委員会

WS 号外

ワークショップかわら版

《作成・発行》
小田原市
文化部文化政策課
＆ 空間創造研究所

平成 23 年 8 月 26 日

歩いているだけで汗がにじんでくる真夏日の8月8日、埼玉県にある『富士見市民文化会館キラリ☆ふじみ』のホール視察を行いました。平日だったにも関わらず、市民検討委員会からは 15 人もの方が参加し、市の職員 10 名、その他事務局スタッフ2名、市民ホール基本計画策定専門委員会から勝又委員の合計 28 名が見学を行いました。キラリ☆ふじみ事業担当リーダーの方、施設設計から劇場技術に関わられ、開館年に運営アドバイザーを務めた近江哲朗さんに施設の説明をしていただき、設計時から現在の様子まで、施設のみならず事業や運営面まで細かくお伺いすることができました。

市民検討委員会の皆さんもホールを詳しく見て歩き、これからの市民ホール基本計画市民検討委員会で役立つ発見がたくさんあったのではないでしょうか？

富士見市民文化会館　キラリ☆ふじみとは？？

開館日：平成 14 年 11 月 1 日／延床面積 7,358 ㎡／メインホール 802 席（楽屋 5 室）・マルチホール 255 席（楽屋 4 室）／展示室／アトリエ／会議室／水の広場など

【キラリ☆ふじみと市民参加】

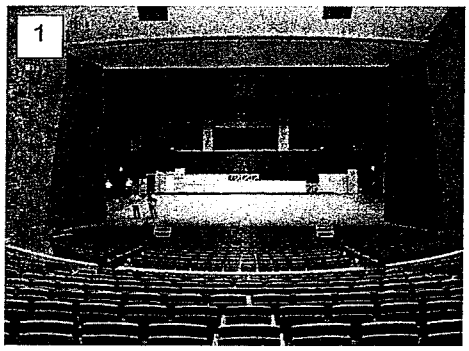
平成 9 年に建設検討委員会が発足。平成 12 年の運営検討委員会には公募により市民約 30 名が参加しました。他、開館記念事業実行委員会への市民の参加（公募）や施設愛称募集、キラリ☆ふじみサポーターを募集するなど、市民参画の手法を多く取り入れています。

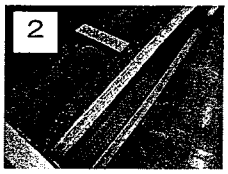
キラリ☆ふじみを見学しよう！！

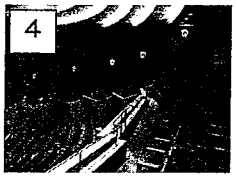
まず、メインホールに集まり施設の概要や見学のポイントなどをお伺いし、その後、実際にホールを見て回りました。

☆★☆メインホール☆★☆

舞台や 2 階客席などからの見え方を確認しました。メインホールの冷暖房用吹き出し口は客席背面で背もたれと一体化されており、効率的に空調を整えることができるようになっています。客席は放射線状になっており、どの客席からも舞台が観やすい工夫がしてあります。希望者は舞台すのこの上にも昇り、バトンなどがどのように吊られているのかも確認しました。







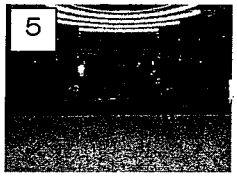
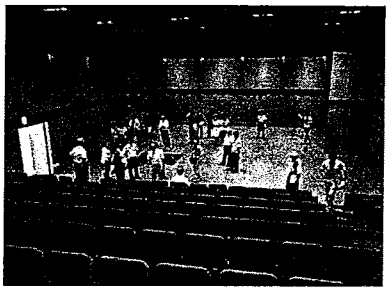


写真 1：客席中央後方から舞台を見た様子。／写真 2：客席いす後ろの空調吹き出し口。
写真 3：舞台上手袖。平台や箱馬などの舞台設営に必要な道具が置いてあります。
写真 4：客席 2 階席／写真 5：舞台から客席を見た様子。／写真 6：舞台すのこの上。

☆★☆マルチホール☆★☆

小ホールは平土間形式になっており、客席は電動式で後方の格納庫から出てきます。舞台の一部は手動で 20cm刻みで高さを調節することができます。その機能を使って客席を広げたり、客席と舞台に高さの違いを出すなど、利用者の工夫により多様な空間構成が可能となっています。

また、小ホール入口側の側壁は全面開放できるようになっており、小ホールとロビー、水の広場と屋外へ連続する一体の空間として利用が可能です。



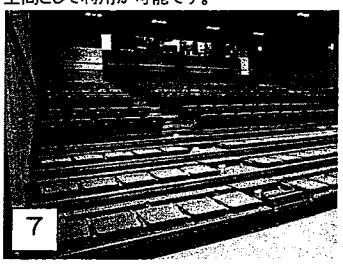
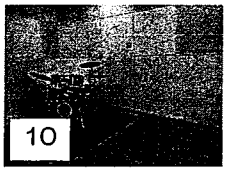
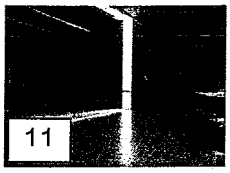
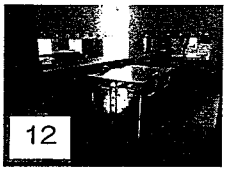


写真 7：可動収納客席稼働中の様子。客席段差が出た後にいすがセットされます。
写真 8：舞台側高さ可変中の様子。段差の間のすきま部分は専用の板で隠すことができます。

☆★☆その他の施設☆★☆







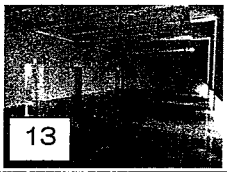


写真 9：水の広場
写真 10、11：スタジオ
写真 12：楽屋
写真 13：展示室

☆★☆Q&A☆★☆　～皆さんからの質問とお答えをご紹介します～

Q：自主事業と貸し館事業の割合はどのくらいですか？

A：比率にすると自主事業 4 割・貸し館事業 6 割程度になると思う。主催事業が年間で大小あわせて 50 本程度あり、自主事業と貸し館利用の割合をどうするかも難しい問題である。市民利用のことも考えながら自主事業のプログラムを組んでいっている。

Q：芸術監督と館長はどうやって決めましたか？また、館の職員に市の職員はいますか？

A：芸術監督は公募で集まった 26 人の中から決定した。館長は以前は市の職員だったが、平成 22 年度からは、民間から公立ホールの運営や舞台芸術に関する経験が豊富な人物を登用している。

Q：芸術監督はどのようなことを行っているのですか？

A：館長と協力しながら年間のプログラムを作っている。ただ単純に決めるのではなく、周辺の地域性なども考慮の上、キラリ☆ふじみならではのプログラムを考えている。

Q：キラリ☆ふじみにはカフェやレストランがありませんが、あったほうがいいと思いますか？

A：あったほうが良いと思うが、カフェやレストランが赤字になっているホールもあると聞く。現状を考えるとそこまで手がまわらないかと思う。ただし、自主事業の際には近隣の和菓子屋さんやコンビニが臨時で出店している。

Q：これから、市民ホールをつくる上で、気をつけることはありますか？

A：「誰がどういうことをしたいのか」をしっかりと考えること。キラリ☆ふじみの場合は貸館も大事だが、自主事業を行っていくことも大事であり、そのためのハードが求められた。また、ハードだけではなく、意欲をもって働くスタッフを揃えることも重要である。ハードにおいては、自分たちが今欲しいものを求めるだけでは、視野が狭くなってしまい上手くいかないと思う。自分達が利用することだけを考えるのではなく先を見越し、次世代そしてまた次の世代まで喜んで利用できる施設をつくることが大切。

☆★☆ひとことアンケートから一部をご紹介します☆★☆

今日はとても有意義な一日でした。家を建てる時、何度もモデルハウスに足を運びましたが、実際住んでいる人に話しを聞くのが一番だと思いました。実際使ってみてこその参考と思います。／水の広場が魅力のホールだった。小田原でホールを作るなら、劇の休憩や終った時、窓から桜が見えたりしたら最高だと思った。／色々な工夫がされ、色々な使い方ができるようになっているが、使いこなせるようなグループ又はアドバイザーが必要だと感じた。／スタジオの設置がよいと思った。大きな収益の行事でなくとも常にキラリには人が来ていると感じる。／レストランは、なくても良いと思う。／設備等だけでなく、使っている様子や舞台うらなど見学できると良いと思いました。また他市のボランティアや市民団体などと交流できると良いのでは。

市民ホール基本計画市民検討委員会

WS 2 ワークショップかわら版

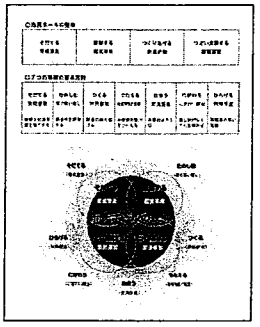
《作成・発行》
小田原市
文化部文化政策課
＆ 空間創造研究所

平成 23 年 8 月 26 日

8 月 21 日、市役所の 7 階大会議室にて、「第 2 回市民ホール基本計画市民検討委員会」が開催されました。

あいにくの雨模様にもかかわらず、市民委員 39 名、（女性 14 名、男性 25 名）、市の事務局スタッフ 10 名、その他の事務局スタッフ 5 名、市民ホール基本計画策定専門委員会から伊藤委員、桑谷委員、三ツ山委員の 3 名、合計 57 名の参加がありました。

第 2 回の市民検討委員会では各専門委員のミニレクチャーの後に 4 つのグループに分かれ、「市民ホールがどのような事業を行っていくことが望まれるのか」についてグループワークを行いました。



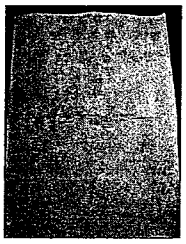
7 つの事業方針とは？

23 年 3 月に策定された「市民ホール基本構想」ではホールの基本理念～使命（ミッション）～として「そだてる」「感動する」「つくりあげる」「つどい交流する」が掲げられました。その基本理念を確実に実現するための事業の基本方針として「そだてる（育成普及）」「たのしむ（質の高い催し）」「つくる（市民参加）」「つたえる（地域特性の発信）」「出会う（交流促進）」「にぎわう（にぎわい創出）」「ひろげる（利用促進）」の 7 つがあげられています。

第２回　「市民ホールに期待される事業・活動を考える！」

基本構想に示された 7 つの基本方針「そだてる」「たのしむ」「つくる」「つたえる」「出会う」「にぎわう」「ひろげる」に基づき、市民ホールが具体的にどのような事業を行っていくことが望まれるのかについて話し合いました。

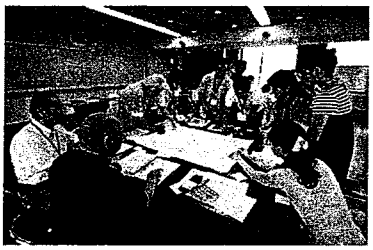
1 班

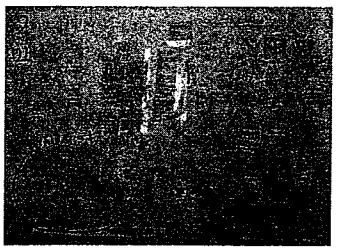


★☆★Point★☆★

7つの事業方針に時間軸を付け加え、ホール開館までの 5 年間でできる事業を中心に、開館 50 年後に渡る事業計画を考えました。ホールについては「スケールが小さくてもオペラのできる音響のよいホール」など、良い音響を求める声があがりました。また、次に繋がっていくという点から、事業を資料化して保存するライブラリー機能の充実が求められました。課題として開館後 10 年、50 年後までどういった事業を行っていけばよいのかという点が上げられました。

2 班

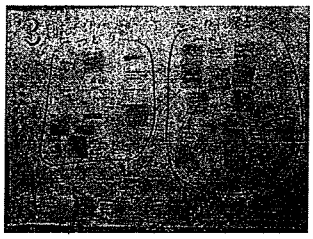




★☆★Point★☆★

「オープニング事業」「継続していく事業」「これからの事業」の 3 つに区分し、どのように事業を展開していくか話しました。「24 時間利用できる施設」など、子どもと若者が集える場所というキーワードが多くあげられました。またシルバー人材センターや商店街、他団体との連携など、「マンパワー」を活用し、ホールや地域を活性化していくといった意見が上げられました。そういった「動きのある運営」はどうしていったら可能なのか、といった課題も上げられました。

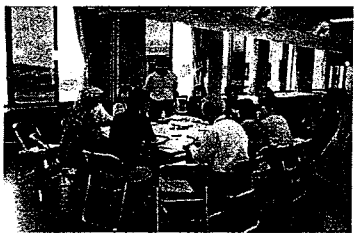
3 班

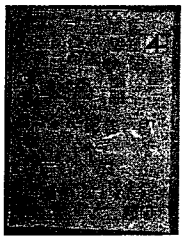


★☆★Point★☆★

「つどう」「そだてる」「つくる」についての意見が多く上げられました。「地産地消カフェ」や「えっさホイの練習ができる場所」といった小田原ならではの文化を活かす意見が多く上げられました。子どもの育成や、若者が参加できる市民活動のサポートの必要性などについても多く意見が上げられました。専門委員からは「子どもから大人まで」といった運営は中々難しく、特化したものをつくるということも一つの作戦だというお話がありました。

4 班





★☆★Point★☆★

古稀亭や清閑亭などの小田原ならではの名建築と市民ホールのコラボレーション、一般的に文化と認知されづらいジャンル（花火やメディア、えっさホイなど）を扱うなど、ホールだけに留まらないまちを巻き込んだ事業展開についても多数の意見がでました。課題として、これらの事業を行うための予算の確保や、ホールが地域に対して何が出来るか、といったことが上げられました。

★☆★ひとことアンケートの一部をご紹介します★☆★

「十人十色」でグループ 12 人いれば 12 の意見が出るのでこうしたワーキングは意義が深い。市民 Hall の基本構想については、最初モヤモヤしたつかみどころのないイメージしか持てなかったが、すこしずつ形が見えてきた。／にぎやかではあったんですが、ソフト以外の面についての話などに多くの時間がさかれてしまい、時間が足りなかったなとの印象です。／他のグループの話の中にも、参考になる話が多く、個人的に基本的な考えが、はっきりしてきて良かった。／市民ホールで、自分が何をしたいか、どんな時に行くか、どんなだったら行くか、真剣に考えていなかった。この委員会の意見が、市民の意見として、まとめられるのか、こわいと思った。／何時も時間が少なく、問題提起に終わってしまう。残念。本来は「ではどうするか」にふみ込んだ検討までこの会議はしたいが？

★☆★皆さんからの質問をご紹介します★☆★

Q 生涯学習センターと市民会館の和室の利用状況はどうなっていますか？

A 利用団体は、茶道関係では1団体のみとなっています。

【生涯学習センターけやき 2007 年：23 回／2008 年：18 回／2009 年：32 回／2010 年：26 回

【小田原市民会館】2009 年：年 3 日／2010 年：年 2 日

※2010 年は耐震補強工事のため、利用可能日数が少なくなっています。

Q ホール施設では、傘立てはどの様に対応していますか？

A スペース等の問題からお客様の人数分の傘立てを利用するのは難しい施設が多く、一部傘立て（ロビー等）と傘袋（客席持込）の併用で対応している施設が多くなっています。

Q この「市民ホール基本計画市民検討委員会」について、ブログやソーシャルメディア（Twitter や Face book など）に書き込んでもかまいませんか？

A 問題ありません。

★☆★次回予告★☆★

◎第３回：９月 19 日（月曜日・祝日）午前 10 時から 12 時まで／小田原市役所７階大会議室

「あたらしい市民ホール・どんなホール機能が必要か？」

ミニレクチャー：勝又委員、市来委員

◎第４回：10 月９日（日曜日）午前 10 時から 12 時まで／小田原市役所７階大会議室

「あたらしい市民ホール・展示機能やホールに関連する諸室機能を考える！」

ミニレクチャー：桑谷委員、三ツ山委員

皆さんのご意見は裏面へ！！

ワークシートのふせん内容をご紹介します

1班

小田原文化エネルギーハンドブック／超未来は読めないが近未来での小田原市民が何を(音楽・演劇・様々なイベント)望んでいるのか知る必要あり。／計画の骨格が見えない。音楽ホール、演劇場、アートギャラリーなど望むものがバラバラ！／小田原にこれからも必要な文化を育てるステージでありたい。それを多目的ホールというのか？／ユビキタスは層の小田原の発信点／分度と拍譲

【つくる】地元の音楽家による連続演奏会／ガンプラジオラマ風　ガンダムでの興しを／小田原出身の文化人、有名人のピックアップ　・大藤信郎、川崎、居崎、首藤、北原白秋 etc／市民オペラ実現のためのワークショップ／電気を使わないコンサート、舞台／バリアフリー観劇堂／アコースティックコンサート(すべてのジャンルで)／市民オペラ／スケールが小さくてもオペラが上演できる音響の良いホールにしたい。／星空コンサート

【そだてる】ホール予定地をアートと花でうめつくそう／ビーチコンサート(御幸の浜)+南風(ホール)コンサート／様々なシチュエーションでの映画上映(銅門、梅林、浜)／木の町小田原コンサート(木の文化大集合)／技術者のための講習会(次世代の担い手育成)／星空コンサート／子ども舞台教室

【たのしむ】テント公演／アウトリーチで育てる／映画祭での利用、トーク・シンポジウムな etc／小田原鉄道文化祭
バリアフリー映画上映／16mm映画館

【にぎわう・出会う】地域の人とかかわってこの委員会でイベントをする／お城をアートと音楽でうめよう／小田原すべての「バンド」集まれ！！企画／子ども達が体を動かして楽しめるもの　・工作　・ダンス　・コーラス　・劇／町内会対抗コンサート+一流アーティスト／住時の商工祭、ちょうちん祭の復活、それにともなう製作活動／町全体で住時のにぎわいを取り戻したい(商工等)／小田原おじさん(ロカビリーフォーク etc)大集合／地元の商店街とをつなげる事業　・食　・大道芸／中高生がいつもたまる仕掛け→ロビー／和と洋のうわさになるくらい美味しいお店／市民交流のサロンコンサートとレセプション

【ひろげる】市民ホールと子どもとの距離を近くしたい(子どもにとって特別な場所ではないホール)／地域住民の持てる力を発揮する場を子どもに向けたワークショップも民族芸能が大きくかかわれる分野です／文楽地方公演、そのために必要な機構は　舞台間口 8 間　舞台奥行 4 間　舞台袖 1 間半　吊ものバトン 4 本　どん帳から 2 間下がった位置から／近隣ホールに来る程度の・商業演劇をよびたい。　・歌舞伎　・バレエ　・ミュージカル　・オペラ等／近隣商店街と連携したコンサート／学校では美術・音楽を教科としてやらないでホールにまかせる

【つたえる・情報共有】相模人形芝居下中座はアマチュアの人形座で日本で最初に国指定無形民俗文化財となりました。日本で 5 本の指に入る人形座を市民が知りません。定期的に市民が集うホールで市民に見せることができたらと思います。市民の誇りになるはずです。小田原は民俗芸能の宝庫です。お囃子だけで 40 団体もあります。その地に根付いた芸能の価値を関わっている人々自身も気づいていないのが現状です。無尽蔵の宝を発表し、伝え、感動させるステージを表現したい。この伝統が全国高校文化祭の相洋高校和太鼓部の活動につながっています。／江戸町文化　総合文化祭／市民・文化欲求のデータベース／コンサートの CD・DVD 化／図書館業務とつないだアーカイブ／小田原風鈴、ちょうちん、いもの　箱根細工　小田原彫り etc／失われた文化の再発掘／こゆるぎの人形の製作／文化活動を行う方(団体)をコーディネートする人材の育成／ホールで何をやっているのか伝える媒体(広報誌)／映像のワークショップ　ふるさとの映像を残していくアーカイブ／文化資料室

2班

【小田原のキーワード】小田原の魅力のキーワードを抽出する／小田原の魅力「落ちついた町」／ものづくり／都／宝が隠れてる／無尽蔵・二宮尊徳

【オープニング事業】多くの人が集まる企画／機能の紹介／会館に魅力を感じる企画／市民に使い方がわかるよう紹介する場／・名画鑑賞会　・本物を見る　・鑑賞のポイント　・トークギャラリー

【継続していく事業】こども若者を大切に／若者が使える自由な空間／子どもが生涯の友人を作るスタートの場に／城址公園の遊園地のように子供を通じて親が参加するもの／学校帰りの小学生が立ち寄って何かに出会える／ホールの中に24時間使用できる若者が使用できるスペースを！／子どもが体を使って遊べる！／真剣な大人の姿、楽しんでいる
子ども対象のワークショップ(造形・色彩)／市民が気軽に使えるスタジオの併設(にぎわい)／文化人が多い町／小田原市は19万人です。この都市全国大会を開催できる都市であるのは箱根を控えているから。小田原の観光事業の活性化のためにも、写真等の全国規模の公募展の開催。／他市(町)、他館との共同制作(県内)、年間計画、横断的な連絡組織作る(製作費低減)(連携)／日常的に活気ある場になるよう　展示事業を(にぎわい)／質の高い企画を　・演劇　・音楽　・美術(たのしむ)／本物を見て感動する！／全国規模の公募展／各種巡回展／伝統芸能大会／作家とのワークショップ(交流)／小田原ブランドとしての芸術文化の造形マーケットの販売スペース／展示作品としての充実／うれしかった体験をリフレクション／市文連との連携／入口がその展示会のイメージをつくるのでその入口を大切にしたい／ワークショップを毎週定時刻に行う、子ども達含めて／図書館機能があると子育て世代、ゆとり世代が利用しやすい(にぎわい)

【これからの事業】ジャンルは縦割りせずに文化連盟に横串を入れ活性する／団体(200 以上)に対して個の作家による展示会等／シルバー人材卒業生の活用。活性化／高齢者へ PR、平日動員策！／技術の継承や後継者の育成事業／市内施設のネットワーク構築、施設の有効活用／小田原の周りの美術館、箱根、湯河原既存の活用／ホール展示場は人の流れ(動線)を考えたレイアウト要／市民、学校職員のネタ集めの場所へ／育成ワークショップ付き展示／ワークショップのための人材バンクを構築する事業／地域作家の広報できるミュージアムショップ／映像や3D を3面から見れる。その中央で前を活かす話をする／映像によるステージ。ユーチューブ、動画を使用した展示会や音楽会が行われている／若い人の掘り起し／将来事業　・現代アート展　・若い人対象のアンデパンダン展／商店街来い！！／1 月にまちなかぶらりミュゼ①商店にアートを飾る、アートで人と地域をつなぐ　②マップ等によりイベント化する／外への発信、広報の工夫／生活文化の発信、芸術文化の発信等インターネットのサービス／個の参加による事業展開を行いプロを育成する事業／日常的に人が集う事業／空白が(Open な)新しい活動に／稼働率の高い施設の活用

3班

【つどう】外から見えるようなギャラリー／展示室、芸術、美術／市民がホールに関心をもつ企画を長期的に立案する／現在あるイベントを利用する／映画祭をやりたい／劇場の原点であるギリシャ、シェイクスピアの解説講座／にぎわい　市民文化祭、市民の発表会／演者の来場のみでない誰でも足が向く施設と企画／ティータイム、アフタヌーンタイム、イブニングタイムコンサートは様々な人が楽しめてよいです！／出会う、つたえる、施設の一角にコミュニティカフェ、地産地消カフェ、小田原ならではのひとやすみ所をつくる／子どもが遊びながら創造できるような場所／市民が使いやすい練習室、スタジオ／貸スタジオを市民が利用できる。例えばバンドの練習、ダンスの練習／若手アーティストが常に集っているコーナー(オープンスペースが望ましい)

【つくる】小田原市と協同して NPO 参加する／ホールで今何をやっているか／えっさホイの練習ができる／市民参加　小ホール機能の充実／誰でも使える舞台でほしい　高齢者・障がい者／市民が広く参加できるようなイベント／市民サークルの趣味の作品展ができる／今市民会館にある「市民活動サポートセンター」を入れる／市民が主体的に考え利用できる／ひろげる、市民参加、市民ホールサポーター、ホールだより、企画

【そだてる】子ども達を巻き込める企画／つたえる　伝統芸能大会(地域の、小田原の、日本の)異世代間交流もかねて／育てる　オペラやミュージカルのワークショップ　①子ども向け　②異世代間交流型／伝統芸能の定期的継承会(子ども対象)／育てる　親子でたのしめる舞台／地域市民の文化に関する意識向上／・モーニングコンサート　小田原や近隣の若手アーティストの発表の場でチケットを安く！　東京都文化会館／育てる　プロの演奏等をとにかく本物の鑑賞方法をさせる、授業の一環として／東京・横浜へ行くよりも割安感の演奏会／POPS 系のコンテスト。ミュージックストリートの参加者で／無料の音楽教室／小田原音楽フェスティバル／小田原の地区の芸能、ワークショップ　・相模人形芝居普及　・北條太鼓の部／育てる　コンテスト、新人音楽家→入賞者にモーニングコンサートなどに協力してもらう／若いアーティストを集めたデザインフェスタ的なもの／音楽研究施設　子ども自由研究　学ぶ空間／昼間のコンサート　子どもと親とのふれあいコンサート

4班

【まず名前を考える！キャッチを考える！】名前は"小田原"という文字は入れたい／「おだわら夢ホール」
ネーミング、これは重要！「市民ホール」ではなくて・・・。「文化創造センター」とか？(一例)新たなネーミング／ホール仮称「おだわらウメ子ホール」or「おだわらウメ子館」／おだわら市民ホール「光未来」

【課題】市の広報不足！議論があること自体興味がない人には知られていない／未来を考えて・・・とはいうものの、今の時代 10 年後のことは誰にも分からない・・・？ならばスピードアップ！全体のスケジュールを 8 掛で振興せよ！アート＆カルチャーなう！／「文化創造センター」(仮)はひとつの名称。何か新たな名称をどんどん出しましょう！またキャッチフレーズも。ネーミングは重要！人間は言葉で作られる、出来ている。／運営組織はボランティアでは難しい。時間、お金、専門性／もちろん予算も重要だが、それに関わる人間の持つサムシングは大切。→情報、企画、デザインパワーetc etc・・・。受信する側だけでなく受け取る側も。

【そだてる】市民ミュージカル、指導者はプロで。　・今からすこしずつ準備、子どもを育てる意味で／キャッチは「人づくり」／運営チームの人材(市民)を育てるアートマネジメント講座。やる気のある市民をプロに！／運営チームによるプロデュース公演の充実。文連の文化祭(団体の発表会)→市民の文化祭(プロデュース公演)／運営チームによる文化の5年、10年計画を育てる。ホールオープンのイベントは今から準備すればいろいろできる。／観客を育てる　演劇、音楽、アートそれぞれの見方、魅力を勉強する講座、観客のレベルが高いと企画のレベルも高くなる／子どもがのびのびと"いたずら"出来る場所　描く、切る、貼る・・・／子どもにもマナーを育ててほしい／マナーを教えつつ敷居が高くないことも教えるような企画(鑑賞者の育成)ホールは楽しいところだと分かってもらう／子どものためのワークショップアート／子ども(親子)のための企画　・音楽　・劇など／一般に「文化」と認識されにくいものを扱ってほしい。よさこい(えっさホイ)・メディア・コンテンポラリーダンス　他にもあるはず／花火、アートです！／「千人太鼓」(プロ・アマ・市民三位一体になって)

【つくる】大人の調理実習ー小田原の食を利用した／有名アーティストのコンサート／TV の公開番組、収録。昔はいろいろありました／NHK「お母さんといっしょ」小田原で／小田原出身のプロアーティストのコンサート。ガラ公演とか！／映画会、ロードショーに係らないが良い映画

【たのしむ】楽しむだけでなく楽しませるエンタテイン！／アート・アーティスト美術評論家の公演会・ギャラリートーク

【出会う】FUSION！　CROSSOVER　異なるフィールドのアイテムをチャンプルさせて新たなコンテンツを作り出す混ぜる！コラボ！／音楽と美術の融合・コラボ／ジャンルのちがう分野の交流　太鼓とダンス等バレエ／憩いの広場／ハロウィーンパーティー、クリスマスパーティー　国際交流ラウンジでは身内だけで会場キャパが／カフェ・レストランつくれ／アクセスのこと、例えば駅から会場までのアクセスにおいてどんなスポットがほしいのか？　カフェ、レストラン etc・・・。何かワクワク感とか・・・。

【ひろげる】この動きの全体を広く市民にプロモしていくべき　最初のプロモ！／新しい企画、文化祭など
文化活動団体の連携をより強める／ホール　古稀亭　清閑亭　文学館　老欅荘　松永記念館　ホールと名建築をコラボした企画／これからは人に投資する時代／運営が(市民の中からプロを大切、育てる)ホールを動かす為に／会場のレイアウト・・・。設計のコンセプト・・・。ホール展示スペース以外の場所は、どんなものがほしいか？エントランス、カフェ、ホワイエ、情報スポット、トイレ、中庭、etc etc／予算つけて！／これを行うにはお金、予算を！

市民ホール基本計画市民検討委員会

WS 3・4

ワークショップかわら版

《作成・発行》
小田原市
文化部文化政策課
＆ 空間創造研究所
平成 23 年 10 月 21 日

今回は連続しての検討だったため、第 3 回と第 4 回の様子をあわせてご紹介します！
第 3 回の市民検討委員会は 9 月 19 日(月・祝)、第 4 回は 10 月 9 日(日)に小田原市役所 7 階大会議室にて行われました。第 3 回は市民委員 41 名、(女性 16 名、男性 25 名)、市の事務局スタッフ 11 名、その他の事務局スタッフ 5 名、市民ホール基本計画策定専門委員会から市来委員、勝又委員の 2 名、合計 59 名、第 4 回は市民委員 36 名、(女性 13 名、男性 23 名)、市の事務局スタッフ 11 名、その他の事務局スタッフ 5 名、市民ホール基本計画策定専門委員会から桑谷委員、三ツ山委員の 2 名、合計 54 名の参加がありました。
また、第 3 回には障がい者の団体の方 5 名が検討に加わり、実際にご利用の立場から、市民ホールのバリアフリーの部分についてを中心に検討を行いました。

諸室や機能とは？

舞台の大きさや設備、楽屋や練習室、カフェなどの、市民ホールに必要な要素です。
今回は、大きく基本構想で整理されている、大ホール系機能、小ホール系機能、展示系機能、創造・支援系機能、交流系機能、管理系機能、その他に分け、それぞれ、どのような設備、諸室があったら良いかの検討を行いました。

第３・４回　「市民ホールに求められる諸室や機能を考える」

第 3･4 回は連続して、市民ホールに求められる諸室や機能についての検討を行いました。
第 3 回は大ホール系機能、小ホール系機能、展示機能を中心に、第 4 回は創造・支援系機能、交流系機能、管理系機能を中心に
専門委員によるミニレクチャー、市民検討委員でのグループワークと発表を行いました。

第 1 回の基本構想の振り返り、第 2 回の事業や活動を中心としたソフトのお話から、施設の諸室や機能というハード面の検討に入りました。
特に、小ホールが固定客席形式がいいか、平土間利用が可能な壁面収納可動型客席がいいかでは各班ともに意見が拮抗し、熱論が繰り広げられました。
ホールについては検討を行えた一方、他の機能については時間が足りなかったため意見が出尽くしていない様子が見受けられました。
そのため、検討を 1 回増やし、第 5 回でも諸室や機能についての検討を行う運びとなりました。

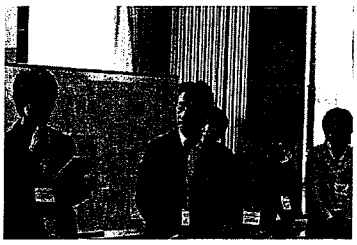
1 班

★☆★Point★☆★
小ホールについては固定客席の音楽ホールと 200～300 席の平土間利用可能なホールの 2 つを整備するいう結論になりました。また、諸室の一部を地下に整備することで、土地を有効活用させるという案も出ました。支援系機能の託児室については整備を望む一方、子どもに何かあったときにどう対応するかの問題提起もなされました。
★☆★委員コメント★☆★
・座・高円寺は施設の 70%の部分が地下に整備されているので、東日本大震災の際にあまり揺れずにすみました。地下を有効活用するメリットもあると思います。
・託児室については運営の段階で検討されるべきかと思いますが、子育て中のお母さんがホールに来られないとなると、その分何年も観客を逃すことになってしまいます。

2 班

★☆★Point★☆★
練習室を求める声があがりましたが、日常練習用かホール利用者専用の練習室なのかという、運営にも関わる意見が出されました。小ホールについては固定客席か平土間利用可能なホールか、音楽ホールか演劇ホールか多目的ホールかで意見が拮抗し、結論は出せませんでした。
★☆★委員コメント★☆★
・プロデューサーの立場で言えば、観客が入る催しなら大ホールで行い、入らない催しなら小ホールで行います。
・これからの「地域劇場」としての在り方を考えると、どのようにしていけばいいか見えてくると思います。
・この様な話し合いを、設計段階できちんと図面に落とし込んで行くことが大切です。

3 班

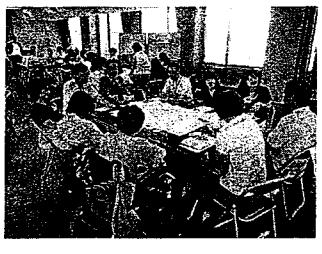


★☆★Point★☆★
バリアフリーにしっかりと対応した、誰もが使いやすいホール、戯曲やアーカイブを閲覧できるようにするといった特色のあるカフェなどが提案されました。展示についてはしっかりとスペースを確保し、自主企画も行っていきたいという案が出されました。小ホールについては平土間利用を望む方の人数が多少多かったようです。
★☆★委員コメント★☆★
・これからの時代はユニバーサルデザインを取り入れていくことは基本になってくるので、そこをしっかり話せたのはとても意義があることだと思います。地域に根ざした施設づくりが今後の公共文化施設の大きな役割になってきます。
・ハードを支えて行くのはソフト面ですが、ソフト・運営だけでは支えきれないことがでてきます。その時に重要なのがバックヤードの部分です。

4 班

★☆★Point★☆★
展示機能について、三ツ山委員が挙げたような充実した設備(天井高 4m、水場、インターネット設備、図書館機能、水場、木の床、作品保護の為の空調、照明設備、ミュージアムショップ、WS スペースなど)が必要なのではないかという声が上がりました。小ホールについては固定席とし、平土間利用可能なホールの代用として 300 ㎡程度のマルチスペースを整備し、リハーサルや小ホール、展示など様々な用途で利用する、という結論になりました。
★☆★委員コメント★☆★
・展示室がいつでも利用されているということが、今後のアートシーンに繋がって行くと思います。
・マルチスペースという新しい視点を見つけられたことがよかったのではないでしょうか。

5 班



★☆★Point★☆★
バリアフリーについての意見を中心に実際にお使いになられている視点から具体的な案が多数でました。観客動線の段差を無くしスロープにする、階段などが暗くならないようなライト、滑り止め、車いすの方が利用する大きな(20 名程度)エレベーター、公衆用の FAX、複数の多目的トイレ(男女なし)、字幕、要約筆記、雨の日に濡れないですむような地下駐車場等の整備が求められています。また、観客動線だけではなく、事務室などの裏周りも可能な限り対応していくことが望まれています。
★☆★委員コメント★☆★
・「劇場」というのは特殊な空間のため、どうしても全ての場所に車いすで入るというのは難しいです。ですが、できるだけ多くの裏周りに車いすでアクセスできるようにすることは必須と言えます。
・バリアフリーを全面に押し出すのではなく、さりげなく、それでいてしっかりと整備していけるといいと思います。

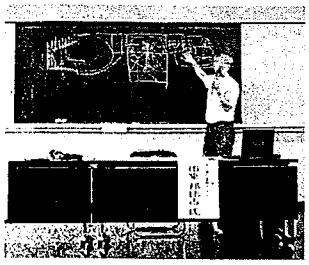
★☆★第３・４回市民ホール基本計画策定専門委員会委員ミニレクチャーの内容をご紹介します★☆★

第３回

勝又委員　～建築的な視点からみた、検討のポイントについて～

- 第２回までの皆さんの検討内容を伺い、基本構想から大きく外れた意見はないように思いました。
- 検討のポイントとして、「なぜその機能が必要なのか」ということを話して頂きたいです。コストなど様々な条件を考えていくと、市民の皆さんがおっしゃる要素を全て市民ホールに入れ込むことは難しいです。ですが、「なぜ必要なのか」という根本的なところを考えていれば、その目的を達成するために既存施設の活用や他施設との連携などの可能性も考えられます。また、ホール機能以外にも、施設全体のバリアフリーや防災機能、ワークショップなどの多様な事業をどこの諸室で行うのかについても考えていけたらと思います。そこにプラスして、将来的に改修工事を行うことや、必要な諸室を付け加える可能性も考えて欲しいと思います。
- 東日本大震災を受け、今後の公共ホールの有り様が変わってくると思います。現在検討している市民ホールは、震災後に建設されるホールとして参考になる事例がなく、今までの公共ホールにはなかったけれども、今後は考えていかねばならない機能も出てくると思います。しかし、防災センターを建設するわけではないので、留意しながらもそこにとらわれすぎずに検討を進めていきたいと思います。

市来委員　～ホールの仕様による可能性について～



- 基本構想では、小ホール系機能、展示系機能についての詳細は明記されていません。施設や事業の方向性によって選択肢が色々とでてくる部分であり、市民の皆さんの意見を聞かずには決められないと、あえて曖昧にしてあります。是非、この検討会で方向性を見いだしていきたいと考えます。
- 小ホールの形状には、固定席や平土間としても利用できる可動収納型客席など色々と種類があり、目的によって大きく有り様が変わってきます。一般的に、可動収納型客席のホールは、平土間利用や客席を並べての利用、仮設客席を設置するなど、固定席に比べ空間の可能性は増えます。
- 基本構想にて大ホールは多目的となっていますが、1000 席から 1200 席程度のキャパシティであれば生声が届くので、音楽・演劇・ポップス系を両立させることができます。
- 音の響きについては、クラシック音楽は響いた方がよく、演劇系は響かない方が良いです。ただし、音楽といっても生音のクラシックではなく、スピーカーを通するポップスなどの音楽は演劇系のホールでも上演可能です。

第４回

三ツ山委員　～近年の展示の傾向と必要な機能について～

- 近年の展示は単に作品を鑑賞するだけでなく、アーティストの話を聞いたり、アーティストが展覧会で自分の作品を巡りながら説明をしたり、一緒に創る WS を行うといったことが主流になってきています。
- 今はプロジェクターを使って壁に映像を投影するといったことが普通になってきていて、市民の方も希望されます。そのため、いつでも天井からプロジェクターが吊れるような設備が必要かと思います。またインターネットを利用する展示もあるので、展示室の壁面にインターネットが利用できる取り口を整備するということも必要です。利用する機会が頻繁にあるわけではなくても非常に役にたちます。
- 横浜市民ギャラリーあざみ野の場合はアトリエがあるので、ものを洗う際に必要な水場があります。しかし、ここではアトリエではなく展示室ということなので、裏方部分に道具を洗える水場が必要とされるかもしれません。
- 現在、展示の最中にものが必要になった際には搬入口で作業をしています。バックヤードは事前に用意できるものはしておいた方がいいですが、ある程度の広さがあれば融通が利きます。アレンジができる余裕を残しておくというのも大事なヒントかと思います。
-

桑谷委員　～「いい施設」とはどんな施設なのか、どのような機能の部屋があると望ましいか～

- 「専門家を支援するための施設」「市民参加を支援する施設」「市民の広場としての施設」の 3 点がセットになり、諸室と空間が充実している施設が「いい施設」と言われるのだと思っています。「専門家を支援するための施設」としては、自由で創造的に利用できるホール、それをスムーズに行える舞台裏などの設備、それを行う人間をサポートするための大人数の楽屋などが挙げられると思います。「市民参加を支援するための施設」としては、市民参加の皆さんが利用できるボランティアスタッフルームや、市民の皆さんが練習するためのスペースなど、市民の参加を応援する施設があればよいと考えます。
- 「市民の広場としての施設」としては、文化施設に興味がない人達もぶらりと遊びに来られるような場所になるための情報ライブラリーや図書の整備、おしゃれなカフェ・レストランを設置するといったことが挙げられると思います。
- 座・高円寺には「座・高円寺 1」「座・高円寺 2」「阿波おどりホール」という 3 つのホールがあります。なぜ 3 つのホールがあるかというと、市民の皆さんが鑑賞で楽しめるプロ仕様のホールとして、「座・高円寺 1」、アマチュアの皆さんが利用できるホールとして、「座・高円寺 2」、高円寺のまちで盛んな阿波踊りの練習に優先して使えるホールとして「阿波おどりホール」を造りました。
- また、アンリ・ファーブルという 60 席のおしゃれなカフェレストランが建物内にあります。子どもたちに遊びにきてもらうために絵本が 300 冊ほど置いてあり、いつ来ても読むことができます。また、毎週土曜には絵本の読み聞かせを行っています。
- また、空間の規模が大きければ、将来、メンテナンスや追加工事などのリノベーションを行うことで新しい施設に生まれ変われる可能性があります。

★☆★ひとことアンケートの一部をご紹介します★☆★

施設機能の具体的な使い方に話が進んできた。自分の興味ある施設の提案には、事前に色々調べておくことが大切／基本的な考え方、コンセプト。※前々回、名称として、「市民ホール」ではなく、例えば、「文化創造センター」という、話が出たが、この件、ちゃんと、出していくべき。単なる、市民会館の建て替え、ではない、というコンセプト、が出ているなら、これを、ちゃんと、告知していくべき。／迎える時代の中で映像（ニコニコ動画等）を利用してのステージ等がおこなわれていくであろう。そのような装置を組み合わせられる場所は、小ホールなのか、展示室なのか、移動パネルでは音がつながってしまう、のでは、困るであろう。展示では搬入口の大きさを大きく、お願いしたい。／第 2 小ホールの案が出ました。展示室との併用も可でしょう。そこにはロールバック式の椅子なら設置できますね！／カフェがいるいらないの話になったが、全体としてどう考えているのか気になった。／小ホールとはどうあるべきか、決定が難しいと感じた。

★☆★次回予告★☆★

◎第５回：10月23日（日曜日）午前10時から12時30分まで／場所：小田原市役所７階大会議室

「市民ホールに関する機能を考える！」

ミニレクチャー：桧森委員、勝又委員、伊藤委員

◎第６回：11月６日（日曜日）午前10時から12時30分まで／場所：小田原市役所３階全員協議会室

「市民ホール・運営や組織を考える！」

ミニレクチャー：桑谷委員

皆さんのご意見（ワークシートふせん）は別紙にてご紹介します。

ワークシートのふせん内容をご紹介します

1班

【客席】1000～1200 席　分割できる方法。700+500 とか中ホールを含められるように／舞台 1F 席は 20 列くらいにおさめる／1F と 2F の客席数の配分を！／客席の「イス」。それ自体の問題。デザイン etc。マトモなイスが必要／舞台はオーケストラ 100 人と合唱 200 人が入る広さを！！／席の前後のスペース余裕があると嬉しい。・後ろから蹴られない・遅れて来た人も楽に入れる・(できれば)足を伸ばせる／客席の数、客席の割り振り？　1F と 2F、1F600～700、2F200～300／車いす席が端っこに(後ろに)おいやられないように／親子室(子どもが泣いても気にならない部屋)あると親子でも来られるし、回りの人も気にならない／介護者等の席を用意する／介護者等を呼ぶためのベスプールの必要性／親子観劇室、これは 1F うしろに／親子だけではなく、ホールに入れない(障がい者など)が見れる場所(モニター室でも OK)／ドアのそばにドア係が座る収納式イスを付けてほしい／子どもも見える席？イス？の配慮

【トイレ】出演者がトイレ等に迷わない配置を(南足柄のホールは困る、迷路)／トイレの数、女子トイレは男子の 3 倍は必要、是非／トイレはラック付き、ワンウェイのトイレで並ぶストレスのない数／だれもが美しいと思うトイレ(その状態の維持)／トイレは洋式のみにする、ウォッシュレットで／音姫　節水！

【楽屋】楽屋は和室を一カ所ほしい！(邦楽・日舞)スタイロタタミ可／楽屋は出演者が楽につかえるようにするから楽屋ですね／楽屋は舞台の真裏に。／楽屋の隣に練習室(鏡付きバーあり)／事務所(運営ルーム)

【ロビー・ホワイエ】ロビー等に展示室で不足する部分を展示できるように／ロビー・ホワイエに DVD 視聴のできる場を。市の所有する文化活動の DVD の活用、情報発信／ロビーのオープンとはどの範囲を具体的に言うのか？／ロビー・ホワイエに舞台のモニターを用意して欲しい／モニター　楽屋とロビー／ロビー、ホワイエの居心地、社交場としての機能を大切に／できればロビーにもピアノを置きたい、サロンコンサートとか(管理が大変かな？)／オペラ座のように休息時のいる場所の確保。2F　等茶房等もか／愛を語れるスペース／クロークはなし、お金の返ってくるロッカー設置、大・小(数？)／小田原城、お堀の櫻が見える場所を設定

【舞台】演劇のためにフライ、袖舞台がほしい。／大きな額縁を小さくするための設備(黒幕等)がほしい／ミュージカルなどを考えると間に 10 間、奥行 5 間、舞台袖 1 間半必要か！／搬入口、舞台袖(12m×12m)　片側 6 間取って下さい／設備　・振り落とし　・引き道具　・雪かご　・定式幕

【ピアノ庫・倉庫・収納】ピアノ保管庫と楽器保管庫(有料で OK)の設置を／ピアノ庫／楽器をしまう倉庫がほしい。／舞台道具の保管庫は広く(箱馬・平台・所作台・もうせん幕等)

【大ホール系機能】【活動・事業】プロの興業者が小田原へは行きたいと思うホールを！(稼働率 UP となる)／市民ミュージカル／オペラもやりたい。やって、ほしい。アーティストはいっぱいいるでしょ！(オペラハウスで、なく)／プロのバンド系ミュージシャンのコンサートをやって欲しい市民利用事業例　・市レベル-民族芸能大会(6 団体)　・県レベル-相模人形芝居大会レベル(5 団体)、県高校総合文化祭(出演団体 20くらい)　・関東大会レベル・全国規模-人形サミット(出演団体 20くらい)　／ファッションショーのできる。映像をバックにしてイベントの対応性！映像の立体化の対応【機能・諸室・設備】技術スタッフが専門的な人がほしい！！

【創造系・支援系機能】【機能・諸室・設備】練習だけにこだわらない発表もできる部屋(お客さんを呼べる部屋)／鏡とバー付きのレッスン室、床はリノリウムが敷けるように／搬入口側に広めの荷捌き場を／団体数の多い場合、楽屋に転用できる会議室をあまり遠くない場所に設けてほしい／舞台面と同じ広さのリハーサル室がとれれば／広いリハーサル室をつくり、そこで平土間の公演をできるようにする／吊具、掛具の充実。移動式の設置／電動パネル　移動できる照明　白壁をその都度メンテナンスできる／地下をリハーサル室に、音楽練習スタジオを作って欲しい、個人利用に数個／大きさが異なるものが複数必要／リハーサル室ではオーケストラの練習に随時使用したい／地下の利用、埋蔵物をそのままできる／30m セットバック、広場の活用、野外利用／野外展示の可能性／えっさホイの練習(30～50 人位)鏡・防音(防振も？)／小ホール 2、平土間。小ホール固定席にするのであれば可動客席はこちらで／100 人規模とし可動椅子にすれば利用率は UP するはず。／多目的にして　・舞台の可動　・椅子の可動　・ステージ　高さ 4m

【展示系機能】【活動・事業】アパレルの展示会、プレゼンテーション等の使用など、ステージショーのできるものが(例：ファッションショーなど)／小田原をアピールできるイベント　箱根をベースとしての宿泊のある全国的公募展／ギャラリー・スペースだから、色々なものが展示される(幅広いジャンル)インスタレーション、メディアアートにも対応可能であること／せっかくのフラットな空間なので、いろいろ使いたい。展示だけでなくワークショップとか／当然、バックルーム、バックヤード的なスペースは必要。エントランスがきっちり必要の全体のスペースデザイン／プロジェクター、インターネットの利用、youtube の利用の展示。未来的利用されるであろうものを入れる。／展示室の入口の反対に搬入口。搬入口のところ、バックヤードまで車が入れる。／展示　・パネルの収容室を至近距離に　・照明設備の充実　・小ホールとの併用は問題がある！(機能が全く異なるため)／水場、展示会の水の供給　具の洗い、ゴミ等のバックヤードに

【機能・諸室・設備】展示スペースの400㎡は現敷地のなかにホールと共用にとれますか？ホールと展示の各々の機能は別物と考えます／展示スペース、天井までの高さ、レーフレの高さ、ラリッフ○○○4m／・白(クリーム)の壁面の年に一度のメンテナンス　・分割できる可動式パネル　・展示室は白い壁と照明の美しさ必要／神奈川県下の大きな展示会(美術展、生け花展等の巡回を行う。スペースとしては 800㎡ぐらいといわれているが。／展示用のパネルは出入れが容易なこと(収納庫をどうするか)／展示パネル(可動壁)移動が楽なもの　市美展の準備本当に大変・・・。／展示物の搬入が容易にできること(100 号の絵、生け花)／様々な展示系のことが現在おこなわれています。展示台の設置を！／・工作室　・給湯室／アトリエ(作業所)作りかけのものを保管できるスペースあると利用者は楽／ワークショップができるスペースを隣に作る／簡易的な茶室のできる方法として→／放送設備　ステージ・プロジェクター・消化器

【小ホール系機能】【活動・事業】小ホールの利用内容を今後、しっかりと調査して客席の形状を決めてほしい！／何に使われるか？　-市民の発表会、-自主企画。両者のバランス？幅広い発想が増すと。柔軟に。／大ホール舞台と同程度の広さのリハーサル用空間は必要(大ホールの催事を妨げないため)それをどこに置くか？小ホール？創造系機能？／音楽のライブ、ダンス、ポエトリーリーディング、レクチャー etc、をドリンク片手に楽しむスペースを作りたい、ちょっとしたパーティーとかも。／市民の発表会　・ミュージカル　・ピアノ　・LIVE／①市民全体文化を保持できるのが小ホール　②全国に発進できるすばらしいホールというのが小ホール！　どちらかな／小ホールは演奏・演劇・集会用のために固定席にすべきです／平土間のホールは市の他の施設に多々あります。けやき、マロニエ、尊徳記念館等です。アリーナも可／小ホールの舞台のスペースを広くとればそこでイベント等の利用も可能でしょう【機能・諸室・設備】小ホールはこれからの若い人たちが活動できるよう、舞台技術のみのある箱がよいのでは／小ホールの奥行にもよるが、舞台の前に(客席のイスをしまって)舞台をたせる様に出来ないか！！／イスをはずして、前に舞台をつくれるようにしたい。前場を張り出す準備の設備は会館にある、但し手動)／小ホールの舞台袖広くしてほしい(演劇用)／映像とステージにおけるパフォーマンスのできる会場がこれから時代に必要！／多彩な演目が可能な「スペース」が必要。「単なる空間」でいい。／客席の形状をどうするか、固定席にすべきです。演奏演劇集会に使える(平土間はけやき・マロニエ等にあります)／独自の空間であるなら、「大ホールのミニ」である必要はない。ステージは演目で変化する。空間をどう使うか。／小ホールは固定イスで！ロールバックは反対です！／客席は資料にある「現段階ではホールタイプ、客席仕様は定めない」と本日のところはよいのでは！／小ホール楽屋、舞台袖広さ等は、ラディアン二宮を参考に！／小ホールとその他諸室との連携も重要！／小田原独自の特色を持った小ホールにできないか！／搬入口はフラットに。舞台と同じレベルに。／リハーサル室も小ホールとして考える。ホールは固定席、リハーサル室はフラット！／小ホールを 2 つ！客席 150！！(1 回公演だけでなく、公演回数が増える)／多目的ホール(リハ室)にも照明などを設置！(ホールとして使用の場合)／大ホールのミニ版である「小ホール」でした、舞台芸術(演劇・音楽 etc)ができないとは思わない。未来を考えたらスタティックな考えは NG であろう。もっと柔軟に考えていくべき。

【交流系機能】カフェスペース。美味しいコーヒー・ティーが飲めるスペース。交流の場として。空間、イス、テーブルカップ　etc　は良いデザインで。リーズナブルな料金で。それなりのフードもほしい。メニュー設定は？これはマストな「場」／情報発信、研究　・公式サイト～内容は？　・アーカイブ充実　・最新情報アウトプット　・フリーペーパー、フライヤー　・ポスターetc　紙媒体／小田原城に来た人が寄って「地場産物」を知る？買う？場所／ネット環境を整備する。U-st、ニコ動 etc にも対応可能であること(ただしコストがかかるが・・・)／団体登録や予約がなくても自由に使える 5～10 人くらいの打合せテーブルを複数(市役所談話ロビーのイメージ)／まちなか商店街とのからみ！〈まちなか・ぶらり・ミュゼ〉

【管理系機能】全体の進行を SPEED　UP！2 倍速はムリだろうから、20%増くらいで。先の事はわからないので、早くやった方がいい。／リハーサル室(100 人)、小練習室(20 人)の設置を／演者のために食堂(レストラン)の設置(街へ出ての食事は時間的にキビシイ)／託児室、誰が管理するの！緊急事態発生時どの様な方法で親又は○○に連絡するか／託児室を作る。子と託児者が入れるゆったりしたもの。／託児室　はだし利用、くつを脱いで上がる部屋、トイレと手洗い場がある／駐車場関係者用とのこと、搬入の流れをつくる。多くの搬入者があるとき。／車寄せが必要／出演者・出品者以外の駐車場はいらない。

【その他】先進技術によるエコ対応施設←21 世紀のホール／エコを考えた空調／これのコンセプトは、単に、今の市民会館の、建て替えという発想ではない。という話が前回に(？)出ていたと思うが、／それを再確認、重要！／インターネットサービス等、IT 関係の設備／現在小田原市内での活性をしている方々との話し合いが必要ではないか。ホールを中心として周りの店とのつながりにおいて！／そもそも「市民ホール」という名称ではなくて、例えば「文化創造センター」という言葉を使う、という話が前々回出てたハズだが、それはどうなった？／有料公演もあり。それぞれがまとめられるように／野外展示スペース、野外ステージ／文連の視察会。神奈川県立芸術劇場→中華街？三浦のマグロ？／文化ふるさと基金を財源の基本基金とする／ホール運営の為の財団をつくりそこで運営する／専門・専任の職員が必要／スタッフルーム、技術部用と市民用／外観デザイン(大・小ホール含む)「ガラス張り」外観一考されたい。／各種道具類～台車、脚立、平台、イス、テーブル　etc・・・がそれなりに必要(数は？)電源は？延長コード類は？／建物全体の話。地上の高さは？地下も多いに利用。(地上の高さのモンダイ規制ってあるの？)

2班

【大ホール系機能】【活動・事業】人間の文化生活としての古典からの練習／多目的なホール／・市民オペラの開催　・海外歌劇場の引越し公演／座席の中を広く、出入りがしやすく／障がい者・高齢者の方も使いやすい場(舞台や客席、移動設備)／カルミナブラーナができるか／オーソドックスな劇場スタイルでよろしい／神奈川芸術劇場の 3 階席とバルコニーはこわかった／・第九　・マーラーの千人の交響曲　・ヴェルディのオペラをやりたい／オーケストラピットはいる、いらない？／バルコニー席はやめる

【機能・諸室・設備】イスのデザイン、長く座っていても疲れない／音楽演奏可能なホール／プロセニアム／地域の音楽コンクール(吹奏楽・合唱等)を実施できるシステム(現在は不可)／舞台裏に通路を作る、上下を自由に通れる／子どものための座席／充分なアーティストラウンジ(舞台左右及び背面の出待スペース)の確保／女性トイレは男性の 2 倍以上／吸音スペクトルの設計を→音楽分野で欲求が異なる／楽器庫／楽屋は大・小少なくとも 4 つ／機能で満載にするか／フルオケが充分乗れるステージの広さ／楽屋、リハーサル室にセミコンピアノ、アップライトピアノの設置／・袖舞台をやや広く／・ホリゾント裏が通路に共用するのはまずい／全席見切れのない席で／楽屋(大 2、中 2、小 2)のほか、シャワー室、リハーサル室、給湯室、洗濯室／クロークの設置／上手・下手の移動通路／完全な暗闇のつくれる舞台→非常灯との関係／フライタワーを低くしてほしい、景観上、予算上／舞台間口 10 間、袖 4～5 間、奥行 8～10 間以上／小オペラ程度に限定、オーケストラピット的なものがいるか？データーを

【創造系・支援系機能】【活動・事業】練習場を 3 つ以上欲しい、ピアノ・バレー等／合唱のまち小田原

【機能・諸室・設備】インターネットができるスペース／演劇の練習用ホール／音楽用の練習用ホール／自由な空間／練習室は大・中・小で。各室にピアノを／演劇の発表もできる練習室／市民によるサロンコンサートが可能にする／全音スタジオ／ピアノの練習室、個人

【展示系機能】【活動・事業】ワークショップ、子どもの木工教室

【機能・諸室・設備】現代アートのための機能　自由な配線、自由に変えられる／展示のための搬入口／自由な可動式パーテーション／美術館機能は別にする→学芸員／天井から自由につるせる／・仕切りをしやすい　・作り変えをやりやすい施設／100 号充分に入る、高さ 4m／シンプルな形／展示室入口はホール入口とは別に設ける／つり、フックわりだし、すべての三次元空間に物体の固定できる設備

【小ホール系機能】【活動・事業】各種リサイタル、小編成合奏等のコンサート／アコースティックな音楽用ホールで人を集められる／演劇・音楽の両立する　70%の多目的ホール／演劇をやりたい。そのための小ホールが望ましい。／音楽用・室内楽用、アコースティックの良いホール

【機能・諸室・設備】何でもできる平土間／アコースティックホール(生音専門)／劇場型小ホールならば諸舞台関係の発表会は喜ばれるだろう／多目的ホール形態は展示室と兼ねない方が良い／アコースティックの優れた音楽用ホールを要求／固定段床の客席／楽屋(大 1、中 2、小 2)とシャワー室／新しい文化志向に自由に使われる未来構想も小ホール形態には必要な検討を望む／女性トイレは男性用の 2 倍以上／固定椅子　段床式　多目的／専用の搬入口を設置／映像設備／展示との共用はしない／調光室、音響室は欲しいです

【交流系機能】アーカイブ　ライブラリー機能／カフェ　交流サロン／託児所　ベッド／メモリアル空間／大きな機能分担→美術館機能／自然な建築(石組の外かべ)古くなることによって美の増す建築。内装は木の感覚、ディティールの設計(箱根細工等)／庭園と植栽との一体性。公演としての設計を先にして・・・／ディティールの統一、木の感覚、地場の材料、伝統技法を活かす／全体として～風の建築　、メインの公演内容との統一

【管理系機能】地下は地下水があるので GL は／電動でなく手引きの設備／電気・配管などの直しやすい「躯体」／会議室／救護室(簡易ベッド等設置)

【その他】外観のコンセプト／なるべく外観は低く／こんな事をやる←→こんな設備　この議論のすすめ方で良いか／簡易ベッド／楽屋とホールの有機的な配置／お金を極力かけない／救護室ベッド／お金をかけない、大理石等は使わない／大きな美術的コンセプトを早めに決定したい

3班

【舞台】字幕設備が必要／字幕スーパー
【ホール】内装は木質系が良い(雰囲気として)／ホールトーンの考え方だが、音響設備だけでは解決できまい。特に冬場の厚着はタブーなのでクロークをしっかり。／木象嵌や寄木細工などの床に使う
【楽屋】楽屋まわりに音出しできるスペースが欲しい(ピアノ付き)／近代的な楽屋が必要。大、中、小／シャワー室／練習室／楽屋毎で室温調整して使いたい／タタミの楽屋
【ロビー】ホールロビーはゴージャスに？美味しいワインを飲みたいネ！／ミュージアムショップ／休憩室、喫茶コーナー／ロビー以外にもお客様の待機できるスペース／50～100席程度のカフェ(駅前はレストランは多いが、カフェはそれ程多くない／案内所キップ売場
【搬入】大道具、小道具、人の動線を考えた搬入口にする／舞台後方からの搬入／搬入・搬出に必要な間口と搬入路の確保が必要
【舞台設備】簡易的なオペラができる設備は欲しい。そうなるとオケピットは必要か？／舞台装置 舞台機構の充実
／オーケストラピット／客席、舞台までの距離が近いとよい／設備の更新しやすい／映写設備(プロジェクター)／音をきれいに聞きたいし、少しの揺れでも集中をさまたげられるため、固定席が良い
【座席】座席の前後をゆったりとってほしい／＋α高級感のあるもの／メンテナンスしやすい材質の座席にしてほしい。／車いす、ベビーカースペース／車いす対応の席が必要／座席はチドリ／バルコニー
【大ホール系機能】【活動・事業】オーケストラ、オペラ等音楽会は劇場には大ホールが必要／NHK 紅白歌合戦などライブ、あるいは TV 鑑賞／演劇の公演(プロもアマも)コンサートなど／小田原でオペラ／若い世代を対象としたコンサート／市民参加できる各種ワークショップ／チャリティーコンサート／ひらかれた市民ホール
【機能・諸室・設備】音楽フェスティバル／ミュージックストリートのような市民の音楽イベントの会場にもなる／映画会(映画祭)／本物を鑑賞できる／ファッションショーなども／子ども達が本物の生の舞台・音楽を鑑賞できる／車いす対応客席は 20 台以上必要ではないか／メインホール、大楽屋１室、中楽屋２室、小楽屋２室、楽屋事務室、専用入口、アーティストラウンジ／吊りもの設備は動力式が良い(事故数や人件費用をかんがえて)／子ども用いすがホールにほしい／「クローク機能」上下式もしくは回転式のハンガーは便利で小スペースで事足りるかも／オーケストラピットは掘込み式で良い(スペースと費用のことから考えて)
【創造系・支援系機能】【活動・事業】リハーサル必要／会議や打合せ／スタジオが必要／各種の公演が開催されていない時に良い音楽をオーディオで試聴できる所が欲しい。／劇団との打ち合わせ用会議室／茶会ができると言い／美術サークル活動 ・絵画教室 ・デッサン会／会議室+練習室+スタジオをトータルで考える
【機能・諸室・設備】円卓型会議室／広いロビー／←平日は販売できるテントを出したり、パフォーマーがパフォーマンスできたりしてにぎわいにつながる／主催者控え室は会議室兼用とする／会議室の総数、総面積／リハーサル室、スタジオが必要／体調を悪くされた方が一時的に休めるスペース、ベッド／おもちゃ、絵本など備えた託児室／授乳室が欲しい／託児室があると助かる／託児(一時預かり)民間だと工学なので 500 円程度で／アトリエ・工作室、美術と舞台美術の制作にも利用／休憩室も設置されると良い。具合の悪くなられたお客様・利用者全般用。たたみが良い。／大きな荷物などを入れるためのロッカー、お客様用／劇場専用できれば各ホール毎 託児ルームプロのスタッフ常駐無料で利用できる／観劇等の目的でなくても市民がふらっと入れるフリースペースがあると良い／演者の宿泊できる部屋／防音・防震／「防音ですが」カベだけでなく、厚手のカーテンで吸音できることで少しは解決できるかも
【展示系機能】【活動・事業】会議、ワークショップ、子どもの参加／学校の書道や小田原ちょうちんの展示／神奈川県内の巡回展／市民ホール展示室を会場に加え、久野・片浦の丘陵地帯でアートフェアを展開／ダンスの練習室にも使える鏡、バー／美術館・市民ギャラリーとしての位置づけ、学芸員を置き自主企画を開催して欲しい／小ホールと展示ホールをケースバイケースで「シェア」する(使用・利用)する方法考える／バックヤード 200 ㎡(作品の一時保管、審査 etc)／床は木で考えて欲しい
【機能・諸室・設備】小会場向け作品ができるよう天井を高く暗室にできる／平面作品用の展示パネルは上質のモノで永く使用できるのが良い／展示物のサイズを問わず、良い照明環境は天井全体が柔らかい間接照明が理想。スポットは移動式で!／木のフローリング／いろんな展示に対応できる移動壁／集中できる、静かにできるシステムを作る／展示物によっては入場を規制する／天井高(平塚美術館位の高さがあればよいと思う)／展示スペースでの発表(演劇・人形劇・音楽)できる工夫。平土間、ひな段の運び込み、壁にカーテン(暗幕としての)／床・壁は汚れに強い素材を使ってください／←汚しても汚れを落としやすい／安らぎを与える空間造りの作成
【小ホール系機能】【活動・事業】小ホール、展示室の用途を共有することがらばかり考えず、芝居・音楽・展示、それぞれに特化したスペース作りから発展した共有性を考えたい／固定席とロールバックでどちらがそれぞれ音楽・演劇に有利か／小劇場向け作品(人形劇・コンサート)／市民が使いたい時に利用しやすいシステム。積極的な市民参加／小中学校の利用、えっさホイの練習、市民サークルの利用／子どもたちが本物を鑑賞できる事業(演劇・音楽両方)／小規模での音楽会、演劇会／「発表会」などで気軽に使える。／歌(室内楽)／映画会(映画祭)／Pf、Vn、弦楽(室内楽)／「小ホール」大ホールでは出来ない小編成のジャンルを問わないコンサートを、良質の音場域を創設してほしい／幼稚園や学校に使用してもらう
【機能・諸室・設備】平土間になる可動収納席／映写設備(プロジェクター)／舞台装置設備／小ホール専門の搬入口が必要／ロールバック式の設備が不安／固定段床の客席だといい(広く手軽に芝居が出来る空間がほしいから)／"芝居小屋"として演出できる空間だといい。小田原に芝居小屋を！！／ロールバックにして打上げスペース確保／可動席にするなら絶対にガタつかないもので／内装、寄木細工風／設備の軽量化、照明、音響パネル、座席、etc／小ホール用にロビーとして使えるスペース／楽屋の近くに音出しできるスペースが欲しい(ピアノ付き)／音楽を楽しむ内装は木質系が良い(雰囲気として)／空間を保つメンテナンスしやすい壁にする／楽器を収納する場所／楽屋毎に室温調整できること／楽屋、近代的、給湯室／展示の利用を考えて、移動パネルを用意して欲しい。／小ホールの・楽屋、中 2、小 2、楽屋事務室、専用入口。近くにスタジオが欲しい。大ホール近くではスペースがとれないから。
【交流系機能】演者としての障がい者の対応／打上げの出来る場所／市民ホールで行った催し物やその際に用意、使用した設備を、見ることができる PC および書室←川口にあるメディア・・・(名前忘れ)の成功例／客席階段の巾 ・90cm以上 ・高さ(階段)18cm以下 ・イスの巾 50cm必要／カフェ・レストランがほしい／演劇の台本などを読みながらくつろげるカフェ／芸術に関するライブラリー／ミュージアムショップ／カフェ／情報ライブラリー／カフェコーナーの充実を願う。東京・横浜などのオシャレ感を！(東京・横浜に行かなくても)／市民を中心とした作家や芸術家の作品を常設できるスペース 期間を区切ったフリーマーケット機能／玄関はロビーでオープンなサロンコンサート等ができる。お茶も飲みながら外から見える。
【管理系機能】大道具の収納場所を設置／大道具の操作室の場所、上から下へ／ホール全体の冷暖房ではなく客席の背面に空調をつける
【その他】スロープ／女性用トイレ(新橋演舞場並)／女子トイレを増設すること。トイレに鏡をつけないことで、使用時間が短縮され混雑しないだろう／傘をホール内に持ち込ませず(空調的にも不可)外で処理したい／入口まわり 会場前に並ぶ列を納めるスペースを十分に／駅から市民ホールへのアクセス、通りの整備、街路樹等必要

4班

【大ホール系機能】【活動・事業】プロ・アマチュア、演劇・音楽の団体に来てもらうため／舞台の広さ 70 人オケぐらい、200 人合唱団／映画の上演 ・映画会 ・自主上映／市民の文化活動の発表の場 ・音楽フェスティバル ・小田フィル ・こゆるぎ座 ・映画祭／様々な演目に対応するため／ロビー広く 休憩時間にくつろげる、話しができる／質の高いものを観たい、聴きたい、プロをよべるホール／稼働率のよい大ホールが良い
【機能・諸室・設備】搬入口袖直結／舞台の広さ 合唱祭でも対応できる／親子席(キッズルーム)／トイレ 男性と女性で左右は分けて、女性がトイレの前に並ぶ姿をみせないようにする。女性の個室の数を増やす。／リハーサル室の整備(大ホールの稼働率をよくする為に)／音響反射板 音楽にも演劇にも対応できるもの／託児室(必要のない時は別の目的で使用可とする／授乳室／左右対称のオーソドックスなシューボックス型／スクリーンプロジェクター／大きな楽器の倉庫／活動団体が自由に使えるロッカー・倉庫(予約制)／出演者用のトイレ・水場
【創造系・支援系機能】【活動・事業】コスプレイベント 写真撮影会／リハーサル室のマルチ利用を考える／300 ㎡くらい／窓のある展示室
【機能・諸室・設備】マルチメディアルーム→映像の加工／市民が使える ・工作室 ・美術室 ・アトリエ／リハーサルと展示のできる多目的ホールが必要／すぐ来てすぐ使える／若い人が気軽に使えるスタジオ、ライブにも使える／若い人がお金をかけずに発表もできる場所に／余裕のあるバックヤード／マルチスペースをつくる。リハーサル、小ホールで平土間利用しない人も使える。展示もスタジオ公演もできる。／マルチスペースは最低、大ホールの舞台と同じ大きさが必要／マルチスペースを作れば小ホールの可動席はいらない。固定席。よって、初期投資、年間のランニングコスト、メンテナンス代が節約できる。
【展示系機能】【活動・事業】作家・作品の魅力に触れる ・トークショー ・参加型ワークショップ／外部の人を呼べる、展示もできる／今度、市民が広く文化にふれる場所にしたい／・年に何回かお金がとれる ・お金をかけずにする／いつも何かが展示されていて行ってみたくなる／ロビー内にも作品の展示をできるようにする／現代アートを楽しみたい／お子さん向けワークショップ／楽しいアートの魅力にふれられるイベント(公開アトリエ ワークショップ)／あまりお金をかけずに文化にふれられるスペースになる
【機能・諸室・設備】搬入口 床しっかり 照明／ガラス張りの外壁とし、歩いている人も絵画・彫刻などがみられる工夫／ライブラリーコーナー／小田原伝統の作品の展示／現代アート、人がよべるもの／天井の吊り作品可能な機能／日常的に誰もが自由に居られる場所としたい／一年中展示で埋まっている、にぎわいのある文化の空間となるようにしたい。／インターネットの為の配線／ワークショップのスペース／図書館機能をもつスペース／水場が必要／ミュージアムショップ／作品保護の為の空調、照明設備を／充分な高さの確保、4m／床材は木で！
【小ホール系機能】【活動・事業】音楽会・演劇発表会(質の高いものを！)／小ホールでも良質なものなら人を呼べる／外国の文化を発表、体験する空間／子どもたちに古典芸能を鑑賞させたいという使命／映画会 ・プロジェクター／展示スペースとしての機能も合わせもつのは／市民が気軽に使える施設になる／ワークショップ 子どもに本物を
【機能・諸室・設備】小ホール固定席 舞台の可能性はリハーサルルームでやればいい／固定席で(県西地区できちんとした固定席のある小ホールはない。だから造ろう！／県西地域にまともな小ホールはひとつもない、固定席で。平土間利用はけやきホール、リハーサルルームを使えばいい。／平土間で使うならけやきなど他の場所を使えば良いのではないか／可動椅子で平土間やホールにも対応できる。／市民が幅広く使えるように多目的の平土間に／大ホール(固定)小ホール(固定)多目的室を設け、平土間での活動を保障していく。／200～300 席固定席が良い→ただし 300 ㎡以上、マルチで使える可動式平土間の部屋を充実することが条件／小ホール、多くの市民の活用しやすいことを大事に／将来を見越して、自由なスペースで活用を広げたい／演劇・音楽のため集中できる固定席がいい／固定席の小ホールをつくれば、小田原だけでなく、県西地域からも利用者が現れ稼働率が上がる／映像など多用な展示に対応できるように
【管理系機能】展示作品、音楽機材の搬入確保、エレベーター／将来を見越したバックヤードの確保をする(地下でも可)／充分なバックヤード確保／駐車場(別の場所でも良いので確保がほしい)
【交流系機能】用事がなくても寄りたくなるホール ・ショップ ・カフェ／多言語での文化事業案内所／トイレ ・狭すぎない ・化粧室・更衣室 ・バリアフリー／お城の景観と一体化(ホワイエ・カフェ)／地域との連携の企画／楽屋にたたみ部屋があると多用に活用できる
【その他】駐車場があると便利(外部の人を呼べる)／広い、多い駐車場／自然エネルギーを使って自家発電、風車、太陽光パネル／遊び心がある建物／小田原の森の気をできるだけ使ってほしい。木の文化の発信地になる。小田原らしいホールに！小田原ちょうちんなど／市の窓口コーナーがあるとよい。／交流もでき、ゆったりとしたスペース車いす可

5班

【大ホール】大ホール(視覚)階段、車いす、足の不自由 ①スロープを作ってほしい②トイレの入口、動線複雑、二人で通る、入りやすいトイレ／席から舞台に車いすは上がれるのか→そのままは難しいか・・・廊下なら可能！／暗い時、スロープは危ないので、席と通路の間が分かりやすいようにライトがほしい／席の間が空いていた方が動きやすい／中間に取り外し可能なイスがほしい ／・車いすの場所が両端になってしまっている。 ・できれば、横一列自由なものがほしい。／ホールの入口 スロープの位置を分かりやすい所に／席を取り外した後のフロアーをフラットに／電動振動型のイスを用意してほしい／大ホール客席の階段、手すりが必要。
【機能】調理ができるとよい／会議室がほしい／授乳室は別室であった方がいい／公衆の FAX があるといい／地下駐車場があるといい
【エレベーター】エレベーターは車いすで使いやすく、20人以上の広さ／エレベーターの設置は必要／緊急用エレベーター(舞台の搬入用)／1つは大きめ(20人以上)のエレベーターを／エレベーターの設置は必要、ドアが厚いのでなく透明！！／エレベーターの満室が分かるランプ(文字)がほしい(ブザーが聞こえない)／エレベーターはわかりやすいところに／担架が入るような緊急ルートを必要とする
【トイレ】裏方にも多目的トイレを／トイレのパルプの位置、2 カ所あると便利／トイレの入口は電動にしてほしい、ステップ幅がほしい／高齢介護課の前のトイレがよい／多目的は最低 2 つほしい(男女区別なしで 2 つの方がいい)／トイレは車いすで直進して入れるように／・入った先にトイレ ・入った横にトイレ 見えにくいように(車いす・・・)／トイレの中におむつ交換ベッド(大人)／トイレにいくところに段差ないように／多目的というよりみんなのトイレ／WC 和式と洋式の表示があるとよい。／ボタンの位置等、利用者の声を反映させてほしい／トイレのスイッチが統一されているといい
【段差などの対応】スロープはわかりやすいところに／階段の踊り場に鏡を(音が聞こえない)／雨の時などに停められる駐車スペースがほしい+段差なし／複雑ではなく段差・階段がないように／フラットな形で作ってほしい／車寄せのあたりも段差がないように／事務室なども車いす対応を／段差のふちに目印をつけてほしい。ホールだけでなく、弱視の方には必要／地震の際には避難経路がしっかりと／音声案内、入口の案内
【字幕など】字幕は前に入った方がいい／聴覚。高齢者の方のことを考えると字幕は必要／要約・筆記のスペースがあるといい／将来的には ipad を個々に貸して字幕対応／字幕上演の日は決定してチケットを販売／字幕の対応はプロジェクターで映す(上手・下手)→その場で打って 10 回に 1～2 回／事前に情報を提供して本番を！(ソフト面)／最新は、前の席に字幕が出る、全席にある。

市民ホール基本計画市民検討委員会

WS 5

ワークショップかわら版

《作成・発行》
小田原市
文化部文化政策課
＆ 空間創造研究所

平成23年11月7日

清々しい秋晴れとなった10月23日(日)、小田原市役所7階大会議室にて第5回市民ホール基本計画市民検討委員会が行われました。第5回は市民委員33名、(女性12名、男性21名)、市の事務局スタッフ9名、その他の事務局スタッフ4名、市民ホール基本計画策定専門委員会から桧森委員、勝又委員、伊藤委員の3名、合計49名が参加しました。

急遽追加の検討委員会となった今回は班ごとに第3回、第4回の議論の中で足りなかった所を中心に、引き続き市民ホールに求められる機能を考えていきました。

第５回　「市民ホールに求められる諸室や機能を考える③」

第3、4回に引き続き、市民ホールに求められる諸室や機能についての検討を行いました。
今回は班ごとに第3、4回で足りなかった部分、複数の意見がでていたところを整理していきました。
また、ホールの景観やエコ対策、防災対策、バリアフリーなどについても各班から意見がでました。

１班

★☆★Point★☆★
財団を設立しホールの運営を行う提案がされました。運営についてはホールの開館を待つのではなく、今からでも市民会館や生涯学習センターけやきの展示室を利用して、できることを始めたいという意見が出されました。また、景観や防災、エコについての対策も求められました。

★☆★委員コメント★☆★
・ホールという建物は一度つくると何十年も目にすることになるので、景観は非常に重要だと思います。
・財源やスペースには限りがあるので、どうしても知恵と工夫で対処しきれない部分を補える設備が必要かと思います。

２班

★☆★Point★☆★
展示室の面積について「展示室+バックヤードで400㎡は必要」という意見がだされました。また、スタジオは稼働率が低いこと、敷地面積が足りないことが懸念されるので他の施設との役割分担をして、整備は必要ないのではないかという提案がされました。小ホールについては、音楽重視の固定席多目的ホールではどうかという見解にまとまりました。

★☆★委員コメント★☆★
・スタジオを利用する若い人が出入りすることが賑わい創出となる可能性もあるので、その点も合わせて考えてはどうでしょうか。
・小ホールは音楽重視型の固定席多目的ホールが提案されましたが、今の技術では多目的でもしっかりと音響を担保できます。

３班

★☆★Point★☆★
創造支援系の施設として、サポートセンターの併設や打合せや会議など、ワークスペースとして利用できる場所が求められました。展示室については「展示室400㎡+バックヤード200㎡=600㎡」が求められました。
また、中の活動を外に伝え、通りやまちにホールの賑わいを見せていくことで可能性を広げていく提案がされました。

★☆★委員コメント★☆★
・賑わいをホールの外に伝えるということはとても大事です。建物の中にまちを持ち込む設計が必要になってくると思います。
・市民の皆さんが楽しそうに活動していることが、ホールをまちに開いていくことになるので、とても重要な視点だと思います

４班

★☆★Point★☆★
「大ホール利用者が本番前に利用するリハーサル室」と「市民が自由に使えるマルチスペース」の両方の整備が求められました。また、若い人が音楽や演劇の稽古で利用できるスタジオの整備や、展示室400㎡+バックヤード200㎡の展示室も提案されました。

★☆★委員コメント★☆★
・簡単な打ち上げができる飲食可のマルチスペースがあると使い勝手が良いと思います。
・誰もが100%満足するホールを作ることは物理的に不可能なので、何でもできる場所をつくり、市民の皆さんがその場所を利用して自由な発想で利用していくという想いが、建物全体を活かすことになると思います。

★☆★市民ホール基本計画策定専門委員ミニレクチャーの内容をご紹介します★☆★

勝又委員　～第3回専門委員会会議内容と今後の検討について～

- 第3回専門委員会の感想ですが、市民の皆さんの意見が分かれているように、専門委員の間でも意見が分かれている部分があります。「できるだけ皆さんに使いやすく」と考えていますが、全て100%と言えない部分があります。
- 劇場は相反する部分が多々あります。例えばゆったりとした客席を作れば舞台から遠くなってしまいますし、客席の3階席が怖いという意見もありますが、舞台までは近くなります。様々な選択肢があるので、こういったことを問題だと思うのではなく、楽しんで考えて頂きたいと思います。

伊藤委員　～神奈川県立音楽堂の諸室と活用方法について～

- 音楽堂には最低限の設備しかなく、足りないところは工夫して運営しています。ミニマムな例としてご参照ください。
- 楽屋は和室1室(6畳)、洋室4室(大2、中2)、リハーサル室(90㎡、40名程度、グランドピアノ)があります。人数が多く楽屋が足りない場合は、リハーサル室を楽屋として利用します。また、和室楽屋が1室しか無いため、古典・伝統芸能系は洋室に畳を敷いて対応しています。
- リハーサル室は楽屋の中に付随しているので、ホールを借りると自動的に利用可能になります。本番前の音出し・声出しはリハーサル室で行います。また、2ヶ月前に舞台に何も催しがない場合は、リハーサル室のみの貸出もおこなっています。
- 音楽堂を継続的に利用し、定期的に打合せがある団体には、事務所の棚などの一部を貸出しています。

桧森委員　～使いやすいホール、求められるホールについて～

- ホールでイベント制作を行っている立場から見ると、使いやすいホールと使いにくいホールがあります。主催者側からすると、何事も時間のかからないホールは非常に使いやすいです。例えば、搬入動線が他の場所と重なっていない、スタッフの動線と観客動線がしっかり分かれている、といったことが上げられます。
- 理由は、時間がかかるとホール使用料や人件費なども多くなるためです。そういった細部に配慮できているホールが、市民の皆さんが利用しやすいホールになります。
- 何を目的にホールを運営するのか考えたときに、ホールごとの特徴がでてくるのが創造・支援系の部分になります。例えば、あちこちにホールを訪れた人が座れるイスが置いてあるホールでは、そこを利用する人がいるので自然な賑わいができます。皆さんがホールに集まって創造する、ミーティングすると考えたときに、どの様なものがあったらいいかを考えていただけるといいと思います。

ワークシートのふせん内容をご紹介します

1班

【大ホール】大ホール、搬入口は短く、巾は広く、トラック(11t)の横付きを可能な道路を！／大ホール、舞台を広く！　オーケストラは 100 人、合唱等は 200 人可能な広さを是非確保！！／大・小ホール使いやすさを重視、搬入時間等スタッフの体力をそこなわない様に

【小ホール】小ホールは大ホールの小型、しかしムダのない使い易さを求める／小ホールは演奏、演劇専用に特化(固定椅子です)　他は第 2 小ホールは平土間で多目的用に／小ホールの利用者、小田原市以外で活動せざるをえない環境にいる団体の声を聞いてほしい／いわゆる小ホールは固定席だと、そうでない空間の使い方が出来なくなる訳だが、それでいいのか？空間の使い方としては、幅広い発想で行くべき→可動席スタイル or 平土間／展示の行われているときのワークショップや作家と語る会とかを行う小ホールの在り方。／小ホールの「モンダイ」はサジが投げられて以来、まだまとまっていないので今後も･･･。簡単にまとまるようなモンダイではないだろう。稼働率、コストも含め、詰め！！／"小田原おもてなし隊"のようなチームパフォーマンス集団を作って小ホールで定期公演(笑)

【舞台設備】音響、大道具、照明、制作のプロの方々に「こういうホールが使いやすい」「こういうホールが嫌」というのをアンケートとか取って、プロの意見を集めるのも大切だと思います。

【展示室】展示室は展示専門としてほしい。ゆえに第 2 小ホールのことが存在する。／水場には流す水がゴミが流れないようにアミをつけれるように！／展示スペースで何か別のイベントをやる場合、最低の音響システムが必要。その手の空間は「音」がヒドイ事が多い。「音楽」をやることを前提に。

【創造系】市民へ貸出可能なミーティングルーム、防音スタジオを作る(創造・支援・交流)／工作室はケヤキにあるのでそちらで！／工作室にかわるものを、ケヤキにあるものをもっと充実して利用する／現市民会館に工作室や駐車場、アトリエ、スタジオ、練習室をつくったら／練習スタジオ　小･･･ピアノ、バンド(ドラム含む)　楽器(個人、アンサンブル)　声楽(1 人～少人数)　中･･･たいこ、ダンス(少人数)　ハンドベル？　楽器　大･･･ダンス(大人数)、バレエ、合唱、ブラスバンド　それぞれどのくらいのニーズがあるか分かれば必要な数も分かってくるかと思います／バレエのバーと鏡一面のお稽古室がないと。オーディオ機器付きまで／バレエ・ダンス等でバー付き、鏡付きスタジオ、床リノリウム付き／伝統芸能のお稽古が出来る環境

【支援系】無尽蔵の活動の中で気軽に集まれるカフェのようなものがほしい。アートカフェギャラリーかも！／施設、予約ナシで自由な時間に使えるミーティングルームを(会議室兼用も可)／パソコン等のインターネット施設の利用／事務室に市民をいれるのは利用者の個人情報書類もあるので危険。専用の活動、打合せスペースはあったほうがいい。／ミーティングルーム　※アート、カフェ、ギャラリー　※会議室小 2 コ／登録団体のロッカールーム／サポセンとは違う、この施設を利用する人、団体の名簿づくり。利用料、ミーティングルーム etc／小規模な打ち上げが可能な飲食用の部屋を

【付属諸室】大ホール、小ホール、展示室のそれぞれの搬入口／楽器の保管庫を(有料で可)　是非入れて欲しい！！／楽屋　和室は絶対必要です／大小ホールに問わず楽屋スペースにトイレは作って欲しいです。／カフェはハーバルカフェにするとリラックス＆ヘルシー！(私やりますよー(笑))

【運営】施設の利用料は原則全て有料→ここから料金を区分していく方法、割引、無料等／ホール運営をするための財団や部署(常駐経営)を設けて！／運営は今からスタートできるのでは？

【トイレ】女子トイレはスペースがあるなら、洗面台とは別に化粧スペースが欲しい。(洗面台で化粧直しをされると、手を洗えない人が詰まってしまうので)

【駐車場】大・小ホール及び展示場の概算建坪を算出して駐車場数がどの程度になるか要検討(重要)／決まった範囲、他に決まった条例、あらゆる制約の中でそこを考えながら中身を作っていくことを考える。理想と現実の兼ね合わせ。／ホールとお堀の地下に駐車場をつくりつなげる。

【外観】もう具体的な箱の案(サイズ・デザイン)の話も欲しい。

【景観】外観　小田原城三の丸小との共感／お堀の環境にマッチすること！(ガラス張りは不可)／シンプルな外観で充実した中身。／屋上から城をみる屋上庭園、又、エコ施設を多いに使う／そのサイズの土地の中に建てる建物の面積(サイズ)はおのずと大体決まるであろう。その場合、天地のサイズもおのずと出てくるとおもうが、その天地の長さはどのくらい？(地上何m+地下何ｍ？)／こもれびのある広場と東屋。そして次に野外展／前庭のスペース(サイズはともかく)そこでもなんか出来ることを考える(ex:テント張って WS、イベント、バザール、フリマ、etc･･･)

【エコ】電力　ソーラーシステムの設置も一案(メンテナンスがかかるか？)／文化センターとして文化の発信地、小田原のエコカーの発車場／エコ配慮の施設とする　21 世紀の必須条件と思う／トイレでもエコ対策を！！／インフォメーション様にその電力は風力発電！プロペラをアートにしたら！／屋上というスペースを上手に使いたい。ガーデン、ソーラーパネル　etc･･･。エコな感じのスペース／風力発電のプロペラがアートであったら！屋外に展示(インフォメーション)／雨水をためて利用する

【防災】津波の避難場所　・帰宅難民対応／避難誘導、緊急時の対応がきちんと出来るスタッフが常駐していること(スタッフの研修が必要)／避難者の受け入れどうするか。緊急時の対応をきちんと決めて、混乱のないように(市レベルでできめなくてはいけない)

2班

赤字だと南足柄のように閉鎖になってしまう／小田原市の可動人口を考慮することが大切だと思う／大ホールにリハーサル室(ウォーミングアップ)のためのスペース／小ホールには楽屋・リハ室兼用で良い。防音できる／楽屋等にバリアフリー十分な考慮を／バンド系スタジオは別の施設で良い／400 ㎡を平場にしておいてその他の機能はパーテーションで／災害時に広くつかえる設計も／名の付かないフリースペースの方が良い。／守っていく文化⇔育てていく文化「○○のまちへ」／今の文化活動か未来の「○○」のまちへか／庭園設計は設計図の初期段階から公園全体の景観と合わせて／前庭、防災上なるべく広いスペース／鎌倉(藤沢？)に新しくできた武田の設計所は、全て津波の高さや向きを計算されて作られています。

3班

【大ホール・オペラ】やりたいオペラ　フィガロ、魔笛、椿姫、ヴェリズモ 1 幕物　オルフェオ　ヘンゼルとグレーテル　アマールと夜の訪問者

【小ホール】小ホール　音楽と演劇の両立、くれぐれも／小ホールは固定式で音響の良い本格的なものが良い(藤沢以西で唯一のもの)／第 2 小ホールはリハーサル室とし、マルチスペースで平土間客席や舞台を自由に配置することが出来、多彩な演出が可能、発表会やコンサート、演劇、展示など幅広く対応できる。練習室としても利用できる。／大ホールにしても小ホールにしても充分なバックヤードが必要だと思う。

【展示室】展示室を何に使うか　①洋画　②日本画　③書道　④写真　⑤商業美術　⑥水彩　⑦彫刻　⑧オブジェ　⑨工芸全般　⑩陶芸　⑪華道　⑫茶道　⑬伝統工芸　⑭コンテンポラリーアートとすると･･･／展示室は小さくてもコンベンションルームと考えれば展示専用が相応しいかも。／展示室の天井高は高ければ良いとは思えない。冬と夏の温度管理をしっかりできるほうが快適な鑑賞が可能だろう(温度対策)／展示室は美術館的機能を要求するには無理がある。／200 ㎡バックヤード、インターネット配線、プロジェクター(天井から吊せる)、400 ㎡、天井高 4m／市民ギャラリー真白なカベの大きな部屋／展示施設は市民ギャラリーの名称にしてほしい。／西相展 10 月　市展 5 月　スケジュールかち合い大丈夫そう／展示ギャラリーは市民ギャラリーの名称にして欲しい／☆呼称「プレゼンルーム」or「コンベンションルーム」／展示はどこでも出来るというわけではない。背景となる壁面の仕上げが重要。従って小ホールでの展示は良くない。／現在の市民会館小ホールを改装して展示スペースにしたらどうか？

【リハーサル室】リハーサル室は第一に大ホールのイベントに特化する空間であって良いと思う。スケジュール組みによってリハーサル室のみの使用やギャラリーとの同時利用が出来ると良い。★大ホールで大人数が動くイベントは大きな控えの空間が必要だから

【創造系施設】創造系施設での活動が通りから見える「にぎわってるなあ」／練習室は防音両方出来るか？／練習室も密室でなく、外部からのぞけるオープンな雰囲気が良い。／会議室という名称はやめる／作業室、打合せ室、ワークショップ室／奥行 45cmの折畳み机は使わない／キャスター付き机の奥行は 60cm／打合せ机は 10 人が座れる楕円机／部屋の周囲に奥行 60cmの作業台を作り付け(2～3 室)／学校の教室方式はだめ(フリースペースにキャスター付き机で対処)／無線 LAN 設置／薄型 TV 設置(プロジェクター代わり)／主催者室はこれで兼用／打合せや簡単な稽古等を通りがかりの人々がショーウインドウ的に見られる空間があると良い。閉じていない施設。／練習室、アトリエ、会議室、ラウンジ　利用者が気持ちよく創作活動を行うことが出来るスペースを／タテヨコ比は 1:2　タタミ 1 畳 1:2　タタミ 2 畳 1　タタミ 3 畳 1.5　タタミ 4.5 畳 1　タタミ 6 畳 1.33　タタミ 8 畳 1　A4 1.41／・打合せの部屋　・会議室　・ワーキングスペース　・フリースペース(テーブル、イス)／現市民サポートセンターを移す

【交流系】共通ロビーはどの方向に面しているのか、もしお堀端の方向ならオープンロビーなども良いかも　エントランスとする／レセプションルームが必要　100 人程度が交流できる、小規模だが天井の高い、拡張ある心地良い空間で／打ち上げパーティー、ミニコンサートなどにも使用出来る

【広場・景観】ホールの前面(堀端に面する所)は何車道より 30m位後退するようだが、ホールから見て借景として利用できないか／広場はミュージックストリートを毎日+オープンカフェ／スケールに関係なく毎日何かやってる市民ホール！／カフェ(異食)多く作ろう／バーもいります／海のみえるバー／ホール全体を巡る道に出来る限り素敵な案内掲示塔を設置したい／ラウンジをイメージしたカフェをお城が見える方角につくってほしい

【景観】海のみえる場所を確保してほしい／高さと景観は基本構想案で可

4班

【大ホール】ピアノは大ホールだけでなく、ロビーや展示室にも移動できるようフラットな設計にする。／大ホール、小ホールにはリハーサル室を使いやすいところに設置する

【小ホール】固定席 300 席

【リハーサル室】120 ㎡／大ホールと小ホールに付随する本番前のリハーサル専用。／若者のイベントが練習できる場所／ピアノのある楽屋／楽屋は大ホールと小ホールそれぞれ別に設けることが必要だろう(同時開催の事を考慮)／リハーサル室は、リハーサル、練習として使う。

【マルチスペース】300 ㎡／小ホールは演劇と音楽が両方できるものをつくる(今、音楽利用が多いからという理由は関係ない)／打ち上げをする場所がほしい／マルチスペースは打ち上げ、創造の場。何をしてもいいスペース。食事ができる、汚してもいい場所／若い人が気軽に楽しめる防音スタジオを、4 部屋はいる。／レセプションができるスペース／飲食もできる場所としても使えるといい(打ち上げ)／大ホールの舞台リハーサルとして使用可能なスペース／交流スペースとして多目的ホールでは簡単なパーティーができるようにしたい。／マルチスペースは音楽・演劇の発表会として使ってもいい／マルチスペース(大ホール舞台と同じ大きさ)と練習室、教室、防音／マルチスペースに可動観覧席は必要ない。必要に応じてイスを置けばいい。その倉庫が必要。

【展示室】400 ㎡以上　バックヤード 200 ㎡／展示室、展示スペース 400 ㎡+バックヤード 200 ㎡／企画展ができるような広さの展示スペース／平面・立体・映像など多用な展示可能なスペースとしたい／専門家による計画的な運営をしていく／今度の多用な展示活動の為に十分な広さのバックヤード(三ツ山案)の 400 ㎡に対して半分／展示と音楽がコラボできるようピアノが入るようにしておく(=バリアフリー)

【その他】市民が自由に使えるスタジオ(音楽・演劇・バンド・太鼓)4 部屋は必要／企画創造室／・ロビーで生演奏を聞きながらお客さんにくつろいでもらえる　・作品を見ながらピアノ演奏を聴けたらスバラシイ！！／若い人が集える機能が大切(ホールの利用を広げる層の育成)／小田原の自慢できる景色を楽しんでもらえると良い　海、お城／1 階にオープンカフェがあるといい。／駐車場はホールから近くなくても安価で使える場所の確保はできないか。／市民活動の場となる「サポセン」の機能を設けてにぎわいを／同日に他団体が出演する時は楽屋→舞台などの移動時に混乱しないように動線を考える。

★☆★ひとことアンケートの一部をご紹介します★☆★

・4班のマルチスペース：市民が何に使ってもよいスペースというのは、よい考え。・3班のオープンカフェ：にぎわい、外からホールを見るという考え、賛同。・2班のリハーサル室等の室の名称の固定化にまどわされないに、賛同。・1班のエコ、防災、非常時を考えていくに、賛同。常に思うのが、この立派に作るホールを誰が運営、事業企画するの？できてから決めるの？？／話し合いを重ね、かなり具体的な市民ホールの姿が見えてきた。「広く市民が集い、若い人たちにも親しまれ、企画で外部に発信することで、町に活気が生まれる」市民ホールが文化創造の拠点となるような気がします。展示スペースの400㎡確保。展示スペース外に200㎡のバックヤードは確保したいと思います。／ホールロビーが「にぎわっている」状況とホールそのものに人が来ていると「にぎわい」は同じとする意見があるが、おかしい。ホールの「にぎわい」は基本的に「ホール」運営企画次第でロビーが「にぎわい」とは「ニゲ」の対策では？／議論も大部につまってきたように感じます。もうすこし諸室について話し合った方が良いように思います。

★☆★第６回市民ホール基本計画市民検討委員会★☆★

日時：11 月６日（日曜日）

午前 10 時から 12 時 30 分

場所：小田原市役所３階全員協議会室

「市民ホール・運営や組織を考える！」

ミニレクチャー：桑谷委員

市民ホール基本計画市民検討委員会

WS 6

ワークショップかわら版

《作成・発行》
小田原市
文化部文化政策課
＆ 空間創造研究所

平成23年12月1日

11月6日(日)、いよいよ最後となりました、第6回市民ホール基本計画市民検討委員会が小田原市役所7階大会議室にて行われました。第6回は市民委員27名、(女性8名、男性19名)、市の事務局スタッフ9名、その他の事務局スタッフ4名、市民ホール基本計画策定専門委員会から桑谷委員、合計40名が参加しました。

7月から5ヶ月にわたり市民検討委員会を行い、市民ホールの在り方や望まれること、またこれからクリアしていくべき課題が少し具体的に見えてきたのではないでしょうか？

第6回　「市民ホール　運営や組織を考える」

最後の市民検討委員会では、可児市文化創造センターなどで行われている市民参画の事例を参考にしながら、市民ホールの運営にはどのような組織や人員が望ましいのか、またホールの外観や景観、防災機能について中心に検討を行いました。

特に、「施設運営に係る権限と責任の重さについて」、市民の皆さんがどういった形で関わって行くのかについて議論が交わされました。

1班

★☆★Point★☆★
施設の管理運営について、「市民がどこまで責任をもって管理運営に関わるか」について議論されました。また、「今できること」から始めるために、市民会館やけやきなどの活用、そのための運営組織の立ち上げについての問題提起がされました。

★☆★委員コメント★☆★
・運営組織にどう参加するか、プロの職業として運営に参加するのと市民がアマチュアで参加するという二つの運営団体を考えた場合、責任の持ち方、役割、権限が違ってきます。有事の際の経営責任がとれるのか、対応はどうするかなど、職業として携わっている人には相応の重さがあります。また、施設管理に関しては消防法を理解していないとなりません。

2班

★☆★Point★☆★
設計に関して、設計者選定や外観に関して市民の意見が反映できないかとの意見がありました。芸術監督などの専門家については、どういう役割の人が必要なのか、予算を含めきちんとした検討が必要といったことや、芸術監督の場合は市民が人選に参加できないかといった提案がされました。

★☆★委員コメント★☆★
・設計者選定の理由や経過を市民がわかるように公開するのは、最低限必要なことだと思います。
・審査員と設計者が、いかに市民の皆さんの思いを実現に向けていくか。それには皆さんの思いを訴えていくことが必要不可欠です。市民の設計への関わり方は大きな検討課題ですが、ある程度専門家に委ねることも必要ではないでしょうか。

3班

★☆★Point★☆★
市民参加の形として、有償ボランティアと無償ボランティアの階層を分ける必要があるのではないか、そして、いずれの場合も専門家は必要不可欠であるという意見がでました。また、現在ある文化サポーターを補強し、協働していけないかという提案がされました。

★☆★委員コメント★☆★
・市民サポーターの在り方は、基本的には「楽しんで続ける」雰囲気をつくるということを考え方の中心にした方が、良いのではと思います。そうなると楽しみながら色んなことができるのではないでしょうか。
・市民がNPO組織や裏方として管理運営を行っている事例もありますが、あくまで窮余の策であり本来の在り方ではないと思います。

4班

★☆★Point★☆★
「文化活動は大人の楽しみなので、杓子定規にならずに楽しんで関わっていこう」という意見がありました。また、防災機能については、あまり意識しすぎるとホール建設の目的そのものが変わってしまうのではないか、という懸念がされました。

★☆★委員コメント★☆★
・劇場、ホールには客席や舞台を含め危険な場所が多いという点、また、諸室が分散されているので一体感がなく集団生活が難しいという点から、緊急の避難場所にはなりますが長期的な避難場所にするのは難しいと思います。ただし、文化施設はその後の復興に欠かせない役割を担うので、復興時に文化施設としての役割を発揮していけばいいのではないでしょうか。

★☆★第6回市民ホール基本計画策定専門委員ミニレクチャーの内容をご紹介します★☆★

桑谷委員　～市民サポーター事例　可児市文化創造センター「ala クルーズ」について～

- 「ala クルーズ」とは、基本構想の検討段階から市民公募で集まっていた人たちが創立メンバーとなり、その後、NPO の法人格を取得した市民参加型のボランティアグループです。
- 市民サポーターが集まるための部屋として創造スタッフ室ができました。その部屋は、その施設の中で責任をもって管理運営のサポートをしていくという、固い意志の元で造られていると思っています。
- 机、パソコン、打合せスペースなどが保証されて市民が協働できるようになります。共用ではありますが、印刷室やデジタルアート工房などを利用して広報活動などを行うことができます。施設によっては劇場を造っても市民サポーターの部屋が無いことがありますが、それはホールと市民が協働していく意味では、欠落した考え方だと思います。
- ala クルーズはボランティアですが、施設に対して自立するという思いで年間 2000 円の参加費を徴収し、事務経費などの運営経費にあてています。
- ala クルーズは有償ボランティアとなっています。「ala マネー」というものがあり、フロントスタッフなどをすると ala マネーがたまり、公演等を鑑賞ことができます。
- 当初のメンバーは 100 名程度でしたが、現在は 60 名余になっていいます。当初は企画、広報、支援の3グループに分かれ活動していましたが、再編成し一本化することになりました。
- ala クルーズが立ち上がってから 10 年間の歳月で、創立メンバーの高齢化や新規メンバー参加の少なさがありました。10 年経つとどうしてもマンネリ化していきます。運営に革新的なアイディアがなかったこと、若い人の参加が少なかったことがネックとなっていると考えられます。
- 当初の設置目的や理想を掲げながらも、時が経つとどうしても停滞していく。そこをどうするかがこれからの市民ボランティアの課題です。

ワークシートのふせん内容をご紹介します

1班

【市民参加】青少年を育成する企画が必要／フェスティバルを開催したい。演劇、音楽。／市民参加といえどもギャラは必要。"タダ"で行う文化はNG／新ホールへの登録団体は一般財団法人化する必要性を！（非営利法人への動引 etc）／ala をパクりしてみては。それに岩手県北上市を加えたら／非営利法人の会場費の割引等

【運営組織】自然をテーマにした総合コンセプト／"文化活動の三層構造"／ハイパーな連絡組織（中立的な情報伝達組織）、主体としての目標をもった組織（ジャンル毎、流派毎）、具体的なイベント毎の組織、送り手の組織化と受け手の組織化、つなぎ手の組織化。／施設管理者、直営 orNPO、館長、芸術監督、自主事業、貸館、市民参加／NPOなど市民の団体が管理者となるのであれば、全て自立して運営できるよう人材をそろえる必要がある（何でも行政頼りという意識でいてはだめ）／市民が団体を設立して運営主体となることにこだわらなくても、JV（共同企業体）や市民サポート組織など市民参加の方法はある。／住民自治の街（自治基本条例との整合を）／体を使って行動できる企画担当の設立を。／市民を運営、指導する等する事。内容は桧森委員長に！／芸術監督は必要／芸術プロデューサー（監督？）を〇年契約してスパラシイホールにする（日本一に）ソフト的である（運営システム）／名プロデューサーのいる組織。→個人ではなく、市民の合意で／文化団体個人のネットワークのデータベース「文化市民ハンドブック」をつくる／重なり合う関係による文化のネットワーク。市内⇔郊外

【運営システム】年中無休が基本。時間は 22:00 までインフォメーションを／託児サービス 0～3 歳の子を預かるのなら専門スタッフを入れること！！／市民が使える料金に。／24 時間運営

【防災】非常時にきちんと対応できるよう、きちんと訓練されたスタッフが常時いること（市でも防災の体制や役割分担をしておく必要がある）／津波が来た場合の逃げる所をどうするのか。小田原城なのか、ホールの屋上なのか

【景観】本来の小田原城が八幡山であるならば今の小田原城は？この新ホールは金、昔の小田原城の"くるわ"がみえるように

【その他】環境配慮の設定を基本にする。／現約 20 万人が 15 年度ぐらいは 15 万人ぐらいといわれます。現状維持できる都市にするにはー。ホール運営は。／コンペのやり方、審査も／素人が参加できるレベルでのコンペを／保安（カギ・・・）や空調など、分割管理できる建物の設計

2班

【市民参加】常に市民に情報を開示、参加できる／この検討委員会でイベントをやりつつ運営に活かす／建物の一部をワークショップでアートにして欲しい。

【運営組織】専門家とはアートマネージメント資格所有者／運営していくオーガニゼーションをどう使っていくか、彼らが、どう動いていくかキチンと設定していくべきである／運営組織は専門家と市民運営希望者数人によって構成すべき／早めに運営組織を立ち上げ、建築家と相談しながら、使い勝手のいい、運営ビジョンにあったホールをつくる。／芸術監督は予算があれば、いてもらった方がよいが、それも公募にしてほしい。／・芸術監督 ・芸術アドバイザー ・館長 ・ジェネラル・マネージャーetc その空間を担う、「肩書き」を出す必要があるであろう。

【運営システム】個人でも借り易く使用条件をがちがちに縛らない／小田原のことだけを考えるのではなく、2 市 8 町、全国に向けた運営ビジョンを考える。／一つの組織、文化に偏らない運営組織を／文化所属団体の優遇措置をなくし、各事業単位で考えていく／施設の使用において、既得権を廃し、平等に使えるようにしたい。／学割、利用者を広げる（使用料）／使用のルールについては、新しい「マトモ」な物を設定する。「フェア」さは、重要。

【防災】地震想定を高く設定して欲しい／落ちない天板／前庭はなるべく広く（お客さんの一旦集合出来る場所）／「防災の設備」は現在の常識的なコトで大体決まるであろう（それはどの程度のモノ？）最低限OKならいいでしょう。

【景観】結局、建物自体のサイズ（立体物）は、大体、決められるであろう。→高さが大体決まる→地上何メートル、／地下何メートルにするか決める必要あり。予算分け！／大手門の復元をするのであれば、それも念頭にいれたデザイン／「建物」自体のサイズ（大きさ）は「予算」で自ずと決まるであろう。そうするとその容積の中に、何が入れられるのか、大体出るであろう→結局どお？／高さはなるべく低くしてほしい。

【設計に対しての市民意見】設計者には、小田原城の歴史をしっかり勉強して、尊重してほしい、謙虚であって欲しい、／「建物」のデザインは無論、重要。「マトモなデザイン」をどう実現させるか？プロセスをどう公開し、フィードバックしていけるか、そのシステムを設定／設計段階で市民参加を考えてほしい／全てのコト、モノに関して「名称」「ネーミング」は重要。今後詰めていく必要。（この建物全体の名称しかり）／設計コンペ案決定時に外観について市民参加の形がとれるようなシステムをつくる／寄木細工など（トイレ）使って下さい 例：ラスカ

【その他】小ホールは木のホールにしたい。小田原の特色を出す音楽、演劇、両方できるものに。／「小ホール」のスペースをどんなモノにするのか現時点でまだ「未定」であろう。今後キチンと詰めていくしかないであろう／この建物は、ホール 2 種+展示スペースがメインだろうが、その他のスペースもさることながら、基本的コンセプトは市民が集まる広場、情報インプット＆アウトプット・センター。様々なコト、モノの交流の場でしょう。そのためには、何が・・・？／市民文化祭のお金の収支をデータできちんと情報開示してほしい→今後の運営に反映するため／予算（建物）はなるべく安く／極力地元の業者を使ってほしい／結局「予算」ってどれくらい？それで、スペース自体ソフト自体の規模が出てくるであろう。（「シバリ」がある、ということ）／夜の照明は小田原ちょうちんをデザインしたものに

3班

【市民参加】市民参加にはちゃんとしたシステム（組織）を作る必要あり／現行の文化団体と連携、組織化しての市民参加（ネットワーク）／市民の文化への「愛着」がベースになった、小田原ならではの組織／無償ボランティアでは続かないと思う／今の「文化サポーター」「レセプショニスト」を更に深化させていく／無償ボランティアをまとめ、管理する有償ボランティアが必要だと思う／市民参加は市民意識の持ち方、考え方、その程度によって左右される／新しい催し物の打合せ、相談ができるような ・スタッフ室 ・フリースペース／活動には不要な物品を置いておけるロッカースペース／責任を負う分有償であった方が良い。

【運営システム】市民利用の申し込みを最優先する／スタッフは全くのボランティアではない方が・・・／スタッフルーム、いつでも利用できるところ、詰め所がほしい／小田原が県西の中心、小田原に関心を呼び込もう／市民が利用しやすい利用料／市の広報誌にホールの催し物を宣伝する。

【運営組織】円滑な運営は専門知識層のリードが必要となるのでは・・・／「友の会」／鑑賞する組織としての友の会／ホールの広報誌を作る／それぞれの専門分野を活かし、多用な市民団体が市民活動ができる組織／専門家が先導するような催しを企画する運営組織

【防災・景観】小田原ちょうちんをかざる／ホールに入って非常口が一目で分かる案内板が欲しい←非常口までの避難ルートの案内も／立地場所が四方に開けているので、基本的防災対策を押していけば余分な考えはあまり気にしないのでは／小田原の歴史を感じる外観が良い／「城」と「緑」と一体になった心地よい空間に！／当たり前の事だが、城跡に溶け込む小田原ホール構想は不可欠／景観：城のみどり、広場空間と一体的にみどりの配置、広場づくりの計画を／ホールの中からお城の景色が楽しめる／景観：賑わいが通りにあふれる工夫／駅を降りて会場までの間にホールのフラッグを設置（催し物の案内）／景観：圧迫感を軽減する工夫をする。（立面の分割など）／景観：ハレの日の施設→適度な華やかさ、貫禄。／ポスターを貼れる場所／津波のことを考えるとある程度の高さは必要／ホール利用者が一時避難できるくらいのスペースが必要

【その他】商店街や周囲の自治会もホールに興味を持って、盛り上がって欲しい／みんなが気軽に入れるような入口／土地の有効利用（敷地）を最大限に生かせないか？制約多すぎる。

4班

【運営組織】組織の中心は市役所／協調する協力者／運営組織はいまから立ち上げるべきです！（民主体、官+民など）／運営-組織としての機能、企画-催し物の内容、洋和／財団設立には国策から推進できるかどうか？／運営は専門職にゆだねることが望ましい

【運営システム】責任の在り方→役割／ボランティア→フォロワー、協力者／料金設定が大事／協調／本格的な運営はプロ、市民がサポート／大人の遊び、年会費は 10,000 円（上限なし）／サポーター支援する事、手助けとしては違う、もっと重たい意／市民参加の楽しみ、会費負担／ホールでの公演活動運営も？／文化活動は大人の遊び、費用、会費

【市民参加】現在できる事／将来的なもの夢／子供会、ジュニアリーダー等、小・中・高生からも企画、意見の聞ける運営、サポーターになれるとよい／鑑賞する市民、友の会（会費）を納め、チケット先行予約や割引などがあると参加できる／小田原の広義のデザイン力を高め、広報のお手伝いがしたい

【防災・景観】津波の時に逃げられる屋上スペースを作る／地震、津波対策をホール建設にどの程度反映すべきか？意識しすぎはホールの本来の建設（構想）を阻害するかも。／太陽光パネル、発電パネル設置、防災

【その他】市民として（参加して）楽しむこと／市民検討委員個人として何ができるかが重要／場と仲間があればミッションは達成できる／託児室あるいは託児に利用する予定の部屋にトイレと洗面所があるとよい。

★☆★ひとことアンケートの一部をご紹介します★☆★

今から"新ホールオープニング"のイベントを企画することが必要なのかなと感じた。／使用料金が高くなりすぎない料金設定を考えてほしい／多様な意見が出るなごやかな雰囲気になって来た。これからの意見統合が楽しみだ。／広報誌ということが出てくるが、現在、各行事のチラシの配布が大変多いのが現状であり、それにより広報が埋没されてしまう恐れがある。／組織の内容はわかりやすいものにしてほしい。運営管理部門の内容と、市民参加組織と、運営管理との協議する評議委員会のようなものの必要性。／結局この委員会の成果は運営団体を作らないと何もできないのではないかということが確認出来たのがよかったのかなと思う。／防災談議は世の風潮から一つの争点となるであろうが、あんまり過分にとらわれすぎると他の必要点を見落とすことになりかねない。専門委員先生方の冷静な判断をご期待したい。

★☆★お知らせ★☆★

◎市民ホール基本計画意見交換会◎

2012年1月9日（月・祝）
午後2時から4時
場所：小田原市民会館3階小ホール

専門委員と市民委員の皆さんの意見交換会を行います。
傍聴は申し込み不要です。直接会場にお越しください！！

市民検討委員と専門委員による市民ホール基本計画意見交換会要旨

開催日時：平成 24 年 1 月 9 日（月・祝）午後 1 時 45 分から午後 4 時 30 分
開催場所：小田原市民会館 3 階　小ホール
参 加 者：市民検討委員 29 名
　　1 班：事業、運営システム、組織、市民参加などについて
　　2 班：施設機能について
　　※参加者を 2 班に分け、前後半でテーマを交換
傍 聴 者：12 名

［専門委員参加者（敬称略）］：6 名

	氏　名	選出区分	所属等
委員長	桧森　隆一	学識経験者	嘉悦大学副学長／文化政策・アートマネージメント
副委員長	勝又　英明	学識経験者	東京都市大学教授／建築学
委員	市来　邦比古	舞台技術	世田谷パブリックシアター技術部長 せたがや文化財団
委員	伊藤　由貴子	音楽系	神奈川県立音楽堂館長／神奈川芸術文化財団
委員	桑谷　哲男	ホール管理運営	座・高円寺支配人／NPO 法人劇場創造ネットワーク
委員	三ツ山　一志	展示系	横浜市民ギャラリーあざみ野館長 横浜市芸術文化振興財団

［事務局］：10 名

［事務局補（コンサル）］：4 名

所　属	氏　名
空間創造研究所	草加　叔也
	橘爪　優子
	中俣　美沙
	瓜生　陽

市民検討委員と専門委員による市民ホール基本計画意見交換会　次第

日　時　平成24年1月9日(月・祝)
13時45分～16時00分
場　所　市民会館3階　小ホール

1　開　会

2　市長あいさつ

3　意見交換
(1) 意見交換前半

(2) 意見交換後半

4　閉　会

ハード系

項目		市民検討委員		専門委員
ホール共通	1班	・小ホールの客席数について。200 席～300 席としている表記と 300 席としている表記がある。大ホールも 1000～1200 席と表記している部分と 1200 席と表記している部分がある。理由を教えてほしい。	→	・300 席としているのは面積検討をする際に大きい数値を採用して検討をしているからであり、300 席で決定したという訳ではない。また、全席固定では無く、一部可動にすることで演出の自由度が広がるので舞台を張り出して利用するときは 200 席、そうでないときは 300 席とできるようにしようという提案でもある。
		・可動席となると質が悪くなるのではないか。	→	・可動席でも固定席と同じ仕様にすることができるので問題ない。 ・大ホールについてはオーケストラピットを使用することで 100 席程度前後する意味で書いている。
		・人口呼吸器を使用する人が客席とは離れた別室で公演を観るのではなく、客席と同じ空間に普通に鑑賞ができるようにしてほしい。	→	・客席を取り払って対応するなど、できるだけのことができるよう配慮する。 ・車椅子利用者でも通常のように好きな席を選ぶ権利があるのは理解できる。
		・大・小ホールの搬入口を別々に設けることと、搬入口を舞台と直結した位置としてほしい	→	・楽屋の廊下をまたぐ可能性はあるかもしれないが、そのように計画する。
		・できるだけバックヤードを充実してほしい。大・小ホールだけでなく展示室にも。	→	・そのように計画する。
		・大・小ホール、スタジオの機能について考え方を伺いたい。	→	・小ホールは客席の前の方は可動するが基本的には固定席、平土間の演劇もしたり、もっと自由に使える部屋を大スタジオとした。前の班からも展示スペースが足りないではないかという話が出ていたが、大スタジオでも展示ができる機能を改めてつけてという話がでた。 ・椅子は固定ではないので労力を使って並べなくてはならないがなんでもできる場所をつくった。 ・大スタジオの規模については大ホールの舞台に準じると書いている。
	2班	・搬入口は各ホールに一つずつは確保してほしい	→	・そのように対応していく。
		・設計者はデザイナーなので、自分の思う形にしてしまうイメージがある。機能を確保してほしい。	→	・演劇には演劇の、音楽には音楽の心地よく聞こえる響きがある。それを設計者には要求し、それを確保するために、専門委員のような立場のものが目を光らせていく。そのバックボーンに市民の皆さんがいることは強い。
		・座席について、贅沢で無くても良いので、とにかく座り易いよう、一席ずつゆったりとした空間を確保してほしい。		

		・中途半端はやめて欲しい。音に特化するなら特化して欲しい。どこにでもある多目的ホールは良くない。小田原のホールでないと出ない音のホールにして欲しい。		
大ホール	1班	・舞台袖をできるだけ広くとっていただきたい。両袖合わせて10間程度確保してほしい。計画に明記せずに、設計者によってぶれることが無いようにしてほしい。		
		・大ホールの椅子の千鳥配置は非常に見やすいので採用していただくよう是非お願いしたい。		
	2班	・大ホールは是非シューボックス形式にしてほしいが、そのように基本計画に具体的に記載してほしい。	→	・基本的には音楽にも演劇にも対応できる施設として考え、空間構成としては1階だけでは全客席数が面積的に入らないので客席は2階あるいは3階になると考える。そうするとコンサートホールのようなシューボックス型ではないことは前提。
小ホール	2班	・小ホールを固定席とし、音楽重視と決められたとのことだが、そのように決めた理由や議論の経緯を聞きたい。音楽に特化し、舞台転換など「表現の自由度を付加する」機能は無いと考えた方がよいのか？	→	・小ホール2つという夢もあったが、現実にはそうもいかずという中で議論し、小ホールを固定席とし、スタジオを可動席とした。 ・小ホールの反射板も可動であり、音楽利用に特化するとしたわけではない。反射板をとれば袖ができ、客席側の残響を調整できる工夫を考える多目的なホールにしていく。 ・平土間で無いと表現できないなど演劇の自由度を確保するためには、大スタジオで対応できるよう大スタジオを今回の位置づけに変更した。 ・小ホールに舞台袖を持たせたのも、施設の規模が小さいので音響を重視したとしても演劇と併用が可能なちゃんとした多目的ホールがつくれるだろうとなった。 ・固定席は、どうしてもという声が強かったことについて、我々も肯定した。
		・本格的な固定席の小ホールが市内にはなく、固定席にこだわったが、そうなっていて良かった。一部可変となっているがどうか。 ・小ホールの集会機能についても考慮してほしい。賀詞交歓会の開催なども現在の市民会館（本館）は担っている。それらを新しい施設のどこでやるのか。	→	・前の部分だけ取り外せることを想定している。その方が使い易い。
		・「残響多め」と記載しているが「音質重視」へ変更をしてほしい	→	・私から専門委員会で申し上げた。空間の音響を決めるのは残響時間だけでは無い。例えば伝統芸能などは残響時間は短めであることが求められる。修正したい。

		・機能図に小ホールの楽屋機能が書かれていない。 ・自分は演劇をしている立場だが、小ホールの固定席化には賛成。やりたいことは皆さん沢山あると思うが、市内には他の施設もあるので、それらを活用させるためにも、色々な機能を求めすぎるのは良くないと思う。基本は、市民会館の代替え施設にリハーサル室など必要な機能を盛り込むと考えていいのでは。		
		・小ホールのプロセニアムは可動か。	→	・プロセニアムの扱いなどは設計の中で解決していく。求めるのは、音質の良いコンサートホールとして機能するホールをつくっていくこと。
スタジオ	1班	・展示室と大スタジオのつながりを重視してできるだけ近づけて配置をしてほしい。展示室で展示をしながら大スタジオで作家のワークショップをするようなときに大移動というようなことはしたくない。	→	・必ずしも同レベルで隣接してということではないが、大スタジオと展示室はできるだけ近づけてほしいと要求をする。
		・大スタジオの椅子はスタッキングとなると思うが、パイプいすではなく良い椅子を採用してほしい。	→	・コストとのバランスになるが 2 時間我慢できるような椅子には必ずなる。 ・今の市民会館の基準でお考えにならないほうが良い。
		・ロールスクリーンなどで見られたくない時は見えないようにできるが、活動を見てほしいという団体が利用する時は外からの興味を持てるような空間が通り沿いにあると良い。大きな建物だと排他的になりがち。何気なくみて次は入ってみようと思える工夫が建物にあると良い。		
	2班	・大・中スタジオの大きさが読み取れない。大スタジオ、中スタジオと言うと神奈川芸術劇場（KAAT）のスタジオしか思い浮かばない。KAAT の様な機能を有するイメージなのか。	→	・大スタジオは、大ホールの主舞台に準じる大きさとしている。半分の広さに 150 人位入れる、いわゆる小劇場の大きさと考えている。 ・KAAT は稽古場を劇場にもしてしまうという発想で作ったスタジオ。小田原での場合はあくまでもリハーサル室という考えを残しつつ、マルチスペースという意見が出ていたので、ある程度の照明などの設備はつくという位置づけで考えていただきたい。
展示室	1班	・展示室は、展示できる面積として最低 400 ㎡は欲しい。でないと現在行われている展示ができないので再考して欲しい。ワークショップなどをする場合はさらにもう少し部屋が欲しい。書道連盟の展覧会も厚木で施設を借りて実施している。ワークショップなどに利用できる室が隣接して使えればいいが。		・使える部屋は沢山あった方が良い。

	2班	・展示スペースだけで400㎡を確保してほしい。それだけの広さがあれば、良い企画ができると考える。運営面かもしれないが、市内で一番大きい西相展が市民ホールでできるように、その時には大スタジオを展示に使え、展示室＋大スタジオで対応できるなどしてほしい。		
設計 敷地 景観 デザイン	1班	・設計・建築に地域の素材を活かすことを基本計画に入れて欲しい。小田原は木の文化が盛んなので、小田原産の材をできる限り使って欲しい。木を活かす小田原市全体の動きもある。特に小ホールは小田原ならではの木のホールを実現して欲しい。前回の城下町ホールは地域の素材を活かすことという文言が要項に含まれていたが、前面ガラス張りのホールが選ばれた。しかし我々市民はそれを否定した。地域の愛着を持つべき。同じことを繰り返さないためにはどうすればよいか。	→	・地域の素材が万能であるかというとそうではない。それはきちんと検討をすべき。 ・今回は市民検討委員の意見として必ず残る。
		・将来のニーズの変化に対応できるような、設計をして頂き、今後設備や部屋の変更可能な設えにしていただきたい。	→	・当然やっていかないといけないこと。
		・具体的な案がないと見えてこない。配置だけでもわかるとイメージしやすく、やろうという気になる。お堀端通りに面してオープンロビーになるということだけでも分かれば。	→	・お堀端通りに面することになると思う。通り側30mはできるだけセットバックするなども言えると思う。
		・小田原は水路と石の町でもある。外壁にコンクリート打ちっぱなしではなく、環境調和を考えるのであれば石を使っていただきたい。	→	・全ての素材を必ずつかうと、この場で明言することは難しい。特に石の採用はコストなど今後慎重に検討する必要がある。
	2班	・敷地面積はどの程度か。	→	・1万㎡程度。
		・敷地面積に対しての有効建築面積はどの程度か。	→	・お堀端通りから30mはできるだけ建物をセットバックすることを考えると、建築面積は敷地面積の50%～60%、5～6000㎡になるのではと想定している。
		・建築面積一杯に建物が詰め込まれる印象であり、景観などは論じられない。施設計画案を提示して貰えないと、建物の中身は論じられないのではないか。	→	・過去の計画では、敷地面積が狭いためお堀端に面して積み重ねるしかできず、建物が迫立つ印象が強かったが、今回の計画に際しては面積をできるだけ大きく確保しようとしているので、以前よりはボリュームが大きくならないとは思っている。しかし、以前より必要面積（諸室要望）も増えているので、今後ボリューム検討のための施設計画案は作成したい。 ・周囲を考える上では、モデルプランは必要と考えている。ただし、モデルプランは必ずしもその通りにはできないので、どのへんは理解していただきたい。

		・三の丸地区で予定地は城址である。城に影響されたデザインの施設となるのか。	→	・30 年 40 年使われるので、数十年後を見越したデザインが出てくることを期待する。設計者によるところも大きいが、突飛なデザインにはならないよう、今後の選定の過程で留意するしかない。
		・設計者は、著名な方にするのか、無名でも素晴らしいものを作れる人にするか。十分に検討したものを投げかけ逆指名して作ってもらうのがよい。	→	・市民の意図をくみ取れるこの人だと言う人がいればその人に任せるのが本来は良いが、公共施設であるため、それは難しい。
		・期待するのはハードとしての文化的価値。市民のよりどころとなるハードにして欲しい。		
防災	1 班	・東日本大震災ほどの震災が発生した場合、必ず帰宅困難者がでる。一時避難所としての機能を果たせるように考えて欲しい。	→	・音楽堂についても県や市から同様の依頼が来ている。世の中のホールは 3 日間の食物と雨露を凌げる対応をする方向になりつつある。ただ、劇場・ホールなのでずっと避難所になるかというとそうではない。短期的なものと長期的な計画に位置付けることとは少し異なるように思う。 ・行政から避難所の指定を受けると、食糧・水などの備蓄用の部屋を義務として設けなくてはならない。帰宅困難者を受け入れることと、避難所として指定されることは全く性質が異なる。劇場・ホールは現状どこも避難所にはなっていない。それは大きなガラス面があるなど空間が大きいため。 ・今回の大震災で、劇場は客席の天井が落ちるなどの事例が多かったため、客席空間は避難所にはならないだろう。また客席に座ると狭いためエコノミー症候群になる。帰宅困難者を受け入れるなら、ロビーや平土間のスタジオになると思う。天井が高くない所でないとならない。
		・ホールが避難場所となる場合は、NPO 法人等のためのスタッフルームを活用してはどうか。小田原市には現在 200 以上の文化団体がある。今のスタッフルームでは非常に小さい。団体数に合わせた大きさのスタッフルームがあれば、避難所への対応にもつながるのではないか。		
		・津波の時のために 30m 以上の高い所、例えばフライタワーの上部を避難階として欲しい。	→	・ヘリコプターの発着についてはホバリングでの発着であればありうるかも知れないが、屋上をヘリポートとするにはヘリコプターの重量を構造上難しい。 ・フライタワーを開放している事例はあるが避難のためで無く、展望用である。

		・屋上庭園などになっていて、避難もできるようになっている設計だってありうるのでは。フライタワーの上に上がれるエレベーターを設ければ良いのではないか	→	・フライタワーの上部は無理だと思う。エレベーターを付けてまでとなるとランニングコストも相当かかる。相当の覚悟が必要。
		・防災設備のためにホール機能に関わる設計の部分までに圧力がかかり手薄にならないか心配している。現在求めるホールは市民の希望が多く盛り込まれている。防災のためにそれらが追いやられることになると理想の建物が実現できるか心配している。	→	・東日本大震災で損壊している劇場の情報を今この中で多く持っているのは私だと思うが、構造的な部分では津波以外で損壊した施設はほとんどない。天井落下については、国土交通省が見直しをしているのでおそらく機能に影響を与えることは無いと思う。あるとすれば避難所指定くらい。 ・天井落下しないよう補強をする等、躯体（構造体）のような見えない所で防災のためにコストがかかるということはあるかもしれない。現状の設計基準でも耐震上は全く問題ない。しかし免震工法の導入など、今以上の強度を、となった場合には、現在検討している以上のコストが必要になる。
その他	1班	・環境への配慮と書かれているが、環境調和を考えるレベルまで踏み込んで欲しい。景観だけには限らない。		
		・託児室について、キラリ☆ふじみのようにガラス張りで外から見えるオープンな部屋より、外から見えにくい方が、親が子から離れやすいなどの理由で使いやすいのではないか。多目的に使える普通の部屋にトイレなどが付いているなどで良い。	→	・託児室は使い回しができ多目的に使える室がよいのではないか。 ・授乳室も遠くに行かずとも良いように、所々に設けるのがよいとの話もしている。授乳などは外から見えない程度で良いかもしれない。 ・託児室は声が漏れないなど、防犯上のことも含め仕様に書いていく。
		・使い勝手が見えていないが、練習室にしろ、転用できるように配慮すればよいのではないか。		
		・エレベーターについて。車いすが中で回転できる広さのエレベーターの設置をお願いしたい。 ・トイレについて。ベビー用シート・ベッド、オストメイト用洗浄機を設置してほしい。またセンサーによる開閉はやめて頂きたい。 ・施設の段差をできるだけ減らすよう配慮していただきたい。	→	・エレベーターと多目的トイレは当然設置するが、仕様については今後検討を重ねていく。 ・身障者のためと言うことでは無く、高齢者などに対しても、段差などが無いように、また搬入動線ではどの部屋にも大型の備品が搬入できるように段差ができるだけ無いないように、ということは専門委員会でも話し合っている。

	2班	・具体的に計画案を見ると「育てる」の書きぶりについては基本構想より後退している感がある。例えば、展示施設の面積が全体で400㎡は基本構想時より小さくなったと思わざるを得ない。他施設、例えば、大・中スタジオ、ワークショップルームなどを併用した展示方法の可能性を記載して頂かないと、既に小田原で実施している一般公募の展覧会の開催は難しい。高校生の育成と言うことでやっている事業もできず、市民に開かれない施設と危惧される所だ。	→	・大・中スタジオを展示機能として利用することは可能。展示スペースとしての可能性も含めて考えているので、具体的な表現をいれていきたい。機能図についても、点線表記で展示室と大・中スタジオを繋げるようにする。
		・マロニエやけやきホールなど現在ある施設をそのままにしておくのではなく、新たなホールとの連携や既存施設の改修などで活用してほしい。使い勝手の良い施設が市内のあちこちにあるというのは小田原にとって良いこと。そのため、既存施設のあり方等についても基本計画に明記してほしい。 ・椅子を並べるのは、片付けも大変なので、けやきホールなどは固定席に改修してほしい。		
		・「機能本位であること」と「使い易い施設とする」という文言は必ず入れてほしい。 ・設計者にはコスト提案（建設費、運営費共に）もしてもらうべき ・エコであること ・既にある施設との使い分け、若しくは施設利用の分散化を図ってほしい。		
		・基本的な議論がされていない印象。 ・建物のあり方や景観、たたずまいについて言及していないし、専門委員会で議論になっていない。		
		・設計者の選定方法は決まっているか。設計者の選定方法によって論ずる項目が変わってくる。	→	・まだ決まっていない。選定方法は次年度の検討の予定。
		・今後のスケジュールを教えてほしい。	→	・来年設計者の選定を行う。
		・観る聴く立場の市民として観やすく聴きやすいホールがあれば十分。箱があっても中身がなければ行かない。 ・未来の市民に恥ずかしくないものを残したい一心。 ・観るときに費用がかかるとなかなか行けないので、低コストで使え市民に愛されるものを。	→	・一番難しいこと。
		・上映会ができるようにしてほしい。 ・面積の制限で、大ホール、小ホール、展示で機能を削らなくてはならないとなった場合、優先順位等は決めてあるのか。	→	・3つあることが前提で考えている。

				・愛されるホールは愛する市民がいないとならない。使って下さる市民がいないとホールは育たない。ハードは今できあがるが、どのように使うかで、その後何十年使うかが決まってくる。
				・良いものを作るとなるとコストがかかり、安くつくるとランニングコストがかかるなど、両立は難しい。個性的なものをつくりたくても、様々な腰部を取り入れていこうとすると無難なものになる。矛盾を解いていくのは難しい。

ソフト系

項目		市民検討委員		専門委員
事業	1班	・現在、市民会館を利用しているのは市民が中心である。大・小ホールの利用方法の振り分けなども踏まえて、冷静に事業を組み立てていく必要がある。 ・プレ事業についての検討は行っているのか。	→	・ホールの大きな目的のひとつとして、地域文化振興があるので、自主事業を行わないと目的の達成は難しいという見方が主流である。また、営利目的ではないため、事業が赤字となることも多い。平均すると、一事業につき 50%程度は自己負担となる。
	2班	・展示スペースの運営はどのように行っていくのか。400 ㎡のスペースが出来るのならば、専門家を配置して年 2 回程度の企画展を行って欲しい。 ・まずは展示室でどのような事を行いたいのかの要望を出すべき。やりたいことによって必要な設備も変わってくるし、美術展を行うのであれば、温度・湿度管理も必要となる。 ・小田原城にて華道と書道をコラボレーションした展示が行われていた。ホールの展示室だけではなく、他施設と使い分けしながら活動を行っていっても良いのではないか。 ・収益性のないことはやめた方がよい。 ・収益性を重視した事業を行う事が必要。専門家により議論を重ねてほしい。 ・本格的な美術館としての機能を持たせるのは無理だと思う。そういうものが無い中でどこまで活動を行っていけるのか。	→	・ミュージアムとは作品の管理・研究を行う場所、ギャラリーは作品をみせる場所であり、市民ホールの展示室はギャラリーにあたる。横浜市民ギャラリーあざみ野では、市内に横浜美術館があるので、自主企画に関しては教育普及として無料で展示を行っている。学芸員 2 名で年間 4 本の展示を行っているが、仕事量としてはかなりハードである。 ・ホールに所属する学芸員よりも、小田原市全体のアートシーンを見られる人物が必要となってくるのではないか。 ・展示室にもホールにも言えることだが、創造が目的のひとつなので、ホールの自主事業を行った方がよいだろう。
組織	1班	・現場に専門家が足りない。評価を行う上で大切なのは、文化ジャーナリストなど、専門家の意見をきちんと聞くこと。専門家を増やしていくことが重要。また、市民が専門家に近づけるよう育成していくことが文化創造となる。	→	・ホールで完結するのではなく、広範囲で小田原市の文化を支えていく人材が必要となってくる。
		・市民ホール開館まで、現在の市民会館を 4、5 年は利用して行かねばならない。市民会館を使いやすくする活動を行う組織が必要。 ・そういった組織を発展させていくことで、市民ホール開館後の活動にも繋がっていくのではないか。		
		・地域の市民がどう参加するかを中心に考えた組織づくりを行って欲しい。		

	2班	・管理・運営は直営で行うのか、指定管理者が行うのか。財団を立ち上げ、そこが指定管理者となることも視野に入れているのか。 ・運営方式の最終的な決定権は市にあるのか。	→	・管理・運営方式については今後検討を行っていくが、市の直営で行うとなると、ホール職員の雇用形態が難しくなる。また、運営方法の最終的な決定は市が行うことになるが、市民の考えを聞きながら慎重に検討していきたい。 ・昨今の管理・運営の傾向としては、財団やＮＰＯが指定管理者として行っている事例が多い。ただし、指定管理者といっても、市から直接指名される場合などのあり、ケースバイケースとなっている。どの方式にしろ、メリットとデメリットがあるので検討が必要である。 ・行政が運営を行うと、複数年度に渡る契約や事業が行いにくくなる傾向がある。
		・組織で一番重要なのは「人」である。トップにどういった人材を持ってくるのかが鍵となる。 ・人を呼べる企画を把握することが重要。		
市民参加	1班	・施設の評価を市民が行っていくことで、運営の在り方が変わっていくのではないか。 ・評価機関をどこに置くかの案を提示してほしい。 ・市民意見が取り入れられる仕組みをどうやって作っていくのか。また、小田原というまちを、どうアピールしていくのか。	→	・市民参加にも色々と段階がある。ホールを借りる、事業に参加する、事業の一部を企画する、ホールの評価を市民も加わって行うという段階を経て、市民が参加していけるようになれば良いのではないか。 ・貸出や減免などのルールを、市民を含め決めていく。
		・文化サポーターという組織があり、15名程度で企画しイベントを行ったが非常に大変だった。イベントを行うには労力がかかり、そういった人たちを多く集めるのは大変だろう。また、市民が参加してプロとなるのは難しい。プロに任せる部分と市民が参加して担う部分の両面が必要。また、今あるそういった活動を、今度どう広げていくかが課題となる。		
	2班	・市が直営で運営することになった場合、ホールで働きたい市民はどの様にすればいいのか。雇用を生むという意味でも、市民も職員として働けるようにしてほしい。	→	・市民参加と職員として雇用されるのではまったく意味合いが違ってくる。
運営	1班	・「管理」と「運営」は別物である。「管理・運営計画」と一緒に考えていいのか。 ・管理固定費の試算を行うべき。できりだけコストを削減し、その分を事業費に当てられるように。	→	・まずは「管理・運営」という考えから検討を始めていくという意味合いに捉えて欲しい。管理と運営の計画を分けている施設や、市民が管理を行っている施設もあり、こらからの検討での選択の余地がある。

		・ホールの利用について、秋の時期は文化連盟関係の催しでホールが押さえられており、その他の団体は借りにくい状況にあった。同じ時期や年末などにまとめて催しを行っても、客は忙しく観に行けないのではないか。バランス良く事業を配置していく必要がある。		
		・現在、ホールの管理・運営はどこの機関が行うのが主流となっているのか。 ・指定管理者制度のメリットはどのような部分か。	→	・施設によってケースバイケースである。現状はホール全体の約 50%が指定管理者にて管理・運営を行っている。うち、約半数が民間事業者や NPO であり、半数が財団である。 ・行政は予算や人材が単年度で区切られてしまうため、複数年にわたる事業を行うのが難しい。また、上昇志向が欠け、充実した活動が行われていない事例も多い。 ・現在、横浜市民ギャラリーあざみ野の指定管理者として 6 年目となる。最初の 5 年は前運営者からの引き継ぎやコストの見直しなどに尽力した。また、行政はスペシャリストよりもゼネラリストを育成していく方針にある。芸術という専門分野では、管理運営に専門家が必要である。
	2 班	・運営方式について、直営であれ指定管理であれ、きちんと目的が達成できるならばどこが行っても良いのではないか。 ・どの運営方式をとるにしても、管理運営の費用は問題となってくる。市はどこまでを負担するのか。 ・市民の意見を反映できる組織にしてほしい。	→	・指定管理者の場合は、きちんと運営を行えるかの見極めが大切である。委託前の条件はしっかりと詰める必要がある。
		・市民が行政に全て任せきりは良くない。収益性をきちんと考えていくべき。 ・収益性を考えると利用料金も高くなる。利用料金が高いと結果的に使われない施設になってしまうのではないか。 ・利用料金は安くして欲しい。市民会館以上の利用料金では利用されなくなるのではないか。	→	・収益性と公共としてのバランスをとっていくことが重要となる。また、野球などは一見球団が自立してスポーツとして成り立っているように見えるが、背景にはスポンサーがいるという仕組みもあり、全てを公共施設に当てはめる事はできない。ただし、公共となると収益性に関して甘くなってしまう部分があることも事実である。
		・小田原市民は、市民ホール建設に対する反応が遅いのではないか。運営にて魅力的な部分を提示しなければ興味をひかれない。		
		・講演をするときには経費を掛けないようにするので、施設使用料が高いとどうしても他の施設に利用者は向いてしまう。施設使用料を安くしてほしい。	→	・公共の施設として、施策がその方向に行くか、目を光らせて欲しい。 ・使用料を安く提供することは可能性だが、今度は、税金使い道として市民からコンセンサスが得られるか。それは皆さんの他の市民に対しての説得力でもある。

		・商売人気質もある。良いものを作れば使われる。良いものをつくって使用頻度を上げて使ってもらう。	→	・そうすると使用料金が高くなる。
その他	1班	・「あたらしい公共」という言葉がある。文化創造と通して、社会・経済システムを考えていくべき。		
		・骨子案では多数の案が挙げられているが、全てを網羅することは難しい。これからの検討の中で、どこを重要視していくかの優先順位を決めていく必要がある。		
		・ホールの利用には大きくわけてプロの利用とアマチュアの利用がある。一方で、若手などの人材育成も行っていく必要がある。	→	・全国的に昨今の傾向として、育成・養成に関する事業が増えて来ている。
		・前計画の城下町ホールと、現在の市民ホールではまったく違った建物となっており、また文化施設としてのレベルも上がっている。市には、ホール建設後も継続していくようにお願いしたい。 ・庁内で縦・横の繋がりをつくり、現在の担当者が関わらなくなっても、きちんと引き継ぎができるような体制を整えてほしい。		
		・心と経済が一緒に動かねば発展していかない。 ・表現者のひとりよがりになってしまってはならない。		
		・周知が不十分で活動が広がらず、一部の地域で完結してしまうことが多い。例えば駅に広告を出すなどは効果がある。施設の完成を待たずとも、今から取り組めることが多々あるのではないか。		
		・手話、文字板の設置、字幕など、バリアフリーの面を充実させて欲しい。 ・ハード面だけではなく、手話や速記ができる職員を配置するなど、ソフト・ハード両面からの対応を行って欲しい。	→	・例えば、インターネットを利用し、その場に職員がいなくとも画面上で即座に対応が行えるなどの設備も出てきている。今後、充分な検討を行っていく。
	2班	・市ではH24年度に1名学芸員の採用を行うそうだが、美術をどのように位置づけているのか。		
		・市民がホールに来てくれるのを待っているだけでは時間がかかる。昔は学校の協力を得て学校公演などを行っていたが、昨今ではまず協力を得るのが難しい。		
		・観る側として、友の会など通いやすく、情報を得られるものがほしい。 ・ホールが出来てから取り組むのではなく、今からソフト面の充実を図っていくべきではないか。		

		・市民の中には、この時代にホールを建設しなくてもいいのではないかという意見の人たちもいる。市民検討委員のメンバーで何か運動を行い、今からホールの必要性を示していくことはできないか。		
		・ホールにて技術面の育成を行っていけば、良い物ができていくのではないか。ホール職員の技術向上を図ってほしい。		
		・文化は人間の楽しみである。本物を提供し、本物を行っていくこと。まずはスタジオから市民参加を始めレベルアップし、本物を提供できるようにしたい。		

その他意見（ふせん）

事業

1班
職員は手話を覚えて欲しい。
子どものスキル（0）→スペシャリスト（100）への育成が必要→将来の利用者
コマースの方法（広報）
地区公民館のひとつとして→文化ホール？　全地区公民館で共通のイベントカレンダー（ジャンル別）→希望者にネット、メールで配信
素人と専門家を固定して考えずに、市民が専門に近づいていく育成システムも必要
2班
南足柄、平塚、茅ヶ崎、秦野、厚木等、近くの文化財団と連携を取るようにしてほしい。ツアー等でくるイベントの情報、チケット販売、売上げに繋がることだと思います。
「小田原」ででしかできないイベント、「小田原」にこだわったイベントとの実施
小田原の市街地だけに偏らないイベントの中心に
展示ホール松永記念館等、美術に関わる専門な学芸員を入れてほしい。小田原にとって美術が必要なのか位置づけを明確にしてほしい。
100億円を生むおもしろい事しよーよ！！手かしますよ！！

組織

1班
新しい公として文化創造にあわせて社会システムを創造していくべき
評論や文化ジャーナリズムなどの「評価」の担い手も育成していくべき
2班
強力な組織を作って欲しい。優秀な企画を立ててほしい
事業企画・推進役はかたよらないようにお願いします
サポーター制度（資金調達含む）

市民参加

2班
（他のスタッフも）文化サポーター、レセプショニストはチャレンジをするボランティアの育成だけでなく、仕事のレベルで動くスタッフを育成、確保する（雇用として考え）。新しいホールでのイベントのプレとして、市民会館での市民演劇やミュージカル、美術企画展の企画をして、新ホール建設に向けての市民へのアピールにする。
ここで働きたーい
指定管理だね

運営

2班
ホールがない現時点から、ホール友の会のような市民のムーブメントとして、ホールが必要という空気をつくることが予算をとる上で必要。
ホールは運営が第一！・組織形態をどうするか　・市民が求める企画とは　・運営にあたる人選を！　・利用率稼働率をＵＰ　・低料金での利用を
学生が借りやすいホールで

施設機能

1班
屋上の有効利用　・青空ホール　・一時待避所等
大ホールの小さいものを小ホールとしてください。奥行、バトンの数なども。よろしくお願いします。
ガラス張りは地震が来たらあぶないよ。
小ホールの固定席で決定してほしい。
機能の充実一例、照明の場合、素手で来て使用可はアマチュアが満足できる範囲でOK。（平素）プロは専門照明器具を持参する。大切なのはそれらを使えるスペースと電力の余裕。これを使いわけることにあると思う。
小ホールスクリーンの設置（映画の上映）

・展示室 400 ㎡確保（準備室とは別に）　・この他に 300 ㎡位は確保したい（展示部分）それでないと公募・高校生を削るようになる
KAAT みたいな迷子にならない入りやすい単純な造りにしてください。
コスト低減例、1/9 会場の様に、特に必要なければコンクリート打ちっ放しでいいと思う。最近はもっと綺麗にできる。
市民ホールはハードとしての文化的価値を重視したい。心の拠り所になれるような。
私は観る側、聴く側の市民としては、観やすい、聴きやすいホールであれば良いと思います。ほとんどの市民がそう思っていると思います。
・今造る箱物として、未来の市民に恥ずかしくないものを残したいです。　・変に豪華でなく、シンプル、適度なコスト（運営ふくむ）
名称は公募で私達市民が審査する
機能図の小ホール系機能（200～300 ㎡）が固定席一部可変は、前ページの小ホール固定席と表現が違っている。一部可変なら全く意味が違ってくる、どうなのか？？
小ホールはアコースティックの音質重視で造ってほしい。
搬入口は広いんでしょうか、フラットですか？（ミュージカルやってます）
低コストで。使用料高いのはやめてぇ。
市内にある他施設の利用を真剣に考えてほしい。
スタジオ、本質的な訓練、文化の本質を維持する環境をつくる。
大ホール、機能がやや置き去りにされているように感じます。設計者に「シューボックス型」の基本として設計することを切に望みます。
時間と場所を今一点ではなく、長い時間軸で諸施設のバランスの調和を考えてほしい。
良いホールが運営経費を稼ぐ面でも有利である。
30mのセットバックはおかしな話で納得できる理由があるか。有効利用が先だ。
小ホール、コンサートホールとしてプロセニアム可変を取り入れたい。
2 班
西相展ができるスペースを確保してほしい。展示室 400 ㎡、大スタジオ 400 ㎡くらいか。移動壁使用する。
階段で（エレベーター×）屋上に避難できるように。
大と小ホール搬入口、袖直結でお願いしたい。これからの運営にも大きく関わる問題。
基本計画が必ず活かされる設計を！ここは、専門委員の先生に是非お願いしたい。全然ちがうものが選ばれることのないように。
人口呼吸器の人の別室は造らないでほしい。一般の人と同じ場所でみれるようにしてほしい。
ホールの全体像を討議したい。
運営管理を視野に入れた計画でなければならない。
運営にお金をかけないとただの箱になる。
外観が歴史に配慮したデザインで。壁、内観は地元の素材である木を出来るだけ使う。
どこにでもあるホールではなく、小田原ならではのホールをつくる。特に小さなホールは木のホールを実現したい。
託児室　・外から丸見えにならない。　・トイレ、洗面所がある。　・床がソフトである。　・シンプルがよい。　・避難の時、親がくる動線をしっかり考える。
レストラン、カフェは複数ほしい。
ホールにはアミューズメント性を持たせたい。音楽・演劇・美術のワクを超えて！
建物にはお金をなるべくかけず機能重視、シンプルに。
小田原、丹沢、南足柄などの県内産の木材を使ったホール「地域の素材を生かしたホール」
美術館並みの企画展示ができる 400 ㎡の展示スペースを確保してほしい。
展示室は 400 ㎡以上必要があるとのことでしたが、共通ロビーやオープンロビーを利用して展示できないか（スタジオを共通利用するとのことですが）
歴史に残るホールづくりを！
展示スペースは現市民会館の 3 階小ホールより大きくなければ現在行われている行事はできなくなる。
展示室のスペースは現在の案、400 ㎡は水場等をいれての事であるか。展示そのもので 400 ㎡＋ワークショップ（催事を含む）スペースとして 500 ㎡近くは必要ではないか。
入浴施設+充分なトイレの数、いざとなる時のトイレ
帰宅困難者のための一時避難所
「手すり」は両側に（右利き、左利き、上下運動）
「環境配慮」からさらに踏み込んで「環境調和型」の設計を。

小田原は石の町でもある。石の素材感を使ってほしい。
「石」と「水」の風景を、石のまちとして。
様々な活動の様子が通り沿いに見られる様な建物の工夫があるといいです。
メインロビーから小田原城が見えるようにしてほしい。

その他意見等(ひとことアンケート)

検討させるだけさせて、ほとんど反映できないのでは申し訳ないので、できる限りの努力を行政と市民が協力してすべきと思いました。
有益な意見交換会であったかと言うとNO。せめて班を4つぐらい合った方がよかったのではないか？交わされる会話が今までのワークショップから一歩も進んでないような内容であり、建設的な真新しい意見が何もなされなかった。
4班くらい？班があった方が良かった。
なるほど！こういう議論の方法があるのかと感じました。 1班と2班に分かれたことで頭の中を切りかえて議論できました。ジオラマがあってよかったです。
館の歴史を残せる施設と作りたい。やはり、色々な文化団体と連絡する団体がないのではないかということ。不満を解消していく団体が必要。
「あの劇場はいいね。」と言われる劇場は神奈川県にほとんどない。 芝居の出来に関しては劇団の責任だが、あのホールで”観る”、”観ない”の判断をお客様がするのは、劇場の責任。いいホールと言わせたいですね。
三の丸に出来るので小田原城にふさわしい、特徴のある（外観）、小田原ならではのホールを造ってほしい。機能は使い勝手の良い楽しいホールになってほしい。
演じる側、ホールを利用する側、情報を発信する側の集まりが検討委員だと、やはり感じた。 情報から選択して、ホールへ足を運ぶ側の市民意見、要望を聞く手段はないものか。 情報の発信の仕方がむずかしいと感じる。これからは事業市民参加をどのようにしていくかを発展させることが重要である。 検討委員からの行事案内をみて、また、すごい人が小田原にいっぱいいるんだなあと感心、知ることができてよかった。
固まった頭と縛られた心で何を語ろうというのか？「小田原評定」ここにあり。最悪だ！傍聴するに値しない！
駐車場無料は無理なら、格安にて台数確保が小田原駅周辺には何よりも大事。どんないいもの造ってもここが満足ならなければ従来のままと40年観てきた者の見識。依って1台でも多く望むために静的展示室を別館として扱う。 旨く説明できないのですが、検察庁と裁判所は移動不可（経費的）として、現大手門通りをもう少し幅狭まくし、駅側に大幅セットバック、旧市民会館を取り壊しする（別の問題で、天守閣が国道一号線を走って来た時に正面から望める）。現学橋へ通ずる会館道は必要あれば残す。そして、市民ホールの動と静を抜けて、（展示室を別館として独立扱いに）、建物は、旧となる大手門通りと、今商売業わっている方々の地所及び市民会館一部敷地使用、こうした方が建設コストでも僅かでも低くできるのではと思うもの。 そして、忘れて欲しくないのは、この一画で業っている方の同時経営成り立ちを取り入れるべき方針を。

※傍聴者からのひとことアンケートも含まれています。

市議会からの意見等

小田原市議会定例会や、厚生文教常任委員会での市民ホール整備にかかる意見等について掲載します。市民ホール基本計画の検討や進捗状況について、ご意見を頂いていることが多いため、ここでは市民ホール基本計画策定専門委員会が発足した平成23年5月25日以降について、時系列でとりまとめています。

○平成23年6月9日　厚生文教常任委員会

・スケジュールについて問題点がある。基本計画策定が3月の末になっているが、これでは来年度予算の審議に反映されない。議会のスケジュールについて考えていないのではないか。議会に対しての意識がない。

・策定を3月に持っていったとして、次年度も引続き作業を行うはずである。基本計画を2月にまとめないと当初予算に間に合わないのではないか。予算の議会に対する意識がないのではないか。

・幅広くおこなうことはいいことだと思うが、出来上がりの時期は議会を意識して欲しい。議会に対しての配慮がないからいつもガタガタしてしまう。議会の日程と予算の計上を意識してスケジュールを進行してほしい。

・基本計画で何を決めるのか。土地、建物が確定していないのに、収集がつくのか。基本計画の項目の中にどのようなものが入ってくるのか。また、文化振興ビジョンについて、基本計画と分けて考えるものなのか。

・文化振興ビジョンを決めるのならば、市民委員と専門委員を分けて進める仕掛けはわかるが、基本計画においてもそうする必要があるのか疑問である。

○平成23年6月　定例会

・市民ホール建設予定地の海抜は何メートルか。水防マップだと8.2メートル、7.8メートルとなっている。市民ホール建設にはいろいろな問題があるが、そういった面でも見直さなければならない事態となっていると思う。今まで防災を意識して基本構想をやっているのか、基本計画ではそういったことを取り入れるのか。

・新たな市民ホール構想においては、ぜひ年数に応じてメンテナンスの予算というものを計上し、適切な維持管理ができるよう、そして今までの反省を活かして、より良い市民ホールの施設・設備の管理予算というものを立てて頂ければありがたいと思う。

○平成23年9月8日　厚生文教常任委員会

・現在の土地の取得状況を知りたい。市民会館のワークショップについて、様々な意見が出ているが、今後5年間使用することを見据え、改修の計画をたてるために行ったのか。

・市民会館ワークショップについては、改めて取り上げる必要があるのかと感じた。市民検討委員会については、議論が広がりすぎていて、収拾できるのかが心配である。

・専門委員会の委員はどのように選定したのか。また、専門委員は市外の方が多いが、小田原のためにいい形で計画ができるのか心配である。

・市民委員の人数が多く、収拾がつくのか心配だが、今後、市民委員の意見をとりまとめて、専門委員で決めていくことになると思うが、小田原のホールとして、小田原らしい計画ができるよう望んでいる。
・視察は、キラリ☆ふじみにいったようだが、検討している市民ホールと比べて小さい気がする。なぜふじみを視察場所としたのか。どのような点が参考になったのか。

○平成23年9月　定例会

・市民ホールはコンベンション機能と併設してお城通り再開発事業の予定地に建設すべき。そして、三の丸地区は将来の市の庁舎の移転先として確保してはどうか。政の中心は小田原城の近くのエリアで行うべきではないかと考える。そうすれば、中心市街地の活性化、本市の活性化につながり、ひいては県西部の活性化につながるのではないか。
・多くの市民が望んだ市民ホールは駅前から三の丸地区に変更し、用地を拡大、当初の想定より大規模なホールを建設する方向となっている。早期実現、建設総額はマニュフェストでは63億円を大幅に圧縮するとのことだったが、早期実現は、完成予定が平成28年度中となり、早期実現どころか、市民ホールの完成は大分遠のいてしまったように思う。建設費等も低コストに抑えることは多分難しいのではないかと思う。
・いろんなホールを見てきたが、単純に㎡単価で考えれば、今の市長が構想されているものというのは、とてもその金額でできるとは思えない。どこに視点をおき、どこに目標をもっていくのか。
・大規模災害対応モデルにしなければならないのではないか。耐震性を高めるだけでも財政的に大変なことだと思うが、それに津波対策を加えることとなると、立地条件に関しても厳しい再検証が必要になるのではないかと思う。「万機公論に決すべし」で、公論というのは市民検討とは意味が違う。
・用地の買い取り問題はなかなか大変なことだと思う。今まで長い間そこで生活していた方には、今までの歴史と生活を一変させるわけである。用地買い取りの見通しは一定のめどが立ってきていると思うが、確実な見通しがまだ見えていない。
・見直しを含めて何回か建設時期を変えざるを得なかったが、これだけの大きな事業で見直しをしており、その見通しが簡単にいくとは思えない。見直しについてのその課題を明確にし、一つ一つ着実にその成果を積み上げ、議会での議論、市民との合意を経ながらの過程である。建設時期に無理はないのか。解決しなければならない課題もいくつかあるのではないか。
・建設費の問題だが、総事業費は非常に不明確である。これはなるべく抑えなくてはならない。少なくとも（仮称）城下町ホールの63億円を下回らなければならないと思う。
・3月11日の東日本大震災の前と後では、日本の経済情勢、社会情勢は大きく変わってきている。防災、経済復興、暮らしを守るということでも課題・問題は大きく変わっている。ホールの財源は、今までの考え、見通しだけでは無理だと思う。財政問題で市の負担が減るので、今までの大型事業の市債の返還が終わるからと財政問題を提案してきているが、新たな防災対策、経済対策、暮らし、福祉の対策等も緊急に必要となってきている。その際に旧スパウザ小田原をいつ手放すのか、財源にしなければならないと考える。あわせて、三大事業を同時進行で進めるわけにはいかない。見直しをしたり、凍結をしたりしなければならない。
・市民ホール建設は市民にどのような夢や展望を与えると考えているのか。市民ホール建設は大きな

役割があると思う。人間は食べなければ生きていけないが、「人間はパンのみにて生きるにあらず」とも、文学、芸術の大切さも説かれている。市民ホール建設は、市民や住人にとってどのような役割を果たすと考えているのか。市民ホールが建設されたとき、市民への夢や展望はどのようなものがあると考えているか。

・東日本大震災を経て厳しい経済状況がある。市財政も厳しい状況になっている。その上、市民の命と暮らしを守るため、地震・津波対策など緊急にも強めなければならない課題が最重要課題になってくる。この課題は緊急にぬかりなく進めなければならない。そうすると、いわゆる三大事業は再度見直すことがどうしても必要。市民ホール建設後、財政が厳しい中での建設になると考えられる。市民が夢と希望をはぐくみつつ、生きる力、展望をつかみつつ、市民のホールが求められる。そのホールについては、(仮称) 城下町ホールのときに多くの市民の方たちが示された、オーソドックスなシンプルなホールでありながら、市民の要望に合った機能的なホールが求められる。その上に防災対策の機能が必要になってくる。これらの機能を持ちながらも、市民が使いやすい利用しやすいホールが求められる。市民や専門家の議論を経ながらも市財政の状況を考えるならば、建設費は前の (仮称) 城下町ホールの建設費を超えないことが必要。できれば建設費を大幅に縮減できればと思う。建設費を抑えなければ、その後の大規模修繕の費用及び毎年の日常的なメンテナンス費用、維持運営費も高くなってしまう。このことは、(仮称) 城下町ホール見直しの市民運動の市民の要望の最大の要素と言える。夢を追うときには、どうしてもあれもこれもと膨れ上がってくるだろうが、それには厳しい財政状況のことを考え、建設費用を抑えることにも最大の知恵と努力をしていただきたい。

○平成 23 年 12 月 1 日　厚生文教常任委員会

・練習室やリハーサル室がそれぞれ大スタジオや中スタジオといった名称になっているが、どういったものか。

・大きさについては意識されていると思う。ただ、まだ基本設計もない状態で、中スタジオや大スタジオが一連として使えるなど、機能的な面ではどうなっているのか。

・小ホールが一番使われると思うが、200～300 席というのはまだ決まらないのか。固定席ということは、ある程度考えているのか。

○平成 23 年 12 月　定例会

・行政の責任は、津波災害の恐怖にさらされている海抜 10 メートル以下の地域の住民約 10 万人全員の避難計画を策定し、対策を講じることではないか。これらの方々の生命を守るための施策を行うことは、行政にとって最重要課題であると考える。極端な言い方をすれば、今懸案となっている市民ホールの建設や駅前の再開発事業にも先立って実施することも検討すべきではないかと考える。

・市民ホール建設事業における用地拡張の計画は、大変重要な要素であり、市民ホール整備事業の進捗は用地取得にも大きく左右されるものと考える。

・昨年度策定された市民ホール基本構想や、本年度策定する市民ホール基本計画の検討状況を見ても、管理運営については具体的な議論がされた形跡がなく、ハード面ばかりが検討されているように思う。ハードは当然のことながら、建物内で行われる芸術活動、ソフトこそが重要であると考える。

・市民ホールの運営についてだが、運営管理というのは施設の場合非常に大事な問題だと思う。今後どのように議論していくつもりなのか。
・良いホールができるように、よく議論を重ねて進めて頂きたいと思う。

○平成24年2月3日　厚生文教常任委員会

・平成 24 年は管理運営計画や設計者選定を行うとのことだが、設計者はとても大事である。設計者はどのような選定手法と基準で決定するのか。
・サポートセンターや会議室など、役立つ機能であるが、現在の市民会館で行われている機能はどのように考えているのか。
・設計者選定は大事なので、しっかりとお願いしたい。本館機能に対して市民意見は出なかったのか。代替えできる機能は残すなど、考えてもらいたい。
・長久手を見てきたときに聞いたのだが、「友の会」があり、無償ボランティアがもぎり等で運営に参加しているとのことで、感銘を受けた。どんな形態で考えているのか。ランニングコストが問題となるのだが、運営は市民（ボランティア）の主体でできるのか。
・長久手と同規模だが、ランニングコストは 4 億 5,000 万円で収入は 4,500 万円と聞いた。大きな負担となるが、どのように自主採算を考えていくのか。稼働率が 85%でこの収入なので、かなり厳しいのではないか。
・行政が手を差し伸べすぎると、市民の自立が無くなる場合もある。会員から会費を集めて運営するなど、長久手を参考にしてもらいたい。減免についても問題となっているようで、基本設計の中で市民のコンセンサスが必要となってくる。その辺も考えてやってほしい。建設費は文章の流れからすると、10,000 ㎡～11,000 ㎡だと、55～60 億円というのは、おかしい。50～60 億円としてはどうか。
・財源として、補助金は 20 億円程度と考えて良いのか。
・設計者選定が重要となるが、選定ミスが無いようにしてもらいたい。いかに基本構想・基本計画を忠実に考えているかだ。城下町ホールの時は構想からずれていた。ミスの無いようにお願いしたい。
・可児と長久手でも、作った後に使われていない機能もある。過度なホールの機能は配慮すべきと考えるが。
・1,200 席という事だが、満席で使われることをどの程度考えているのか。
・採算性の問題だが、ランニングコストをどの程度、収入をどの程度、と考えているのか。
・市民会館本館の小会議室などの機能は今まで利用は多い。それを含めると、基本計画で示された金額以上になるのではないか。
・学校利用を絶対条件として 1,200 席とするのはいかがか。使う人が本当に 1,200 席いるのか。1,000 席で 2 回（公演）もあるので、本来あるべき欲しいものを作るべき。どちらかというと、会議室の方が重要ではないか。

○平成24年3月　定例会

・市民ホール整備事業、お城通り地区再開発事業、小田原地下街再生事業及び市庁舎の耐震改修事業の４つの事業は、いずれも多額の費用を要するものであり、本市の財政状況にも相当の影響を及ぼ

すのではないか。

・新しい市民ホールの建設に対しては、１日でも早い着工を待望する声や期待が根強くあると思う。しかし一方で、市民会館の耐震工事が終わった今、新しい市民ホールの建設は、もう急ぐ必要はないのではないか。何よりも、命と暮らしを守る災害対策に重点的に予算を振り向けるべきではないかという空気が、市民の中に大きく広がっているように感じる。

・場所、土地が決まらずに、いろいろなことの検討は進んだが、平成 28 年度開館に向けて、今度こそ間違いなくスケジュール通りに進むのか。

・用地取得中のためか、機能図は作成されておりますが、それには、施設位置や敷地配置が明確に図示されていない。市民が施設配置などを直感的にイメージできない状態で、市民ホール基本計画をどのように周知させようとしているのか。

・管理運営計画の策定には、市民参加が重要と考えている。基本計画にも、「専門性の確保と市民参加とは両輪」「市民参加を得て専門家と組んで運営することで市民の芸術文化度が倍増する。」「サポート組織や友の会の形成が有効」などの記述がある。市民ホールの運営への市民参加は、「みんなのルール」「私たちのホール」となるために非常に重要なことだと理解しているが、市はどのように進めようと考えているのか、現市民会館の段階から具体的に進める必要があると考える。

・市民ホールは、一部の市民の単なる芸術文化活動の発表の場に過ぎないのではないかと危惧している。市民ホールは文化活動に関わっている一部の市民だけのものではないはず。

・現代の生活において、車は必要不可欠であり、芸術文化を楽しむ際にも、車での来場が予想され、駐車場がある施設は大変便利で利用しやすいと考える。現市民会館は、周辺には一般の有料駐車場があるものの、市民会館専用駐車場がなく、不便を感じている。